

(二十八) 中耳炎 Otitis media.

上顎竇及中耳ノ炎症殊ニ慢性炎ガ普通大腸桿菌ニ因スルコトアルハ既ニ第六卷第八百六十頁及第八百七十四頁ニ敍セル所ナリ

(二十九) 化膿性軟腦膜炎 Leptomeningitis purulenta

哺乳兒ニ於ケル化膿性軟腦膜炎中普通大腸桿菌ニ因スルモノアリト雖モ他種菌芽ニ因スル症例トノ臨牀上ノ區別明カナラズ故ニ此ガ敍事ハ第六卷第四百八十六頁ニ譲ラム

(三十) 脊髄炎 Myelitis

動物試験ニ徴セバ普通大腸桿菌ニヨリテ脊髄炎ヲ惹起セシムルコトヲ得ルヲ以テ人體ニモ之ヲ原因トシ自然ニ發スル脊髄炎アルヤ必セリ 寄生物性病理論第六卷 第二百六十一頁參照

(三十一) 化膿性甲狀腺腫炎 Strumitis suppurativa

甲狀腺腫ガ菌芽ノ作用ニヨリテ發癰化膿スルコトアルハ既ニ第六卷第二百十八頁ニ之ヲ敍セリ普通大腸桿菌モ亦タ其化膿性炎ノ原因ヲナスモノナリトス

(三十二) うんけりる病 Morbus Winckeli

本症ハ初生兒黃疸ト合併セル流行性ヘムグロビン尿ニシテ千八百七十九年うんけりる創メテ之ヲ記載セリ即チ同年三月下旬ヨリ四月下旬ニ亙リテおれすでん産院ニ於テ二十四名ノ初生兒ニ發生セリ先是(千八百七十五年)びげろー Bayliss 類似ノ疾病ニ關シ報告スル所アリシモ一般ノ耳目ヲ聳動セルハラうんけりるノ實驗ニヨルモノナリトス

原因 藥品中毒 砒素 砒酸 石炭酸 說アルモ未ダ判明セズ をれちんすきー Wolczynsky ハ浴湯中ニ存スル普

1). Thoinot et Masselin, Centralbl. f. Bact. Bd. 16. P. 919; Revue de Médecine. 14. 1894.

1). Lubarsch, Virch. Arch. Bd. 123. P. 83.

通大腸桿菌ニヨリ發スルモノナリト稱シらんげ Lange ハ猶太宗ニ於ケル宗教的包皮截割ヲ行ヒ其創面滲潤 發炎化膿シ次テ本症ヲ發セル者ノ血中ニ細菌ヲ發見シ之ヲ其原因ナリトナシすどれりッつモ亦タ包皮截割後ニ同様ノ實驗ヲナセリ 千八百九十一年るばるし Lubarsch ハげるとねる腸炎桿菌ニヨリテ本症ヲ發スルヲ云ヘリ要スルニ本症ハ其原因一ナラズシテ恐ク諸種ノ菌芽ニ因スル敗血症ナラム

解剖學的變化

内外諸臟ハちあの一セヲ呈シ且ツ黃染シ脂肪變性 就中肝及心筋 ヲナセルアリ口腔咽頭粘膜ハ發赤腫脹シ臍帶血管モ異常ナシ腎ハ皮質稍々擴張シ出血ノ爲メ褐色ヲ呈シ圓錐體ハ黒赤色ヲ帯ビ直細尿管ハ顆粒狀血色素ヲ以テ充填セラルルモ赤血球ノ存在ヲ認メズ脾ハ色素堆積ニヨリ常ニ著シク腫大 長徑七センチメートル重二五グラムニ達スルコトアリ シ褐赤色ヲ呈ス漿液膜殊ニ胸膜 心囊 心内膜 胃腸粘膜 時トシテハ腦膜 肝莖膜等ニ點狀出血アリ 濾胞就中ばいえる腺及腸間膜腺モ亦タ腫脹ス

症候

生後第四日ニシテ發病スル者最モ多ク皮膚ちあの一セ及黃疸色ヲ呈シ血色素尿ヲ漏ラシ昏醉シ無熱ナルモ急速ニ虚脱ニ陥ル九乃至三十二時間或ハ四乃至六日ニシテ致死ス 二十四例中唯一例全小兒ノ不穩 廢哺 ちあの一セハ病ノ初期ニ既ニ現ハル 獨リ顔面ノミナラズ軀幹 四肢殊ニ背ヲ深青色ニ染メ漸次黃疸色ヲ帶ブルニ至ル其他呼吸ハ促進シ脈搏ハ増加シ體温常ノ如ク 稀ニ三十八度一分 治セリ(Winckel) 二昇ルコトアリ 皮膚ハ厥冷ス時トシテハ嘔吐下痢スルコトアリ多クハ痙攣ヲ發シテ斃ル 殊ニ著明ナルハ尿ノ性状ニシテ蒼褐色 膽色素ヲ含有セズ ヲ呈シ血色素 腎盂上皮細胞 顆粒圓場 血球 球菌 廢頰物 尿酸安母尼亞 少量ノ蛋白ヲ含有ス 血液ニハ白血球及顆粒増加シちあの一セ部ヨリハ截開或ハ搔爬ニヨリ舍利別様稠度ノ黒液ヲ漏ラス

豫後 不良ニシテ約八十五%ハ死ノ轉歸ヲ取ル

療法 合理的ノ藥劑ヲ缺ク

(三十二) 初生兒黑痢 Melæna neonatorum

定義 胃腸ノ出血ノ爲メニ黑色便ヲ漏ラシ且ツ吐血スルモノニシテ生後一乃至七日ヲ經テ殊ニ最モ屢々第二日ニ發ス

原因 本症ハ比較的稀有ニシテ七百例(Kling)又ハ一千例(Gerrich)ノ兒中一例ヲ發見スルニ過ギズ 男兒ヨリモ女兒ニ多ク遺傳微毒ト云ハル脂肪變性 先天性心臟病ニ因スル鬱血 血友病 胃腸ノ變常即チ潰爛及臍帶靜脈血塞後ノ血栓或ハばたり管繼發血塞ヨリ來ル潰瘍(Landau) 出産時ノ外傷後胃腸管系ノ過剰充血ニ由ル出血及潰瘍形成(Kundrat, Ebstain) 竝ニ出産ニ因ル充血及出血或ハ血液ノ脈管外溢及胃液ノ腐蝕作用等ニヨリテ發スト説ク者アリ 但一二ノ學者(Rehn, Neumann, Nicolson, Finkelstein, Günther)ハ菌芽殊ニ普通大腸桿菌ニヨリテ發スルモノナルヲ云ヘリ又ハばもるすべし Pomorskiハ本症ヲ精査シ出産經過中外傷性出血ヲ發シ爲メニ脈管運動神經中樞部毀損セララルニ因ルモノナリト云ヘリ

要スルニ本症ハ千八百二十三年エバレン Eburnガ創見以來諸家其原因ヲ研究セルモ未ダ判明セズ恐ク其原因多種多樣ニシテ一ナラズ從テ特殊ノ疾病ニアラズシテ症候的名稱ノ下ニアル疾病ニ外ナラザルモノナルベシ

解剖學的變化 胃腸ハ黑褐色ノ血液ニヨリテ充サレ十二指腸及ビ胃ニハ小糜爛ヲ有シ且ツ一乃至數個ノ圓形潰瘍ヲ發見スルコトアリ而シテ其潰瘍ハ直徑0.5乃至一稀ニハ二センチメートルニ達ス

(Winkel)其他粘膜ノ一般充血(血液漏出)血栓形成 細菌性栓塞等アリテ爾他ノ臟器ハ一般ニ貧血ス 症候 生後第一乃至七日 第二日ニ急ニ發病シ黑色塊狀血樣物ヲ下泄ス 嘔吐ニ暗赤色ノ糞ヲ印スルヲ以テ且ツ同時ニ吐血ス 時トシテハ患兒ハ速ニ虚脱ニ陥リ四肢厥冷 口唇蒼白色 顔門陷沒 脈搏細弱 呼吸淺表ニシテ一乃至二日ニシテ腦貧血ノ爲メニ輕キ痙攣ヲ發シ斃ルニ達スルコト多シ(Winkel) 出血止ミタルトキハ患兒ハ漸次體力ヲ恢復シ一乃至二日間暗黑色又ハこーるたーる様便ヲ漏ラシ遂ニ健康ニ復ス 局部症狀及疼痛ノ缺如スルコトアルモ(Herber u. Trunpp)胃部甚シク知覺過敏ニシテ潰瘍ノ存在ヲ指示スルコトアリ(Binz, Rembold)

母ノ乳頭出血又ハ自己ノ鼻咽頭食道等ヨリノ出血ヲ嚥下セル爲メニ吐血又ハ下血スル所謂 假性黑痢 Melæna spurcaハ虚脱及貧血ヲ伴ハザルニヨリ容易ニ本症ト區別スルコトヲ得

豫後 五十乃至六十%ハ死ノ轉歸ヲ取ル 四十八時間ヲ經ルモ出血止マザルモノハ豫後不良ナリ 療法 止血及體力保持ノ法ヲ講ズル爲メニ腹部ニ氷嚢ヲ貼シ四肢ニ加温スルノ外二乃至五%阿膠溶液 白色阿膠(食鹽)三蒸水(0.05%)成ル一乃至二時間毎二十立方センチメートル宛又ハ魯兒鐵液ヲ毎時一滴宛燕麥煎汁ニ混ジテ與フ(Henoch) 其他之るごちん(0.5%)ノ内服又ハ皮下注射

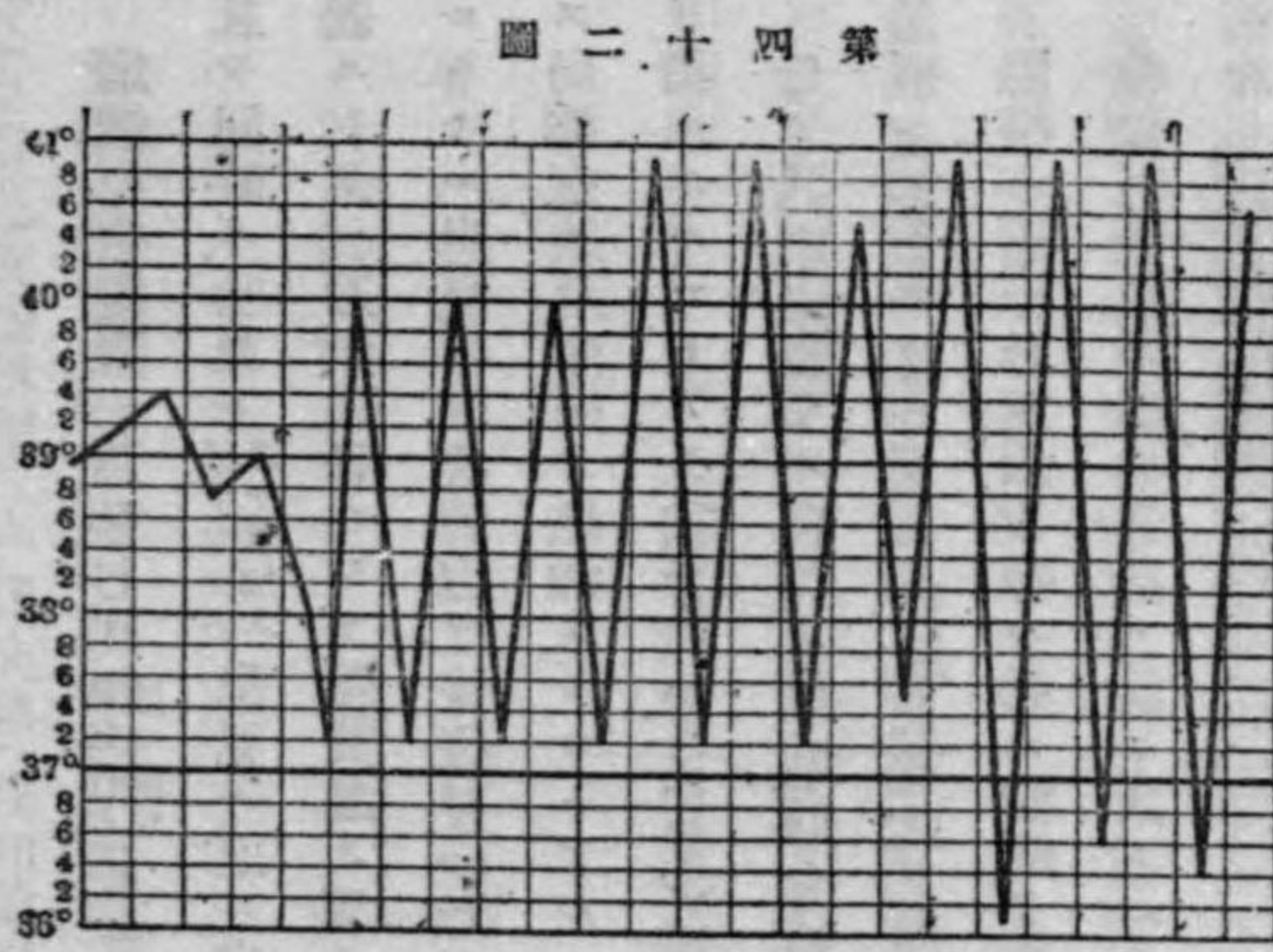
(三十三) 骨髓炎 Osteomyelitis

骨髓炎モ亦タ普通大腸桿菌ニ因スル場合アルモ其症例至テ稀ナリ

(三十四) 產褥熱 Puerperalfeber

普通大腸桿菌ニ因スル產褥熱ハ決シテ稀有症ニアラズ(Lenhartz, Vidal u. Lemierre, Blumenhath

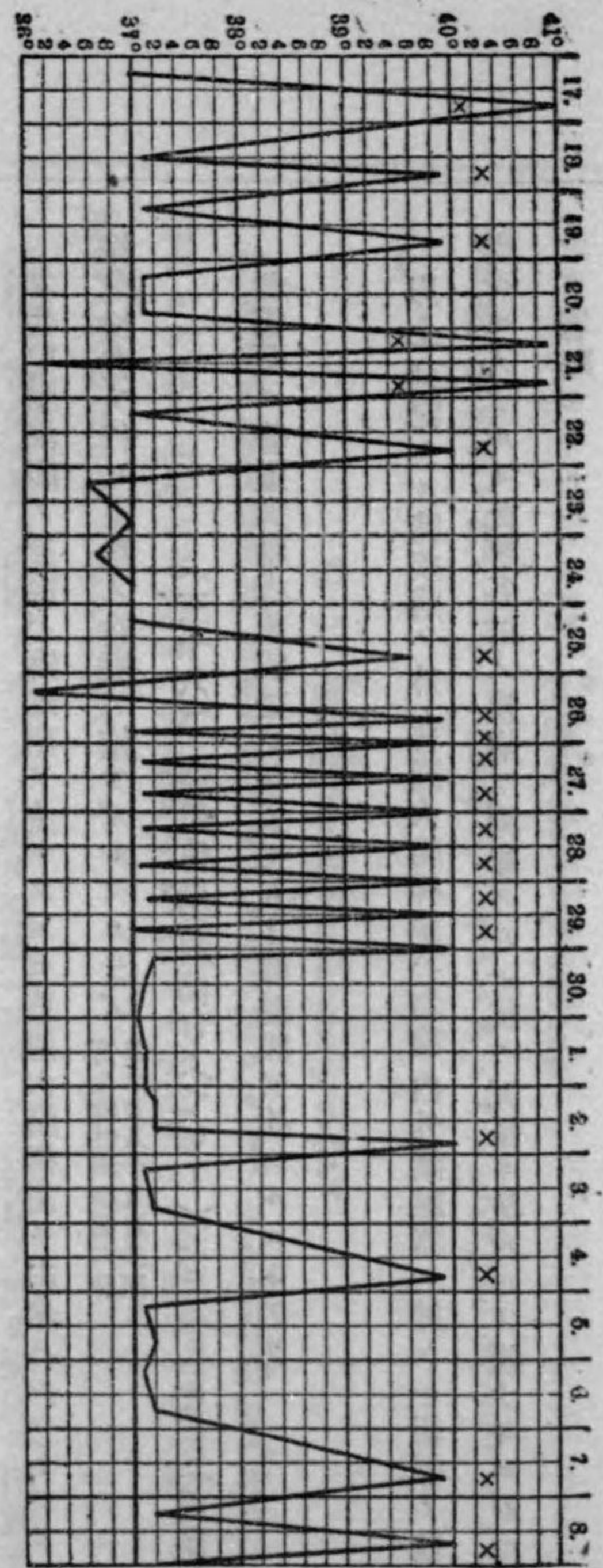
- 1). Jakob, deutsche Arch. f. klin. Med. 1909.
- 2). White and Eyre, Lancet. 1909. Vol. 1.
- 3). Liebermeister, Zeitschr. f. klin. Med. 1906; Jochmann, Handb. der inn. Med. von Mohr-Stachelin. Bd. 1. P. 700. Berlin 1911.



u. Hamn, Jakob u. Wiens, Jakob) 且ツ此場合ニハ一般ニ症候輕ク且ツ豫後佳良ニシテグロウチン療法モ亦其效ヲ奏スト云フ即チ英醫(White and Eyre)ハ三十歳ノ産褥熱患婦ニ之ヲ應用シ好果ヲ得タリト云フ其敘事ニヨレバ患者ハ五月二十二日分娩ヲ終ヘシニ二十五日ニ至リ突然惡寒戰慄ヲ催シ體温百四度(華氏)ニ上リ爾後六月二十三日來院ノ時マデ九十九度乃至百四度(華氏)ノ間ヲ弛張セリ於茲カテ一テ採尿シ細菌検査ヲ行ヒシニ橙黄色化膿球菌ヲ分離セリ即チグロウチンヲ製シテ接種ヲ行ヒシニ始メ該菌ニ對スル調理素系數ハ〇三ナリシヲ一五ニ高メ得タルモ臨牀上毫モ輕快スルヲ見ザリキ故ニ更ニ其體分泌液ヲ検査セシニ普通大腸桿菌ヲ分離シ得タリ故ニ其グロウチンヲ製シ七月二日及五日ニ各五百萬個 七日ニ二百萬個 十日ニ一萬ノ菌芽ヲ接種セシニ其效著シク七月十二日ニ至リ體温常温ニ復シ漸次全治セリト云フ

(三十五) 敗血症 Bephtkaemie

普通大腸桿菌ガ血中ニ進入シ敗血症ヲ起ス場合ニハ膽道 腸及膀胱 稀ニ雌性生殖器ヲ其發源地トス 一般ニ戰慄ト共ニ高熱ヲ發シ直チニ下降スル直行性間歇熱型(steil intermittierende Fieberkurve)ヲ示スヲ其特徴トスルモ亦弛張スルモノナキニシモアラズ脈數ハ熱度ニ準スルモ



圖三十四第

特設用試管ニ懸架セシ大腸桿菌ニ對シテ
敗血症患者ノ體温(ニハシ)ニ對シテ
(X) 腸炎患者ノ體温(ニハシ)ニ對シテ

稀ニ熱ニ比シ脈數少ナキコトアリ 轉移性病竈ヲ形成スルハ比較的少ナクシテ四十五例中十一回轉移性病竈ヲ形成スルノミナリ(Jakob) 戰慄ヲ反覆スルモ轉移竈ヲ形成セル爲メニアラズ轉移性病竈中最モ多キハ心内膜炎ニシテ脾 腎 肝 肺 腦膜及甲狀腺等ニモ膿竈ヲ形成ス 白血球數ハ増加シ約五千乃至一萬二千若クハ以上ヲ算ス

血液ヲ細菌學的ニ檢スルモ往々菌芽ヲ發見シ得ザルコトアリ殊ニ膽道ニ發源セル敗血症ニ於テ然リトス 尿道ヨリ來リタルモノニアリテハ反之屢々陽性成績ヲ得 豫後ハ必シモ不良ナラズ四十一%ハ治癒ス 治療法トシテハ解熱強心法等ノ如キ對症療法ヲ行フノ外グロウチン療法ヲ試ミ往々好果ヲ齎ラスコトアリ

四十歳ノ男子 三週前ヨリ腹部ニ發作性劇痛ヲ發シ惡寒戰慄ヲ訴フ 之ヲ診スルニ上腹部膨滿シ全身著ク衰弱シ血液検査ヲ行フモマラリカ原蟲ノ如キモノアリテ發見セズ 腫脹疾患ノ疑ヒノ下ニ手術ヲ行ヒシニ膽石症ニシテ中等大ノ膽石二個ヲ取出セリ 術後腹部膨滿ハ去リシモ惡寒戰慄依然トシテ存シ取テ恢復ノ狀ナク次第ニ羸瘦スルノミナリ 病勢今ヤ轉ジテ敗血症ニ變ジ危篤ニ類セリ 手術ノ際膽囊分泌液ヨリ普通大腸桿菌ノ純粋培養ヲ得タルバ之ヨリクウチンヲ製シテ接種ヲ試ミタリ 接種前ニ於ケル其調理学素系數ハ〇五ヲ算セリ 五億個ノ菌芽ヲ接種セル後ニ調理素系數ハ二四トナリ且ツ患者ハ稍々恢復ノ狀ヲ示シ爾後三日間全ク惡寒戰慄ヲ覺ヘズ 第二回接種後調理素系數ハ二六トナリ漸次恢復シテ四週ノ後全治セリ (E. Turton)

(三十六) 全眼球炎 Panophthalmie.

全眼球炎ハ雷ニ枯草桿菌類ニヨリテ發ス 寄生物性病論第七卷第三頁參照 ルノミナラズ普通大腸桿菌ニヨリテモ發セル例アリ

(三十七) 初生兒膿漏眼 Blennorrhoea neonatorum.

初生兒膿漏眼ノ原因ハ淋球菌ヲ主トスルモ普通大腸桿菌ニ由來スルコトアリ故ニ臨牀醫家ハ常ニ細菌検査ヲ行ヒ正當ノ診療ヲ施サザルベカラズ 寄生物性病論第六卷第六百八十九頁參照

(三十八) 創傷傳染(創傷ぢふてり) Wundinfektion (Wunddiphtherie).

創傷面ニ普通大腸桿菌感染シぢふてりニ様義膜ヲ生ズルコトアリ

以上列記セル諸疾病ノ外 普通大腸桿菌ハ勿論内外諸臟器ニ於ケル組織ノ發炎スルニ方リ干與シ得ルモノナルモ此等各種ノ疾病ヲ列舉スルハ徒ニ冗長ニ流ルルノ嫌ナキニシモアラズ故ニ予ハ茲ニ之ヲ省略セムトス

附

1). Turton, Lancet. 1909. Vol. 2.

(天) 家畜ノ疾病

(一) 乳房炎 Euterentzündung.

普通大腸桿菌ニ因リテ牛ノ乳房發炎スルコトアルハ Streit ニヨリテ精査ヲ遂グラレタリ

(二) 產褥熱 Septicaemia puerperalis.

化膿球菌 化膿球菌及普通大腸桿菌ニヨリテ發スルモノニシテ分娩時ニ生ゼル産道ノ創面ヨリ感染スルヲ常トス而シテ家畜中最モ屢々之ニ罹ルハ牛及犬ニシテ馬ニモ亦多稀ナラズ 牛ニアリテハ産褥ノ第四日ニ最モ多ク發病ス

産道ハ發炎シ且ツ疼痛アルモノノ如ク惡露ハ腐敗シテ惡臭ヲ放チ排尿モ困難ナリ 體温ハ四十乃至四十一度又ハ四十二度ニ達シ脈搏ハ八十乃至百二十ヲ算シ微細ナリ 痔瘡ノ發生速ニシテ意識ハ濁濁シ後體痲痺ス 三乃至四日ニシテ斃ルルヲ常トスルモ稀ニハ一乃至二日ニシテ死ノ轉歸ヲ取リ或ハ八乃至十四日ノ後ヲ治癒スルアリ又ハ慢性型ニ移行スルアリ

殺菌劑ニテ産道ヲ洗滌シ且ツ緩下劑ヲ投ジころい銀ヲ靜脈内ニ注射スルノ外主トシテ對症療法ヲ行フ

(三) 敗血性臍帶炎 septische Nabelschnurenentzündung.

本症ハ臍帶ニ於ケル創面ヨリ感染シテ敗血症ヲ發スルモノニシテ牛ニアリテハ往々普通大腸桿菌之ガ原因ヲナスノミナラズ敗血症桿菌 *Bacillus septicus* 化膿球菌及化膿球菌等ノ如キモ亦タ其原因ノ一ナリ

1). Streit, Centralbl. f. Bact. Ref. Bd. 31. P. 5.
2). Fröhner, Lehrb. d. spez. Pathol. u. Therapie der Haustiere 7. Aufl. Bd. 1. P. 360. Stuttgart 1908.

病芽若シ臍靜脈ノ凝血塊ニ達スレバ茲ニ増殖シテ或ハ直チニ脈管壁ヲ侵シテ臍輪ノ局所炎症ヲ惹起シ或ハ血栓ヲ膿潰セシメ漸次深部ニ進ミ門脈ニ入り血行ニヨリテ全身ニ輸致セラレ肺肝其他ノ諸臟器ニ轉移性炎症ヲ誘致ス

解剖學的變化 急性症ニアリテハ臍部ニ硬キ腫瘍ヲ生ジ臍輪ヲ閉塞セズ其緣ハ浸潤シテシテハ腐爛ス之ヲ壓スレバ腐敗性膿ヲ漏ラス内部ニハ大膿瘍アリテ往々腹膜ニ達ス臍靜脈ハ時トシテ著シク肥厚シ時トシテ波動ヲ呈シ血液凝塊ヲ含ミ血管壁及其周圍ノ結締織ハ漿液若クハ化膿性纖維素性滲出物ニヨリテ浸潤セラル(化膿性血栓性靜脈炎)炎症既ニ腹膜ニ達スレバ腹腔臟器(腸網膜 肝膀胱等)ハ纖維素性ノ義膜ヲ以テ癒著ス 肝臟ノ門脈分枝ニモ同様ノ栓塞ヲ生ズ 其他ノ臟器モ亦往々病毒ノ轉移ニ因レル炎症變狀ヲ呈ス即チ肺(氣管枝加答兒 化膿性纖維素性肋膜炎) 肝脾腎淋巴腺(縱膈膜腺 腸間膜腺) 腦筋肉關節 腱鞘等ノ膿瘍ノ如シ其他腹膜 腦膜 眼球内(化膿性脈絡膜炎及ビ全眼球炎)ノ化膿性炎症ヲ見ル 又心内膜ノ潰爛及漿液膜皮膚眼筋肉等ニ出血ヲ見ルコトアリ 甚急性ニ經過セルモノニアリテハ解剖學的變化却テ顯著ナラズ實質臟器ノ濁腫 粘膜炎ノ加答兒 脾臟ノ充血 粘膜炎及漿液膜ノ小出血 ばいえる腺ノ潰爛 淋巴腺ノ急性腫脹等ヲ其主ナルモノトス

症候 本病ハ概ネ出産後二十四乃至四十八時間ニシテ病徵ヲ發シ此ヨリ以後ニ發病スルハ稀ナリ 熱候ハ不正弛張性ニシテ間々寒戰ヲ伴ヒ皮膚不正ニシテ脈搏呼吸共ニ疾速トナリ 露出粘膜炎ハ汚赤色又ハ黃色ヲ帶ブ 患獸ハ食欲ヲ失ヒ自ラ母獸ノ乳房ヲ探ルコトナク假令人之ヲ導クモ哺乳セズ 大ニ疲勞倦怠シ好ミテ伏臥ス 起立セシムレバ首ヲ低レ久シク一處ニ佇立シ或ハ脱力シテ倒ル 臍部ハ大ニ腫脹シ熱痛ヲ帶ビ臍帶ノ斷端ハ乾燥遲徐ニシテ臍輪ヲ壓スレバ腐膿性分泌物ヲ漏シ臍

ト劍狀軟骨トノ間ニ於ケル中線ニ沿ヒ腹壁ノ内部ニ指大ノ硬キ索狀物ニ觸ル臍部ノ炎症ハ適當ナル處置ニ由リ恢復スト雖多クハ病毒轉移シテ早晚全身敗血症ヲ發ス

一又ハ二肢若クハ四肢ノ關節(飛節 膝關節) 同時ニ腫脹シ熱痛ヲ帶ビ且緊張シ周圍ノ結締織ハ炎症浮腫ヲ發ス此腫脹ハ時アリテ消散スルモ復タ現ハレ時日ヲ經テ其部ニ波動ヲ現ハシ遂ニ破潰シテ排膿ス 患畜ハ運動ヲ厭ヒ患肢ニ負重セズ 四肢同時ニ侵サルレバ起立スルコト能ハズ常ニ伏臥ス 腹部ヲ壓スレバ疼痛ヲ訴フルノミナラズ往々痙攣發作アリ初メハ便秘スルモ末期ニハ下痢シ稀薄暗色惡臭性糞便ヲ漏ラス斯クテ患畜ハ羸瘦 脫衰甚シク眼球陷沒シ心力大ニ衰ヘ時トシテハ體温平温以下ニ下降スルコトアリ

其他病芽ノ轉移スルニ從ヒ化膿性氣管枝肺炎 腦炎若クハ腦膜炎ヲ發ス 甚シク急性ノモノハ高熱 劇シキ下痢 血尿等アリテ俄ニ脱衰シテ斃ル

經過 二三日ニシテ斃ルルモノアルモ多クハ數日乃至二三週間ヲ要ス又慢性ノモノニアリテハ二三月ノ久シキニ及ブアリ

死亡率ハ約五十%ヲ算シ積ハ駒ニ比シ豫後稍々可良ナリ

療法 創面及波動部ニ於ケル外科的處置ノ外 ころい銀ヲ靜脈内ニ注射シ且ツ緩下劑 興奮劑等ヲ與フ

(四) 敗血膿毒症 Sepsicopyaemia.

家畜ハ普通大腸桿菌ノ爲メニ敗血症又ハ膿毒症或ハ敗血膿毒症ヲ發スルコトアリ 寄生物性病原論第六卷 第五百四十八頁及第

五百五十 頁参照

(五) 初生獸赤痢 (Dysenteria neonatorum.)

本症ハ一ニ白痢 Dysenteria alba ト稱スルモノニシテ急劇ノ下痢及衰弱ヲ特徴トスル急性觸接傳染病ナリ 本症ハ腸症ニアラズシテ喉口敗血症ト認ムル

犢ニ最モ多ク豚 羊 馬 犬 猫等ノ仔モ亦タ之ニ罹ル哺乳期ニアリテハ膿毒性多發關節炎ニ亞グル頻發ノ症ナリ埃國某牧場ニ於テハ三千三百八頭ノ犢中千九百九十六頭之ニ罹リ其九十七% (千百五十二頭) 斃死シあゝるらんニモ管テ流行セシコトアリシガ二十乃至九十%ノ死亡率ヲ出セリト云フ多クハ出産後三日以内ニ發シ四日以後ニ發病スルハ稀ナリ出産後未ダ哺乳セザル犢モ之ニ罹ルコトアルノミナラズ無害ノ牛乳又ハ煮沸牛乳又ハ其代用品ヲ以テ飼養セシモノモ罹患スルコトアリ故ニ母乳ト關係ナキヲ窺知スルニ足ル

原因 犢ノ赤痢ハ普通大腸桿菌ニ因スルヲ説ク者 (Tenson, Poels, Hoest, Bongert, Schütz) 多シ其他羊 (Hecker) 及駒 (Bader) ノ白痢ニ同名菌ヲ發見セル者アリ但シ管ニ大腸菌ノミナラズ出血性敗血桿菌 鏈菌 綠膿桿菌 類似大腸桿菌 其他ノ菌芽モ亦之ガ原因ヲナシ得ルモノナリト稱セル者 (Poels u. Moerd) ナル

感冒 食餌不良等ハ本症ノ誘因ヲナス (Tenson) 管ニ經口的ニ感染スルノミナラズ生後十二時間ノ幼犢ハ臍帶ヨリ傳染ス (Moerd) 其他流行性流産ト犢ノ赤痢トハ屢々同時ニ發スルヲ以テ子宮又ハ膈ノ傳染性加答兒ハ犢ノ消化器粘膜炎モ侵スモノナリトノ説アルモ未ダ明確ナラズ 傳染源ハ糞便ヲ主トス 其他本症ハ犢ヨリ羊及豚等ニモ傳染ス

解剖學的變化 腸粘膜炎 腸液及膿液ノ炎性産物ヲ以テ被ハレ無數ノ菌芽ヲ含有シ弛緩腫起シ其上

1). Friedberger u. Fröhner, Lehrb. d. speziellen Pathologie u. Therapie der Haustiere. 7. Aufl. Bd. 2. P. 205. Stuttgart 1908.

皮ハ所々剝脱シばいえる腺ハちぢふてり一様變化ヲ呈ス重症ノ者ニアリテハ腸ノ内容ニ多少血液ヲ混ズルモ經過短キ爲メニ潰瘍ヲ形成スルノ暇ナキモノノ如シ第四胃ノ粘膜炎ハ皺襞ノ頂及幽門部ニ充血浮腫 血斑ヲ生ジ間々軟化シ其内容ハ乾酪様ノ凝固物ヨリ成リ反應ハ普通ノ如ク酸性ナリ 又屍ハ一般ニ諸内臓ト共ニ大ニ貧血シ肝腎及心筋ニハ實質炎ヲ發シ且ツ小葉性氣管枝肺炎ヲ見ル 嘗テ英國ニ於テハ犢ノ赤痢ノ經過中 肺炎兼肺空胸症ヲ併發シ斃ルモノ甚ダ多カリシト云フ

症候 初生獸赤痢ハ動物ノ種類ノ異ナルニ從ヒ其症候及經過ヲ異ニス

(一) 犢 犢ハ生後一兩日ニシテ哺乳減退乃至中絶シ屢々粥狀ノ軟便ヲ排泄シ不安ニシテ哀鳴シ頻ニ努責窘迫ス 糞便ハ初メ黄色ヲ帶ブルモ後ニ至レバ白色ノ稀薄粘液便ニ變シ凝乳ヲ混ズ (所謂白痢 Weisse Ruhr) 又糞ハ腐敗臭ヲ帶ビ往々血液ヲ混シ遂ニハ失禁自利ス爲メニ病犢ハ非常ニ衰弱シ漸ヘズ伏臥シテ涎ヲ流シ時々痙攣ヲ發シ一日乃至三日ヲ經テ斃ル 死亡率ハ八十乃至百%ニシテ同厩舎ノ犢積々斃死スルコトアリ 治癒スル場合ハハ久シキ日子ヲ要ス蓋シ慢性肺炎 關節炎 口内炎等治癒シ難キニヨル

(二) 仔羊 仔羊モ亦沈憂シテ哺乳セス大ニ衰弱シテ下痢シ裏急後重劇シク惡臭性粘液便ヲ排泄ス體温四十一度五分ニ至ルモ死ニ瀕スレバ下降ス (Nikolsky) 呼吸促進シ口腔ヨリ粘唾ヲ流ス 經過一日乃至三日ナルモ時トシテ數時間ナルアリ 仔羊ノ發病スルハ生後三日以内ナルヲ常トスにこるすキーノ統計ニヨレバ生後第一日ニ發病スル者三十% 第二日ニ四十% 第三日ニ二十五% 第三日以後ニ五%アリ又一萬二千頭中其五十%本症ノ爲メニ斃レタル例アリ

(三) 仔馬 生後三日以内ニ發病ス (Mazouze) ルモ往々尙遲ク發病スルアリ病畜ハ憂愁且不安ニシ

テ悪臭性粘液便ヲ排泄ス呼吸及皮膚蒸發氣モ亦臭氣ヲ帶ブ眼球ハ陥没シ衰弱加ハリ大ニ渴ヲ訴ヘ肚腹縮小ス又往々全身若クハ肛圍ニ皮疹ヲ發ス

診斷 仔獸ノ急劇ナル高度ノ下痢ト迅速ナル斃死トハ其特徴トスル所ニシテ飼養ノ不良及母乳ノ不良ニ因スル急性胃腸加答兒ニ類スルモ普通ノ下痢ハ産後直チニ發スルモノニアラス且其經過ハ緩和ナルヲ常トシ糞便ハ粘土黃色乃至灰綠色ヲ帶ブルモノナリトス

豫防 病畜ヲ隔離シ厩舎ヲ消毒シ乳房ヲ洗滌シテ常ニ清潔ナラシメ且産前産後消毒藥液ヲ以テ産道ヲ洗滌スヘシ又孕メル母牛ハ分娩前數日間清潔ナル別舎ニ繋グヲ可トス其他産後直チニ臍ヲ消毒スルヲ要ス蓋シ臍ヨリ傳染スルコトアルヲ以テナリ

療法 免疫血清ヲ靜脈内ニ注入セバ著效ヲ奏シ死亡率ハ百%ヨリ零%ニ減スト云フ(Tensen)又藥劑的ニハ先ツ緩下劑ヲ投ジ次キテ阿片大青根末等阿片末ニ炭酸ナトリウムを加へて水に溶かし一日二回五分服セシム(Alentony)たんなるびんたんのびんノ如キ止痢劑ヲ與ヘ或ハ硝酸銀くれおんりぞーるれぞるちんなんたりんぞろーるころいぎ銀いひたるがん等ヲ用フルコトアリ 其他こるらるごーるGeyのC五物ノ石炭酸水ニ溶解セシメ之ヲ靜脈内ニ一日一回Gey乃至O三立方センチメートル注射シ四回反覆シ神效ヲ奏セシ例(Stampel, Frost, Humagall)アリ又衰弱セル者ニハ生理的食鹽水鹽ニハ一リヲ皮下又ハ靜脈内ニ注入ス

(五) 馬死病 Paratuberculosis in Westpreussen.

西ぶろうせんニ於ケル傳染性馬死病ガ普通大腸桿菌ニ因スルヲ疑セル者(Djorkowski u. Jess)アリ

らーらん Laurent²⁾ハ普通大腸桿菌ガ馬鈴薯ニ寄生シ往々其病因ヲナスコトアルヲ疑セリ

1). Fiorikowski u. Jess, Centralbl. f. Bact. Bd. 29. P. 285.
2). Laurent, Ann. Past. T. 13; Centralbl. f. Bact. 2. Abt. Bd. 7. P. 360.

第十 ちふす桿菌ニ因スル疾病

ちふす桿菌 Bacillus typhosus ハ即チ腸ちふす Abdominaltyphus(Darmtyphus)ノ原因ヲナスモノナリ 今腸ちふす症ニ關スル歴史ヲ探ルニ漠トシテ詳ナラズ

ちふすトハ希臘語ニシテ霧又ハ朦氣ノ義ナリ精神朦朧タル熱性病ノ意ナリ ひばくらてす Hippocratesノ著書中既ニ之ヲ載ス故ニ本症ハ往古ヨリ廣ク世ニ知ラレタルモノナルモ當時其意義漠然タリシハ其病名ニヨリテ略ボ推知スルコトヲ得ベシハハルし Hirsch へーせる Haesser 等ノ説ニヨレバちふす症中其歴史最モ古キモノハ發疹ちふすニシテ西歴十六世紀ノ初期ニ方リテ初メテ全歐洲ニ蔓延シ次ギテ十八世紀ニ及ビ發疹ちふすノ漸次稀有トナルニ從ヒ腸ちふす茲ニ始メテ現出セリト云フ又支那ノ古醫書金匱方論ニ陽毒ト稱シ外臺秘要方ニ斑爛隱疹ト名ケ又ハ醫學入門ニ熱毒斑疹ト呼ビタルモノハ發疹ちふすヲ指スモノナラムトノ説アリ其他我邦ニアリテハ神武天皇五十八年紀ノ疫ヲ初メトシ戰役又ハ飢饉ニ際シテ疫邪ノ流行セシコト史籍ニ見ユ其中ニハ腸ちふす又ハ發疹ちふすヲ包含セシヤ否ヤ知ルニ由ナシ

和漢ノ醫書熱病ヲ論ズルコト甚ダ錯雜ナルモ合義解ニ大資令(醫疾令)中ノ傷寒時氣瘧利傷中ヲ解シテ傷寒者冬傷於寒 即病者也 時氣者 時行之病 春時應暖而反寒 夏時應熱而反冷 秋時應涼而反熱 冬時應寒而反温 非其時 有其氣 是以一歲之中 病无長少 率相似者 此則時行之氣 一名疫癘 言陰陽之氣不和 致其病 譬如役人 故曰疫癘也 瘧者 夏日傷日者 秋必病瘧也 利者 下利之病也 傷中者 府藏有病者也 云ヘリ 是ニヨリテ之ヲ觀レバ當時疫病ト稱セルモノハ時行之病ニシテ四時ノ氣ヲ觸冒スルニヨリテ起ル所ノ傷寒トハ相區別セリ是レ蓋シ病源候論ニ據レルモノナリ然レドモ醫

心方ニ引ケル葛氏方ノ説ニテハ傷寒時行瘧疫雖有三名同一種耳而源本小異其冬月傷於暴寒或疾行力作汗出得風冷至春夏發名爲傷寒其冬月不甚寒多暖氣及西南風使人骨節緩墮受邪至春發爲時行其年歲月中有瘧氣兼扶鬼毒相注名爲瘧疫ト曰ヒ傷寒時行瘧疫ヲ混同セリ案ズルニ傷寒ハ熱性病ノ總稱ニシテ瘧疫トハ熱性傳染病ヲ指シ時行トハ流行性疾病ヲ總稱セルモノナラム瘧疫又ハ温疫ハ病原候論葛氏方等ニヨレバ熱性病ニシテ傍人ニ傳染シ其症狀能ク賜らふすニ相類似ス而シテ我邦ニテハ古來疫邪傷寒瘧疫陰證傷寒等ノ名稱ノ下ニ屢々流行シタルモノ今明カニ史籍ニヨリ其流行ヲ窺知シ得ルハ醫方口訣集頭書ニ延寶二三年雨水不時畿内五穀少登因此民多飢餓而雜食且濕疫流行死者不可勝計有識之醫多用八解散救人且多云其症始得不惡寒而發熱未及一期或耳聾目暗或發渴譫語或發斑而泄或齒燥舌黑而能食其脈始末多得浮緩トアルヲ以テ嚙矢トス發熱ちふすハ明治十四年(一八八三)及ぶつげまノ報告ヲ以テ初メトス斯ク我邦ニ於テハ往時既ニ瘧疫ノ傳染病ナルヲ知レルモ歐洲ニ於テハ偶然ニ發スルモノト做シ漸ク第十五世紀ニ至リ英ノばつせBartolinガ其傳染説ヲ唱へ且ツ其病毒ハ患者ノ糞便中ニアルヲ以テ之ヲ無害トナセバちふすノ發生ヲ絶ツコトヲ得ベシト主張セルノミナリ但シ當時英ノ大醫サーちんNurichisonハ腐敗瓦斯ニヨリテ發スルモノナリト云ヘリ第十九世紀上半ニ至ルモ猶ホ接觸傳染説地下水説細菌説等議論紛々タリキ

ちふすハ汎發性ノ疾病ニシテ世界到處其發生ヲ見ザルナク北ハ氷海ヨリ寒帯温帯及熱帯地方ニ及ブ從テ其名稱區々ニシテ十七八世紀ノ頃ハ歐洲ニテハ急熱 Faulcheorト稱ス又 Abdominaltyphus (Darmtyphus) Darmchleimleber Tylotyphus Typhoid Typhoidfever Enteric Fever, Fèvre typhoide 等皆腸チフスノ稱ニシテあるガリヤ士人ハ Bellena Beglaト名ツケタレ及瓜哇ニテハ Daman panasト稱ス

- 1). Müller, Centralbl. f. Bact. Orig. Bd. 53, 1909.
- 2). Bail u. Rubritius, ebenda. Bd. 43, 1907.

彼上ノ如クちふす症ハ初メ其意義漠然タリシモ十九世紀ノ初メ病理解剖學漸ク世ニ行ハルルニ及ビ學者之ニ由リテ其意義ヲ確定セントセリ殊ニ佛國ニ於テハぶちー Petit するれ Berres ぶる せい Broussais ぶる さん のー Bretonneau 等盛ニ腸ちふす屍ヲ剖キ回腸及腸間膜腺ニ於ケル固有ノ變化ヲ發見セリ後佛國ニ於ケルちふす流行ニ際シ多數ノ屍體ヲ剖見シテ之ヲ證明シ腸ちふすノ意義茲ニ確定セムトシタリシモ英國ニ於ケルちふす流行ニ際シ臨牀上腸ちふすト全ク區別シ能ハザルモ剖見上腸變化ヲ缺ケルモノアルヲ發見シ佛國學者ノ所説ヲ非認セザルベカラザル事實現ハレタリ於茲英佛ノ學派各其説ヲ異ニシ相固守シテ下ラザリキ十九世紀ノ末葉即チ千八百八十年えーべると Robert ハちふす屍體ノ脾及腸間膜腺ニちふす桿菌ヲ發見シ次ギテこはモ亦腸壁脾肝及腎ノ組織標本ニ之ヲ目撃シ千八百八十四年がふきー Coffin 之ガ純粹培養ヲ企圖シ其目的ヲ達セリ但シ當時該菌ハ腸ちふすノ原因ナリヤ否ヤニ關シ議論紛々タルモノアリシモ千八百九十四年初メテ溶菌作用及凝集反應等ニヨリテ大腸桿菌ノ如キ類似菌ト鑑識シ得ルニ至リ漸ク腸ちふすノ定義確立シ其意義全ク革新セラレタリ

ちふす桿菌ノ性状ヲ知ルニハ先ツ其形態ヲ詳ニセザルベカラズ本菌ハ短桿菌ニシテ隅角鈍圓ニシテ特殊ノ形狀ヲ呈スルコトナシ而シテ其長徑ハ一乃至三みくろんノ間ニアリテ横徑ハ〇.五乃至〇.八みくろんヲ算ス殊ニ低温ニテ阿膠又ハ馬鈴薯上ニ培養セルモノハ長キ絲狀發育ヲナスみくろれる Maltose 所説ニヨレバ患者ノ血液ヨリ分離セル初代菌最モ好ミテ絲狀形成ヲナスト云フ又ばいる及ぶりちらす Bail u. Rubritius²⁾ ハ動物體ヲ屢々通過セシメバ人工養基上ニ於ケルヨリモ菌芽ハ肥大ス勿論此等發育型ハ他ノ類似菌トノ鑑別點ヲナスモノニアラズちふす桿菌ハ能クあにりん

- 1). Fischer, klin. Jahrb. Bd. 22. 1909. 2). Matsushita, Centralbl. f. Bact. 2. Abt. Bd. 7; 寄生物性病論 第二卷 第五十四頁. 3). Löwen, Arb. a. d. Kais. Kais-Ges.-Amt. Bd. 11. 1895. 4). Terni, Ann. dell'inst. d'ig. sperim. di Roma. Vol. 3. 1893. 5). Germano u. Maurea, Ziegler's Beitr. Bd. 12. 1893. 6). Kühnemann, Centralbl. f. Bact. Orig. Bd. 53. 1909. 7). Kühnemann, ebenda. Bd. 57. 1911. 8). Gaffky, Mitt. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 2. 1884. 9). Birch-Hirschfeld, Arch. f. Hyg. Bd. 7. 1887. 10). Chantemesse u. Vidal, Arch. d. physiol. norm. et pathol. 1887. 11). Buchner, Centralbl. f. Bact. Bd. 4. 1888. 12). Pfufl, ebenda. 13). Ali-Cohen, Baumgartens Jahresber. 1887, P. 153. 14). Müller, Arb. a. d. bact. Inst. d. Hochschule Karlsruhe. Bd. 1. P. 113. 15). Almquist, Centralbl. f. Bact. Bd. 45. 1908.

色素ニ染ムモぐらひ法ニヨリテハ脱色ス其他本菌ハ活潑ナル固有運動ヲ營ムモ久シク人工養基上ニ培養セルモノハ其運動力微弱ナリ(Fischer¹⁾)其他強あるかり性養基中ニアリテハ運動ヲ失フコト神速ナリ最モ久シク其運動性ヲ保持セシムルニハ弱あるかり性肉汁ヲ用ヒ室温(十八度)ニテ培養スルニアリ(松下²⁾) 菌芽ノ運動ニ對シ好影響ヲ與フル養基トシテ列舉セラレタルモノ種々アリ例令バ斜面血清(Löwen³⁾)、ペプトン⁴⁾、缺如シ且ツ⁵⁾ニ⁶⁾鹽酸ニ必適スル酸性度ノ三⁷⁾のぐりせりん肉汁(Terni⁸⁾)ニ⁹⁾葡萄酒肉汁(Germano u. Maurea¹⁰⁾)ノ如シ ちふす桿菌ノ運動ハ勿論鞭毛ニ基クモノニシテ其鞭毛數ハ約八乃至十二若クハ十八條ヲ算シ菌端及菌側ヨリ發生ス(普通大腸桿菌ハ多クハ端立性ノ一乃至三條ノ鞭毛ヲ具ス(Almquist¹⁵⁾) ちふす桿菌ハ包膜ヲ形成スル機能ヲ有セズト一般ニ信ゼラルルモ¹¹⁾、¹²⁾、¹³⁾、¹⁴⁾、¹⁵⁾、¹⁶⁾、¹⁷⁾、¹⁸⁾、¹⁹⁾、²⁰⁾、²¹⁾、²²⁾、²³⁾、²⁴⁾、²⁵⁾、²⁶⁾、²⁷⁾、²⁸⁾、²⁹⁾、³⁰⁾、³¹⁾、³²⁾、³³⁾、³⁴⁾、³⁵⁾、³⁶⁾、³⁷⁾、³⁸⁾、³⁹⁾、⁴⁰⁾、⁴¹⁾、⁴²⁾、⁴³⁾、⁴⁴⁾、⁴⁵⁾、⁴⁶⁾、⁴⁷⁾、⁴⁸⁾、⁴⁹⁾、⁵⁰⁾、⁵¹⁾、⁵²⁾、⁵³⁾、⁵⁴⁾、⁵⁵⁾、⁵⁶⁾、⁵⁷⁾、⁵⁸⁾、⁵⁹⁾、⁶⁰⁾、⁶¹⁾、⁶²⁾、⁶³⁾、⁶⁴⁾、⁶⁵⁾、⁶⁶⁾、⁶⁷⁾、⁶⁸⁾、⁶⁹⁾、⁷⁰⁾、⁷¹⁾、⁷²⁾、⁷³⁾、⁷⁴⁾、⁷⁵⁾、⁷⁶⁾、⁷⁷⁾、⁷⁸⁾、⁷⁹⁾、⁸⁰⁾、⁸¹⁾、⁸²⁾、⁸³⁾、⁸⁴⁾、⁸⁵⁾、⁸⁶⁾、⁸⁷⁾、⁸⁸⁾、⁸⁹⁾、⁹⁰⁾、⁹¹⁾、⁹²⁾、⁹³⁾、⁹⁴⁾、⁹⁵⁾、⁹⁶⁾、⁹⁷⁾、⁹⁸⁾、⁹⁹⁾、¹⁰⁰⁾、¹⁰¹⁾、¹⁰²⁾、¹⁰³⁾、¹⁰⁴⁾、¹⁰⁵⁾、¹⁰⁶⁾、¹⁰⁷⁾、¹⁰⁸⁾、¹⁰⁹⁾、¹¹⁰⁾、¹¹¹⁾、¹¹²⁾、¹¹³⁾、¹¹⁴⁾、¹¹⁵⁾、¹¹⁶⁾、¹¹⁷⁾、¹¹⁸⁾、¹¹⁹⁾、¹²⁰⁾、¹²¹⁾、¹²²⁾、¹²³⁾、¹²⁴⁾、¹²⁵⁾、¹²⁶⁾、¹²⁷⁾、¹²⁸⁾、¹²⁹⁾、¹³⁰⁾、¹³¹⁾、¹³²⁾、¹³³⁾、¹³⁴⁾、¹³⁵⁾、¹³⁶⁾、¹³⁷⁾、¹³⁸⁾、¹³⁹⁾、¹⁴⁰⁾、¹⁴¹⁾、¹⁴²⁾、¹⁴³⁾、¹⁴⁴⁾、¹⁴⁵⁾、¹⁴⁶⁾、¹⁴⁷⁾、¹⁴⁸⁾、¹⁴⁹⁾、¹⁵⁰⁾、¹⁵¹⁾、¹⁵²⁾、¹⁵³⁾、¹⁵⁴⁾、¹⁵⁵⁾、¹⁵⁶⁾、¹⁵⁷⁾、¹⁵⁸⁾、¹⁵⁹⁾、¹⁶⁰⁾、¹⁶¹⁾、¹⁶²⁾、¹⁶³⁾、¹⁶⁴⁾、¹⁶⁵⁾、¹⁶⁶⁾、¹⁶⁷⁾、¹⁶⁸⁾、¹⁶⁹⁾、¹⁷⁰⁾、¹⁷¹⁾、¹⁷²⁾、¹⁷³⁾、¹⁷⁴⁾、¹⁷⁵⁾、¹⁷⁶⁾、¹⁷⁷⁾、¹⁷⁸⁾、¹⁷⁹⁾、¹⁸⁰⁾、¹⁸¹⁾、¹⁸²⁾、¹⁸³⁾、¹⁸⁴⁾、¹⁸⁵⁾、¹⁸⁶⁾、¹⁸⁷⁾、¹⁸⁸⁾、¹⁸⁹⁾、¹⁹⁰⁾、¹⁹¹⁾、¹⁹²⁾、¹⁹³⁾、¹⁹⁴⁾、¹⁹⁵⁾、¹⁹⁶⁾、¹⁹⁷⁾、¹⁹⁸⁾、¹⁹⁹⁾、²⁰⁰⁾、²⁰¹⁾、²⁰²⁾、²⁰³⁾、²⁰⁴⁾、²⁰⁵⁾、²⁰⁶⁾、²⁰⁷⁾、²⁰⁸⁾、²⁰⁹⁾、²¹⁰⁾、²¹¹⁾、²¹²⁾、²¹³⁾、²¹⁴⁾、²¹⁵⁾、²¹⁶⁾、²¹⁷⁾、²¹⁸⁾、²¹⁹⁾、²²⁰⁾、²²¹⁾、²²²⁾、²²³⁾、²²⁴⁾、²²⁵⁾、²²⁶⁾、²²⁷⁾、²²⁸⁾、²²⁹⁾、²³⁰⁾、²³¹⁾、²³²⁾、²³³⁾、²³⁴⁾、²³⁵⁾、²³⁶⁾、²³⁷⁾、²³⁸⁾、²³⁹⁾、²⁴⁰⁾、²⁴¹⁾、²⁴²⁾、²⁴³⁾、²⁴⁴⁾、²⁴⁵⁾、²⁴⁶⁾、²⁴⁷⁾、²⁴⁸⁾、²⁴⁹⁾、²⁵⁰⁾、²⁵¹⁾、²⁵²⁾、²⁵³⁾、²⁵⁴⁾、²⁵⁵⁾、²⁵⁶⁾、²⁵⁷⁾、²⁵⁸⁾、²⁵⁹⁾、²⁶⁰⁾、²⁶¹⁾、²⁶²⁾、²⁶³⁾、²⁶⁴⁾、²⁶⁵⁾、²⁶⁶⁾、²⁶⁷⁾、²⁶⁸⁾、²⁶⁹⁾、²⁷⁰⁾、²⁷¹⁾、²⁷²⁾、²⁷³⁾、²⁷⁴⁾、²⁷⁵⁾、²⁷⁶⁾、²⁷⁷⁾、²⁷⁸⁾、²⁷⁹⁾、²⁸⁰⁾、²⁸¹⁾、²⁸²⁾、²⁸³⁾、²⁸⁴⁾、²⁸⁵⁾、²⁸⁶⁾、²⁸⁷⁾、²⁸⁸⁾、²⁸⁹⁾、²⁹⁰⁾、²⁹¹⁾、²⁹²⁾、²⁹³⁾、²⁹⁴⁾、²⁹⁵⁾、²⁹⁶⁾、²⁹⁷⁾、²⁹⁸⁾、²⁹⁹⁾、³⁰⁰⁾、³⁰¹⁾、³⁰²⁾、³⁰³⁾、³⁰⁴⁾、³⁰⁵⁾、³⁰⁶⁾、³⁰⁷⁾、³⁰⁸⁾、³⁰⁹⁾、³¹⁰⁾、³¹¹⁾、³¹²⁾、³¹³⁾、³¹⁴⁾、³¹⁵⁾、³¹⁶⁾、³¹⁷⁾、³¹⁸⁾、³¹⁹⁾、³²⁰⁾、³²¹⁾、³²²⁾、³²³⁾、³²⁴⁾、³²⁵⁾、³²⁶⁾、³²⁷⁾、³²⁸⁾、³²⁹⁾、³³⁰⁾、³³¹⁾、³³²⁾、³³³⁾、³³⁴⁾、³³⁵⁾、³³⁶⁾、³³⁷⁾、³³⁸⁾、³³⁹⁾、³⁴⁰⁾、³⁴¹⁾、³⁴²⁾、³⁴³⁾、³⁴⁴⁾、³⁴⁵⁾、³⁴⁶⁾、³⁴⁷⁾、³⁴⁸⁾、³⁴⁹⁾、³⁵⁰⁾、³⁵¹⁾、³⁵²⁾、³⁵³⁾、³⁵⁴⁾、³⁵⁵⁾、³⁵⁶⁾、³⁵⁷⁾、³⁵⁸⁾、³⁵⁹⁾、³⁶⁰⁾、³⁶¹⁾、³⁶²⁾、³⁶³⁾、³⁶⁴⁾、³⁶⁵⁾、³⁶⁶⁾、³⁶⁷⁾、³⁶⁸⁾、³⁶⁹⁾、³⁷⁰⁾、³⁷¹⁾、³⁷²⁾、³⁷³⁾、³⁷⁴⁾、³⁷⁵⁾、³⁷⁶⁾、³⁷⁷⁾、³⁷⁸⁾、³⁷⁹⁾、³⁸⁰⁾、³⁸¹⁾、³⁸²⁾、³⁸³⁾、³⁸⁴⁾、³⁸⁵⁾、³⁸⁶⁾、³⁸⁷⁾、³⁸⁸⁾、³⁸⁹⁾、³⁹⁰⁾、³⁹¹⁾、³⁹²⁾、³⁹³⁾、³⁹⁴⁾、³⁹⁵⁾、³⁹⁶⁾、³⁹⁷⁾、³⁹⁸⁾、³⁹⁹⁾、⁴⁰⁰⁾、⁴⁰¹⁾、⁴⁰²⁾、⁴⁰³⁾、⁴⁰⁴⁾、⁴⁰⁵⁾、⁴⁰⁶⁾、⁴⁰⁷⁾、⁴⁰⁸⁾、⁴⁰⁹⁾、⁴¹⁰⁾、⁴¹¹⁾、⁴¹²⁾、⁴¹³⁾、⁴¹⁴⁾、⁴¹⁵⁾、⁴¹⁶⁾、⁴¹⁷⁾、⁴¹⁸⁾、⁴¹⁹⁾、⁴²⁰⁾、⁴²¹⁾、⁴²²⁾、⁴²³⁾、⁴²⁴⁾、⁴²⁵⁾、⁴²⁶⁾、⁴²⁷⁾、⁴²⁸⁾、⁴²⁹⁾、⁴³⁰⁾、⁴³¹⁾、⁴³²⁾、⁴³³⁾、⁴³⁴⁾、⁴³⁵⁾、⁴³⁶⁾、⁴³⁷⁾、⁴³⁸⁾、⁴³⁹⁾、⁴⁴⁰⁾、⁴⁴¹⁾、⁴⁴²⁾、⁴⁴³⁾、⁴⁴⁴⁾、⁴⁴⁵⁾、⁴⁴⁶⁾、⁴⁴⁷⁾、⁴⁴⁸⁾、⁴⁴⁹⁾、⁴⁵⁰⁾、⁴⁵¹⁾、⁴⁵²⁾、⁴⁵³⁾、⁴⁵⁴⁾、⁴⁵⁵⁾、⁴⁵⁶⁾、⁴⁵⁷⁾、⁴⁵⁸⁾、⁴⁵⁹⁾、⁴⁶⁰⁾、⁴⁶¹⁾、⁴⁶²⁾、⁴⁶³⁾、⁴⁶⁴⁾、⁴⁶⁵⁾、⁴⁶⁶⁾、⁴⁶⁷⁾、⁴⁶⁸⁾、⁴⁶⁹⁾、⁴⁷⁰⁾、⁴⁷¹⁾、⁴⁷²⁾、⁴⁷³⁾、⁴⁷⁴⁾、⁴⁷⁵⁾、⁴⁷⁶⁾、⁴⁷⁷⁾、⁴⁷⁸⁾、⁴⁷⁹⁾、⁴⁸⁰⁾、⁴⁸¹⁾、⁴⁸²⁾、⁴⁸³⁾、⁴⁸⁴⁾、⁴⁸⁵⁾、⁴⁸⁶⁾、⁴⁸⁷⁾、⁴⁸⁸⁾、⁴⁸⁹⁾、⁴⁹⁰⁾、⁴⁹¹⁾、⁴⁹²⁾、⁴⁹³⁾、⁴⁹⁴⁾、⁴⁹⁵⁾、⁴⁹⁶⁾、⁴⁹⁷⁾、⁴⁹⁸⁾、⁴⁹⁹⁾、⁵⁰⁰⁾、⁵⁰¹⁾、⁵⁰²⁾、⁵⁰³⁾、⁵⁰⁴⁾、⁵⁰⁵⁾、⁵⁰⁶⁾、⁵⁰⁷⁾、⁵⁰⁸⁾、⁵⁰⁹⁾、⁵¹⁰⁾、⁵¹¹⁾、⁵¹²⁾、⁵¹³⁾、⁵¹⁴⁾、⁵¹⁵⁾、⁵¹⁶⁾、⁵¹⁷⁾、⁵¹⁸⁾、⁵¹⁹⁾、⁵²⁰⁾、⁵²¹⁾、⁵²²⁾、⁵²³⁾、⁵²⁴⁾、⁵²⁵⁾、⁵²⁶⁾、⁵²⁷⁾、⁵²⁸⁾、⁵²⁹⁾、⁵³⁰⁾、⁵³¹⁾、⁵³²⁾、⁵³³⁾、⁵³⁴⁾、⁵³⁵⁾、⁵³⁶⁾、⁵³⁷⁾、⁵³⁸⁾、⁵³⁹⁾、⁵⁴⁰⁾、⁵⁴¹⁾、⁵⁴²⁾、⁵⁴³⁾、⁵⁴⁴⁾、⁵⁴⁵⁾、⁵⁴⁶⁾、⁵⁴⁷⁾、⁵⁴⁸⁾、⁵⁴⁹⁾、⁵⁵⁰⁾、⁵⁵¹⁾、⁵⁵²⁾、⁵⁵³⁾、⁵⁵⁴⁾、⁵⁵⁵⁾、⁵⁵⁶⁾、⁵⁵⁷⁾、⁵⁵⁸⁾、⁵⁵⁹⁾、⁵⁶⁰⁾、⁵⁶¹⁾、⁵⁶²⁾、⁵⁶³⁾、⁵⁶⁴⁾、⁵⁶⁵⁾、⁵⁶⁶⁾、⁵⁶⁷⁾、⁵⁶⁸⁾、⁵⁶⁹⁾、⁵⁷⁰⁾、⁵⁷¹⁾、⁵⁷²⁾、⁵⁷³⁾、⁵⁷⁴⁾、⁵⁷⁵⁾、⁵⁷⁶⁾、⁵⁷⁷⁾、⁵⁷⁸⁾、⁵⁷⁹⁾、⁵⁸⁰⁾、⁵⁸¹⁾、⁵⁸²⁾、⁵⁸³⁾、⁵⁸⁴⁾、⁵⁸⁵⁾、⁵⁸⁶⁾、⁵⁸⁷⁾、⁵⁸⁸⁾、⁵⁸⁹⁾、⁵⁹⁰⁾、⁵⁹¹⁾、⁵⁹²⁾、⁵⁹³⁾、⁵⁹⁴⁾、⁵⁹⁵⁾、⁵⁹⁶⁾、⁵⁹⁷⁾、⁵⁹⁸⁾、⁵⁹⁹⁾、⁶⁰⁰⁾、⁶⁰¹⁾、⁶⁰²⁾、⁶⁰³⁾、⁶⁰⁴⁾、⁶⁰⁵⁾、⁶⁰⁶⁾、⁶⁰⁷⁾、⁶⁰⁸⁾、⁶⁰⁹⁾、⁶¹⁰⁾、⁶¹¹⁾、⁶¹²⁾、⁶¹³⁾、⁶¹⁴⁾、⁶¹⁵⁾、⁶¹⁶⁾、⁶¹⁷⁾、⁶¹⁸⁾、⁶¹⁹⁾、⁶²⁰⁾、⁶²¹⁾、⁶²²⁾、⁶²³⁾、⁶²⁴⁾、⁶²⁵⁾、⁶²⁶⁾、⁶²⁷⁾、⁶²⁸⁾、⁶²⁹⁾、⁶³⁰⁾、⁶³¹⁾、⁶³²⁾、⁶³³⁾、⁶³⁴⁾、⁶³⁵⁾、⁶³⁶⁾、⁶³⁷⁾、⁶³⁸⁾、⁶³⁹⁾、⁶⁴⁰⁾、⁶⁴¹⁾、⁶⁴²⁾、⁶⁴³⁾、⁶⁴⁴⁾、⁶⁴⁵⁾、⁶⁴⁶⁾、⁶⁴⁷⁾、⁶⁴⁸⁾、⁶⁴⁹⁾、⁶⁵⁰⁾、⁶⁵¹⁾、⁶⁵²⁾、⁶⁵³⁾、⁶⁵⁴⁾、⁶⁵⁵⁾、⁶⁵⁶⁾、⁶⁵⁷⁾、⁶⁵⁸⁾、⁶⁵⁹⁾、⁶⁶⁰⁾、⁶⁶¹⁾、⁶⁶²⁾、⁶⁶³⁾、⁶⁶⁴⁾、⁶⁶⁵⁾、⁶⁶⁶⁾、⁶⁶⁷⁾、⁶⁶⁸⁾、⁶⁶⁹⁾、⁶⁷⁰⁾、⁶⁷¹⁾、⁶⁷²⁾、⁶⁷³⁾、⁶⁷⁴⁾、⁶⁷⁵⁾、⁶⁷⁶⁾、⁶⁷⁷⁾、⁶⁷⁸⁾、⁶⁷⁹⁾、⁶⁸⁰⁾、⁶⁸¹⁾、⁶⁸²⁾、⁶⁸³⁾、⁶⁸⁴⁾、⁶⁸⁵⁾、⁶⁸⁶⁾、⁶⁸⁷⁾、⁶⁸⁸⁾、⁶⁸⁹⁾、⁶⁹⁰⁾、⁶⁹¹⁾、⁶⁹²⁾、⁶⁹³⁾、⁶⁹⁴⁾、⁶⁹⁵⁾、⁶⁹⁶⁾、⁶⁹⁷⁾、⁶⁹⁸⁾、⁶⁹⁹⁾、⁷⁰⁰⁾、⁷⁰¹⁾、⁷⁰²⁾、⁷⁰³⁾、⁷⁰⁴⁾、⁷⁰⁵⁾、⁷⁰⁶⁾、⁷⁰⁷⁾、⁷⁰⁸⁾、⁷⁰⁹⁾、⁷¹⁰⁾、⁷¹¹⁾、⁷¹²⁾、⁷¹³⁾、⁷¹⁴⁾、⁷¹⁵⁾、⁷¹⁶⁾、⁷¹⁷⁾、⁷¹⁸⁾、⁷¹⁹⁾、⁷²⁰⁾、⁷²¹⁾、⁷²²⁾、⁷²³⁾、⁷²⁴⁾、⁷²⁵⁾、⁷²⁶⁾、⁷²⁷⁾、⁷²⁸⁾、⁷²⁹⁾、⁷³⁰⁾、⁷³¹⁾、⁷³²⁾、⁷³³⁾、⁷³⁴⁾、⁷³⁵⁾、⁷³⁶⁾、⁷³⁷⁾、⁷³⁸⁾、⁷³⁹⁾、⁷⁴⁰⁾、⁷⁴¹⁾、⁷⁴²⁾、⁷⁴³⁾、⁷⁴⁴⁾、⁷⁴⁵⁾、⁷⁴⁶⁾、⁷⁴⁷⁾、⁷⁴⁸⁾、⁷⁴⁹⁾、⁷⁵⁰⁾、⁷⁵¹⁾、⁷⁵²⁾、⁷⁵³⁾、⁷⁵⁴⁾、⁷⁵⁵⁾、⁷⁵⁶⁾、⁷⁵⁷⁾、⁷⁵⁸⁾、⁷⁵⁹⁾、⁷⁶⁰⁾、⁷⁶¹⁾、⁷⁶²⁾、⁷⁶³⁾、⁷⁶⁴⁾、⁷⁶⁵⁾、⁷⁶⁶⁾、⁷⁶⁷⁾、⁷⁶⁸⁾、⁷⁶⁹⁾、⁷⁷⁰⁾、⁷⁷¹⁾、⁷⁷²⁾、⁷⁷³⁾、⁷⁷⁴⁾、⁷⁷⁵⁾、⁷⁷⁶⁾、⁷⁷⁷⁾、⁷⁷⁸⁾、⁷⁷⁹⁾、⁷⁸⁰⁾、⁷⁸¹⁾、⁷⁸²⁾、⁷⁸³⁾、⁷⁸⁴⁾、⁷⁸⁵⁾、⁷⁸⁶⁾、⁷⁸⁷⁾、⁷⁸⁸⁾、⁷⁸⁹⁾、⁷⁹⁰⁾、⁷⁹¹⁾、⁷⁹²⁾、⁷⁹³⁾、⁷⁹⁴⁾、⁷⁹⁵⁾、⁷⁹⁶⁾、⁷⁹⁷⁾、⁷⁹⁸⁾、⁷⁹⁹⁾、⁸⁰⁰⁾、⁸⁰¹⁾、⁸⁰²⁾、⁸⁰³⁾、⁸⁰⁴⁾、⁸⁰⁵⁾、⁸⁰⁶⁾、⁸⁰⁷⁾、⁸⁰⁸⁾、⁸⁰⁹⁾、⁸¹⁰⁾、⁸¹¹⁾、⁸¹²⁾、⁸¹³⁾、⁸¹⁴⁾、⁸¹⁵⁾、⁸¹⁶⁾、⁸¹⁷⁾、⁸¹⁸⁾、⁸¹⁹⁾、⁸²⁰⁾、⁸²¹⁾、⁸²²⁾、⁸²³⁾、⁸²⁴⁾、⁸²⁵⁾、⁸²⁶⁾、⁸²⁷⁾、⁸²⁸⁾、⁸²⁹⁾、⁸³⁰⁾、⁸³¹⁾、⁸³²⁾、⁸³³⁾、⁸³⁴⁾、⁸³⁵⁾、⁸³⁶⁾、⁸³⁷⁾、⁸³⁸⁾、⁸³⁹⁾、⁸⁴⁰⁾、⁸⁴¹⁾、⁸⁴²⁾、⁸⁴³⁾、⁸⁴⁴⁾、⁸⁴⁵⁾、⁸⁴⁶⁾、⁸⁴⁷⁾、⁸⁴⁸⁾、⁸⁴⁹⁾、⁸⁵⁰⁾、⁸⁵¹⁾、⁸⁵²⁾、⁸⁵³⁾、⁸⁵⁴⁾、⁸⁵⁵⁾、⁸⁵⁶⁾、⁸⁵⁷⁾、⁸⁵⁸⁾、⁸⁵⁹⁾、⁸⁶⁰⁾、⁸⁶¹⁾、⁸⁶²⁾、⁸⁶³⁾、⁸⁶⁴⁾、⁸⁶⁵⁾、⁸⁶⁶⁾、⁸⁶⁷⁾、⁸⁶⁸⁾、⁸⁶⁹⁾、⁸⁷⁰⁾、⁸⁷¹⁾、⁸⁷²⁾、⁸⁷³⁾、⁸⁷⁴⁾、⁸⁷⁵⁾、⁸⁷⁶⁾、⁸⁷⁷⁾、⁸⁷⁸⁾、⁸⁷⁹⁾、⁸⁸⁰⁾、⁸⁸¹⁾、⁸⁸²⁾、⁸⁸³⁾、⁸⁸⁴⁾、⁸⁸⁵⁾、⁸⁸⁶⁾、⁸⁸⁷⁾、⁸⁸⁸⁾、⁸⁸⁹⁾、⁸⁹⁰⁾、⁸⁹¹⁾、⁸⁹²⁾、⁸⁹³⁾、⁸⁹⁴⁾、⁸⁹⁵⁾、⁸⁹⁶⁾、⁸⁹⁷⁾、⁸⁹⁸⁾、⁸⁹⁹⁾、⁹⁰⁰⁾、⁹⁰¹⁾、⁹⁰²⁾、⁹⁰³⁾、⁹⁰⁴⁾、⁹⁰⁵⁾、⁹⁰⁶⁾、⁹⁰⁷⁾、⁹⁰⁸⁾、⁹⁰⁹⁾、⁹¹⁰⁾、⁹¹¹⁾、⁹¹²⁾、⁹¹³⁾、⁹¹⁴⁾、⁹¹⁵⁾、⁹¹⁶⁾、⁹¹⁷⁾、⁹¹⁸⁾、⁹¹⁹⁾、⁹²⁰⁾、⁹²¹⁾、⁹²²⁾、⁹²³⁾、⁹²⁴⁾、⁹²⁵⁾、⁹²⁶⁾、⁹²⁷⁾、⁹²⁸⁾、⁹²⁹⁾、⁹³⁰⁾、⁹³¹⁾、⁹³²⁾、⁹³³⁾、⁹³⁴⁾、⁹³⁵⁾、⁹³⁶⁾、⁹³⁷⁾、⁹³⁸⁾、⁹³⁹⁾、⁹⁴⁰⁾、⁹⁴¹⁾、⁹⁴²⁾、⁹⁴³⁾、⁹⁴⁴⁾、⁹⁴⁵⁾、⁹⁴⁶⁾、⁹⁴⁷⁾、⁹⁴⁸⁾、⁹⁴⁹⁾、⁹⁵⁰⁾、⁹⁵¹⁾、⁹⁵²⁾、⁹⁵³⁾、⁹⁵⁴⁾、⁹⁵⁵⁾、⁹⁵⁶⁾、⁹⁵⁷⁾、⁹⁵⁸⁾、⁹⁵⁹⁾、⁹⁶⁰⁾、⁹⁶¹⁾、⁹⁶²⁾、⁹⁶³⁾、⁹⁶⁴⁾、⁹⁶⁵⁾、⁹⁶⁶⁾、⁹⁶⁷⁾、⁹⁶⁸⁾、⁹⁶⁹⁾、⁹⁷⁰⁾、⁹⁷¹⁾、⁹⁷²⁾、⁹⁷³⁾、⁹⁷⁴⁾、⁹⁷⁵⁾、⁹⁷⁶⁾、⁹⁷⁷⁾、⁹⁷⁸⁾、⁹⁷⁹⁾、⁹⁸⁰⁾、⁹⁸¹⁾、⁹⁸²⁾、⁹⁸³⁾、⁹⁸⁴⁾、⁹⁸⁵⁾、⁹⁸⁶⁾、⁹⁸⁷⁾、⁹⁸⁸⁾、⁹⁸⁹⁾、⁹⁹⁰⁾、⁹⁹¹⁾、⁹⁹²⁾、⁹⁹³⁾、⁹⁹⁴⁾、⁹⁹⁵⁾、⁹⁹⁶⁾、⁹⁹⁷⁾、⁹⁹⁸⁾、⁹⁹⁹⁾、¹⁰⁰⁰⁾、¹⁰⁰¹⁾、¹⁰⁰²⁾、¹⁰⁰³⁾、¹⁰⁰⁴⁾、¹⁰⁰⁵⁾、¹⁰⁰⁶⁾、¹⁰⁰⁷⁾、¹⁰⁰⁸⁾、¹⁰⁰⁹⁾、¹⁰¹⁰⁾、¹⁰¹¹⁾、¹⁰¹²⁾、¹⁰¹³⁾、¹⁰¹⁴⁾、¹⁰¹⁵⁾、¹⁰¹⁶⁾、¹⁰¹⁷⁾、¹⁰¹⁸⁾、¹⁰¹⁹⁾、¹⁰²⁰⁾、¹⁰²¹⁾、¹⁰²²⁾、¹⁰²³⁾、¹⁰²⁴⁾、¹⁰²⁵⁾、¹⁰²⁶⁾、¹⁰²⁷⁾、¹⁰²⁸⁾、¹⁰²⁹⁾、¹⁰³⁰⁾、¹⁰³¹⁾、¹⁰³²⁾、¹⁰³³⁾、¹⁰³⁴⁾、¹⁰³⁵⁾、¹⁰³⁶⁾、¹⁰³⁷⁾、¹⁰³⁸⁾、¹⁰³⁹⁾、¹⁰⁴⁰⁾、¹⁰⁴¹⁾、¹⁰⁴²⁾、¹⁰⁴³⁾、¹⁰⁴⁴⁾、¹⁰⁴⁵⁾、¹⁰⁴⁶⁾、¹⁰⁴⁷⁾、¹⁰⁴⁸⁾、¹⁰⁴⁹⁾、¹⁰⁵⁰⁾、¹⁰⁵¹⁾、¹⁰⁵²⁾、¹⁰⁵³⁾、¹⁰⁵⁴⁾、¹⁰⁵⁵⁾、¹⁰⁵⁶⁾、¹⁰⁵⁷⁾、¹⁰⁵⁸⁾、¹⁰⁵⁹⁾、¹⁰⁶⁰⁾、¹⁰⁶¹⁾、¹⁰⁶²⁾、¹⁰⁶³⁾、¹⁰⁶⁴⁾、¹⁰⁶⁵⁾、¹⁰⁶⁶⁾、¹⁰⁶⁷⁾、¹⁰⁶⁸⁾、¹⁰⁶⁹⁾、¹⁰⁷⁰⁾、¹⁰⁷¹⁾、¹⁰⁷²⁾、¹⁰⁷³⁾、¹⁰⁷⁴⁾、¹⁰⁷⁵⁾、¹⁰⁷⁶⁾、¹⁰⁷⁷⁾、¹⁰⁷⁸⁾、¹⁰⁷⁹⁾、¹⁰⁸⁰⁾、¹⁰⁸¹⁾、¹⁰⁸²⁾、¹⁰⁸³⁾、¹⁰⁸⁴⁾、¹⁰⁸⁵⁾、¹⁰⁸⁶⁾、¹⁰⁸⁷⁾、¹⁰⁸⁸⁾、¹⁰⁸⁹⁾、¹⁰⁹⁰⁾、¹⁰⁹¹⁾、¹⁰⁹²⁾、¹⁰⁹³⁾、¹⁰⁹⁴⁾、¹⁰⁹⁵⁾、¹⁰⁹⁶⁾、¹⁰⁹⁷⁾、¹⁰⁹⁸⁾、¹⁰⁹⁹⁾、¹¹⁰⁰⁾、¹¹⁰¹⁾、¹¹⁰²⁾、¹¹⁰³⁾、¹¹⁰⁴⁾、¹¹⁰⁵⁾、¹¹⁰⁶⁾、¹¹⁰⁷⁾、¹¹⁰⁸⁾、¹¹⁰⁹⁾、¹¹¹⁰⁾、¹¹¹¹⁾、¹¹¹²⁾、¹¹¹³⁾、¹¹¹⁴⁾、¹¹¹⁵⁾、¹¹¹⁶⁾、¹¹¹⁷⁾、¹¹¹⁸⁾、¹¹¹⁹⁾、¹¹²⁰⁾、¹¹²¹⁾、¹¹²²⁾、¹¹²³⁾、¹¹²⁴⁾、¹¹²⁵⁾、¹¹²⁶⁾、¹¹²⁷⁾、¹¹²⁸⁾、¹¹²⁹⁾、¹¹³⁰⁾、¹¹³¹⁾、¹¹³²⁾、¹¹³³⁾、¹¹³⁴⁾、¹¹³⁵⁾、¹¹³⁶⁾、¹¹³⁷⁾、¹¹³⁸⁾、¹¹³⁹⁾、¹¹⁴⁰⁾、¹¹⁴¹⁾、¹¹⁴²⁾、¹¹⁴³⁾、¹¹⁴⁴⁾、¹¹⁴⁵⁾、¹¹⁴⁶⁾、¹¹⁴⁷⁾、<

- 1). Grimbert, Compt. rend. soc. biol. 1898.
- 2). Erdmann u. Winternitz, münch. med. Wochenschr. 1903.
- 3). Petruschky, Centralbl. f. Bact. Bd. 6 u. 7 sowie 19.
- 4). Altschüler, münch. med. Wochenschr. 1904.
- 5). Boit, einfache u. sicherer Identifizierung der Typhusbacillus. Jena 1905.
- 6). Kutscher u. Meinicke, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 52. 1906.

(Grimbert¹⁾)ノ微量ヲ産ス又蛋白所含ノ養液(例合バベトニ加入汁)ニちんす又ハばらちんす桿菌ヲ培養スルトキハ蛋白質分解セラレタル爲メニぶろていのくろーひ反應 Proteinochromreactionヲ呈ス即チ其養液ヲ醋酸ニテ弱酸性トナシ次ギテぶろーひ又ハくろーひヲ加ヘバ赤紫色ヲ呈ス
普通大腸桿菌ニハ此反(Boitmann u. Winternitz²⁾)應ナク

第四百二頁ニ於テ既ニ敘セルガ如ク普通大腸桿菌ハ糖ヲ分解シ酸ヲ産生スル機能アルモちんす桿菌ニアリテハ此機能ヲ缺如ス故ニ諸家ハ之ニ據リテ兩菌ヲ區別セムト企圖セリ即チ千八百八十九年Petruschky³⁾ハらくひす乳清(Lackmuskolke)ヲ用ヒタリナレバ三十七度ニテ二十四時間稀ニ四十八時間ヲ經バ大腸桿菌類ヲ培養セル試験管ハ著シク濁濁シ且ツ乳糖分解シテ酸ヲ産生セル結果赤色ヲ呈スルモちんす桿菌ニアリテハ全ク清澄ニシテ其色ニ變化アルヲ見ルコト能ハズ又菌種ニヨリテハらくひす乳糖ハ先ヅ微ニ濁濁シ且ツ著明ニ赤色ヲ呈スルモ一乃至二週間ノ後チ再タビ深青色ニ變ズルアリ例合バばらちんす桿菌B型鼠ちんす桿菌腸炎桿菌豚疫桿菌鷄鷄桿菌Psittakosebacillus ちんす桿菌 Psittakosebacillus S. ちんす桿菌 Bat. Issa wtschenko 及ヒ他ノばらちんす菌若クハ腸炎菌屬ニ於ケルガ如シ又赤變スルモ濁濁セザル赤痢桿菌ノ如キアリあるカハ性糞便桿菌 Bacillus faecalis alabigenes ニアリテハ速ニ著シク青色ヲ呈シあるカハ形後チ微ニ濁濁スらくひす乳清ニ於ケル各菌ノ性状ハ殆ド一定不變ナルヲ以テ菌種ノ鑑別ニ應用セラル蓋シちんす桿菌ハ酸ヲ産生スルコト少キガ爲メナリ(Germano u. Maurer, Altschüler⁴⁾, Boit⁵⁾, Kutscher u. Meinicke⁶⁾)由來ちんす桿菌ハ乳糖ヲ分解スルノ力ナシ故ニらくひす乳清上ニ現ハレタル酸ハ乳酸ニアラズシテ養基ニ存セル他種ノ糖類ニ由來スルモノナリ乳汁中ニハ管ニ乳糖ノミナラズでさすどろーせノ如

- 1). *Durham*, Journ. of experim. med. Vol. 5. 1901.
- 2). *Smith*, Journ. of the Boston. soc. Vol. 2. 1898.
- 3). *Smith*, Centralbl. f. Bact. Bd. 7. 8 u. 11.
- 4). *Chantemesse* u. *Widal*, Eull. med. 1891; Sem. m6d. 1891.
- 5). *Dunbar*, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 12.
- 6). *Kutscher* u. *Meinicke*, ebenda. Bd. 52. 1906.
- 7). *Malvoz*, Arch. d. m6d. exp6r. 1891.
- 8). *Blachstein*, Arch. sc. biol. d. St.-P6tersburg. T. 1. 1892. et T. 1. 1894.
- 9). *P6r6*, Ann. Past. 1892.

キ他種ノ糖類ノ微量(約0.2%)混存スルヲ見ル(*Durham*¹⁾, *Smith*²⁾)是レ糖ヲちんす桿菌ニヨリテ分解セラレ養基ヲシテ微カニ赤色ヲ帯バシムルニ至ル原因ナリトス

ちんす桿菌ヲ葡萄糖所含ノ養基中ニ培養スルモ決シテ瓦斯ヲ發生スルコトナシ(*Smith*³⁾, *Chantemesse* u. *Widal*⁴⁾, *Dunbar*⁵⁾, *Germano* u. *Maura*, *Lissner*, *Kutscher* u. *Meinicke*⁶⁾, *Boit* u. a.)故ニ若シ類似菌ニシテ瓦斯ヲ發生セリトセバ其ちんす桿菌ニアラザルヲ明言スルコトヲ得但シ赤痢桿菌及あるかり性糞便桿菌ハちんす桿菌ト同ジク瓦斯ヲ産スルコトナシ

ちんす菌及大腸菌ノ屬ニハ牛乳中ノ乳糖ヲ分解シ乳酸ヲ産生セシムルモノアルモちんす桿菌ニアリテハ絞上ノ如ク此性質ヲ缺クテ以テ乳汁ヲ凝固セシムル力ナシ(*Chantemesse* u. *Widal*, *Malvoz*⁷⁾)但シ類似菌中ちんす桿菌ノ如ク牛乳ヲ凝固セシメザルモノアリ 例令バ赤痢桿菌あるかり性糞便桿菌等ノ如シ又初メ牛乳ヲ變化セシメザルモ後チ之ヲ消化セシムルアリ例令バばらちんす桿菌B型ノ如シちんす桿菌ガ凝乳作用ヲ缺クノ理ヲ證明シテ其産生スル乳酸ノ量寡少ナルガ爲メナリトセル者アルモ乳汁中ニできすどりんヲ一乃至二%加ヘバちんす桿菌ニヨリテ多量ノ酸發生スルニ拘ハラズ 乳汁凝固スルコトナシ故ニ凝乳ノ原因酸ニアラザルモノノ如シ但シ産生セラレタル乳酸ノ性質異ナルヲ實驗セル者(*Blachstein*⁸⁾, *Per6*⁹⁾)アリ即チ大腸桿菌ニテハ右旋性乳酸生ジちんす桿菌ニヨリテハ左旋性乳酸發生スト云フ

絞上ノ如クちんす桿菌ハ乳糖ヲ分解セシムル力ナキモ他ノ含水炭素例令バ葡萄糖レグルーセがらくとーせ ざんにっど等ヲ分解シ酸ヲ産セシムルモ瓦斯ヲ發生スルコトナシ 乳糖ヲ久シク煮沸スルト糖ニ分解シちんす桿菌ニヨリテ更ニ分解セラルルニ至ル故ニ含糖性養基ヲ製造スルニ方リ百度以上ノ熱ヲ與フルハ必要ナラザルノミナラズ久シク煮沸スルモ亦害アリ其他馬肉中ニハ多量ノぐりこーげんヲ含有ス故ニ馬肉ヲ用ヒ製セル養液(約七十五%中ニアリ

チハ大腸桿菌ハ瓦斯ヲ發 故ニ諸家ハ含糖性養基ヲ用ヒテ類似菌トノ鑑別ヲナサムトセリ即チかばるぢー 生ス(Smith, Dubour) ハ次キノ二種ノまんにと 所含ノ養液ヲ推獎セリ 及ぶろすからえる Capaldi u. Proskauer) ハ

第一		第二	
まんにと	0.1	ぬつてふとん	1.0
あすばらぎん	0.1	まんにと	0.1
食鹽	0.01	蒸餾水	100.0
硫酸まぐれしあ	0.01	(枸橼酸ニテ中性トナス)	
格魯兒加爾受誤	0.01		
一價性磷酸加價誤	0.1		
蒸餾水	100.0		

(那篤倫油汁ニテ中性トナス)

兩液ハ嚴重ニ中性トナシタル後チらつくひすヲ加フ而シテ第一液ニハちふす桿菌ハ認識シ得ベキ 發育ヲナサザルモ第二液中ニアリテハ二十時間ニシテ強ク酸ヲ産ス大腸桿菌ハ兩液ニ共ニ能ク發育 スルモ酸形成ハ唯ダ第一液ノミニ之ヲ見ル又第一液ガ他ノ大腸菌屬ニヨリテ受ケル影響ハ種々ニシ テ一定セズあるかり性糞便桿菌ニアリテハ第二液ハ變化スルコトナシ 此養基ハ實際上ニ於ケル價 値らつくひす乳清ニ比シ遙ニ劣レルモノノ如シ(Durham) ばるしえこう Barsiekow) ハ一〇ノぬと ろーせト〇五〇ノ食鹽ト一〇ノ葡萄糖若クハ乳糖ヲ含有スル二種ノ養液ニ共ニらつくひすヲ添加シ 應用セシニ大腸桿菌ハ兩液中ニ於テ巨量ノ酸ヲ生ジ 呈色ヲ 且ツ養液凝固スルモチふす桿菌ノ爲ニ赤 色ヲ呈シ且ツ凝固セシムルハ唯ダ葡萄糖ヲ含メル養液ノミニシテ乳糖ヲ含有スルモノハ變化スルコ トナシ其他のかり性糞便桿菌ハあるかり產生ノ爲メニ兩液共ニ弱青色ヲ呈ス赤痢桿菌ニアリテハ

- 1). Smith, Centralbl. f. Bact. Bd. 14 u. 18.
- 2). Capaldi u. Proskauer. Zeitschr. f. Hyg. Bd. 23. 1896.
- 3). Barsiekow, wien. klin. Rundschau, 1901.

- 1). Klopstock, berl. klin. Wochenschr. 1902.
- 2). Neufeld, Handb. von Kolle-Wassermann, I. Aufl.
- 3). Groziani, Arch. de méd. expér. et d'anat. pathol. T. 9.
- 4). Cesaris-Demel, Centralbl. f. Bact. Bd. 24. 1894.
- 5). Gorbounoff, Baumgartens Jahresber. 1899.
- 6). Cesaris-Demel, Centralbl. f. Bact. Bd. 26. 1899.
- 7). Romond, Compt. rend. soc. biol. 1896. P. 883.
- 8). Maccancey, Lancet. 7. Juli 1900; Centralbl. f. Bact. Bd. 29. 1900.
- 9). Bernstein, Centralbl. f. Bact. Bd. 50. 1909.
- 10). Segin, ebenda. Bd. 34. 1903.
- 11). Kaufmann, ebenda. Bd. 10. 1891.
- 12). Davalos, ebenda. Ref. Bd. 12. 1892.
- 13). Harrison u. Vanderleek, ebenda. Bd. 51. 1909.

ちふす桿菌ニ反シ葡萄糖所含養液ヲ微ニ酸性トナシムルモ凝固セシムルコトナシ (Klopstock) 但 シ此養液ニヨルモチふす類似菌ヲ絶對的ニ識別シ得ルモノニアラズ (Neufeld)

紋上ノ外ちふす桿菌ト類似菌トノ鑑別ニ資スベク諸家ハ諸種ノ糖類所含ノ養液ヲ應用セリ例令バぐらちらにー Grains) ハ一〇ノ乳糖及少許ノふえのーるふたいれんチ加ヘタル肉汁中ニ於テハ大腸桿菌ハ之ヲ脱色セシムルモチふす桿菌ハ之ヲシテ變色セシムルコト能ハザルヲ實驗シテさりー (Cesaris-Demel) ハ肝臟ヲ以テ製セル肉汁ニハ大腸桿菌ハ濁濁及瓦斯形成ヲナシモチふす桿菌ヲ接種セル試管ハ澄明ニシテ且ツ瓦斯ヲ發生セシムルコトナキチ紋シ且ツ其肝臟製肉汁ニらつくひすヲ添加スルトキハ大腸桿菌ニヨリテ赤變シ且ツ瓦斯ヲ産スルモチふす桿菌ニヨリテハ唯ダ脱色スルニ止マル (Gorbounoff, Cesaris-Demel) ナ説キるも Ronon) ハ乳糖(四%)及酸性ふくしんチ加ヘタル凝葉若クハ阿膠(加熱後煮沸液ヲ和シ脱色セシメ沈降物ハ之ヲ濾却ス)上ニ於テハ大腸桿菌ハ赤色ノ凝葉ヲ生ジちふす桿菌ハ無色ノ凝葉ヲ發生スルヲ報告シ まつく(人)セー Maccancey) ハ乳糖加凝葉ニ一%ノグ リニール酸ヲ加ヘシモノニ大腸桿菌ヲ培養セバ穿刺液ハ濁濁ス(產生セル酸ノ爲ニ胆汁酸鹽沈降スルニヨル)ルモチふす桿菌 ニアリテハ變化スルコトナシ若シ又該養基ヲ用ヒ糞便或ハ水ニテ平板培養ヲナセバ大腸桿菌及ちふす桿菌ヲ除ケル他ノ菌芽ノ發育 ハ阻止セラルルノ利アリ其他らつくひす及〇%牛膽酸ヲ加ヘタル凝葉ニハ大腸桿菌ヲ用フルモ兩菌種ノ鑑 別ニ便ナルチ主唱セルガ如シ 其他べるんすたいん Barsiekow) ハらくとーゼ凝葉 ちふすのーゼ凝葉 まるとーゼ凝葉 五%グリ セリン凝葉及てきとーりん凝葉上ニ於ケル大腸桿菌及ちふす桿菌ノ發育型ニ著明ナル差異アルチ目撃シ せきん Segin) ハちふす桿 菌及ばらちふす桿菌ガ葡萄糖まんにと ばらくとーゼ及ふるくとーゼヲ含有スル養液中ニ酸ヲ產生スルモ乳糖 づるしーと及 らふのーゼ養基ニテハ蛋白凝固作用ヲ過ノスルコト能ハズ但しちふすのーゼ養基ニアリテハ往々多量ノ酸ヲ形成スルチ實驗セリ 其他諸種ノ果糖ヲ鑑別用ニ供セル者アリ ちうまん Keymann) ハえくいりち一種子 Equitrysson) 煎汁中ニ於テハちふす桿菌 及大腸桿菌ノ發育ト共ニ其他ノ變ズルチ實驗シけるまの及まうれあハ蔗糖ヲ用ヒテ兩菌種ノ異同ヲ區別セムト企圖シだがあるーず Durkac) ハ一〇%乳 Kokomilch) ナ推獎シはるりまん及らんるれく Harrison u. Vanderleek) ハえくいりち加枸橼酸凝葉 Asoulin-Eisendrath-Agar(七葉樹(カヌ) Roskastanie) ノ皮ニテえくいりち糖漿ヲ製ス) ナ用ヒシニ普通大腸桿菌ハえくいり

んテ分解シテクリーゼ及スチクラン Acetoin トナセリ又チクランハ鐵鹽ニヨリテ黒色反應ヲ呈ス故ニ養基黒變スルモ
ちふす桿菌ニテハ養基變色スルコトナシト云ヘリ但シ此等ちふす桿菌ト大腸桿菌トヲ鑑別スル諸法中實用セララルハ唯ダばるし文
シ養液ノモニシテ他ハ實用ノ價値殆ドアルナシ(後文参照)

- 1). Rothberger, Centralbl. f. Bact. Bd. 24, 1898.
- 2). Schefler, ebenda. Bd. 28, 1900.
- 3). Oldokop, hyg. Rundschau. 1904, P. 927.
- 4). Buchholz, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 56, 1907.
- 5). Marmann, hyg. Rundschau. 1908.
- 6). Küster, ebenda. 1908.

夫レ菌芽ハ還元作用ヲ有シ色ヲ變ゼシムルノミナラズ菌種ニヨリテ其還元度ヲ異ニスルモノナリ
ローゼンバウアー *Rothberger* ハのSとらるるローゼンバウアー用ヒチチ菌屬ト大腸菌屬トノ間ニ其還元力
異ナルヲ創見シ後シムル *Scheffer* ハ其のいどらるるローゼンバウアー用ヒチチ加凝液ヲ改造セリ即チローゼンバウ
アー用ヒチチとらるるローゼンバウアー和セル凝液養液のいどらるるローゼンバウアー用ヒチチ加凝液ニ更ニ0.3%ノ葡萄糖ヲ
振盪培養 *Schüttelkultur* ヲナセシモシムルハ此のいどらるるローゼンバウアー用ヒチチ加凝液ニ更ニ0.3%ノ葡萄糖ヲ
和シ穿刺培養ヲナセリ 此養基ヲ用フルモ勿論振盪培養ヲナスコトナ得 サレバ養基ハちふす桿菌ニヨリテハ變化スルコトナキモ
大腸桿菌ニテハ二十四乃至四十八時間以内ニ脱色シ帶綠螢石光ヲ放チ且ツ瓦斯ヲ産ス但シ赤痢桿菌
あるかり性糞便桿菌其他ちふす類似菌ニアリテハちふす桿菌ニ於ケルガ如キ發育ヲナシばらちふす
桿菌 腸炎菌屬 及爾他ノ大腸桿菌類似ノモノハ皆大腸桿菌ニ於ケルガ如キ變化ヲ招來セシム おる
で *Oldokop* ハのいどらるるローゼンバウアー用ヒチチ和セルトキハ十四乃至十六時間ニシテ既ニ其ちふす
桿菌ナリヤ將タばらちふす桿菌又ハ大腸桿菌ナリヤヲ識別シ得ルヲ敘シ他ノ學者 (*Buchholz*, *Marmann*)
之ヲ證認セリ又のいどらるるローゼンバウアー用ヒチチ和セルトキハ十四乃至十六時間ニシテ既ニ其ちふす
基ヲシテかるもいじん赤色ヲ呈セシメ大腸桿菌及ばらちふす桿菌屬モ同ジク之ヲ還元シ且ツ螢石光
ヲ放タシム (*Müller*) ちふすにんモ亦タ還元作用ヲ檢スルニ適切ナル色素ニシテ大腸桿菌ハ之ヲ脱
色セシメちふす桿菌ハ之ニ反ス (*Rothberger*)

- 1). Löffler, deutsche med. Wochenschr. 1906 u. 1907 sowie 1909.
- 2). Löffler, Walter, Dibbelt u. Wehlin, ebenda. 1909, P. 1297.
- 3). Germano u. Maurea, Ziegler's Beitr. Bd. 12, 1893.

れふれる *Löffler* ハちふす桿菌ト他ノ類似菌トノ鑑別ニせらひつとぐり *Waller* さんらにんらいん
ぶらう乳糖及葡萄糖ヲ伍セル養基ヲ用ヒタリ 即チちふす第一液 寄生物性論第一卷 第三百三十七頁参照 中ニ於テ三十七度
ニテ二十四時間ノ後ちふす桿菌ハ上清ヲ析出スルコトナク全養基凝固スルモ 大腸桿菌ばらちふす
桿菌及腸炎桿菌等ニアリテハ旺盛ニ酸酵シ瓦斯ヲ産ス而シテ沈降セルぬどろせハ管壁ニ綠色ノ汚
穢物トナリテ附著ス又ちふす第二液 第一液中ノ乳糖及ハ澱澱且ツ綠色ヲ呈スルモちふす桿菌接種ニヨ
リテ溶化シ青色ニ變ジ且ツ顆粒狀ノ青色沈渣ヲ生ズ大腸桿菌ばらちふす桿菌B型及肉中毒菌等ニ
アリテハ綠色ノ泡沫ヲ發生セシム其他ばらちふす液 ちふす第一液中ノ葡
萄糖ヲ除却セルモノ ニアリテハ大腸桿菌及其類屬菌
ハ之ヲ酸酵セシムルモばらちふす桿菌B型及肉中毒菌ニヨリテハ否ラズ但シ養液ハ脱色シテ蒼黃色
ニ變ズちふす桿菌ハ反之全ク變化セシムルコトナシ 寄生物性論第一卷 第三百三十八頁参照 れふれる 第三綠液 *Tollner'sche*
Grünlösung III 0.5%乳糖2%及2%のまらひつ
とぐり *Waller* さんらにん
液5%ヲ蒸餾水ニ和セルモノ ハちふす桿菌及其類似菌ニテハ變化スルコトナキモ
あるかり性糞便桿菌ハ美麗ナル青色ヲ呈ス而シテ第四液 肉汁ニベふとん乳糖 硫酸加里及亞硫酸加里ヲ和セルモノ ハ紋上各菌ニ
ヨリテ濁澱シ酸酵スルコトナシト雖モばらちふす桿菌B型及腸炎桿菌ニヨリテハ液ハ澄明ニシテ著
明ノ沈渣ヲ形成ス 其後れふれるのハ綠液ニ更ニさふらにんらいんふらうヲ加ヘ以テ菌種間ニ於ケル
差異ヲシテ益々大ナラシメタリ

紋上ノ外諸學者ニヨリテ還元作用覆審セラレちふす桿菌ト大腸菌屬トノ區別ヲ容易ナラシメムト
企圖セラレタリ

0.5%ノ比ヲ以テ硫酸藍素那篤倫 *Indigochwefelsäuren Natron* ナ加ヘタル凝液ニアリテハ大腸菌ハ通常甚ダシキ還元作用ヲ現
ハスモちふす桿菌ハ否ラズ (*Germano u. Maurea*) 但シ久シク培養セル大腸菌ニアリテハ此作用ヲ失ヒシモノアリ 故ニ一定不變

1). Lösenor, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 11. 1895. 2). Sommeruga, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 12 u. 15. 3). Nüggerath, Fortschr. d. Med. 1888. 4). Grancher u. Des-champs, Arch. de mél. expér. 1899. 5). Gasser, ebenda. 1890. 6). Marpmann, Centralbl. f. Bact. Bd. 16. 1894. 7). Robt, Compt. rend. soc. biol. 1897. P. 49. 8). Mankowski, Centralbl. f. Bact. Bd. 27. 1900. 9). Capaldi u. Proskauer, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 23. 1896. 10). Wolff, Centralbl. f. Bact. Bd. 27. 1900. 11). Buchholz, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 55. 1907. 12). Calandra, Centralbl. f. Bact. Bd. 54. 1910. 13). Dieudonné, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 11. 1895. 14). Inghilleri, Centralbl. f. Bact. Bd. 15. 1894. 15). Lippers, Compt. rend. soc. boil. T. 66. 1909.

ノ性状ニアラズ (Läsenor) 其他ろぞーる酸加肉汁ノ脱色ハちふす菌ト大腸菌トニヨリテ速速ニ差アリト云フ者 (Sommeruga) ア
ルモれぞるハ之ヲ立證スルコト能ハザリキ ねげらーと Nöggerath) ノ色染液ハちふす桿菌ノ發育ニヨリテ紫色ナ呈シ大腸桿菌ハ
之ヲ赤色トナサシム (Grancher u. Deschamps) 但シ他ノ學者ノ覆審セル所ニヨレバ此變化ハ一定不變ニアラズ從テ多大ノ意義ヲ有
スルモノニアラザルガ如シ Gasser) ハふくしん加糖液ヲ推奨セルモ有利ノモノニアラズ ちふす桿菌ノ培養ニ
らひつとぐりーんニ含有スル凝液ヲ酸性亞硫酸那留置試料 (Sodiumsulphite) ニテ脱色セシメ其表面ニちふす桿菌ヲ培養セシ
暗綠色ノ聚落ヲ生セシモ大腸桿菌ハ厚キ灰白色ノ聚落ヲ形成セリ 又まるぶまんノ試用セルにぐるじん凝液 Ni rosinegar 上ニ於
テハちふす桿菌ハ菲薄無色ノ菌苔ヲ生ズルモ大腸桿菌ハ厚キ白苔ヲ形成スト云フ ちふす桿菌ハ可溶性なれう Bism soluble
ノ一%液及乳糖ヲ加ヘタル凝液上ニ於テちふす桿菌ハ無色ノ聚落ヲ形ルモ大腸桿菌ハ青色ノ聚落ヲ生シ其周圍ノ基質モ同シク青色
ニ染ムヲ實驗セリ ちふす桿菌ハ酸性ふくしん液及いんぢん液トノ混和液ヲちふす桿菌又ハ大腸桿菌ノ
表在性聚落上ニ滴下セシニ前者ハ速ニかるもいじんろーとニ染ミ後者ハ青綠色ニ染メリ又此混和色染液ヲ葡萄酒加糖液ニ加ヘ平板
用養基トシテ用フルトキハ兩菌ノ鑑別ヲナスコトヲ得ト云フ 又ちふす桿菌ハ Capaldi u. Proskauer) ハふるむれす
せいん Fluorescein) ナ和セル乳清ハちふす桿菌ニヨリテ變化セザルモ大腸桿菌ノ爲メニ其螢石光色ハ消失ス其他もりぶでん酸あむ
もにあハ大腸桿菌ニヨリテ還元スルモちふす桿菌ニヨリテハ變化スルコトヲキチセリ なるふ Wolff) ハあるせいん Ocean) ガ大腸
桿菌ニヨリテちふす桿菌ニ於ケルヨリモ速ニ還元スルヲ實驗シ後チふす桿菌ハ Buchholz) ハちふす桿菌ト大腸桿菌及ばらちふす
桿菌トノ鑑別ニあるせいん液ヲ應用シちふす桿菌ハちふす桿菌ニヨリテ共ニ併用フベキチ云ヘり ちふす桿菌ト大腸桿菌及ばらちふす
くむす びくりん酸加らちふす ぶりあんとくれじーるぶらつ ちふす桿菌トのいとらーるろーと 及びちふす桿菌トのいとらーるろーと
ニ對スルちふす桿菌及ビ大腸桿菌ノ還元作用ヲ檢セシニ皆多少ノ差異アルヲ發見セリ ちふす桿菌ハ Buchholz) ハちふす桿菌ト大腸桿菌及ばらちふす
菌ノ爲メニ十七時間ニシテ還元セラレあむもにあトナルモちふす桿菌ノ同作用ハ甚ダ徐々ニ現ハルルヲ實驗セリ 又いんぢん液
Inghilleri) ハあむぐだりん所合ノ肉汁ヨリ青酸ヲ析出セシムル作用ハ大腸桿菌ニ存スルモちふす桿菌ニ缺如スルヲ試キりしべるす
Lippers) ハ血色素(血球浮游液)ニ對スル大腸桿菌ノ還元作用ヲ診斷上ニ應用シ五乃至十分時ヲ經テ既ニ著明ノ作用現ハルルヲ論

1). Omelianski, hyg. Rundschau. 1907. P. 1131. 2). Schild, Centralbl. f. Bact. Bd. 14. 1893; Zeitschr. f. Hyg. Bd. 16. 1894. 3). Abel, Centralbl. f. Bact. Bd. 16. 1894. 4). Thoinot u. Brown del, Sem. méi. 1898. P. 126. 5). Markus, Centralbl. f. Bact. Bd. 24. 1898. 6). Dunbar, Zeit chr. f. Hyg. Bd. 12. 1892. 7). Braun, Arb. d. sc. biol. St. Pétersb. T. 8. 1900. 8). Gorini, Giorn. della reale soc. ital. d'ig. 1894. P. 287. 9). Piorkowski, Centralbl. f. Bact. Bd. 19. 1896. 10). Chantemesse u. Vidal, Sem. méi. 1891. 11). Wurtz, ebenda. 1891; Arch. méd. expér. etc. 1892. 12). Germon u. Maurea, Zieglers Beitr. Bd. 12. 1893. 13). Lösenor, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 11. 1895. 14). Silvestrini, Riv. gener. d. clin. med. 1891. 15). Laschtschenko hyg. Rund-char. 1899. 16). Fraenkel, ebenda. 1894. 17). Maassen, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 9.

シおめりあんマシー Omelianski) ハ蟻酸ヲ分解シテ炭酸(あるカリ)ヲ形成スル作用ヲ菌種鑑別ニ應用セムトシ蟻酸所含ノ養基ニ
ふスのーるふたれいんチ指示薬トシテ混シ試験セシニちふす桿菌ニアリテハ何等ノ變化ナカリシモ大腸桿菌ハ蟻酸ヲ分解シ赤色ヲ
現ハセリ

紋上諸還元作用中菌種鑑別ニ實用セラルモノハのいとらーるろーと凝液及遠藤ニヨリテ改良セ
ラレタルろもんぞ養基並ニばせれらすきーノ改良セルるぶまん養基ニシテ他ハ其價值乏シ 後文
斯克テ大腸菌屬及ちふす菌屬間ニ於ケル識別著明ナラズシテ其分離培養ヲ企圖スルコト困難ナル
ノ故ヲ以テ諸家ハ更ニ轉ジテ養基ニ一定ノ藥劑其他ヲ和シ大腸桿菌ノ發育ヲ阻止シちふす桿菌ノミ
ヲ發育セシメムトセルモ徒ニ前者ハ後者ヨリモ其抵抗力強大ナルヲ知レルノミニナリキ

例令ハ肉汁七分ニ對シふるまりん一分ヲ加フルトキハ兩菌ノ區別スルコトヲ得ルヲ試セル者 (Schild) アルモ多數ノち
ふす類似菌ハちふす桿菌ニ於ケルガ如クふるまりんニ對シ過敏ニシテ往々發育阻止セラルルコトアリ (Abel) 又へぶとん加肉汁
ニ亞硫酸(0.1%)ヲ加フルトキハ唯ダ大腸桿菌ノミ發育シちふす桿菌發育セズ (Thoinot u. Brown) 唯正規的ナラズ (Markus)
其他ちふす桿菌ハ0.1%ノ石炭酸ヲ含有スル凝液上ニハ發育セザルモ大腸桿菌ハ稍多量ノ石炭酸ニ耐ユ (Dunbar) 又5%ノ牛膽
汁ヲ加ヘタル凝液上ニハ大腸桿菌ハ能ク發育スルモちふす桿菌ハ發育阻止セラル (Braun) ルノミナラズニ%尿液加阿膠穿刺培養
ニアリテモ同様ノ關係アルヲ見ル (Gorini) 但シ爲メニ兩菌種別ニ養基スルコト能ハズ (Läsenor) ちふす桿菌ト大腸桿菌ト
尿ヲ以テ製セル凝液ナヘまどきしりんニテ染色シ之ヲ診斷用養基ニ供セリ又ちふす桿菌ヲ培養セル陳腐凝液又ハ肉汁ヲ無菌性トナ
シ之ニ再タビちふす桿菌ヲ接種セバ發育スルコトナシ雖然大腸桿菌ハ能ク増殖ス (Christensen u. Vidal) 但シ此レ亦々
整規的ナラズ從テ兩菌種別ニ養基スルコトヲ得ズ (Germon u. Maurea) 其他家見ノ脱纖維素血液若クハ血清ハちふす桿
菌ヲ速ニ滅殺スルモ大腸桿菌ハ其影響ヲ受ケルコト極メテ僅微ナリ (Silvestrini, Laschtschenko)
一般ニ大腸桿菌ハちふす桿菌ニ比シ各種ノ養基上ニ旺盛ナル發育ヲナスモノニシテ無蛋白性養基例令改良しんぢん液ニ
於テモ發育ス但シちふす桿菌ハ微弱ナル發育ヲナスノミニナリ (Fraenkel) ちふす桿菌 (Maassen) ノ所謂正規液 Normallösung (あす
ちふす桿菌ニ因スル疾病 其代謝産物)

ばらぎん 林酸 食鹽及四%グリセリンヨリ成ルニアリテモちふす桿菌ハ認識スベキ發育チナスコトナキモ普通大腸桿菌及其類
似菌ニあるハ性糞便桿菌ハ著明ナル發育チナス其他糖ノミナ含メル液(Capaldi u. Proskauer)又ハ0.5%那馬留誤所食ノ肉汁
(Orosomaz?)ニ於ケル發育状態亦同様ナリ

上文敘セル所ニヨリちふす桿菌ノ性状及培養所見中特徴トスル點ヲ稽フルニ(一)活潑ナル固有運
動ヲ有シ至テ種ニ不動性ノ菌(二)ぐらひ法ニ脱色シ(三)べぶどん水及肉汁中ニ於テいんせーるヲ産スル
コトナク(四)らくくむす乳清ヲ潤濁且ツ赤變セシムルコト殆ンドナク其產生スル酸量ハ0.3%ノ定規
酸以下ニアリテ(五)牛乳ハ爲メニ凝固スルコトナク(六)ろーどべるける しふれるのいどらーる
ろーど加凝菜中ニ於テ瓦斯及螢石光色ヲ發スルコトナキコト等是ナリ今此等特性ニ就キ類似菌トノ
相違點テ各菌皆脱色スヲ表示セバ左ノ如シ

- 1). Capaldi u. Proskauer, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 23, 1896.
- 2). Crescenzi, Riv. clin. e. terapeut. 1892.

菌名	運動	いんせーる形成	らくくむす乳清	牛乳	のいどらーる ろーど加凝菜
ちふす桿菌	活潑	陰性	殆んど透明ナリ	不變	不變
ばらちふす桿菌A型	大活潑	同前	著シク赤紫色ヲ呈シ 中等度ニ潤濁ス	不變	瓦斯ヲ産シ且ツ螢石 光色ヲ放ツモB型ニ 比シ弱シ
ばらちふす桿菌B型	同前	同前	同前ナルモ一乃至二 週ノ後青色ニ變シ且 ツ澄化ス	始メ不變状態ヲ呈ス ルモ一乃至二週間ノ 後褐色トナリ澄化ス	瓦斯ヲ形成シ且ツ螢 石光色ヲ放ツ
腸炎桿菌	同前	同前	同前	同前	同前
鼠ちふす桿菌	同前	同前	同前	同前	同前
赤痢桿菌(各型)	不動	一部陽性	赤變シ且ツ澄化ス	不變	不變

あるハ性糞便桿菌 活潑
大腸桿菌 通常不動ノモノ多シ 陽性
青色ニシテ微ニ潤濁
強ク赤變シ且ツ潤濁
固ス 不變
瓦斯ヲ産シ且ツ螢石
光色ヲ放ツ 不變

就中最モちふす桿菌ニ類似スルモノハ腸内容物中ニ屢々發見セララルルハかり性糞便桿菌ニシテ
唯ダらくくむす乳清及ばらしこウ養基上ニ於ケル發育多少異ナルノミナリ故ニ其鑑別至難ナルノ
ミナラズあるハ性糞便桿菌ト雖モ試験ニ對シ一定ノ有害作用ヲ呈スルコトアリ

あるハ性糞便桿菌以外ニ腸内ニハ他ノ無害ノあるハ形成菌出現スルハ人ノ熟知スル所ナリト
雖モ此種ノモノハ通常其發育堅牢ニシテ且ツ運動不活潑ナルヲ以テ多少熟練セル眼ヲ有スルモノハ
直チニ識別スルコトヲ得 加之此種ノ菌芽ハ既ニ初日ニらくくむす乳清ハ其形成セル酸ノ爲メニ赤變
シ時日ヲ經ルニ從ヒ再タビ青色ニ變ズルヲ見ル

人體ノ内外ニ存スル菌芽中ちふす桿菌ト鑑別ヲ要スルモノハ雷ニあるハ性糞便桿菌ノミナラズ
ばらちふす桿菌A及B型 肉中毒桿菌及其近縁菌 鼠ちふす桿菌 鵝疫桿菌 *Psittakoschaetillus* 豚疫桿
菌 海狸類結核桿菌 諸種ノ鼠疫病芽ノ如キばらちふす又ハ腸炎菌屬ノモノトモ之ヲ區別セザルベカ
ラズ但シ多クハ瓦斯ヲ産スルヲ以テのいどらーるろーど加凝菜ニヨリテ之ヲ識別スルコトヲ得ルモ
ノナリトス

赤痢桿菌又ハ其近縁菌トちふす桿菌トノ區別ヲナスニハ前者ハ不動性ナルモ後者ハ活潑ニ運動ス
但シちふす桿菌ニシテ其運動偶然微弱ナルコトアリ殊ニ初代培養ニアリテハ全ク運動セザルコトア
ルヲ以テ注意セザルベカラズ又らくくむす乳清ハ赤痢菌屬ノ爲メニ強ク赤變スルヲ以テ比較的容易

1). Pasquale, Giorn. med. del R. Eserc. e della R. Mar. 1891. 2). Kruse u. Pasquale, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 16. 1894. 3). Pansini, Rif. med. 1893. 4). Holz, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 8. 1890. 5). Dunbar, ebenda. Bd. 12. 1892. 6). Kruse, ebenda. Bd. 17. 1894. 7). Durham, Journ. of experim. med. Vol. 5. 1901. 8). Klinger, Centralbl. f. Bact. Bd. 32. 1902. 9). Baumann, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 29. 1908. 10). Gräf, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 54. 1906. 11). Pfeiffer, deutsche med. Wochenschr. 1885. P. 500. 12). Fränkel u. Simmonds, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 2. 1887; die aetiol. Bedeutung des Typhusbacillus. Hamburg, 1886. 13). Seitz, Studien zur Typhusaetiologie. München 1886. 14). Vilchour, Lancet. 1886. 15). Merkel, münch. med. Wochenschr. 1886. 16). Wathelet, Ann. Past. 1895. P. 252. 17). Scholz u. Krause, Zeitschr. f. klin. Med. Bd. 41. 1900.

ニ之ヲ識別シ得其他はるしス。こゝ葡萄酒糖液ヲ應用セバ確實ニ兩菌種ヲ判別シ得ベシ。ちふす菌屬間ノ菌芽トちふす桿菌トノ區別モ亦タ必要ナリ。殊ニ普通大腸桿菌トノ區別ハ多數ノ學者 (Kitasato, Pasquale, Kruse u. Pasquale, Silestrini, Pansini, Holz, Dunbar, Germano u. Naurea, Kruse, Lösen, Durham, Klinger, Baumann, Gräf u. a.) ヲシテ若メシ所ナルモ其純粹培養ニアリテハ瓦斯形成 色素ノ還元作用 いんぞー形成如何等ニヨリテ比較的容易ニ其目的ヲ達スルコトヲ得若シ猶ホ不明ナルトキハ免疫反應ニヨルヲ良シトス。後文

患者ノ糞便中ニちふす桿菌ヲ證明セルハばいふス。A. Pfeiffer¹¹⁾ ヲ以テ其嚙矢トス後チふれんけ及しむんぞ Frankel u. Simmonds¹²⁾ 其他ノ學者ちふす病芽ガ腸内容物ト共ニ體外ニ排出セラルルヲ實驗セリ當時其分離法極メテ不完全ニシテ糞便ノ少量ヲ用ヒテ凝葉又ハ阿膠平板ヲ製作シちふす様聚落ヨリ純粹培養ヲ試ミ精査スルヲ常トセリ此法ニヨリテ分離ノ目的ヲ達セル者 (Seitz, Vilchour¹⁴⁾, Merkel¹⁵⁾, Wathelet¹⁶⁾, Scholz u. Krause¹⁷⁾, Burdach¹⁸⁾ u. a.) 多シト雖モ須ラク至難ノ業ノ一ニ屬ス蓋シ病芽ハ糞便中ニ平等ニ混存セザルノミナラズ其數量一定セズシテ多寡ノ差アリ且ツ類似菌常ニ多數ニ存在スルニヨル故ニ現今諸家ハ可及的液狀又ハ軟泥狀ノ糞便ヲ取り之ヲ平等ニ攪拌シ其一部ヲ平板上ニ塗付シ稀釋法ヲ行フ此際最モ能ク汎用セラルルハ必ずがるすきー及こんらーぢ養基殊ニ遠藤養基ナリトス又若シ菌芽少ナキトキハ一定ノ方法ニヨリテ病芽ヲ増殖セシメタル後チ平板培養ヲ行ヒ之ガ分離ヲ企圖ス。第一卷參照

參考ニ資セム

18). Burdach, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 41. 1902. 19). Capaldi, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 23. 1896. 20). Richardson, Brit. med. Journ. 1897. II. P. 1842. 21). Petruschky, Centralbl. f. Bact. Bd. 19. 1896. 22). Mac Concey, Lancet. 1900; Centralbl. f. Bact. Bd. 29. 1900. 23). Holz, Zeitchr. f. Hyg. Bd. 8. 1890. 24). Kruse, Centralbl. f. Bact. Bd. 15. 1894. 25). Lösen, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 11. 1895. 26). Rawitsch-Stscherba, hyg. Rundschau. Bd. 3. P. 392. 27). Elsner, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 21. 1895. 28). Pollack, Centralbl. f. inn. Med. 1896. 29). Chizzola, Settimana med. 1894. 30). Moore, Brit. med. Journ. 1902. 31). Rémy, Ann. Past. T. 14. 1900. 32). Al-Chén, Centralbl. f. Bact. Bd. 8. 1890. 33). Pasquale, Baumgartens Jahresber. 1890. P. 249. 34). Gabritschewski, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 35. 1900.

ちふす桿菌 Opitische Nährboden²³⁾ 凝葉ニ% 阿膠ニ% べぶとんニ% まんに% 食鹽及格魯兒加個誤各% 成レルモノニシテリキヤン²⁴⁾ Richardson²⁵⁾ 糞便中ニ於ケルちふす桿菌分離ニ適スルヲ云フ。ベブとん²⁶⁾ 阿膠²⁷⁾ 凝葉²⁸⁾ ハ乳清及血清五%ヲ加ヘタル凝葉上ニ於テちふす桿菌及大腸桿菌ノ發育状態異ナルヲ實驗セリ即チ後者ハ普通凝葉養基上ニ於ケルガ如キ發育チナスモちふす桿菌ノ聚落ハ恰モ糖菌ニ於ケルガ如ク小ナリ。まんに²⁹⁾ Mac Concey³⁰⁾ ノ推奨セル凝葉養基ハ上文既ニ叙セルガ如ク牛膽酸那高倫及ヒ乳糖ヲ含有スルモノニシテ(第五百三十一頁參照)兩菌ノ表在性聚落ハ著シキ差異アリト云フ其他馬鈴薯浸汁阿膠 (Tajau) (寄生物性病原論第一卷第三百三十頁參照) 石炭酸加阿膠 (石炭酸チ或ハ 0.05% 加) (Kruse³¹⁾) 或ハ 0.05% 乃至 0.02% ナ和セリ (Losen³²⁾) なるべとん³³⁾ 加阿膠³⁴⁾ なるべとん³⁵⁾ 加阿膠³⁶⁾ (Rawitsch-Stscherba³⁷⁾) 等ヲ推奨セルモノアリ。えるす³⁸⁾ 馬鈴薯浸汁阿膠ニ% 比チ以テ沃度加果チ加ヘタリ。サレバちふす桿菌ハ二十四時間ノ後チ無色ノ小聚落ヲ形成シ非薄ニシテ微ニ顆粒狀構造ヲ有ス大腸桿菌ハ之ニ反シテ帶褐色ノ大聚落ヲ生ズ但シあるかり性糞便桿菌ノ如キちふす類似菌ハ宛然ちふす桿菌ノ如キ聚落ヲ形成スルヲ遺憾トス (Pollack³⁹⁾, Chizzola⁴⁰⁾ u. a.) ちふす Moore⁴¹⁾ 亦之をすたる阿膠ニ類セル養基ヲ案出セリ其他べとん⁴²⁾ あすげら⁴³⁾ 養酸⁴⁴⁾ 乳酸⁴⁵⁾ 枸橼酸⁴⁶⁾ 石炭酸⁴⁷⁾ 諸種ノ鹽類及乳糖ヲ加味セル阿膠ノ利ヲ説ケル者 (Danz⁴⁸⁾) 也。

此等養基ハ皆ちふす桿菌及大腸桿菌ノ發育力及抵抗力ノ強弱ノ差異ヲ應用セルモノナルモ他方ニハ運動力ノ強弱ニヨリテ之ヲ區別セムトセルモノアリ例令バ馬鈴薯汁ヲ充テセル毛細管ヲ應用セバちふす桿菌ハ糞便中ニ於ケル他種ノ菌芽ヨリモ運動活潑ナルト化學的交感作用トニヨリ一端ヨリ他端ニ速ニ現ルルヲ叙セ (Alf-Olsen⁴⁹⁾) 又之ヲ實地ニ應用シ一回陽性成績ヲ得タル者 (Pasquale⁵⁰⁾ アリ。ちふす⁵¹⁾ ちふす⁵²⁾ Gahrtschewski⁵³⁾ 警テ⁵⁴⁾ 此れ糞便ニ混ホセル麻布片ノ中央ヲ浸セシニ一定時ヲ經テ其端ニ一弧菌ガ純粹培養ノ状態ニテ存セシヲ實驗セルヲ回想シ凝葉平板ヲ被フニ肉汁ヲ浸セル濾紙ヲ以テシ其中央ニ可檢材料ヲ安置シ一定時間ヲ經テ其幾何距離ニ達スルヲ檢セシニ最モ遠距離ニアルモノハ常ニちふす桿菌ナルヲ實驗シ二名ノちふす患者ノ便ヲ檢シ陽性成績ヲ得タリ又若シ大腸桿菌ニシテ運動比較的活潑ナルトキハ大腸桿菌免疫血清ヲ加ヘ凝集セシメバ特ニ有利ナルヲ云ヘリ

- 1). Hagemann, hyg. Rundschau. 1904.
- 2). Kutscher u. Meinicke, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 52. 1906.
- 3). Klinger, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. 1906. Bd. 24. P. 35.

方せんちめーてるノ凝集ニ對シ必要トスル量丈ケ試験管内ニ無菌性ニ貯藏シ曹達液及くりすたーるが、おれど液モ小えるれんまゝいえるるべんニ無菌性ニ貯藏ス(但シ十四日以上ヲ經過セバ其效ヲ失フ)斯クテ用ニ臨ミ養基ヲ新ニ造ルナリ はーげまん Hagemann¹⁾ハぬどろーせ及ビ乳糖ノ代リニ牛乳ヲ用ヒタリ但シ覆番者ナキヲ以テ果シテ有效ナリヤ否ヤ不明ナリ どりがるすこー等ノらくくひす乳糖くりすたーるが、おれど凝集上ニアリテハちふす桿菌ト大腸桿菌トハ全ク異ナルル聚落ヲ形成シ一見之ヲ區別スルコトヲ得ルモ腸中ニ現出スル諸種ノ病的又ハ非病的菌芽ニシテちふす桿菌ノ如ク乳酸ヲ分解セシムル力ナク從テ養基ヲ赤變セシメ能ハザルモノアリ加之其聚落ノ大小外觀共ニちふす桿菌ニ類似シ小露滴狀水様透明ナルアリ例令バばらちふす桿菌及腸炎桿菌ノ屬ニ隸スル菌芽ノ如シ勿論此等ノ菌芽ノ形成セル聚落ハ一般ニ濕潤シ且ツ僅ニ透明ニシテちふす聚落ノ大ナルモノニ匹敵シ二十四時間以上ヲ經過セバ多少相互間ノ區別ヲナスコトヲ得ルモ菌株ニヨリテハちふす聚落ト區別シ難キモノアリばらちふす桿菌ニ比較的の屢々之ヲ見ルノミナラズちふす桿菌ニシテ却テばらちふす又ハ腸炎桿菌ノ聚落ニ類似セル濕性ニシテ稍々溷濁シ且ツ大ナル聚落ヲ形成スルモノアリ (Kutscher u. Meinicke²⁾ u. a.) 又ばらちふす桿菌A型ノ如キハ殆ド常ニちふす様聚落ヲ形成スルモノナリトス 但シ此等類似聚落ヨリ更ニ純粹培養ヲ施シ瓦斯產生如何並ニ免疫血清ニ對スル凝集反應ヲ檢セバ容易ニ其ちふす桿菌ナリヤ否ヤヲ判別スルコトヲ得又あるかり性糞便桿菌ニアリテモ然リトス 其他あるかりヲ産スル非病的腸菌ニシテちふす聚落ト區別シ能ハザルモノニアリテモ強力ナル凝集性血清ヲ用ヒ凝集反應ヲ檢スルトキハ直チニ之ヲ類別スルコトヲ得ベシ假令隨伴反應ヲ呈スルコトアリトスルモ其度一般ニ低シ(Klinger³⁾)但シ此際注意ヲ要スルハ真正ちふす桿菌ト雖モ新

- 1). Eagling u. Grassberger, wien. klin. Wochenschr. 1908.
- 2). Klinger, Centralbl. f. Bact. Bd. 32. 1902.
- 3). Klinger, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 24. 1906.
- 4). Fromme, Ergebn. d. allg. Pathol. etc. von Lubarsch-Ostertag. Bd. 13. 1909.
- 5). Hirschbruch u. Schuer, hyg. Rundschau. Bd. 13. 1903.
- 6). Krause, Sitz.-Ber. d. Ges. f. vaterländ. Kultur. 1904.
- 7). Dönitz, Festschr. z. 60. Geburtstag von R. Koch. 1903.
- 8). Herberich, Diss. Würzburg. 1904.
- 9). Krause u. Stertz, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 44. 1903.
- 10). Lipschütz, Centralbl. f. Bact. Bd. 35. 1903.
- 11). Bussenius, Festschr. f. Senator 1904.
- 12). Herbert, münch. med. Wochenschr. 1904.
- 13). Bohne, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 61. 1908.
- 14). Bötticher, hyg. Rundschau. 1910.
- 15). Dithorn, ebenda. 1907.
- 16). Fromme, ebenda. 1907.
- 17). Gräf, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 54. 1906.

シク人體ヨリ分離セルモノハ免疫血清ニ反應セザルカ或ハ弱ク反應スル場合アルコト是ナリ (Eagling u. Grassberger¹⁾)故ニ此等凝集反應弱キちふす酷似ノ菌芽ニ對シテハ屢々免疫血清ニ對スル反應ヲ覆審スルヲ要ス蓋シ屢々養基ヲ更新スレバ其被凝性亢進スルヲ以テナリ 寄生物性病原論 第二卷 第二百九頁參照 彼上ノ外糞便及尿ニ存スル菌芽ニシテらくくひす乳糖くりすたーるが、おれど凝集上ニ真正ちふす桿菌ト區別シ難キ聚落ヲ形成スルモノニ變形菌及螢石光菌ノ屬ニ隸スルモノアリ (Klinger²⁾, Kayser u. a.) 此等諸菌ハ雷ニらくくひす乳糖くりすたーるが、おれど凝集上ノミナラズちふす分離ノ目的ニ案出セラレタル他種ノ特異養基上ニモ亦タちふす様聚落ヲ發生スルモノナリ くりすたーるが、おれどハ糞便中ニ於ケル雜菌例令バ球菌ノ發育ヲ阻止スル力アリト雖モ往々酸ヲ產生スル非病的腸菌殊ニ球菌發生シちふす桿菌聚落ヲ壓倒スルコトアリ (Klinger³⁾, Fromme⁴⁾ u. a.) 加之大腸桿菌多クシテ平板上ニ密生セルトキハ全部赤變シちふす聚落ノ認定困難ナルコトアリト雖モ水様透明ノ小聚落ニ留意スルヲ要ス而シテ彼ノゑるにっけ弧菌 寄生物性病原論 第二卷 第五百七十一頁參照 乳酸桿菌 豚疫桿菌ノ如キモノハ偶然赤變セルちふす聚落ニ類スルコトアリ (Hirschbruch u. Schuer⁵⁾) 斯クテせりがるすこー養基ハちふす桿菌分離ニ適スルモ猶ホ幾多ノ故障アルヲ以テ之ヲ用ヒシ糞便又ハ尿中ニ於ケルちふす桿菌分離試驗成績一致セズくらうせ Krause⁶⁾ハ六十四%ノ陽性成績ヲ得他ノ學者 (Dönitz⁷⁾, Herberich⁸⁾, Krause u. Stertz⁹⁾, Lipschütz¹⁰⁾, Bussenius¹¹⁾, Herberich¹²⁾, Bohne¹³⁾, Bötticher¹⁴⁾, Dithorn¹⁵⁾, Fromme¹⁶⁾, Gräf¹⁷⁾ Hecker u. Otto¹⁸⁾, Käster¹⁹⁾, Marmann²⁰⁾, G. Mayer²¹⁾, Lütke²²⁾ u. a.)モ大同小異ノ成績ヲ得タルモ爾餘ノ學者 (Reischauer²³⁾, Grimm²⁴⁾, Klinger²⁵⁾, Simon²⁶⁾, Boelz²⁷⁾, Schuster²⁸⁾ u. a.)ハ僅少ノ陽性成績 (約三分ノ一)ヲ擧ゲタルニ過ギズ

18). Hecker u. Otto, deutsche militärärztl. Zeitschr. 1909. 19). Küster, hyg. Rundschau. 1909. 20). Marmann, ebenda. 1908. 21). Mayer, Centralbl. f. Bact. Bd. 53. 1909. 22). Lüdtke, münch. med. Wochenschr. 1910. 23). Reischauer, Centralbl. f. Bact. Bd. 39. 1905. 24). Grimm, hyg. Rundschau. 1904. 25). Klinger, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 25. 1907. 26). Simon, klin. Jahrb. Bd. 17. 1906. 27). Bock, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 24. 1906 u. Bd. 25. 1907. 28). Schuster, hyg. Rundschau. 1910. 29). Chantemesse, Sém. méd. 1902. 30). Guth, Centralbl. f. Bact. Bd. 51. 1909. 31). Dunschmann, Ann. Past. 1909. 32). Enlo, Centralbl. f. Bact. Bd. 35. 1903. 33). Klinger, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 25. 1907. u. Diss. Strassburg. 1904. 34). Marshall, Centralbl. f. Bact. Bd. 38. 1905. 35). Petkowitz, ebenda. Bd. 36. 1904.

ちふす桿菌ニ因スル疾病

らつくむす乳糖くりすたるゲいおれつと凝集ハ其價高直ナルノ不利アルヲ以テラるつ凝集ハ更ニ二三ノ學者ニヨリテ改良ナ企圖セラレタリ即しちんとめつす Chantemesse²⁹⁾ハ凝集ニ乳糖ニベふと一三%ヨリ成レル養基十立方センチメートルニ對シ五%石灰酸四滴ヲ和シタリ但シ其凝集ニヨレル批判ヲ知ラズぐーと Cullen³⁰⁾ハらくむすノ代リニ指示藥トシテありざらん A. B. H. 10³⁾ヲ加ヘタル乳糖凝集ヲ用ヒタリ該養基ハ暗青色ヲ呈スルモ大腸桿菌ノ聚落ハ黄色ヲ呈シ且ツ養基ヲ透明トナスモちふす桿菌ハ灰白色ヲ呈シ養基ハ不透明トナル其他まらひつとぐー一ノ加フルトキハ大腸桿菌ハ發育阻止スルモちふす桿菌ハ四十乃至四十八時間ノ後聚落ヲ形成スづんし³¹⁾ Dunschmann³¹⁾ハ三乃至四%ノ凝集ニ阿膠³²⁾五%牛膽酸³³⁾五%乳糖四%植物性³⁴⁾ベふとん Pepton vegetale (豆ノ蛋日ニばばちん³⁵⁾ヲ作用セシメテ製セルモノ³⁶⁾五%ヲ加ヘ用ニ臨ミ即チ平板ニ注グ直前ニらくむす丁幾十%ヲ添加セリ又牛膽酸³⁷⁾五%ヲ混セルモノ³⁸⁾ヲ用フルノ有利ナルヲ説ケリ但シ該養基ノ價値ニ關シテハ未ダ聞ク所ナシ的ニベふとん肉汁ニ牛膽酸³⁹⁾五%ヲ混セルモノ⁴⁰⁾ヲ用フルノ有利ナルヲ説ケリ但シ該養基ノ價値ニ關シテハ未ダ聞ク所ナシ

遠藤⁴¹⁾ハるもん⁴²⁾養基⁴³⁾第一頁參照⁴⁴⁾ニ於ケルト同一原理ニ基キふくしん凝集ヲ案出シちふす桿菌分離ニ應用シ好果ヲ得且ツ現今諸家ニヨリテ其有效ナルヲ認メラレどりがるすき⁴⁵⁾養基ヨリモ却テ汎用セラルル傾向アリ⁴⁶⁾ 寄性物性論第一卷⁴⁷⁾ 蓋シ後者ハ大腸桿菌ノ爲メニ養基ノ全面赤變シ病芽ノ發見至難ナルコトアルモ前者ニアリテハ爲メニ全面赤變スルコトナク且ツ大腸桿菌ノ聚落自己赤染シちふす聚落ハ無色ナルノ利アルニヨル勿論ばらちふす 腸炎菌屬 赤痢桿菌 あり性糞便桿菌其他諸種ノちふす類似菌ノ如キ乳糖ヲ分解スル能力ヲ有セザルモノニアリテハちふす聚落ト異ナラザル聚落ヲ形成ス但シばらちふす桿菌B型ノ聚落ハ一般ニちふす聚落ヨリモ多少大ニシテ且ツ透明ノ度弱キモ爾餘ノ類似菌ニアリテハらくむす乳糖くりすたるゲいおれつと凝集ニ於ケルト均シク到底ちふす聚落ト識別シ得ベキニアラズ故ニ兩種ノ養基ヲ比較シ遠藤養基ノ利ナルヲ説キ (Klinger⁴⁸⁾, Marshall⁴⁹⁾, Petkowitz⁵⁰⁾, Gaehgans⁵¹⁾, Simon⁵²⁾, Bock⁵³⁾, Bohne⁵⁴⁾, Bittcher⁵⁵⁾, Gaehgans u. Brückner⁵⁶⁾,

36). Gaehgans, Centralbl. f. Bact. Bd. 39. 1905. 37). Simon, klin. Jahrb. Bd. 17. 1906. 38). Bock, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 24. 1906. 39). Bohne, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 61. 1908. 40). Böttcher, hyg. Rundschau. 1910. 41). Gaehgans u. Brückner, Centralbl. f. Bact. Bd. 53. 1910. 42). Kathe u. Blasius, ebenda. Bd. 52. 1909. 43). Marx, Lenthold-Gedenkschrift. 1906. 44). Herford, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 24. 1906. 45). Müller, münch. med. Wochenschr. 1906. P. 1733. 46). Scheller, ebenda. 47). Herberich, Diss. Würzburg. 1904. 48). Clauditz, hyg. Rundschau. 1904. 49). Ruata, Centralbl. f. Bact. 1904. P. 576. 50). Gräf, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 54. 1906. 51). Hecker u. Otto, deutsche militärärztl. Zeitschr. 1909. 52). Schuster, hyg. Rundschau. 1910. 53). Fürntratt, Centralbl. f. Bact. Bd. 39. 1905.

Kathe u. Blasius⁴²⁾, Marx⁴³⁾, Herford⁴⁴⁾, Müller⁴⁵⁾, Scheller⁴⁶⁾ u. a.) 或ハ同價ナルヲ唱フ (Herberich⁴⁷⁾, Clauditz⁴⁸⁾, Ruata⁴⁹⁾, Gräf⁵⁰⁾, Hecker u. Otto⁵¹⁾, Schuster⁵²⁾, Fürntratt⁵³⁾ u. a.) 遠藤養基ノ不利トスル點ハ即チ糞便中ニ於ケル大腸桿菌及ビ他ノ酸産生菌ノ全部發育スルヲ以テ爲メニちふす桿菌聚落壓倒セラレ易ク且ツ大腸桿菌ニシテ無色ノ發育ヲナスモノ (Herberich) アルニアリ但シちふす⁵⁴⁾養基ニ反シ人工燈火ノ下ニ作業シ得 (Klinger, Marx) 且ツくりすたるゲいおれつと⁵⁵⁾如キ發育阻止劑ヲ含有セザルヲ以テ全部發育ス (Bock, R. u. M.) ノミナラズ養基ノ製法容易ニシテ廉ナリ (Klinger) げいどげんすハ遠藤養基ニ更ニ化學的純粹ノこふえいん⁵⁶⁾ヲ加ヘ以テ大腸桿菌ノ發育ヲ阻害セシメ⁵⁷⁾ ちふす桿菌及ばらちふす桿菌⁵⁸⁾ シニちふす⁵⁹⁾及遠藤等ノ養基ヨリモ一層好果ヲ齎ラスヲ實驗シ他ノ學者 (Gaehgans u. Brückner, Werbitzky) モ之ヲ證認セリ

殺上ノ如ク遠藤養基ハ多少ノ非難又ハ缺點アルモちふす桿菌ヲ分離スル目的ニ汎用セラルルモノニシテ若シ可檢便ヲばらちふす⁶⁰⁾けるこふえいん⁶¹⁾増菌液 Hoffmann-Fickersche Koffein-Anreicherungsverfahren⁶²⁾ 後文⁶³⁾ 又ハ帖佐増菌液⁶⁴⁾ 寄性物性論補遺⁶⁵⁾ ニ入レ以テ大腸桿菌及他ノ酸産生菌ノ大部ヲ障害シちふす病芽ノ増殖ヲ謀リタル後チ遠藤養基ヲ利用スルトキハ其效顯著ナリ

一定濃度ノこふえいん (一物こふえいん肉汁) ハ大腸桿菌ノ發育ヲ阻止スルモちふす桿菌ハ爲メニ全ク影響ヲ受ケザルカ或ハ微ニ障礙セラル是レ⁶⁶⁾ Roth⁶⁷⁾ノ實驗ニ徴シテ明カナリ 於茲はこふえいん⁶⁸⁾及ばらちふす⁶⁹⁾ Hoffmann u. Ficker⁷⁰⁾ハこふえいん肉汁ニくりすたるゲいおれつと⁷¹⁾ヲ加ヘ一種ノ増菌液 Anreicherungsflüssigkeit⁷²⁾ヲ案出セリ 即チ⁷³⁾は法ニヨリテ造レル肉水百立方センチメートル⁷⁴⁾ニこふえいん⁷⁵⁾一立方センチメートル⁷⁶⁾ニヨリ定規那箇滴⁷⁷⁾三十八六四⁷⁸⁾ニ相當スルあるかり性トナシ之ニ一二%こふえいん⁷⁹⁾

ちふす桿菌ニ因スル疾病(糞便中ニ於ケルちふす桿菌證明法)

54). Werbitzki, Arch. f. Hyg. Bd. 61. 1909. 55). Roth, hyg. Rundschau. Bd. 13. 1903; Arch. f. Hyg. Bd. 49. 1904. 56). Hofmann u. Ficker, hyg. Rundschau. Bd. 14. 1904; Arch. f. Hyg. Bd. 49. 1904; vergl. auch: Werbitzki, Arch. f. Hyg. Bd. 61. 1909. u. Lubenau, hyg. Rundschau. 1907. 57). Jaksch u. Rou, Centralbl. f. Bact. Bd. 35. 1904. 58). Reischauer, ebenda. Bd. 39. 1905. 59). Friedel, Zeitschr. f. Med.-Beamte. 1905. 60). Kloumann, Centralbl. f. Bact. Bd. 33. 1904. 61). Herberich, Diss. Würzburg. 1904. 62). Courmont u. Lacomme, Journ. de physiol. et de pathol. gén. 1904. 63). Birt, Brit. med. journ. 1905. II. P. 1010. 64). Lebenau, Arch. f. Hyg. Bd. 61. 1907. 65). Gätgens, Centralbl. f. Bact. Bd. 39. 1905. P. 634. 66). 帖佐, 衛生學及細菌學時報 第四卷 第四百九十八頁 明治四十三年.

いん液百五立方せんちめーてる及〇二〇〇くりすたーるが、おれど液一四立方せんちめーてるヲ加へ可檢物(〇八乃至〇九立方せんちめーてる)ヲ入レ三十七度ニ十三時間靜置シ其〇三及〇二並ニ〇一立方せんちめーてるヲ採リらくくひす乳糖くりすたーるが、おれど凝菜平板上ニ塗付シ二十四時間ノ後茲ニ發生セル疑ハシキ聚落ヲ檢セリ 若シ陰性ノ場合ニハ氷藏セル増菌液ニちふす血清ヲ加へ其沈渣ヲ平板上ニ塗付スベキヲ推獎セリ 但シ綠膿桿菌及變形桿菌等ノ如キこふえいん又ハくりすたーるが、おれどニヨリテ障害セラレザル菌芽存在シ爲メニ平板ノ全部汚損セラレ檢査ヲ妨グルコトナキニシモアラズ (Jaksch u. Rou⁵⁷⁾, Reischauer⁵⁸⁾) 本法ハ増菌法ト稱スルモ該液中ニ於テちふす桿菌ノ増殖スルヲ見ルコト能ハズシテ唯ダ腸菌就中大腸桿菌ヲ抑制スルニ止マル (Friedel⁵⁹⁾, Kloumann⁶⁰⁾, Reischauer) 加之ちふす桿菌モ爲メニ滅却セラレルノ事實アリ 即ちちふす病芽ノ巨量ヲ混シ十三時間ヲ經バ往々其數五分ノ一ニ減ズルヲ見ル (Herberich⁶¹⁾) 又十一株ノちふす桿菌中四株 (Courmont u. Lacomme⁶²⁾) 或ハ三十一株中二十六株 (Birt⁶³⁾) ハ發育阻止セラレ大腸桿菌ト同一程度又ハ尙ホ強クこふえいんノ爲メニ有害作用ヲ受クルモノナリト非難スルモノアリ 此こふえいんノ菌芽發育阻止作用ハ勿論其量ノ多寡ト關係スルモノニシテるが、Lebenau⁶⁴⁾ハ〇三乃至〇六〇ノこふえいんヲ加ヘシ肉汁中ニちふす桿菌ヲ培養セシニ〇六〇ヲ含メルモノニアリテハ十三時間ノ後其運動不活潑トナリ 且ツ長絲狀ニ相連結シテ其發育大ニ妨害セラレルヲ見シモ〇三〇ノこふえいん液ニアリテハ菌芽ハ活潑ニ運動シ普通ノ肉汁ニ於ケルト毫モ異ナラザルヲ實驗シこふえいんノ含有量ハ〇三〇ヲ以テ最モ適當ナルモノナリトナセリ (こふえいんノ含有量ハ〇三〇ニ相當スルモノナリト知ルベシ) げーどげんす Gätgens⁶⁵⁾モ亦〇三〇ノこふえいん加肉汁ニテ良果ヲ得タリ 帖佐⁶⁶⁾ハ肉汁ニこふえいん〇一乃至〇五〇ヲ加

1). Hofmann-Ficker, Arch. f. Hyg. Bd. 49. P. 229.

へ之ニちふす桿菌又ハ普通大腸桿菌ヲ加ヘ三十七度ニ放置スルコト十六時間ニシテ平板培養ヲナシ菌芽ノ増殖如何ヲ檢セシニ〇二乃至〇三〇液ニアリテハ兩菌共ニ發育旺盛ナルモ〇三〇液ニテハ大腸桿菌ハ著シク其發育ヲ阻礙セラレちふす桿菌ハ尙十三倍ノ増殖率ヲ示シ〇五〇液ニアリテハちふす桿菌ノ發育モ大ニ不良トナリ却テ其數減ズルヲ見タリ 故ニ〇三〇ノこふえいんヲ以テ其目的ニ最モ適セルモノトナセリ 但シ〇三〇ノこふえいん液モちふす桿菌ニ對シテ決シテ無害ノモノニアラザルコトハこふえいん含有量減少スルニ從ヒ其聚落數大ニ増加スルニ徴シ明カナリト云ヘリ 其他養液ノ反應ハ中性若クハ弱アルカリ性ヲ可トスルモノ多キモほふまんふいけるハ肉汁ヲ中和スルニふえいんノふたれいん中性點ヨリモ其百立方せんちめーてるニ付キ定規那篤倫滴汁ノ量ニ七立方せんちめーてるヲ減ズベキヲ以テセリ 故ニ該増菌液ハ著シク酸性ヲ呈スルモノナリ 帖佐ハふえいんノふたれいん酒精溶液ヲ指示藥トシ〇三〇ノこふえいん加肉汁ニ定規那篤倫滴汁ヲ加ヘ其反應度ヲ種々ニシちふす及大腸桿菌ノ増殖率ヲ檢セルニ酸性反應ノ下ニアリテハ其發育比較的妨害セラレ中性液最モ好良ナルヲ知レリ 次ニ酸ヲ產生スル諸種ノ菌芽例令バ球菌大腸桿菌等ノ發育ヲ阻止セムト欲シ〇三〇ノこふえいん加中性肉汁ニくりすたーるが、おれど水中ニ於ケル細菌ハ〇〇二以上ノくりすたーるが、おれどニテ其發育者シセシニ〇〇〇一又ハ〇〇〇二ノ加ヘタルモノニアリテハ勿論〇〇〇七ヲ添加セル者ニアリテモちふす及大腸桿菌ノ發育ハ共ニ半減セラレルヲ見タリ 於茲帖佐ハ其缺點ヲ更ニ補ハムトシ牛膽汁ヲ和シちふす桿菌ノ發育増殖ヲ扶ケ大腸桿菌ニ對シテハ好影響ヲ與ヘザラシメトシ種々實驗ノ結果一〇ノ比ヲ以テ牛ノ膽汁ヲ加フルノ利ナルヲ知リ遂ニ一種ノちふす桿菌増菌液 (中性肉汁ニこふえいん〇一ノばらむ牛膽汁一%ヲ添加シタルモノ)ヲ作り之ヲ可檢便ニ注ガ八乃至十四時間體温ニ放置シ其液面ヨリ一滴ヲ採リ

- 1). *Hammerschmidt*, Centralbl. f. Bact. Bd. 40. 1906.
- 2). *Löffler*, deutsche med. Wochenschr. 1903. Ver.-Beil. 1906. u. 1907.

之ヲ遠藤養基ニ塗付スルトキハ糞便ヲ直接遠藤養基上ニ塗付スルニ比シ約二倍好成績ヲ擧ゲ且ツち
 ちふす糞二十一例ヲ檢シ六十一%ノ陽性成績ヲ得タリ 寄生物性論補遺 第二百八頁參照 はむゆるし。み。の。 (Hammersch-
 midt)ハ稀釋糞便一ぐらむニ肉汁五立方センチめーテるヲ加へ且ツくれぞーる水0.25%ヲ和セシ
 ニ大腸桿菌ハ其發育阻止セルモちふす桿菌ハ猶ホ能ク増殖スルヲ見タリ但シ其實用上ノ價值詳ナラ
 ズ

れふれる *Löffler* ハまらひどぐりーんニヨリテ大腸桿菌ノ發育阻止セラルルモちふす桿菌ノ發
 育増殖率變ズルコトナキヲ實驗シ へくすと製ノまらひどぐりーんヲ養基中ニ千分ノ一乃至四千
 分ノ一和シ糞便中ノちふす又ハ近縁菌ノ分離ヲ企圖セリまらひどぐりーん製劑ニハ種類多シ其第
 百二十號ニ千分化學的純粹ノまらひどぐりーん又ハ其鹽化亞鉛複鹽等モ試用セリ 養基百立方センチめ
 購(定規ノ二十五%濃縮五.六立方センチめーテるヲ稱シテ百立方センチめーレふれるノ實驗セル所ニヨレばまら
 てるトナシテ製)三立方センチめーテるヲ加へバ綠色菌ノ作用最モ能ク現ハル 養基百立方センチめ
 ひどぐりーん凝菜 寄生物性論第一卷 第三百三十七頁參照 上ニハちふす桿菌ハ透明菲薄ノ小聚落ヲ形成シ淡黄色ノ帶ヲ
 以テ圍繞セラルル四十八時間ヲ經バ其帶著明トナルばちふす桿菌B型竝ニ爾餘ノばちふす及腸炎
 菌屬ハ反之淡黄色圓形ノ大聚落ヲ生ジ其周圍ノ基質ハ透明トナル大腸桿菌ハ通常發育スルコトナシ
 若シ發育スル場合ニハ不透明ニシテ白濁セル厚キ聚落ヲ形成スあるかり形成菌例合バあるかり性糞
 便桿菌ノ如キハまらひどぐりーん凝菜上ニ發育スルコトナシト雖ばちふす及腸炎菌屬ノモノハ
 能ク之ニ發育ス れふれるハ隨伴雜菌ヲ除却シちふす桿菌ヲ容易ニ發育セシメトノ目的ニハ多量
 ノまらひどぐりーんヲ含メル凝菜ヲ用フベキヲ推奨セリ即ニ物ノまらひどぐりーん液ヲ三%ノ
 比ニテ加へ且ツ定規磷酸ヲ三%添加セリ二十立方センチめーテるノまらひどぐりーん阿膠(十五

- 1). *Királyi*, Centralbl. f. Bact. Bd. 42. 1906.
- 2). *Friedel*, Zeitschr. f. Med.-Beamte. 1905.
- 3). *Bohne*, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 61. 908.
- 4). *Fromme*, hyg. Rundschau. 1907.
- 5). *Doebert*, Arch. f. Hyg. Bd. 51. 1906.
- 6). *Peabody u. Pratt*, Centralbl. f. Bact. Bd. 45. 1908.
- 7). *Neumann*, Arch. f. Hyg. Bd. 60. 1907.
- 8). *Fürth*, Centralbl. f. Bact. Bd. 46. 1908.
- 9). *Klinger*, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 24. 1905.
- 10). *Nowack*, Arch. f. Hyg. Bd. 53. 1905.
- 11). *Schindler*, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 63. 1909.
- 12). *Vial*, hyg. Rundschau. 1907.
- 13). 帖佐, 衛生學及細菌學時報 第四卷 第五百四頁 明治四十三年.

%)管二個ニ各可檢材料一滴ヲ和シ能ク混和セシメ其一ハ直ニ平板上ニ注加シ二十五度ニ置キ他管
 ハ其儘三十七度ニ納メちふす桿菌ノ増殖後平板トナス 二十四時間ノ後平板上ニハ淡灰色ノ聚落生
 シ鏡下ニ照セバ光輝アル顆粒ヨリ成リ多クハ多数ノ螺旋狀ヲナセル細菌絲ヲ放出ス故ニ此異形ノ聚
 落ニヨリちふす桿菌ナルヲ窺知スルコトヲ得ト云ヘリ 但シ此まらひどぐりーん養基ノ價值ニ關
 シテハ種々ノ異說アリテ四五ノ學者 (*Királyi*¹⁾, *Friedel*²⁾, *Bohne*³⁾, *Fromme*⁴⁾, *Doebert*⁵⁾, *Peabody* u.
*Pratt*⁶⁾ u. a.)ハ此ヲ用ヒ好成績ヲ得ザリキ *Székely* *Neumann*⁷⁾ ハまらひどぐりーん阿膠ニ於ケル
 ちふす桿菌ノ發育狀態ハれふれるノ敘事ト異ナルヲ云ヘリ 又他ノ學者モ之ヲ覆審シ阿膠養基ニテ
 其目的ヲ達シ能ハザルヲ敘セリ 是レまらひどぐりーん製劑ノ性質異ナルガ爲メニシテ (*Fürth*⁸⁾,
*Klinger*⁹⁾, *Nowack*¹⁰⁾, *Schindler*¹¹⁾ u. a.)往々大腸桿菌害セラレズシテちふす桿菌却テ爲メニ發育阻止
 セラルルコトアリ *Vial*¹²⁾ ハまらひどぐりーん平板法ニヨリテ約三十五%陽性成績ヲ得
 得ベシ *Doebert* ハ僅ニ十%陽性成績ヲ得タリ 其他 *Peabody* *Pratt* *Neumann* *Székely* *Friedel* *Bohne* *Fromme* *Doebert* *Peabody* *Pratt*
 ちふす桿菌ニ因スル疾病(糞便中ニ於ケルちふす桿菌證明法)
 五四九

- 1). *Lentz u. Tietz*, münch. med. Wochenschr. 1903; klin. Jahrb. Bd. 14, 1905.
- 2). *Leuchs*, deutsche med. Wochenschr. 1906.
- 3). *Viol*, hyg. Rundschau. 1907.
- 4). *Fürth*, Centralbl. f. Bact. Bd. 43, 1908.
- 5). *Kutscher*, Handb. von *Kölle-Wassermann*. 2. Aufl. Bd. 3, P. 749.

反應ヲシテ酸性ニ變ゼシム(*Klinger, Lentz u. Tietz*) 從テセラヒヒツトクハ、*レイン*ノ制菌作用モ減弱ス此等諸種ノ原因ハ即チまらひつとぐり、*レイン*養基ノ效價及其適量ニ變易ヲ生ゼシムル基トナルモノナルヤ明カナリ 於茲^レのいふす *Leuchs*ハ肉水^{一ほんの牛肉ニ二リ}百立方センチメートルニ食鹽^{〇五}ぐらひ化學的純でさすとりん^一ぐらひ及凝菜^二ぐらひヲ加ヘタリ此でさすとりん肉汁凝菜ハらくくひすヲ指示藥トシテ中性トナス次ギテ定規曹達液^{〇五}立方センチメートル及十^〇ぬとろ^一せ液十立方センチメートルヲ加ヘ全液ヲ更ニ一回煮沸シ濾過シ且ツ滅菌法ヲ施シ最後ニ^{〇二}の化學的純粹まらひつとぐり、*レイン*(特製結晶性まらひつとぐり、*レイン*ヘ^レマ^レす^ト *Malachigrün kristalle extra Höchst*)液一六乃至一八立方センチメートルヲ添加セリ管ニ其改良者自己ノミナラズ他ノ學者(*Vial, Fürth, Kutscher*)モ亦該養液ヲ用ヒテ好果ヲ收メ得タリ しんぞれるハ化學的純粹ノまらひつとぐり、*レイン*ノミヲ用ヒてさすとりんヲ除去スルノ利ヲ説キ且ツ曰ク糞便検査ニ際シテハ弱酸性凝菜ニハ純セラヒつとぐり、*レイン*ヲ三萬分ノ一加ヘ中性養基ニハ五萬分ノ一加フベシトれふれるモ亦タ鹽化亞鉛複鹽ノ形ニアル純まらひつとぐり、*レイン*ヲ應用セシニでさすとりん所含ノ製劑第百二十號ヨリモ六乃至七倍大腸菌ニ對スル殺菌作用強大ナルヲ實驗セリ

れんつ及ちつ *Lentz u. Tietz*ガ糞便中ニ於ケルちふす桿菌分離ノ目的ニ推獎セルまらひつとぐり、*レイン*凝菜ハ初メ弱酸性ノ凝菜養基百立方センチメートルニ六十倍稀釋ノまらひつとぐり、*レイン Malachigrün I. Höchst*液一立方センチメートルヲ和セルモノニシテ色素ハ六千分ノ一ノ濃度ニテ含有セラルルモノナリキ而シテちふす桿菌ハ二十四時間ノ後肉眼ニテ辛フジヲ認識シ得ベキ砂子大ノ聚落ヲ形成シ二乃至四日ノ後稍々増大シ凝菜ハ爲メニ黃染スばちふす桿菌B型ハ十六乃至二十

- 1). *Mayer*, Centralbl. f. Bact. Bd. 56, 1910.
- 2). *Neisser*, berl. klin. Wochenschr. 1904.
- 3). *Jorns*, hyg. Rundschau. 1904.
- 4). *Klinger*, Diss. Strassburg 1904.
- 5). *Reischauer*, Centralbl. f. Bact. Bd. 39, 1905.
- 6). *Sobornheim*, Sitz-Ber. d. deutsch. Med.-Beamt.-Ver. Danzig. 1904.
- 7). *Simon*, klin. Jahrb. Bd. 17, 1906.
- 8). *Gaehgens u. Brückner*, Centralbl. f. Bact. Bd. 53, 1910.
- 9). *Mayer*, ebenda. Bd. 53, 1909.
- 10). *Nowack*, Arch. f. Hyg. Bd. 53, 1905.
- 11). *Schumacher*, klin. Jahrb. Bd. 21, 1909.
- 12). *Schuster*, hyg. Rundschau. 1910.
- 13). *Vial*, ebenda. 1907.
- 14). *Neumann*, Arch. f. Hyg. Bd. 60, 1907.
- 15). *Wolf*, hyg. Rundschau. 1908.
- 16). *Wunscheim u. Ballner*, ebenda. 1910.
- 17). *Fischer*, klin. Jahrb. Bd. 15, 1905.
- 18). *Mayer*, Centralbl. f. Bact. Bd. 56, 1910.

時間ニシテ(解温ニテ)直徑二乃至三ミリメートルノ硝子様透明ニシテ微ニ乳様濁ヲナシ其周圍ノ養基ハ黃染ス大腸桿菌ハ反之不透明乳様濁ヲナセル大聚落ヲ形成ス又化學的純粹ノ製劑若クハるいふす凝菜ヲ代用スルモ其濃度第一まらひつとぐり、*レイン*ニ於ケルモノニ相當セバ效果ヲ齎ラスト云フレんつノまらひつとぐり、*レイン*凝菜ヲ用フルニ際シテハ先ヅ其可檢便ニ無菌性生理的食鹽水ヲ加ヘ流動性トナシ其二大滴ヲ大ナルまらひつとぐり、*レイン*凝菜平板上ニ塗付シ次ギテ直チニ ^{硝子製又ハ白金}二個ノ大ナルらくくひす乳糖くりすた^一る^二おれ^三と凝菜平板若クハ遠藤養基平板又ハ ^{菌芽多キ糞}りあんどぐり、*レイン*びくりん酸凝菜 ^{第七百五十五}ニ塗付シ所謂後培養 *Naachkultur*ヲナス 尿ヲ檢スル場合ニハ之ヲ遠心器ニ裝ヒ其渣ヲ上法ニヨリ塗付ス 若シ三十七度ノ温所ニテ二十四時間ヲ經ルモ綠平板又ハ遠藤等ノ平板ニちふす桿菌ノ聚落ヲ發見スルコト能ハズトセバ綠平板ニ約八乃至十立方センチメートルノ無菌性食鹽水ヲ注ギ約二分間靜置シタル後チ平板ヲ左右前後ニ靜ニ動カシちふす(又ハばらちふす)聚落ヲ溶カシ ^{大腸菌聚落ハ厚キヲ以テ注意}セバ爲メニ混濁スルコトナシ其浮游液ノ一乃至三白金耳ヲ採リ更ニらくくひす乳糖くりすた^一る^二おれ^三と凝菜又ハ遠藤凝菜平板等ニ塗付シ十六乃至二十時間ノ後チちふす聚落ノ發生如何ヲ檢ス ^{浮游液中ニ大腸菌ノ侵入ヲ可及的阻クル爲ニ食鹽水ヲ平板上ニ注加セル後五分間靜置シ其}多數ノ學者(*Neisser, Jorns, Klinger, Reischauer, Sobornheim, Simon, Gaehgens u. Brückner, G. Mayer, Nowack, Schumacher, Schuster, Vial, Neumann, Wolf, Wunscheim u. Ballner, Fischer, O. Mayer, u. a.*)ニヨリざりがるす^一及遠藤法ヨリモ有利ナルヲ認メラレタリト雖モ隨伴菌ノ爲メニちふす聚落前培養ニ猶ホ發生セザル場合アルノミナラズ病芽少ナキ糞便ニアリテハまらひつとぐり、*レイン*ノ爲メニ障礙セラレ後培養上ニモ發育セザルコトアリ故ニ病芽比較

ちふす桿菌ニ因スル疾病(糞中ニ於ケルちふす桿菌證明法)

- 1). Reischauer, Centralbl. f. Bact. Bd. 39, 1905.
- 2). Löffler, deutsche med. Wochenschr. 1907.
- 3). Werbitaki, Arch. f. Hyg. Bd. 61, 1909.
- 4). Müller, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 33, 1910.
- 5). Löffler, Walter, Dibbelt u. Wehrlin, deutsche med. Wochenschr. 1909, P. 1237

的多數ニ存スル場合ニ限り有效ナルモノノ如シ從テ單ニどりがるすきー平板ノミヲ用ヒタル場合ニ比シ約二十五%改良セラレタルヲ見ルノミナルモばらちふす桿菌B型ニ對シテハ大ニ有效ニシテ約七五%陽性成績ヲ得ト云フ 然リ而シテ此法ガ他法ニ比シ劣レル點ハ其診斷ヲ下スニ際シ約二十四時間遅延スルコト是ナリ猶ホ茲ニ注意スベキハ養基ノ反應ナリトスくりんげるガちふす桿菌ニ對スル最適反應トシテ彼セルあるかり度即チ定規滴汁液一%ニ相當スルヲ佳トス而シテ其中ニ際シテハ曹達液ヲ用フベシ養基酸性ナレバまらひどぐりーんハ大腸桿菌ノ發育ヲ阻止スルコトナキ無色ノ物 (Leucobase) ト變ズル悞アリ 其他化學的純粹ノまらひどぐりーん劑ヲ用ヒ其所要濃度ハ毎回検査シ大腸菌ノ發育ヲ阻止スルモちふす桿菌ヲ害セザル程度ナルベク且ツ色素液ハ時日ヲ經ルニ從ヒ殺菌力増強スルモノナリトス 又まらひどぐりーん凝菜上ニ培養セルちふす桿菌ノ被凝性ハ往々多少減却スルコトアルヲ以テ注意スルヲ要ス

ちふす桿菌 (Reischauer) ハ三%ノ濃度ニ至ルニ凝菜二十萬分ノ一ノくりたりたるぢぢと加ヘタルモノヲ前培養ニ應用シタレんツ ちふす桿菌ニ於ケルト同様ニ好果ヲ結ブチ云ヘリ但シ顯微鏡報告ナキチ以テ其價值ヲ判斷スルコト能ハズ

まらひどぐりーん凝菜ニ關シテハ諸家覆審シ更ニ改良ヲ加ヘタリ 即チれんる Löffler²⁾ ハぬどろーせ及膽汁ヲ添加セリ即チ一%ノぬどろーせヲ含有スル肉汁凝菜ニ牛膽汁三%及化學的純粹ノくりすたーのまらひどぐりーん (鹽化亞鉛復鹽) ノ〇三%液一丸%ヲ添加セリ此養基上ニハちふす桿菌ハ菲薄透明ナルモ大腸菌聚落ハ厚ク且ツ白ク濁濁スるびぢぢー Ferbitaki³⁾ 及みるれる Müller⁴⁾ 等該養基ヲ實用シ殊ニみるれるハ牛膽汁ハ其性状及成分一定セザルヲ以テ牛膽酸那篤留膜ヲ應用スルノ利ヲ説ケリ れんる等 (Löffler, Walter, Dibbelt u. Wehrlin⁵⁾) ハまらひどぐりーん養基ヲ

更ニ實用的ニナサムト欲シまらひどぐりーんノ外ニ純ぢぢらんに Salmatin rein Dr. Grüber 及濃縮らんぢぢらう Reinblau doppelt konzentriert Hecht⁷⁾ ヲ加ヘタリ其製法ハし。すて Schuster¹⁾ ノ報告ニ徴セバ左ノ如シ

二(はんど牛ノ細軟牛肉ニ五リ一にて水ヲ加ヘあるみに。一む製器ニ入レ一時間煮沸セル後チ之ヲ濾過シ其濾液ノ全量ヲ五リ一にてトナス(水ヲ添加シテ)此五リ一にて肉汁ニ更ニ百五十ぐらむノ凝菜チ加ヘ煮沸シテ溶解セシメ飽和曹達水ニテあるかり性トシテ青色らつくむす紙ガ暗紫色ヲ呈シ赤色試験紙ハ弱青色ヲ呈スルニ至ラシム於茲更ニ煮沸シ其熱凝菜液ニ加フルニ「約七十度ノ温水五百立方センチにて五十分ぐらむのぬどろーせヲ溶解セシメタルモノ」ヲ以テシ又煮沸シ中リ一にて入ノこるべんニ移シ毎日二時間宛蒸氣籠ニテ滅菌法ヲ行フコト二日 毎回其溶液後充分ニ振盪シ蒸氣籠内ニ於テ自然ニ冷却セシム サレバ沈渣ト稍々澄明ナル凝菜層トナリ此際凝菜層ハ淡黄白色ヲ呈スベク煮沸セルガ爲メニ褐色ヲ呈スルトキハあるかり性強キチ意味シ面白カラズ用ニ應ミ凝菜養基ヲ溶カシ四十五度ニ冷却セルトキ其百立方センチにて二對シ(一)煮沸滅菌通過セル牛膽汁三立方センチにて二(二)無菌性水ニテ製セル〇三%純ぢぢらんに液一立方センチにて一(三)無菌性水ニテ製セル一%濃縮らんぢぢらう液三立方センチにて一(四)無菌性水ニテ製セル〇三%まらひどぐりーん鹽化亞鉛復鹽 Malachitgrün Chlorzinkdoppelsalz 液二乃至四立方センチにて一チ加ヘ能ク混和セシメタル後平板上ニ注加ス 此平板ハ青色ナルモ落下光線ニテハ微ニ帶青色ヲ呈ス 斯テ稀薄ナル可檢便(又ハ水ヲ以テ稀釋セル養基)ノ一滴ヲ毛細管子管ニテ平板上ニ致シ次ギテ硝子蓋ヲ用ヒテ全平板面ニ塗付シ且ツ他ノ平板(總計二乃至三個)上ニ塗リ以テ稀釋ス

此まらひどぐりーんらんぢぢらうさふらんに凝菜上ニ於テハ大腸桿菌ハ赤色又ハ帶赤色ノ聚落ヲ生ジちふす桿菌ハ青色ノ聚落ヲ形成ス又落下光線ニアリテハ大腸桿菌聚落ノ周圍ノ凝菜ハ帶赤色ヲ呈ス其他ちふす聚落ハ菲薄扁平稜形ニシテ波狀邊緣ヲ有シ特殊ノ金屬光ヲ放ツ故ニ肉眼的ニ濕潤圓形ノ厚キ大腸桿菌聚落ト區別スルコトヲ得ベシ ばらちふす桿菌B型ハ全クちふす桿菌ノ如キ聚

ちふす桿菌ニ因スル疾病(其中ニ於ケルちふす桿菌證明法)

1). Schuster, hyg. Rundschau, 1910.

- 1). *Pachnio* u. *Schuster*, *hyg. Rundschau*. 1910.
- 2). *Schröder*, *klin. Jahrb.* Bd. 24. 1911.
- 3). *Pudlewski*, *hyg. Rundschau* 1909.
- 4). *Marpmann*, *Centralbl. f. Bact.* Bd. 16. 1884.

落ヲ生ズルモA型ハ圓形硝子様透明ニシテ青色ヲ帯ビ金屬光ヲ缺如ス腸炎桿菌ノ聚落ハ大腸桿菌ニ類シ圓形ニシテ濕潤シ赤色ヲ呈ス 此れふれるノ提案ハしつてニヨリテ證認セラレ更ニ製法ノ簡ニシテ價ノ廉ナラムコトヲ希望セリ 他ノ學者(*Pachnio* u. *Schuster*¹⁾, *Schröder*²⁾)ハらんぶらうさふらんに凝菜上ニ於テハ隨伴菌ノ發育大ニ阻止セラルルヲ實驗セルノミナラズちふす桿菌ノ發育モ常ニ特異ナルニアラズ且ツ其被凝性モ往々減却スルコトアルヲ云ヘリ

れふれるノ膽汁ぐりーん凝菜ニ乳糖ヲ加ヘ著色度ヲ鮮明ニシテ大腸桿菌ノ鑑別ヲ容易ナラシメムト企圖セル者(*Pallenski*³⁾)アリ此ばどれうすきー凝菜ハ三%肉水凝菜ニ二%ノべぶどんヲ加ヘ弱あるかり性反應トナシ化學的純粹ノ乳糖一%及天然ノ牛膽汁三%ヲ和シ其百立方せんちめーてる宛ヲ小こるべんニ分注シ三十分宛三日間蒸氣消毒ヲナシ他方ニハ(一)化學的純粹ノくりすたーるまらひどぐりーんノ一%水溶液及(二)十%ノ硫酸那篤留膜(*ZnSO₄*)水溶液ヲ準備シ其凝菜養基百立方せんちめーてるニ對シぐりーん液ヲ五立方せんちめーてる及硫酸那篤留膜〇七乃至一立方せんちめーてる並ニ無菌性牛膽汁〇五立方せんちめーてるヲ加フ サレバ養基ハ弱綠色ヲ呈ス平板ニ注加セル後凝固セルトキハ平板ハ澄明ニシテ普通ノ黃色ヲ帶ビ綠色ヲ呈セズ 膽汁ヲ再添加スルノ理ハ養基中ニ沈渣ヲ形成セシメザラシメムトスルニアリ 該養基ノ原理ハまらふせん *Marpmann*⁴⁾ノまらひどぐりーん凝菜又ハ遠藤ノふくしん凝菜ニ於ケルト同一ニシテ乳糖ヲ分解シ酸ヲ產生セシムル菌芽ハ還元セルまらひどぐりーんヲシテ再タビ綠色トナシム加之膽汁ノ注加ニヨリテちふす桿菌ノ發育ハ旺盛ナルモノナリトス ばどれうすきー凝菜上ニ於テハ大腸桿菌ハ綠色不透明圓形ノ大聚落ヲ形成シちふす聚落ハ反之小ニシテ初メ無色ナルモ後チ金黃色ヲ呈シ且ツ僅ニ虹輝ヲ放ツ之

- 1). *Gahtgens* u. *Brückner*, *Centralbl. f. Bact.* Bd. 53. 1910.
- 2). *Grimm*, *hyg. Rundschau*. 1909.
- 3). *Megele*, *Centralbl. f. Bact.* Bd. 52. 1909.
- 4). *Kathe* u. *Blasius*, *ebenda.* Bd. 52. 1909.
- 5). *Schuster*, *hyg. Rundschau*. 1910.
- 6). *Werbitzki*, *Arch. f. Hyg.* Bd. 61. 1909.
- 7). *Kutscher*, *Handb. von Kollo-Wassermann*. 2. Aufl. Bd. 3. P. 753.
- 8). *Kindborg*, *Centralbl. f. Bact.* Bd. 46. 1908.
- 9). *Mankowski*, *ebenda.* Bd. 27. 1900.
- 10). *Fomond*, *Comt. rend. soc. biol.* 1896. P. 883.
- 11). *Doepner*, *Centralbl. f. Bact.* Bd. 50. 1909.
- 12). *Wunschheim* u. *Ballner*, *hyg. Rundschau*. 1910.

ヲ弱ク廓大セバちふす聚落ハ細顆粒ヨリ成リ鋸齒狀縁及ビ小溝ヲ有スばらちふす桿菌B型ハちふす桿菌ノ如キ聚落ヲ形成スルモ稍々大ニシテ且ツ多少厚シ ばどれうすきー養基ノ批判ハ一般ニ良好ニシテ遠藤養基ニ比シ優レルヲ説クモノ多シ(*Gahtgens* u. *Brückner*¹⁾, *Grimm*²⁾, *Megele*³⁾, *Kathe* u. *Blasius*⁴⁾, *Schuster*⁵⁾, *Werbitzki*⁶⁾, *Kutscher*⁷⁾)

酸性ふくしん凝菜ニまらひどぐりーんヲ加ヘタルモノヲ糞便中ニ於ケルちふす病芽分離ニ應用セル者(*E. u. A. Kindborg*⁸⁾)アリ是レ遠藤養基ニ於ケルト同一理ニ基ツケルモノナリトス まらひどぐりーん *Mankowski*⁹⁾ 位ニシテ *Doepner*¹⁰⁾ 酸性ふくしんハちふす及ばらちふす桿菌ノ如キあるかり產生菌ニヨリテ脱色スルノミナラズ大腸桿菌ニヨリテモ亦脱色ス但シ乳糖ヲ添加スルトキハ大腸桿菌ハ酸ヲ産スルヲ以テ其脱色作用阻止セラルルニ至ル 而シテ菌芽發育状態ハ遠藤養基上ニ於ケルト相均シ 又まらひどぐりーんヲ添加セルハ腐敗菌ノ發育ヲ阻止セムガ爲メナリトス 弱あるかり性凝菜ニ化學的純粹ノ乳糖五%ヲ加ヘ其百立方せんちめーてるニまらひどぐりーん *Malachigina* 三十分ノ一ヲ添加セルモノナリ *Doepner*¹¹⁾ ハ本法ヲ覆審シちふす及大腸菌屬ニヨレル脱色異ナリ且ツ變形桿菌 綠膿桿菌 其他ノ菌芽ニテモ脱色スルモ遠藤法ニ於ケルヨリモ無色發育ヲナス 菌芽ノ種類少ナク且光線ノ影響ヲ受クル度微ナリ但シ酸產生菌ノ周圍ニ於ケルちふす聚落ハ往々爲メニ隱匿セラルルコト遠藤養基ニ於ケルガ如シ要スルニでぶねるハきんどばるく養基ノ有效ナルヲ賞讃セリ雖然他ノ學者(*Werbitzki*, *Grimm*, *Wunschheim* u. *Ballner*¹²⁾)ハちふす又ハばらちふす桿菌ニアラザルモノニシテ類似ノ聚落ヲ形成スルコト多ク此等ノ菌芽ハどりがるすきー養基上ニハ赤色ノ聚落トシテ現ハルルモノナルヲ實驗シ且ツちふす又ハばらちふす桿菌ニアラズシテきんどばるく養基上ニ無色ノ發育ヲナスモノハどりがるすきー凝菜ニ青色發育ヲナスモノ

- 1). Bitter, münch. med. Wochenschr. 1911.
- 2). Fürth, Centralbl. f. Bact. Bd. 46. 1907.
- 3). Reischauer, ebenda. Bd. 39. 1905.
- 4). Peabody u. Pratt, ebenda. Bd. 45. 1908.
- 5). Klein, Lancet. 1907. P. 4396.
- 6). Leuchs, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 56. 1907.

ヨリモ遙ニ多キヲ非難セリ故ニさきんぼぼるゝ凝菜ハ其價値大ナラザルモノノ如シ
 びつては Bitter¹⁾ ハまらひとぐり²⁾ 一ん凝菜ニひなぶらう Chinahau³⁾ ナ混和セル養基ヲ製セリ即チ一リ一なるノ肉水ニ定規鹽酸
 七立方センチメートル及細裁セル凝菜三十ぐらむヲ加ヘ百度ノ蒸氣中ニテ四十五分時煮沸シ次ギテわつてへぶとん一% 食鹽〇.5%
 及乳糖二%ヲ添加シ數分間煮沸シらくむすヲ指示薬トシテ定規那篤倫汁ニテ中和セシム 而シテ其百立方センチメートルニ對
 シひなぶらう(くぐり)飽和(約十二%)水溶液八滴及ビ化學的純粹ノくぐりすたるまらひとぐり⁴⁾ 一ん Malachitgrün extra
 Krist. chem. rein Hecht⁵⁾ ノ〇.1%液ニ立方センチメートルニテ加フ於茲更ニ十分間蒸氣消毒ヲナシ平板上ニ餘リ厚層ナラザル様注加
 ス 此養基上ニハ大腸桿菌ハれはれるまらひとぐり⁶⁾ 一ん凝菜ニ於ケルヨリモ發育阻止セララル度弱ク且ツ著シキ青色ノ聚落ヲ
 形成スちふす及ばらちふす桿菌ハ反之無色透明ノ聚落ヲ生シ變形桿菌及綠膿桿菌モ同シク無色ノ聚落ヲ形成スルモ透明度弱クシテ
 熱練セバちふす聚落ト區別シ得ルコト容易ナリ又ばらちふす聚落ハ室温四十八時間ニシテ著シキ波狀邊縁ヲナスト云フ但シ予ハ本
 養基ノ價値ニ關シテ多ク知ラズ
 さらひとぐり⁷⁾ 一ん養基ニハ尙種々ノ種類アリ 例令ばらくむす乳糖液ヲまらひとぐり⁸⁾ 一ん凝
 菜ニ加ヘ或ハらくむす乳糖凝菜ニまらひとぐり⁹⁾ 一んヲ和シタル者(Fürth²⁾, Reischauer³⁾, Peabody
 u. Pratt⁴⁾) アルモ好果ヲ得ザルモノノ如シ 又前培養トシテまらひとぐり¹⁰⁾ 一ん肉汁ヲ推奨セル者
 (Peabody u. Pratt)アリ 而シテ該液ノ反應ヲ〇五物定規酸ニ匹敵セシメバちふす桿菌ハ養液ヲシテ
 濁濁且ツ青色ヲ呈セシムルモ大腸桿菌養液ハ綠色ニシテ特徴トスベキ發育状態ヲ見ルコト能ハズト
 云フ くらん Klein⁵⁾ モ亦タ類似ノ増菌液ヲ調製シ牛膽酸那篤倫ヲ添加セリ但シ此等まらひと
 ぐり¹¹⁾ 一ん液ハ増菌ノ目的ニ適セザルモノノ如シ ろいす Leuchs⁶⁾ モまらひとぐり¹²⁾ 一んくりす
 たーるがおれと及こふいんヨリ成レル増菌液ヲ製シ更ニ之ニ若シぐりせりん磷酸那篤倫ヲ百分
 ノ五及ぐりせりん磷酸百分ノ三入ヲ和スルトキハ大腸菌ノ發育阻止セラレちふす桿菌ノミ増殖ス

- 1). Conradi, münch. med. Wochenschr. 1908. P. 1523; Centralbl. f. Bact. Bd. 42. Ref.
- 2). Schuster, hyg. Rundschau. 1910.
- 3). Kypke-Burchardi, ebenda. 1908.
- 4). Grimm, ebenda. 1909.
- 5). Kathe u. Blasius, Centralbl. f. Bact. Bd. 52. 1909.
- 6). Schumacher, klin. Jahrb. Bd. 21. 1909.
- 7). Küster, hyg. Rundschau. 1909.
- 8). Gaetgens u. Bückner, Centralbl. f. Bact. Bd. 53. 1910.
- 9). Schröder, klin. Jahrb. Bd. 24. 1911.

ルヲ實驗セリ但ちふす病芽ノ數量幸ニシテ多キトキハ分離ノ目的ヲ達シ得ルモ其數少ナキ場合ニハ
 往々大腸桿菌ト其運命ヲ共ニスルコト多シ
 こんらーち Conradi¹⁾ ハくりすたーるがおれと及まらひとぐり²⁾ 一ん以外ニ發育阻止性ハにり
 ん色素ヲ得ムトテ四百種以上ノ色素ヲ精査シふりわんどぐり³⁾ 一ん Brillantgrün extra rein Hecht
 Gruber⁴⁾ ガ其目的ニ適スルヲ知りづくりん酸ト共ニ凝菜養基ヲ製セリ 寄生物性論第一卷 第三百三十六頁參照 但し⁵⁾ する
 Schuster⁶⁾ ハ大腸桿菌ハふりわんどぐり⁷⁾ 一んづくりん酸凝菜上ニ發育シ大ニシテ稍々不透明ナル聚
 落ヲ形成スルモ往々ちふす聚落ニ酷似スルコトナキニシモアラズ雖然一般ニ其聚落ハ粗大顆粒ヨリ
 成リ且ツ扁平ナラズト云ヘリ こんらーち⁸⁾ ハ該養基ヲ用ヒテ多數ノ糞便ヲ檢シ常ニ満足ナル成績ヲ
 得他ノ學者(Schuster, Kypke-Burchardi⁹⁾)モ亦同様ニ良成績ヲ擧ゲタルモどりかると凝菜ニ比
 シ陽性成績大ナルニアラズ(Kypke-Burchardi)又各種ノ大腸菌株ノ發育ヲ均シク阻止シ得ルモノニ
 アラズ(Grimm¹⁰⁾, Kathe u. Blasius¹¹⁾) 加之變形桿菌及あるかり性糞便桿菌ハ却テちふす又ハばらち
 ちふす桿菌ヨリモ旺盛ナル發育ヲナス(Schuster, Kypke-Burchardi, Schumacher¹²⁾, Grimm) ち¹³⁾ する
 Küster¹⁴⁾ ハどりかると凝菜ニ比シ劣レルヲ彼シ他ノ學者(Gaetgens u. Bückner¹⁵⁾)モふりわんど
 ぐり¹⁶⁾ 一ん凝菜ヲ直接證明ニ應用スルトキハ比較的稀ニ陽性成績ヲ得ルヲ以テ前培養トシテ利用ス
 ベキヲ謂ヘリしれ¹⁷⁾ である Schröder¹⁸⁾ ハちふす聚落ニ特徴少ナキヲ以テ實用的ナラザルヲ彼シし¹⁹⁾ ず
 てるハ該養基上ニ發育セルちふす桿菌ノ凝集反應ノ發現遲延ス 被凝性變ズルコトナシ ルヲ實驗セリ要スルニ大腸
 菌ニ富メル糞便ニアリテハふりわんどぐり²⁰⁾ 一ん凝菜ハ良果ヲ結ブモ他ノ腐敗菌ノ爲メニ病芽ノ檢
 出ヲ妨ケラルルコトアルヲ忘ルベカラズ

- 1). Werbitzki, Arch. f. Hyg. 61, 1909.
- 2). Mc. Weeney, Centralbl. f. Bact. Ref. Bd. 45, 1910.
- 3). Mandelbaum, münch. med. Wochenschr. 1909.
- 4). Sahr, hyg. Rundschau. 1910.

あるびのち Werbitzki¹⁾ はひなぐりーん Chinagrün Beyer²⁾ ヲ用ヒテちふす培养基^{寄生物性病原論第一卷 第三百三十五頁参照}ヲ製シ之ヲ前培養ニ用ヒタリ 由來ちふす及大腸菌ノ色素ニ對スル抵抗力ハ其菌株ニヨリテ異ナル (Werbitzki) モノニシテちふす桿菌モ其株ノ如何ニヨリテハ宛モまらひどぐりーんニ於ケルガ如クひなぐりーんニヨリテモ其發育大ニ阻害セラレ往々全然發育セザルモノアリ (Schulze) せりかるすきー こんらーぢ法ト比較シテ本法ノ劣レルヲ被セル者 (Gaehgens, Brückner) アルモ満足ナル成績ヲ擧ゲタル者 (McWeeney, Schröder) アリ

被上ノ諸法ハ大腸菌ノ發育ヲ阻止スルヲ目的トシテ變形桿菌其他ノ隨伴菌ハ却テ旺盛ナル發育ヲナス さんでるばうじ Mandelbaum³⁾ ハちふす及大腸菌屬並ニ綠膿桿菌ヲ除ケル他ノ凡テノ隨伴菌ノ發育ヲ阻止セシムルモノハろぞーる酸ナルヲ知り之ヲ養基ニ應用セリ即チ普通ノ凝集養基^{葡萄糖乳リン等ヲ添加スルモノナリ} 十立方センチメートルニ一〇あるこはる製ろぞーる液〇三立方センチメートルヲ加ヘタリ サレバろぞーる酸乳糖凝集ニハ大腸桿菌ハ黄色ヲ呈シちふす聚落ハ赤色ヲ示ス加之爲メニちふす桿菌ト所謂めたちふす桿菌 Metatyphus bacillus トヲ區別スルコトヲ得ト云フ したーる Sahr⁴⁾ ハ凝集ニ乳糖一〇ト一〇あるこはる製ろぞーる液三〇トヲ用ヒシニ大腸菌聚落ノ周圍ニハ黄色ノ輪廓ヲ生ズルヲ實驗セリ ろぞーる酸凝集ノ眞價詳ナラズ

糞便中ニ於ケルちふす桿菌ヲ分離スル目的ニ應用セル被上ノ諸法ヲ閱スルニ實ニ糞便中ニ於ケルちふす病芽ノ檢出ハ至難ニシテこれら弧菌ニ於ケルガ如キ有力ナル養基發見セラレズ各學者ノ推奨セル諸法皆均シク多大ノ缺點ヲ有ス蓋シ病芽ノ數ハ隨伴菌芽ノ數ヨリモ寡少ナルニ因ス故ニ隨伴菌ノ發育ヲ阻止シ病芽ノミヲ増殖セシメムト苦心セルモノ多キモ病芽ノ數比較的多キトキハ其目的ヲ

- 1). Castellani, la settimana med. 1899.
- 2). Busquet, la presse méd. 1902. P. 593.
- 3). Orlovsky, münch. med. Wochenschr. 1903.
- 4). Meyer, Zeitschr. f. klin. Med. Bd. 63.
- 5). Berri, Centralbl. f. Bact. Ref. 1904.
- 6). Perquis, Contrib. à l'étude de la présence du bacille d'Eberth dans le sang des typhiques. Paris 1904.
- 7). Ruediger, Transact. of the Chicago pathol. soc. 1903.
- 8). Memmi, Rif. med. 1904.
- 9). Courmont u. Lesieur, Journ. de physiol. et de pathol. gén. 1903. P. 333.
- 10). Rolly, münch. med. Wochenschr. 1904.
- 11). Epstein, Americ. Journ. of med. science. 1908.
- 12). Wiens, münch. med. Wochenschr. 1909.
- 13). Bie, ebenda. 1907.

達シ得ルモ否ラザルトキハ病芽ノ發育モ亦タ阻止セラルルカ或ハ雜菌ノ爲メニ發育抑止セラルルヲ常トス 現今一般ニ實用セラルルハせりかるすきー こんらーぢー凝集及遠藤凝集ナルモれんつ及ちらつ増菌法又ハ帖佐増菌法^{れんづるさふらにんらら凝集及ふりあんどぐりーん凝集} 並ニばどれうすきー凝集等ノ如キモ比較的好良ナル成績ヲ齎ラスモノナリトス

循環血行中ニ於ケルちふす桿菌ヲ證明スルニハ滅菌セル注射器^{内容十乃至二十立方センチメートル} 中靜脈ヲ穿刺シ可及的多量ノ血液ヲ吸入シ可檢材料トナス かつてらに Castellani¹⁾ ハ可檢血液十乃至四十滴ヲ肉汁養液二百乃至三百立方センチメートルニ^{試験管内ニ於ケル少量ノ肉汁中ニ培養セバ多クハ陰性ニ終ル} 加ヘ三十七度ニテ培養シ更ニ平板培養ヲ行ヒ分離セリ斯ク多量ノ養液ヲ要スル所以ハ血液ノ殺菌作用及凝集作用ノ如何ヲ顧慮セルニアラズシテ血液ノ凝固ヲ妨害スル目的ニ外ナラザルモノナルベシ 蓋シ血液ノ凝固ヲ妨クルトキハ少量ノ養液ニテモ其目的ヲ達シ得ルノミナラズ血液凝固スルトキハ病芽ハ其纖維素塊中ニ包藏セラレ養液中ニ於テ發芽セザルコトアルヲ以テナリかつてらに^ハ此法ニヨリ十四例中十二例陽性成績ヲ得他ノ學者モ亦相當ニ多數陽性成績ヲ得タリ例令百〇% (Busquet²⁾) 或ハ九十六% (Orlovsky³⁾, Mejer⁴⁾) 或ハ九十五% (Berri⁵⁾, Perquis⁶⁾) 又ハ八十五% (Ruediger⁷⁾) 若クハ五十七% (Memmi⁸⁾) ノ陽性成績ヲ得タルモノアルガ如シ此かつてらに^ハ法ハ後年四五ノ學者ニヨリテ多少改良ヲ試ミラレタリ例令百%^カひび之^ハ養液 Cambiesche Nährflüssigkeit^{曹達¹⁾と人肉汁ヲ應用シ (Courmont u. Lesieur⁹⁾) 或ハ八五%^{五〇} 葡萄糖五〇〇 水一〇〇〇ヨリ成レル溶液ヲ同量ノ可檢血液ニ加ヘ^{陽性成績 (Rolly¹⁰⁾) 或ハ二〇%^{八十八%} 肉汁 (Epstein¹¹⁾) 或ハせりかるすきー^{八十八%} 水 (Wiens¹²⁾) ヲ用ヒタルガ如シ^ビ Bie¹³⁾ ハ八五%^{二〇} 檸檬那篤倫五%^{五〇} 酒石酸那篤倫二%^及ぐりせりん五%^{ヨリ}成レル養液}}

1). Harrison, Journ. of the Royal Army med. corps. 1906. 2). Schottmüller, deutsche med. Wochenschr. 1900; Zeitschr. f. Hyg. Bd. 36, 1901. 3). Curschmann, Sitz.-Ber. d. med. Gesellsch. zu Leipzig. 1903. 7. Juli. 4). Müller, Mitteil. a. d. Grenzgeb. d. Med. u. Chir. Bd. 7. 5). Jochmann, Zeitschr. f. klin. Med. Bd. 54, 1904. 6). Ryttenberg, Journ. of med. research. Vol. 20. 7). Meyerstein-Rosenthal, münch. med. Wochenschr. 1910. P. 1432. 8). Müller u. Gräf, Centralbl. f. Bact. Bd. 43, 1907. 9). Thomas, klin. Jahrb. Bd. 17, 1907. 10). Sachs-Mücke, ebenda. Bd. 21, 1909. 11). Kirstein, deutsche med. Wochenschr. 1909. P. 2270. 12). Conradi, ebenda. 1906.

五立方センチメートルニ血液十立方センチメートルヲ加ヘ八十パーセントノ陽性成績ヲ得タリ 是るりそん Harrison¹⁾ ハ診断ヲ速ニスル目的ニテ血液肉汁混和液ヲ培養スルコト二十時間ニシテ平板培養ヲナスコトヲ直チニ凝集性ちふす血清ヲ加ヘ凝集反應ノ陽否如何ヲ檢セリ

しよとみられる Schottmüller²⁾ ハ診断ヲ速ニシ且ツ同時ニ血行中ニ於ケル病芽ノ數ヲ知ラムガ爲ニ溶解セシメタル凝集養基ニ可檢血液ヲ混シ直チニ平板培養ヲ行ヘリ 此法ニヨルモ亦タ八十六パーセント (Curschmann³⁾) 八十四パーセント (Schottmüller²⁾) 或ハ八十二パーセント (Möller⁴⁾, Jochmann⁵⁾) 陽性成績ヲ得ト云フ

ちふす桿菌 Epstein⁶⁾ ハ普通凝集養基ニ代フルニ二のノくるこーせ又稀酸あひむにあら加ヘタル凝集ヲ用ヒりてんべる Ryttenberg⁷⁾ ハ稀酸あひむも二の食鹽ニ水 1000:0 ヨリ成レル溶液十立方センチメートルニテ可檢血液四乃至六立方センチメートルニ加ヘ次ギテ凝集平板培養ヲナセリ 稀酸鹽及食鹽ノ添加ニヨリテ血液ノ凝固ハ阻止セラルルモノナリトス ちいえるすたいん及ろーせんたーる (Meyerstein u. Rosenhart⁸⁾) ハ血液十立方センチメートルニ食鹽^五くらひヲ加ヘ以テ凝血作用及殺菌作用ヲ阻止シテ凝集平板培養ヲ製作セリ 其他のだる反應檢査ニ用ヒタル血液ノ凝塊中ニ於ケル病芽ヲ證明スルニハ單ニちいりがるすきー養基上ニ其血餅ヲ直接塗付ス^{用ヒテ} (Müller u. Gräf⁹⁾) 又採血硝子管ニちいりがるすきー^{水蛙 幾斯}ヲ充タシ以テ凝血ヲ防ギ好果ヲ得ルコトアルモ往々不結果ニ了ナルコトアリ (Thomas¹⁰⁾, Sachs-Mücke¹¹⁾, Kirstein¹²⁾) 反之膽汁ヲ應用スルトキハ常ニ満足ナル結果ヲ擧ゲ得ルモノナリトス

絞上かすてらにー法及しよとみられる法ハ眞ニ満足ナル成績ヲ得ルモノナルモ猶ホ煩雜ヲ免レズ故ニこんらーちー Conradi¹³⁾ ハ牛ノ膽汁ヲ用ヒ血液ノ凝固ヲ防グト共ニちふす病芽ノ發育ヲ旺盛

1). Meyerstein, Centralbl. f. Bact. Bd. 44, 1907. 2). MacConcey, Journ. of Hyg. Vol. 8, 1, 322. 3). Kauer, münch. med. Wochenschr. 1906 u. 1907; Centralbl. f. Bact. Bd. 42, 1906. 4). Zeidler, Centralbl. f. Bact. Bd. 44, 1907. 5). Lüdke, münch. med. Wochenschr. 1909. 6). Todd, Journ. of the Royal Army med. corps. Vol. 54, 1910. 7). Böttcher, hyg. Rundschau. 1910. 8). Baumann u. Rimpau, Centralbl. f. Bact. Bd. 47, 1908. 9). Blasius, hyg. Rundschau. 1910. 10). Buchholz, Diss. Leipzig, 1906. 11). Fromme, hyg. Rundschau. 1907. 12). Stühlern, Centralbl. f. Bact. Bd. 44, 1907. 13). Gildemeister, hyg. Rundschau. 1907. 14). Királyfi, Zeitschr. f. klin. Med. Bd. 68. 15). van Loghem, Nederl. Tijdschr. v. Geneesk. 1907. 16). Marmann, hyg. Rundschau. 1908. 17). Meyer, Zeitschr. f. klin. Med. Bd. 63. 18). Neumann, hyg. Rundschau. 1908.

ナラシメタリ加之膽汁ハ血液ノ殺菌作用ヲ防止スルノ效アリ此法一タビ出テ血液檢査容易トナリ況ク實用セラルルニ至レリ而シテ膽汁ノ有效成分ハ膽汁酸鹽(甘膽酸那篤留膜及牛膽酸那篤留膜)ニアリ (Meyerstein¹⁾, MacConcey²⁾)

こんらーちーハ始メ單ニ無菌性牛膽汁ヲ用ヒタルモ後チ之ニべとん及ちりせりん各十パーセントヲ添加セリ ちりせりんべとん膽汁ハ二時間蒸氣消毒ヲナスノミニテ使用セラルルモノニシテべとんノ添加ニヨリテ養素豐富トナリ迷入セル雜菌ハちりせりんノ爲メニ發育阻止セラルるりせりんべとん膽汁三分ヲ盛レル硝子管ニテ可檢血液一分ヲ採リ混和後三十七度ニ十乃至十六時間放置シ液面ヨリ數白金耳ヲ採りちりせりん凝集又ハ他ノちふす特異養基面ニ塗付ス 但シちいせる Kause³⁾ 及他ノ學者ハ往々ちりせりん及べとんヲ混加セルモノヨリモ單純ナル膽汁ノ有利ナルヲ絞シ又雜菌ハちりせりんノ存在ニヨリテ發育阻害セラルルモノニアラズ (Zeidler⁴⁾) 故ニ現今單ニ膽汁ノミヲ應用スルモノ多シ ちいせるハ二五立方センチメートルニ血液ヲ膽汁五立方センチメートルニ和シ三七度ニ放置スルコト二乃至三日ニシテ平板上ニ塗付シ百パーセントノ陽性成績ヲ得タリ其他單純膽汁ニテ同様ノ良成績(九十四乃至百パーセント)ヲ得タル者頗多シ (Lütke⁵⁾, Zeidler, Todd⁶⁾, Böttcher⁷⁾, Baumann u. Rimpau⁸⁾, Blasius⁹⁾, Buchholz¹⁰⁾, Fromme¹¹⁾, Stühlern¹²⁾, Gildemeister¹³⁾, Királyfi¹⁴⁾, van Loghem¹⁵⁾, Marmann¹⁶⁾, Meyer¹⁷⁾, Neumann¹⁸⁾, Siberberg¹⁹⁾, Stad²⁰⁾, Veil²¹⁾, Thomas²²⁾, Genmar²³⁾, Leica u. Schuster²⁴⁾ u. a.) 猶ホ茲ニ注意スベキハちふす桿菌ハ往々膽汁中ニ於テ直チニ増殖セズシテ二乃至三日ノ後チ始メテ發育スルモノアルコト是ナリ

牛ノ膽汁中ニ於ケル各成分ノ量ハ一定不變ニアラズ爲メニちふす桿菌ニ對シ不良ノ影響ヲ與フル

19. Silberberg, Centralbl. f. inn. Med. 1908. 20). Stade, hyg. Rundschau. 1908. 21). Veil, deutsche med. Wochenschr. 1907. 22). Thomas, klin. Jahrb. Bd. 17. 1907. 23). Gennari, Rif. med. 1907. 24). Lelwa u. Schuster, hyg. Rundschau. 1909. 25). Meyerstein, münch. med. Wochenschr. 1906. 26). Bohne, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 61. 1908. 27). Kirstein, deutsche med. Wochenschr. 1909. 28). Dunschmann, Ann. Past. 1909. 29). Schöffner, münch. med. Wochenschr. 1907.

コトアリ 故ニせしめるすたん Mejerstein²⁵⁾ハ牛胆汁ニあるこほるえーてるヲ作用セシメ胆汁鹽ヲ結晶セシメ之ヲぐりせりん及蒸留水ノ等分液ニテ三十乃至四十の胆汁鹽液トナシ約二十立方せんちめーてるヲ小滴瓶ニ盛り殺菌シ貯藏ニ便ニシ用ニ臨ミ無菌性試管ニ其四乃至五滴ヲ採リ血液二乃至三立方せんちめーてるヲ注加セリ而シテ此混和液ヲ十二乃至十六時間静置ニ静置シタル後チ平板上ニ接種セリ ばーね Bohne²⁶⁾ハせしめるすたん法ヲ應用シ満足ナル成績ヲ得タルモかいせるハ單純ナル胆汁ニ劣ルヲ云ヘリ

凝血中ニ包藏スルちふす桿菌ヲ檢出スル目的ニさるすたん Kirstein²⁷⁾ハどりぶしんニテ消化セシメ次テ胆汁ヲ加ヘ増殖セシメタリ即チ無菌性ノ純ぐりせりん十立方せんちめーてるニどりぶしん Erisin sicc. Grüber²⁸⁾ニぐらむヲ混シ三十七度ニ一週間入レ時々振盪シ更ニ少ナクトモ一週間氷室ニ静置ス サレバ溶液ハ無菌性ニシテ稀ニ球菌存在スルコトアルモ其數量少ナクシテ檢査ノ妨ヲナスコトナシ 可檢血餅ヲ五立方せんちめーてるノ無菌性牛胆汁ヲ盛レル試験管ニ致シどりぶしんぐりせりん液〇二乃至〇三立方せんちめーてるヲ加ヘ三十七度ニ十五乃至二十四時間静置シタル後チ其三白金耳ヲどりがるすきー養基上ニ塗付ス而シテ可檢血餅量(一乃至二立方せんちめーてる以上ノ血液)ヲ應用スルヲ良シトス 本法ハ覆審セル者ナキヲ以テ其價值ノ判断ニ苦シム

づんしゅさん Dunschmann²⁹⁾ハ胆汁ノ代リニべぶどん五の及牛膽酸那篤留膜二五のヲ含有セル肉汁養液ヲ應用セリ

しゅぶねる Schüffner²⁹⁾ハ凝菜平板法ヲ血中ニ於ケルちふす桿菌證明法ニ應用セリ即チ二の凝菜及〇五のノ阿膠ヲ各等量ニ混加シべぶどんぬどろーせ及葡萄糖各一のト食鹽〇五のトヲ加ヘ煮沸シ濾

過シあるかり性反應トナシ十五立方せんちめーてる宛試験管ニ盛り蒸氣滅菌法ヲ行フ用ニ臨ミ之ヲ溶解セシメ其全量ニ可檢血液一五立方せんちめーてるヲ加ヘ平板トナス 此法ニヨレバ普通凝菜ニ於ケルヨリモ好果ヲ得ト云フ又ろーせんるんげ Rosen-Runge³⁰⁾ハ弱あるかり性凝菜ニ一のノ比ニテ甘膽酸那篤留膜 glykokocholesures Natrium Merck³¹⁾ヲ加ヘタルモノニ二對一ノ比ニテ可檢血液ヲ和シ平板トナシ三十七度ニ三十二時間培養セバちふす桿菌ハ既ニ聚落ヲ形成スト云フ但シ該法ノ有利ナラザルヲ疑セル者(Bohne, Stade²⁶⁾)アリ

くろーせにつゝ Klodnitzky³²⁾ハ無菌性蒸留水四乃至四五立方せんちめーてるニ可檢血液〇五立方せんちめーてるヲ加ヘバ溶血作用起リ血液蛋白ハちふす病芽ノ養素トナリ能ク其目的ヲ達シ七十三の陽性成績ヲ得ルヲ云ヘリ せるせすする Gildemeister³³⁾ハ此法ヲ覆審シ満足ナル成績ヲ得蒸留水ハ可檢血液ノ八乃至十倍ヲ加フベク且ツ胆汁増菌法ニヨリテ陰性ノモノモ蒸留水増菌法ニヨリテ檢出シ得ルヲ疑セリ 但しゅすする Schuster³⁴⁾ハ該法ハ胆汁法ニ劣レルヲ以テ唯ダ胆汁ヲ得ルコト能ハザル場合ニ應用スベキモノナルヲ云ヘリ

可檢血液ヲ用ヒテ直接ニ染色標本ヲ製シ顯微鏡檢査ヲ行ヘルモノ(Canon³⁵⁾, Pöppelmann³⁶⁾)アルモ勿論不完全ニシテばらちふす病芽トノ區別不完全ナルノミナラズ其陽性成績ハ寧ろ偶然ト云フベク一ニノ學者(Silberberg³⁷⁾, Fraenkel³⁸⁾)之ヲ覆審シ其不備ナルヲ論ゼリ

紋上ノ如クちふす患者ノ血中ヨリ病芽ヲ檢出スルハ比較的容易ニシテ其陽性率亦多ク百のヲ算スルコト稀ナラズ加之第一病週ニ之ヲ檢出スルコト最モ屢ナリ故ニ血液ノ細菌學的檢査ハ糞便檢査ニ比シ早期診斷ニ際シ緊要ナル補助ヲナスモノナリぬだる反應檢査ニ用ヒタル殘血ヲモ病芽檢出ノ

1). Rosen-Runge, Centralbl. f. Bact. Bd. 43. 1907. 2). Stade, hyg. Rundschau. 1908. 3). Klodnitzky, Centralbl. f. Bact. Ref. Fd. 41; Orig. Bd. 58. 4). Gildemeister, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 33. 1910. 5). Schuster, hyg. Rundschau. 1911. 6). Canon, deutsche med. Wochenschr. 1906. P. 1383. 7). Pöppelmann, münch. med. Wochenschr. 1906. P. 947. 8). Silberberg, Centralbl. f. inn. Med. 1908. 9). Fraenkel, hyg. Rundschau. 1906.

1). Fornet, münch. med. Wochenschr. 1906. P. 1053. 2). Elsius u. Kathe, hyg. Rundschau, 1909. 3). Baumann u. Rimpau, Centralbl. f. Bact. Bd. 47. 1908. 4). Müller u. Gräf, ebenda, Bd. 43. 1907. 5). Conradi, deutsche med. Wochenschr. 1906. 6). Fromme, hyg. Rundschau, 1907. 7). Kurpjuweit, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 25. 1907. 8). Schweinburg, wien. klin. Wochenschr. 1910. 9). Sachs-Müke, klin. Jahrb. Bd. 21. 1909. 10). Käster, hyg. Rundschau, 1908. 11). Perquis, Contrib. à l'étude de la présence du bacille d'Eberth dans le sang des typhiques. Paris 1904. 12). Curschmann, Sitz.-Ber. d. med. Gesellsch. zu Leipzig. 1903. 7. Juli. 13). Schottmüller, deutsche med. Wochenschr. 1910; Zeitschr. f. Hyg. Bd. 36. 1901. 14). Courmont, Soc. des hôp. de Paris. 1901; Sem. med. 1912. 15). Hecker u. Otto, deutsche militärärztl. Zeitschr. 1909.

資料トナシ得 (Fornet¹⁾, Blasius u. Kathe²⁾, Baumann u. Rimpau³⁾, Müller-Gräf⁴⁾, Buchholz, Conradi⁵⁾, Fromme⁶⁾, Kurpjuweit⁷⁾, Stadel, Schweinburg⁸⁾, Sachs-Müke⁹⁾ u. a.) ルモ勿論静脈血ヲ直接ニ接種セル場合ニ於ケルヨリモ陽性率稍々少ナシ蓋シハ此ノ反應検査ノ目的ニ採取セル血液量ハ常ニ少ナク且ツ細菌學的検査ヲナス迄ニ費セル時間比較的多ク爲メニ病芽ノ生活力減弱セル結果ニ外ナラザルベシ (Käster¹⁰⁾)

病芽ヲ血中ニ檢出シ得ル時日ニ關スル實驗成績一致セズ潛伏期 (Conradi) 又ハ發病當日 (Perquis¹¹⁾) 既ニ之ヲ證明セル者アルモくるしゅまん Curschmann¹²⁾ ハ第三日ニ一回 第九日ニ八回陽性成績ヲ得しと云ふられる Schottmüller¹³⁾ ハ第二日ニ一回 第三及四日ニ屢々陽性成績ヲ得 再發患者ノ一例ニハ發病二十四時間以内ニ之ヲ認メタリ くるもーん Courmont¹⁴⁾ モ第五日以前ニ發見セル例ヲ被シヘける及ヒト Hecker u. Otto¹⁵⁾ 並ニくろーにのせー Klodnitzky¹⁶⁾ ハ第一日ニ既ニ病芽ヲ發見シト云フ Thomas¹⁷⁾ ハ第一週ノ前半葉ニむだる及ちぐね Widal u. Digne¹⁸⁾ ハ第二及第三日ニ血中ニ病芽存スルヲ確認セリ

血中ニ於ケル病芽檢出ハ發病後日ヲ經ルコト愈久シケレバ陰性成績愈其數ヲ増ス 即チかいせる Kayser¹⁹⁾ ハ第一週ニ二百% 第二週ニ五十% 第三乃至五週ニ平均四十% 陽性成績ヲ得タリ 他ノ學者モ亦タ類似ノ成績ヲ報告セリ即チりゆけ Lindke²⁰⁾ ハ第一週ニ九十五% 第二週ニ五十五% 第三週ニ二十% 第四週ニ十% といはれる Zeidler²¹⁾ ハ第一週ニ二百% 第二週ニ八十% ノ陽性成績ヲ擧ゲタリ殊ニつゝいはれるハ第二週ノ後半期(四十二%)ニハ前半期(九十四%)ニ於ケルヨリモ其陽性率大ニ少ナキヲ實驗セリ 又ちふす末期ニ至リテハ猶更ニ病芽ヲ發見スルコト稀ナリみられる Müller²²⁾

ハ發病後六十四日ヲ經シ一例ノ血中ニ病芽ヲ證明セリバ Pans²³⁾ ハ九ヶ月ノ後ニ檢出セル例ヲ報告セルモ再發ニアラザリシヤヲ疑ハザルベカラズ

ちふす再發患者ノ血中ニ於テモ發病第四日ニ一回 第十一日迄以内ニ屢々病芽ヲ檢出シ得タル者 (Stühler²⁴⁾) アリ又第二及第四日ニ (Kayser²⁵⁾) 或ハ第四日ニ (Poggenpohl²⁶⁾) 或ハ第五日ニ (Zeidler²⁷⁾) 或ハ第二及三日ニ (Treupel²⁸⁾) 若クハ第一日ニ (Schottmüller²⁹⁾) 之ヲ確認セルモノアリ

往時ちふす病芽ハ有熱時ノミニ發見シ得ルモノナルヲ云ヘルモ必シモ然ラズ無熱性ノ輕症患者ノ多數ニ且ツ恢復無熱者ノ一例ノ血中ニ病芽ヲ發見セル者 (Conradi³⁰⁾) アリ又他ノ學者 (Gildemeister³¹⁾, Lindke³²⁾, Müller³³⁾ モ同様ノ事實ヲ實驗シタリ但シ一二ノ學者 (Stühler, Bie³⁴⁾, Schottmüller) ハ常ニ有熱時ノミニ限リ病芽ヲ血中ニ證明シ得タリ

病芽ノ血中ニ現ハルルハむだる反應ノ陰陽ト關係ナクシテかいせるハむだる反應未ダ陰性ナリシ患者三十七例ノ血中ニ病芽ヲ檢出シ みるれるハ十八例 みるれる及ぐれーム Müller u. Gräf³⁵⁾ ハ二十四例ニ同様ノ事實ヲ實驗セリ 此ノ如キ實驗例ハ其後多數ノ學者 (Bie, Blasius u. Kathe³⁶⁾, Baumann u. Rimpau³⁷⁾, Buchholz, Conradi³⁸⁾, Kurpjuweit³⁹⁾, Schweinburg⁴⁰⁾, Hecker u. Otto, Pacinio u. Schuster⁴¹⁾, Hirsch-Quillen-Lery⁴²⁾ u. a.) ニヨリテ報告セラレタリ

血中ニ於ケル菌芽檢出ハ當ニ早期診斷ニ應用セララルノミナラズ豫後判定ニモ亦利用セララル即チ其病芽ノ數多キトキハ豫後不良 (Wassiljoff⁴³⁾, Memmi⁴⁴⁾) ニシテ豫後不良ナルモノノミニ限リ第一週ニ無數ノ病芽血中ニ現ハル (Stühler) 又重症患者ノ血中ニ病芽ヲ見ル率ハ百%ナルモ中等度ノ者ニハ七十五%ノ輕症ノ者ニハ五十%ナルヲ被セル者 (Veit⁴⁵⁾) アリ 其他かいせるハ三十六例ノ輕症患者ノ

16). Klodnitzky, Centralbl. f. Bact. Ref. Bd. 41 u. Orig. Bd. 58. 17). Thomas, klin. Jahrb. Bd. 17. 18). Widal u. Digne, Bull. et mém. de la soc. méd. des hôp. de Paris. 1906. 19). Kayser, münch. med. Wochenschr. 1906. P. 1953. 20). Lütko, münch. med. Wochenschr. 1909. 21). Zeidler, Centralbl. f. Bact. Bd. 44. 1907. 22). Müller, med. Klinik. 1908. 23). Pans, Riv. med. 1903. 24). Stühler, Centralbl. f. Bact. Bd. 44. 1907. 25). Kayser, ebenda. Bd. 42; münch. med. Wochenschr. 1906. 26). Poggenpohl, Wratsch. 1907; cit. nach Stühler, Centralbl. f. Bact. Bd. 44. 27). Zeidler, Centralbl. f. Bact. Bd. 44. 1907. 28). Treupel, münch. med. Wochenschr. 1905. 29). Schottmüller, deutsche med. Wochenschr. 1900; Zeitschr. f. Hyg. Bd. 36; Handb. von Mohr-Staehelin. Bd. 1. P. 399. Berlin 1911.

30). *Conradi*, deutsche med. Wochenschr. 1906; münch. med. Wochenschr. 1906. 31). *Gilde-meister*, hyg. Rundschau. 1907. 32). *Lücke*, münch. med. Wochenschr. 1909. 33). *Müller*, ebenda. 1907. 34). *Be*, ebenda. 1907. 35). *Blasius* u. *Kathe*, hyg. Rundschau. 1909. 36). *Baumann* u. *Rimpau*, Centralbl. f. Bact. Bd. 47. 1908. 37). *Conradi*, münch. med. Wochenschr. 1906. P. 1655. 38). *Kurpjuweit*, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 25. 1907. 39). *Schweinburg*, wien. klin. Wochenschr. 1910. P. 317. 40). *Pachnio* u. *Schuster*, hyg. Rundschau. 1910. 41). *Hirsch-Quillen-Levy*, Journ. of the Amer. med. assoc. Vol. 46. 1906. 42). *Wassiljoff*, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 55. 1906. 43). *Memmi*, Rif. med. 1904. 44). *Veil*, deutsche med. Wochenschr. 1907. 45) 圖ニ關スル説明ハ圖ト一致セシムル爲メ左ヨリ右ニ書ケリ。

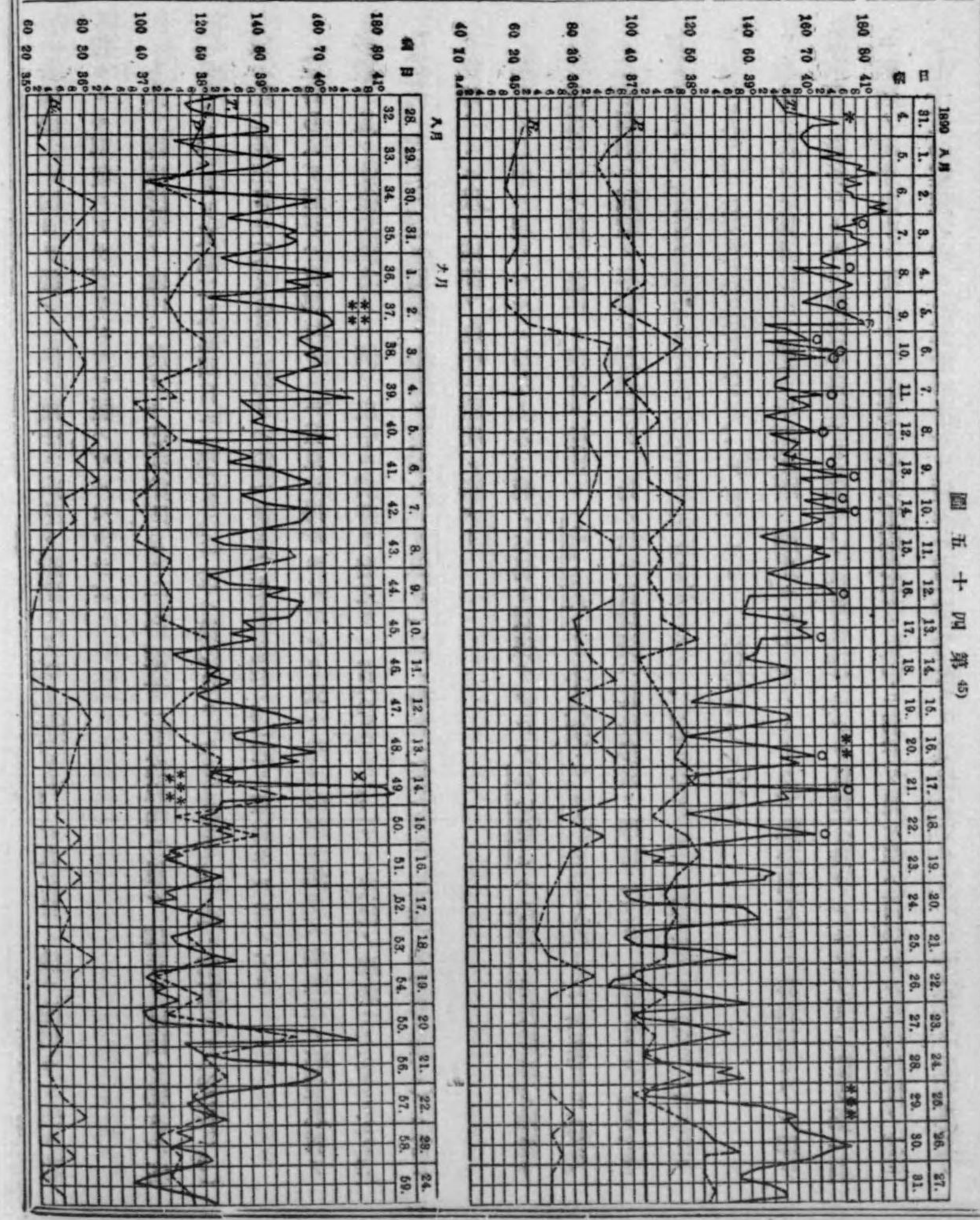
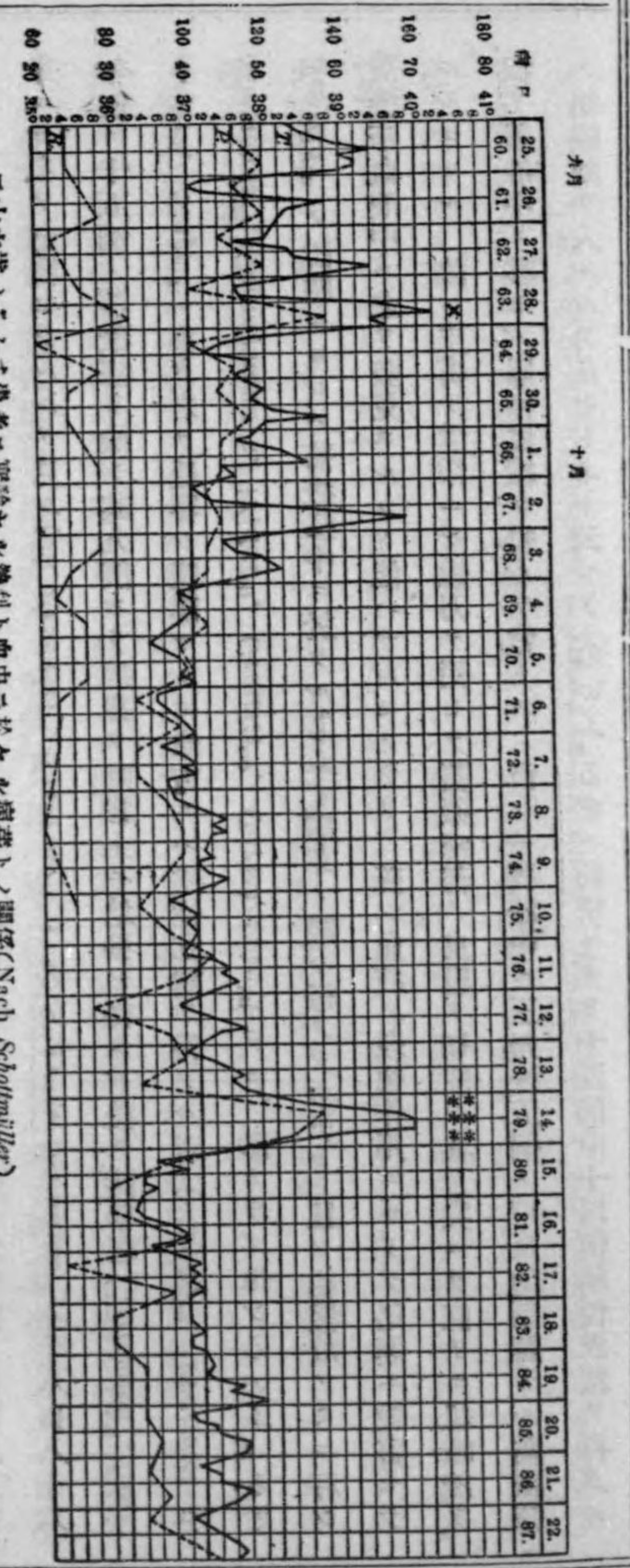


圖 五 十 四 第 45)

1). *Conradi*, deutsche med. Wochenschr. 1906.
 2). *Gennari*, Rif. med. 1907.
 3). *Epstein*, Americ. Journ. of med. science. August 1908.



二十六歳ノちふす患者ニ關シテ血中ニ於テ桿菌トノ關係(Nach Schottmüller)

*第四病日ノ血液十八立方センチメートルニ加ヘタルバクテリア加減表平版上ニ發育セテ 繁殖數六十六個

**第二十病日ノ血液二十立方センチメートルニ加ヘタル同上平版上ニ發育セテ 繁殖數四個

***第二十九病日ノ血液二十立方センチメートルニ加ヘタル同上平版上ニ發育セテ 繁殖數十三個

****第三十七病日ノ血液二十立方センチメートルニ加ヘタル同上平版上ニ發育セテ 繁殖數一個

*****第四十九病日ノ血液二十立方センチメートルニ加ヘタル同上平版上ニ發育セテ 繁殖數一個

*****第七十九病日ノ血液二十立方センチメートルニ加ヘタル同上平版上ニ發育セテ 繁殖數零

× 脈案觀察ノ印 ○ 入浴ノ印 P. 脈温 T. 血温 R. 呼吸

血中ニ四十二% 四十一例ノ中等度ノ者ニ六十一% 二十一例ノ重症者ニ七十六% 二十七例ノ最重症者ニ七十八% 陽性成績ヲ得タリ 但シ他ノ學者(*Conradi*¹⁾, *Gennari*²⁾, *Epstein*³⁾)ノ血液検査成績ト病症ノ輕重トノ間ニ何等ノ關係ナキヲ疑ヒテ 一立方センチメートルノ血中ニ二百個以下ノ菌ヲアルヲ普通トスルモ 一立方センチメートルノ血中ニ八百七十二個發見セル者(*Schiffner*)⁴⁾ノ如キ患者ノ血中ニハ多クハ唯ダちふす桿菌ノミ存在シ稀ニ化膿球菌 化膿球菌 肺炎球菌 四聯菌

ちふす桿菌ニ因ル疾病(血行中ノちふす桿菌證明法)

- 1). Becker, hyg. Rundschau. 1908.
- 2). Bitter, deutsche med. Wochenschr. 1910.
- 3). Büsse, münch. med. Wochenschr. 1908.
- 4). Froenkel, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 34. 1900.
- 5). Kasarinoff, ref. münch. med. Wochenschr. 1903.
- 6). Neuhaus, berl. klin. Wochenschr. 1888.
- 7). Thiemich, deutsche med. Wochenschr. 1895.
- 8). Rüttemeyer, Centralbl. f. klin. Med. 1887.
- 9). Singer, wien. klin. Wochenschr. 1896.
- 10). Goffky, Mitt. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 2. 1884.
- 11). Fraenkel u. Simmonds, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 2. 1887.
- 12). Chantemesse u. Vidal, Arch. d. physiol. norm. et pathol. 1887.
- 13). Grawitz, Charité-Ann. Bd. 17. 1892.
- 14). Curschmann, Unterleibstypus. 1898.
- 15). Neufeld, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 30. 1899.

菌 大腸桿菌ノ如キモノちふす桿菌ト共ニ存在シ 至テ稀ニハばらちふす桿菌ノ共存ヲ見ルコトアリ
 ばらちふす桿菌B型ノ共存例ニニアリ (Becker¹⁾, Bitter²⁾) 殊ニ興味多キハ臨牀上又ハ解剖學的ニち
 ぶすノ微ナカリシ粟粒結核患者ニ例ト肺結核及肺炎ノ各一例トノ血中ニちふす桿菌ヲ證明シ得タル
 コト是ナリ (Büsse³⁾)

ちふす病芽ハ患者ノ血中ニ於テハ増殖スルコトナキモちふす屍血中ニ於テハ旺盛ナル増殖ヲナス
 蓋シ血液ノ殺菌作用ノ如何ニ基クモノナリトス 血液ハちふす桿菌ニ對シ管ニ殺菌作用ヲ逞フスル
 ノミナラズ其増殖力ヲ阻害スル故ニ認識シ得ベキ聚落發生スルニ四乃至五日ヲ要スル場合尠ナシト
 セズ

蓋微疹 Roseola ハ即ちちふす桿菌ニヨリテ生ゼル轉移性小病竈ニシテ蓋微疹部ノ乳嘴體ノ淋巴道ハ病
 芽ニヨリテ充填セララルルヲ見ル (E. Fraenkel⁴⁾, Kasarinoff⁵⁾) のニハチふす Neuhaus⁶⁾ ハ千八百八十六
 年既ニ十五例ノ蓋微疹ヲ檢シ其九例ヨリ病芽ヲ阿膠上ニ培養シ得タリ後チ諸學者 (Thiemich⁷⁾, Rüt-
 temeyer⁸⁾, Singer⁹⁾) 亦タ之ヲ覆審シ證認セルモ他方ニハ陰性成績ヲ得タル者 (Goffky¹⁰⁾, Fraenkel u.
 Simmonds¹¹⁾, Chantemesse u. Vidal¹²⁾, Grawitz¹³⁾, Curschmann¹⁴⁾ u. a.) 尠カラズ但シノニハチふす
 Neufeld¹⁵⁾ ノ説明ニヨレバ蓋微疹中ニ於ケルちふす病芽ノ數ハ極メテ少ナク 且ツ組織液ノミニ存シ
 蓋微疹血液中ニ之ヲ發見スルコト能ハザルモノナリ 蓋シ血液ノ殺菌作用ニヨリテ迅速ニ殺菌セラ
 ルルニヨル 故ニ皮膚ヲ清淨ニシ銳刀ヲ用ヒテ蓋微疹部ノ皮膚ヲ切開シ其刀尖ニテ直チニ組織液ヲ
 採リ養液中ニ移セバ陽性成績ヲ得ルヲ常トス 但シ一養液中ニ三乃至五個ノ可及的新鮮ナル蓋微疹
 ノ組織液ヲ入ルルヲ良シトスト云ヘリ のニハチふす此法ニヨリ十五例中十四例陽性成績ヲ得タル

- 1). Curschmann, münch. med. Wochenschr. 1899.
- 2). Scholz u. Krause, Zeitschr. f. klin. Med. Bd. 41. 1900.
- 3). Widenmann, deutsche militärärztl. Zeitschr. 1901.
- 4). Richardson, Philadelphia med. Journ. 1910; Journ. of the Boston soc. of Med. sc. Vol. 4. 1900.
- 5). Seemann, wien. klin. Wochenschr. 1902.
- 6). Polacco u. Gemelli, Centralbl. f. inn. Med. 1902.
- 7). Schmiedicke, deutsche militärärztl. Zeitschr. 1905.
- 8). Menzer, zit. nach Schmiedicke.
- 9). Ezner, deutsche militärärztl. Zeitschr. 1905.
- 10). Gossner, münch. med. Wochenschr. 1905.
- 11). Philipowicz, wien. med. Blätter. 1886.
- 12). Lucatello, Bull. d. R. Acad. med. di Genova. 1886.
- 13). Reitenbacher, Zeitschr. f. klin. Med. Bd. 19. 1911.
- 14). Neisser, ebenda. Bd. 23. 1893.
- 15). Silvestrini, Settim. med. 1896 et 1897.
- 16). Adler, deutsche Arch. f. klin. Med. Bd. 75.

ノミナラズ他ノ學者 (Curschmann¹⁾, Scholz u. Krause²⁾, Widenmann³⁾, Richardson⁴⁾, Seemann⁵⁾,
 Kasarinoff u. a.) モ亦満足ナル結果ヲ見タリ 又蓋微疹組織片ヲ抽出シ之ヲ肉汁中ニ致シ病芽ノ存
 在ヲ證明セル者 (Polacco u. Gemelli⁶⁾) アリ 又蓋微疹斑ヲ層毎ニ搔把シ組織液ヲ採リ肉汁中ニ致シ
 (Schmiedicke⁷⁾) 好果ヲ獲得セル者 (Kulscher, Menzer⁸⁾) アルモ之ニハチふすねる Erne⁹⁾ ハ特ニ其優レル
 ヲ發見スルコト能ハザリキ 之ヲねる Gossner¹⁰⁾ ハ蓋微疹液ヲ採取スルニ火焰ニテ無菌性トナセル摩
 附木ノ尖端ニテ蓋微疹部ヲ穿刺セリ

蓋微疹ニ於ケル細菌學的検査ハ糞便検査及ぬだる反應検査ノ短ヲ補ヒ早期診斷ノ目的ニ應用セ
 ラレタルモ現今ハ循環血液ヲ檢スルノ利ナルヲ悟リシ爲メニ其價值大ニ落テタリ 蓋シ後者ニヨリ
 テハ發病ノ初日ニ陽性成績ヲ擧ゲ得ルモ蓋微疹ハ第一週ノ終リ又ハ第二週ノ初メニ發生スルニヨル
 脾臟穿刺液検査モ血液培養法ノ詳カナラザリシ往時ニハ屢々應用セラレ好果ヲ齎ラセルモノナリ
 (Philipowicz¹¹⁾, Lucatello¹²⁾, Chantemesse u. Vidal, Reitenbacher¹³⁾, Neisser¹⁴⁾, Silvestrini¹⁵⁾, Widen-
 mann, Adler¹⁶⁾) 三百例ヲ檢シ腸 Michelazzi u. Pera¹⁷⁾ 熱發ノ初メニハ比較的好良ナル結果ヲ得ト云フ但シ
 傾性ちふす症ニ陰性成績ヲ得タル者 (Chantemesse¹⁸⁾) アリ又輕症ちふすノ診斷ニハ脾臟穿刺ノ有效
 ナルヲ敘セル者 (Biffi u. Galli¹⁹⁾) アリ又 Thomas²⁰⁾ ハ新ニ軟性腫脹ヲナセル脾臟ノミヨリちふ
 す病芽ヲ證明シ得ルモノナルヲ云ハリ

脾臟液ヲ診斷用ニ供スルハ管ニ危險ヲ伴フノミナラズ陰性成績ヲ得ルコトナキニシモアラザルヲ
 以テ況ク實用セラレズ穿刺セル患者ノ屍ヲ剖キ脾臟被膜ニ長サ半センチメートルノ細裂アリテ約百
 立方センチメートルノ血液腹腔内ニ貯藏セル例ヲ見シ者 (Hädicke²¹⁾, Jancsó²²⁾) アリ

17). Michelazzi u. Pera, Giorn. intern. sc. med. Vol. 9. 1906. 18). Chantemesse, Sem. med. 1899.
 19). Bilfi u. Galli, Rev. crit. di clin. med. 1901. 20). Thomas, klin. Jahrb. Bd. 17. 1907. 21).
 Hädke, deutsche med. Wochenschr. 1897. 22). Jancsó, Centralbl. f. Bact. Bd. 35. 1903. 23).
 Kurth, deutsche med. Wochenschr. 1901. 24). Vincent, Compt. rend. soc. Biol. 1903. 25). Rolly,
 münch. med. Wochenschr. 1909. 26). Levy u. Gissler, zit. nach Curschmann: Unterleibstypus u.
 Handb. spez. Pathol. u. Therapie. 27). Vas, wien. klin. Wochenschr. 1906. 28). Vincenzi,
 Zeitschr. f. Hyg. Bd. 62. 29). Neufeld, Handb. von Kolle-Wassermann. 1. Aufl. Abdominaltyphus.
 30). Wassiljoff, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 55. 1906. 31). Wyssokowicz, ebenda. Bd. 59; münch.
 med. Wochenschr. 1910. P. 963. 32). Streng, Arb. a. d. pathol. Inst. Helsingfors. Jena 1902.

ちふす桿菌一種ノ敗血症ニシテ全身ノ血行中ニ其病芽存ス從テ諸臟器殊ニ腎臟ニ轉移ス故ニちふす
 桿菌ガ尿中ニ現ハルルハ敢テ怪ムニ足ラズト雖モ其如何ナル徑路ヲ經テ尿中ニ現ハルルヤニ關シテ
 ハ異論アリテ未ダ一定セザルガ如シ或ハ外部ヨリ尿道ヲ經テ膀胱内ニ達スルヲ説キ (Kurth) 或ハ
 ちふす桿菌ハ好ミテ膀胱壁ニ病竈ヲ形成スルモノナリト説セルアリ (Vincenzi) 宛モ大腸桿菌性膀胱
 加答兒症ニアリテ其菌芽ハ外部ヨリ迷入セルモノナリヤ或ハ腎臟ヲ經由セルモノナリヤ詳ナラザル
 ト同一轍ナリ

臨牀上ノ知見ニヨルニ菌尿症 Bakteriuria ハ認識シ得ベキ腎臟ニ於ケル炎性機轉ト何等ノ關係ナキ
 コトアリ (Rolly, Levy u. Gissler, Vas u. a.) 故ニ菌芽ハ健腎ヲ通過シテ尿中ニ達シ得ルモノノ
 如シニるトハ動物試驗成績ニ基キ其可能性ヲ力説シ、 Vincent ハ大腸桿菌ヲ家兎
 ニ注射セバ數時間ノ後チ健腎ヲ通過シ尿中ニ達シ得ルモ此際或るびぎ曲細尿管ニ變狀アルヲ發見
 スルコト能ハザルヲ説セリ 但シ菌芽ガ健康ナル腎臟ヲ通過スルハ絶對的ノ不可能ナルヲ主張スル者
 (Neufeld, Wassiljoff, Wyssokowicz, Streng, Asch u. a.) ナキニシモアラズ近時竹内⁽³⁾ ハ此等
 諸説ニ對シ評シテ曰ク從來諸家ニヨリテ發表セラレタル菌芽ノ健腎通過如何ノ研究報告ハ其成績ノ
 如何ニ拘ハラズ決シテ誤レルモノニアラズ其健腎ヲ通過スト云フモ通過セズト云フモ是レ一ニ唯ダ
 腎臟ノ狀態如何ノミヲ檢シ他ノ方面ノ探究ヲ等閑ニ附セル結果ニ因ラズンバアルベカラズ血中ニ存
 スル細菌ハ健腎ヲ通過シ得ルモノナルモ其血液ノ殺菌作用ノ強弱如何ニヨリテ或ハ尿ニ證明シ得ザ
 ルアリ或ハ生菌ノ存在ヲ認識シ得ルコトアルモノナリト

腎臟通過ニ關シテハ既ニ寄生物性論第一卷第五百六十九頁ニ其一端ヲ説ケルモ更ニ諸學者ノ研究成績ニ關シ略説スル所アラ

33). Asch, Centralbl. f. Harn- u. Sexualorg. 1902. 34). 竹内, 日本微生物學會雜誌第十一卷.
 35). Grawitz, Virchow's Archiv. 70. 877. 36). Wyssokowicz, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 1. 1886. 37).
 Trambusti u. Maffucci, Rivista internaz. di med. e. chir. 1886. No. 9. u. 10; Baumgarten's Jahrb. 1886.
 Bd. 2. 38). Frjedr. Schweizer, Virchow's, Archiv. Bd. 110. 1887. 39). Boccardi, Rif. Medica.
 131 u. 132. 1888; Baumgarten's Jahrb. 1888. 40). Neumann, berl. kl. Wochenschr. 1888. Nr. 7-9.
 41). Konjajeff, Zentralbl. f. Bact. Bd. 6. 1889; Baumgarten's Jahrb. 1899. P. 228. 42). Birch-
 Hirschfeld, Verhandlungen der Naturforscher zu Bremen. 1890; zit. nach Biedl und Krous. 43).
 Foulhaber, Ziegler's Beiträge z. path. Anat. u. allg. Path. Bd. 10. 1891; Zentralbl. f. Bakt. Bd. 10.
 1891. 44). Pernice u. Scagliosi, deutsche med. Wochenschr. 34. 1892.

千八百七十七年(一七〇〇) Grawitz⁽³⁶⁾ ガ犬及家兎ノ血管内ニ微菌芽胞ヲ注射セルニ其芽胞ノ一部分ハ健康ナル腎臟ヲ通過シテ
 尿中ニ排出セラルルヲ報告セシ以來諸家々々出テテ細菌ハ果シテ健腎ヲ通過スルモノナリヤ否ヤノ問題ニ關シ幾多ノ研究ヲナセリ
 即チ千八百八十六年(一八七〇) Wyssokowicz⁽³⁷⁾ ハ脾脫疽桿菌 橙黄色化膿球菌 及 化膿菌ヲ血行中ニ送り而シテ
 用ヒ又ハ死後其膀胱ヨリ直接ニ尿ヲ採リ試驗セルニ若シ泌尿器系統ニ局所ノ變化ナキトキハ血中ニ於ケル細菌ハ決シテ尿中ニ現出
 スルモノニアラズ而シテ其尿中ニ細菌ノ存在ヲ證明シ得ル場合ニハ必ズ腎臟ニ變化即チ血管ノ損傷アリト主張シとらむす⁽³⁸⁾ 及
 まふく⁽³⁹⁾ Trambusti und Maffucci⁽³⁵⁾ ハ脾脫疽桿菌ヲ家兎ニ注射セシニ該菌ハ健腎ト雖モ能ク之ヲ通過シテ尿中ニ排出セラルルヲ
 證シテ之ハ⁽⁴⁰⁾ Schaefer⁽⁴⁰⁾ ハ一方ニ於テハ⁽⁴¹⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ其内科ノ疾病ノ際ニ於ケル細菌學ノ検査ノ診斷上ノ價值ト題スル自家研究報
 告中ニ於テ細菌ノ健腎通過ヲ是認シ⁽⁴²⁾ Neumann⁽⁴⁰⁾ ハ⁽⁴³⁾ Foulhaber⁽⁴³⁾ ハ⁽⁴⁴⁾ Pernice und Scagliosi⁽⁴⁴⁾ ハ⁽⁴⁵⁾ Foulhaber⁽⁴³⁾ ハ⁽⁴⁶⁾ Foulhaber⁽⁴³⁾ ハ
 腎臟ハ代價的動作ヲ爲ス結果血壓亢進ヲ來シテ細菌ノ通過ヲ早カラシムルモノトセリ且ツ彼ハ細菌ノ健腎通過ハ否定スルコ
 ト能ハザルモ然モ多クノ場合腎臟ハ吾人ノ認メ得可カラザル變化ヲ起セルモノナルベシト云ヘリ⁽⁴⁷⁾ Boccardi⁽³⁸⁾ ハ脾
 脫疽桿菌ヲ以テ試驗シ⁽⁴⁸⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁴⁹⁾ Neufeld⁽²⁹⁾ ハ⁽⁵⁰⁾ Neufeld⁽²⁹⁾ ハ⁽⁵¹⁾ Neufeld⁽²⁹⁾ ハ⁽⁵²⁾ Neufeld⁽²⁹⁾ ハ⁽⁵³⁾ Neufeld⁽²⁹⁾ ハ⁽⁵⁴⁾ Neufeld⁽²⁹⁾ ハ⁽⁵⁵⁾ Neufeld⁽²⁹⁾ ハ
 ニ排出セラルルモノナリト⁽⁵⁶⁾ Neumann⁽⁴⁰⁾ ハ⁽⁵⁷⁾ Neumann⁽⁴⁰⁾ ハ⁽⁵⁸⁾ Neumann⁽⁴⁰⁾ ハ⁽⁵⁹⁾ Neumann⁽⁴⁰⁾ ハ⁽⁶⁰⁾ Neumann⁽⁴⁰⁾ ハ
 皆中ニ於テ細菌ノ健腎通過ヲ是認シ⁽⁶¹⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁶²⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁶³⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁶⁴⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁶⁵⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ
 スルハ腎臟血管ノ變化ニ由來スルモノニシテ腎毛細血管ハちふす桿菌ニヨリテ充填セラレ且ツ壞死セル轉移性小病竈アルヲ見ルト
 論セリ⁽⁶⁶⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁶⁷⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁶⁸⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁶⁹⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁷⁰⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁷¹⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁷²⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁷³⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ
 變化アル時ニ於テノミ排出セラルルモノナリト⁽⁷⁴⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁷⁵⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁷⁶⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁷⁷⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁷⁸⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ
 他⁽⁷⁹⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁸⁰⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁸¹⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁸²⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁸³⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁸⁴⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁸⁵⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ
 ノニアラズト⁽⁸⁶⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁸⁷⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁸⁸⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁸⁹⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁹⁰⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁹¹⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁹²⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁹³⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁹⁴⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁹⁵⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁹⁶⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁹⁷⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁹⁸⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽⁹⁹⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ⁽¹⁰⁰⁾ Konjajeff⁽⁴¹⁾ ハ

- 1). Fr. Rolly, münchener med. Wochenschrift. 1902. Nr. 37.
- 2). 竹内, 日本微生物學會雜誌 第十一卷.
- 3). Konajeff, Baumgartens Jahresh. 1899; Centralbl. f. Bact. Bd. 6. 1889.
- 4). Hüppe, Fortschr. d. Med. 1886.
- 5). Seitz, bakteriolog. Studien zur Typhusaetiologie. München 1886.
- 6). Neumann, berl. klin. Wochenschr. 1883 u. 1890.
- 7). Petruschky, Centralbl. f. Bact. Bd. 23. 1898.

或ハ腎臟血管ノ損傷アル時ニノミ尿中ニ排出セラルルヲ主張セリ 翌年ルリー Dr. Rolly¹⁾ ハちふす患者ニアリテハ尿中ニ血液ヲ混セザル場合ニモ尙病芽ヲ尿中ニ證明スルコトアルヲ以テ細菌ハ果シテ腎臟ヲ通過シ得ルモノナリト云フヲ知ラント欲シ先ヅ十九人ノちふす患者ニ就テ檢セシニ其中七人ハ蛋白質尿ヲ有セズ十二人ハ蛋白質尿ヲ有セザル七人中三人ノ尿中ニちふす桿菌ヲ證明スルヲ得白尿ヲ有スル十二人中八人ノ尿ニ同シク菌ヲ證明シ得タリ而シテ彼ハ尙動物試驗ヲ行ヒ免毒腺内ニ綠膿桿菌キー²⁾ 桿菌 均糖色化膿球菌等ヲ注射シテ得テニテ膀胱ヨリ採尿シ検査セル結果 細菌ハ健腎竝ニ病的變化ヲ呈セル腎臟ヨリ尿中ニ排出セラルルモノナルヲ知レリ而シテ其腎臟ヲ通過スルハ綠膿桿菌ヨリスルモノトナセリ 竹内³⁾ ハ靈桿菌ヲ家兔血中ニ種リ尿中ニ同名菌ノ現出如何ヲ檢セシニ或ハ之ヲ認メ或ハ之ヲ認識シ得ザリキ於茲血液ノ殺菌力ト尿中ニ於ケル菌芽ノ現出トノ關係ヲ精査セシニ尿中ニ菌芽現ハルル者ノ血液ハ殺菌力弱ク之ニ反スル者ハ殺菌力強大ナルヲ確證シ結論シテ曰ク細菌ハ健腎ヲ通過シ得ルモノナルモ血液ノ殺菌力強大ナレバ之ヲ尿中ニ檢出シ能ハザルモノナリ從來ノ論争ハ主トシテ腎臟ノ變化如何ノミニ注意ヲ拂ヒ血液ノ殺菌力ヲ顧慮セザリシ結果自然ニ陷レル誤謬ニ過ギズト

ちふす尿ノ腎臟ニ病的變化存スルコトアルハ人ノ熟知スル所ナリ 但シ壞疽性小轉移竈 (Konjajeff⁴⁾) アルトキ又ハちふす病芽腎臟組織中ニ迷入セル結果生ゼル淋巴腫^{皮膚ノ醫疹ニ於ケルカ知ケルノ}數量多キトキ (Vassijeff, Wysskownica) ニ限リ病芽尿中ニ現ハルモノナリヤ否ヤ 未ダ俄ニ斷案ヲ下シ得ザルモ菌芽ハ健腎ヲ通過シ得ルモノナルベシ 勿論病的變化アル場合ト否ラザル場合トニハ其通過ニ自然ニ難易ノ別アリテ尿中ニ現ハル菌量ニ多寡ノ差ヲ生ズルハ自明ノ理ナリ 千八百八十六年¹⁸⁸⁶ Hippe⁵⁾ 及¹⁸⁸⁷ Seitz⁶⁾ ガ偶然ちふす患者ノ尿中ニ病芽アルヲ實驗セシ以來¹⁸⁸⁸ Neumann⁷⁾ ハ多數ノ症例ニ之ヲ目撃セリ千八百九十八年ニ至リベシ¹⁸⁹⁸ Petruschky⁷⁾ ハ疫學上ニ於ケル菌尿症ノ意義ニ關シ特ニ留意シ其尿ヨリ排出セラルル菌量ハ多

- 1). Horton-Smith, Trans. of the R. med. and surg. soc. London. Vol. 80; Lancet. 1900. I.
- 2). Richardsm, the Journ. of exper. med. 1898 and 1899.
- 3). Neufeld, deutsche med. Wochenschr. 1900.
- 4). Baart de la Faille, Centralbl. f. Bact. Bd. 18. 1895.
- 5). Besson, Revue de mé. 1897.
- 6). Rostocki, münch. med. Wochenschr. 1899.
- 7). Schichold, deutsches Arch. f. klin. Med. Bd. 64.
- 8). Bösenberg, Diss. München; ref. Baumgartens Jahresber. 1899.
- 9). Urban, wien. med. Wochenschr. 1897.
- 10). Guyn, the Philadelphia med. Journ. 1900.
- 11). Young, the Johns Hopk. Hôsp. Rep. Vol. 8. 1900.
- 12). Fischer, Zeitschr. f. Hyg. Pd. 32. 1899.
- 13). Schüder, deutsche med. Wochenschr. 1901.
- 14). Fuchs, wien. klin. Wochenschr. 1902.

ク且ツ其排泄ハ久シク持續スルヲ較セリ ちふす患者ニ於ケル菌尿症ノ頻度ハ既ニ諸家 (Horton-Smith¹⁾, Richardson²⁾, Neufeld³⁾, Baart de la Faille⁴⁾, Steserini⁵⁾, Besson⁶⁾, Rostocki⁷⁾, Schichold⁸⁾, Bösenberg⁹⁾, Urban¹⁰⁾, Guyn¹¹⁾, Fischer¹²⁾, Schüder¹³⁾, Fuchs¹⁴⁾, Burdach¹⁵⁾, Ishikawa u. Kabakie¹⁶⁾, Loida¹⁷⁾, Cole¹⁸⁾, Jacobs¹⁹⁾, Pfister²⁰⁾, Vincent²¹⁾, Flamini²²⁾, Sato²³⁾, Lesieur u. Mahaupe²⁴⁾, Herb er²⁵⁾, Klimenko²⁶⁾, Dmitz²⁷⁾, Rolly²⁸⁾, Curletto²⁹⁾, Raubitschek³⁰⁾, Napier u. Buchanan³¹⁾, Vas³²⁾, Wassijeff³³⁾, Tsunuki³⁴⁾, Lesieur³⁵⁾ u. a.) ニヨリテ報告セラレチムス總患者ノ二分ノ一乃至四分ノ一ハ尿中ニ病芽ヲ排泄シ其數多キトキハ一億以上ニ達シ爲メニ尿ハ濁濁ス而シテ菌尿症ノ持續期ハ不定ニシテ四週間ニシテ止ムモノアルモ稀ニ七ヶ年 (Nieprasch³⁶⁾) 又ハ十ヶ年 (Mejer u. Ahreiner³⁷⁾) 間持續セル例アリ

寄生物性病論補遺第二百六頁及七本卷第六百六頁參照

尿中ニ於ケルちふす病芽ヲ證明スルハ比較的容易ニシテ 寄生物性病論第一卷 第五百七十五頁參照 可檢尿ヲ送リカスルニ凝菜又ハ速藤凝菜ニ塗付スルカ或ハ弱あるかり性肉汁ニ無菌性操作ノ下ニ採ルル尿ヲ直接ニ注加ス (Pfister) レバ足ルナリ蓋シチムス桿菌ハ通常巨量ニ且ツ往々純粹培養ノ状態ノ下ニ尿中ニ存在スルニヨルモノナリトス (Richardson, Herbert, Pfister, Flamini) 尿中ニ於ケル菌數少ナキ場合ニアリテモ若シ之ヲ人工的ニあるかり性トナセバ容易ニ檢出スルコトヲ得 (Curletto) 竹内³⁾ ハ Petruschky⁷⁾ ハちふす患者ノ尿一立方センチメートル中ニ一億以上 都築³⁸⁾ ハ約二千萬ノ病芽存セルヲ實驗セリ 菌量若シ饒多ナルトキハ勿論膀胱加答兒症ナキ場合ト雖モ尿ハ濁濁ス而シテ尿中ニ菌ノ現ハルルハ持續的ニアラズシテ不明ノ原因ニヨリ隱顯出沒スルモノナリ故ニ注意シテ毎日検査スルトキハ菌尿症比較的多キヲ發見スベシチムス患者ノ十七% (Vincent, Klimenko, Loida) 或ハ二十一% (Richardson³⁹⁾)

45). Lévi u. Lémierre, ref. Virchow-Hirsch. Jahresber. 1901. 46). Stadler, Sitz.-Ber. d. med. Ges. zu Leipzig. 20. Febr. 1906; ref. Münch. med. Wochenschr. 1907. 47). Roosing, Inf.-Krankh. d. Harnorgane. Berlin 1898. 48). Neumann, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 25. 1907. 49). Ourschmann, münch. med. Wochenschr. 1900. 50). Biss, Edinbourgh med. Journ. 1902. 51). Neufeld, deutsche med. Wochenschr. 1900. 52). Napier u. Buchanan, Glasgow med. Journ. 1906. 53). Nieprach, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 64. 54). Stüklern, Centralbl. f. Bact. Bd. 27. 1900. 55). Bancel, Journ. de physiol. et pathol. génér. 1903. III. 56). Fraenkel, deutsche med. Wochenschr. 1899. 57). Dieudonné, Centralbl. f. Bact. Bd. 30. 1901. 58). Arustanoff, ebenda. Bd. 6 u. 7. 59). Richardson, Brit. med. and surg. Journ. 1903.

詳ナラザルモ病芽ガ血管ヨリ肺ニ迷入セル結果ナラムト想像セル者(Glaser)アリちふす性肺炎ニ於ケル喀痰ハ多クハ出血性ナリラウ Pauハ腸症状ナクシテ肺炎ノミヲ訴ヘル所謂肺ちふす Pneumotyphusノ一例ヲ實驗セリ又ヒエール Jelinekハ肺炎球菌トノ混合傳染ニヨレル肺炎ヲ屢々實驗セルノミナラズちふす患者ノ單純氣管枝炎ノ喀痰中ニモちふす桿菌ヲ發見セリ故ニ此ノ如キ場合ニハムリッ
 びノ所謂泡沫傳染モ成立シ得ルモノナラムト想像スルニ至レリ

管ニ氣管枝及肺臟ノミナラズ爾餘ノ呼吸器ノ部ニモ轉移性病竈ヲ形成シ得ルモノナリ しるつ Schultz⁵⁰⁾ハ會厭軟骨部ニ於ケル腫脹淋巴濾胞中ニちふす桿菌存スルヲ實驗シ 又他ノ學者(Bentley⁵¹⁾, Mya⁵²⁾, Blum⁵³⁾ハちふす性安魏那 Angina typhosaノ口蓋潰瘍ヨリちふす病芽ヲ發見セリ 又のう⁵⁴⁾ Sjölin⁵⁵⁾ Novotny⁵⁶⁾ハ潰瘍性ちふす安魏那 ulcerose Typhusanginaヲ報告シちふす病芽ヲ發見セリ Drigalski⁵⁷⁾ハ舌苔及扁桃腺ニちふす桿菌ヲ發見シ かつて Katsch⁵⁸⁾モ扁桃腺上ニちふす病芽ノ存セル一例ヲ敘セリ

肋膜腔内ニちふす病芽ガ繁茂スルハ比較的多クちふす桿菌ニヨリテ或ハ漿液性又ハ化膿性肋膜炎ヲ發スルハ既ニ多數ノ學者(A. Fraenkel⁵⁹⁾, D. Gerhardt⁶⁰⁾, Warburg⁶¹⁾, Loriga u. Pensult⁶²⁾, Ferneg⁶³⁾, Schütz⁶⁴⁾, Spitzig⁶⁵⁾, Valentini⁶⁶⁾, Weinstrand⁶⁷⁾, Ramlinger⁶⁸⁾, Vidal u. Lémierre⁶⁹⁾, Eincker⁷⁰⁾, Blasius⁷¹⁾ニヨリテ實驗セラレタル所ニシテ往々ちふす桿菌ノミニテ惹起セラルルモノアリ其他ちふす桿菌ニヨリテ肺楔狀出血ヲ招來セル例(Detting⁷²⁾)アリ

腸道内ニちふす桿菌ガ現ハルルハ決シテ稀ナラズ恐ク殆ド全ちちふす患者然ルナラムちふす桿菌ハ腸囊内ニ於テハ其發育要約最モ佳ナルガ如シ蓋シ胆汁添加ニヨリテ同名菌ノ試験管内ニ於ケル發育

60). Glaser, deutsche med. Wochenschr. 1902. 61). Drigalski, Centralbl. f. Bact. Bd. 35. 1904. 62). Edel, Fortschr. d. Med. 1901. 63). Mannicote, Centralbl. f. Bact. Bd. 46. 1908. 64). Rau, Zeitschr. f. Heilk. Bd. 25. 1904. 65). Chantemesse u. Vidal, Arch. d. physiol. norm. et pathol. 1887. 66). Jekle, wien. klin. Wochenschr. 1902. 67). Schultz, berl. klin. Wochenschr. 1894. 68). Bendix, deutsche med. Wochenschr. 1902. 69). Mya, Festschr. f. G. Bozzolo. Turin 1904; ref. Centralbl. f. Bact. 1905. 70). Blum, Sem. med. 1908. 71). Novotny, wien. klin. Wochenschr. 1909. 72). Drigalski, Centralbl. f. Bact. Bd. 35. 1904. 73). Kathe, ebenda. Orig. Bd. 55. 1910. 74). Fraenkel, deutsche med. Wochenschr. 1899. 75). Gerhard, Mitteil. a. d. Grenzgeb. d. Med. u. Chir. Bd. 5. P. 105. 76). Warburg, münch. med. Wochenschr. 1899.

旺盛ナルガ爲ナリ(Meyerstein⁷³⁾, Fiss⁷⁴⁾病芽腸囊内ニ於テ發育シ臨牀上何等ノ症状ヲ呈スルコトナキ場合ニモ腸囊壁ニハ多少炎症變化アルヲ見ルモノニシテ多數ノ場合ニハ深蝕セル壞疽性炎症及限局性腸道變化アリ(村山⁷⁵⁾ E. Frankel⁷⁶⁾すて⁷⁷⁾ Sennar⁷⁸⁾ハ六百二十例ノちふす中七回腸囊炎ヲ發セル者ヲ實驗シ内三例ハ膽石手術ニヨリ其腸囊内ニちふす桿菌存スルヲ認タリ其他ちふす桿菌ニ因スル腸囊炎ヲ實驗セル者頗ル多シ(Mc. Daniel⁷⁹⁾, Müller⁸⁰⁾, Forster u. Kayser⁸¹⁾, Laubenhain⁸²⁾, Khandt⁸³⁾, Bitter⁸⁴⁾, Foedter⁸⁵⁾, Hilgermann⁸⁶⁾, Kamm⁸⁷⁾, Findlay u. Buchanan⁸⁸⁾, Sisto⁸⁹⁾但シ四五ノ學者(Gilbert u. Giroud⁹⁰⁾, Dupré⁹¹⁾, Chiar⁹²⁾, Guarneri⁹³⁾, Anderson⁹⁴⁾, Parmenier⁹⁵⁾, Cushing⁹⁶⁾, Hunner⁹⁷⁾, Camacho⁹⁸⁾, Elbert u. Stolz⁹⁹⁾, Brion¹⁰⁰⁾ノ實驗セル例ハ果シテちふす桿菌ニ因セルモノナリシヤ否ヤ多少判断ニ苦シム所アリ又膽石中ニちふす桿菌ノ存在セルヲ確認セルモノモ尠ナシトセズ(Droba¹⁰¹⁾, Blumenthal¹⁰²⁾, Levy u. Kayser¹⁰³⁾, Narmann¹⁰⁴⁾, Kamm¹⁰⁵⁾, Baumeister¹⁰⁶⁾, Hunner-Wriker¹⁰⁷⁾, Raitout u. Ramond¹⁰⁸⁾, Nietzer¹⁰⁹⁾ u. a.) 其他偶然ちふす桿菌ヲ腸囊中ニ發見セル者アリ(Kisska¹¹⁰⁾, Schuller¹¹¹⁾, Zaehner¹¹²⁾, Nietzer u. Lieftmann¹¹³⁾, Fromme¹¹⁴⁾, Chivier¹¹⁵⁾, Zinsser¹¹⁶⁾, Hammond¹¹⁷⁾, Drigalski¹¹⁸⁾故ニちふす罹患者ハ其病芽ヲ胆汁ニ藏スルモノナルコトヲ推知シ得ベク且ヒ¹¹⁹⁾ Thomas¹²⁰⁾ノ如キハ罹患中ニ既ニ腸囊内ニ病芽ノ存スルヲ見加之發病ノ初週ニモ之ヲ實驗セリト云フ 第五百九十 九頁參照

ちふす桿菌ハ常ニ腸囊壁ノ病的變化及膽石形成ヲ原發セシメ得ルモノニアラザルベク此等ヲ精査スル際ニハちふす桿菌ノ外ニ他種ノ菌芽存スルヲ見ル故ニ既ニ病的變化ヲ發セル腸囊ニアリテハ特ニちふす菌芽ノ進入及發育ニ便ナラシムルガ如キ觀アリ腸囊炎及膽石形成ノ原因トシテちふす桿菌ト他種菌例令バ大腸桿菌 綠膿桿菌 化膿球菌 化膿球菌等ノ如キモノトノ數量的關係ヲ知ラムト欲

77). Loriga u. Pensut, Rif. med. 1891. 78). Fernet, Bull. méd. 1891. 79). Sahli, Centralbl. f. Bact. Bd. 16. 1894. 80). Spirig, Mitteil. a. d. klin. u. med. inst. d. Schweiz. Bd. 1. 1894. 81). Valentini, berl. klin. Wochenschr. 1889. 82). Weintraud, ebenda. 1893. 83). Remlinger, Rev. de méd. 1900. 84). Widal u. Lemierre, Compt. rend. soc. Biol. T. 5. 85). Finecker, Diss. Leipzig. 1905. 86). Blasius, hyg. Rundschau. 1910. 87). Dettling, Gaz. des hôp. 1900. 88). Meyerstein, Centralbl. f. Bact. Bd. 44. 1907. 89). Pies, Arch. f. Hyg. Bd. 62. 1907. 90). Murayama, Mitteil. d. Med. Ges. zu Tokio. Bd. 17. 1903. 91). Fraenkel, Mitteil. a. d. Grenzgeb. der Med. usw. Bd. 20. 1909. 92). Stewart, Brit. med. Journ. 1901. 93). McDaniel, Journ. of the Amer. med. assoc. Vol. 38. 94). Müller, Zeitschr. f. Heilk. Bd. 26.

シ二三ノ學者 (Eumenhals¹⁵⁰, Laubenheimer¹⁵⁰, Bader¹⁵⁰, Baumeister) 精査スル所アリキ。ふるいめんたーハ膽石手術ノ際胆汁ヲ檢セシニ十四回ハ無菌性ニシテ十回ハ大腸菌屬ノモノ存シ唯四回ちふす桿菌ノアルヲ見タリらうべんはいゆるハ三十四例ノ膽囊炎ヲ檢シ唯一回ちふす桿菌ヲ發見セリ大腸桿菌ハ反之六十四例ノ膽囊内ニ存在セリ又ば一でるハ二十五例ノ膽石ヲ檢セシモ遂ちちふす桿菌ガ膽石中ニ存スルヲ發見スルコト能ハザリキ。其他はくまいたすてハ二十例ノ膽石ヲ精査シ唯三回ちふす桿菌ノ包藏セララルルヲ目撃セリ。

ちふす桿菌ノ膽囊内ニ存在スルヤ非常ニ久キニ互ルモノニシテとらば Drobos¹⁵⁰ ハ十七年前ちふす桿菌ノ者ノ膽囊中ニ之ヲ發見セリ其他ちふす桿菌後十六年 (Zinsser) 又二十年 (Hunner-Wrieter¹⁵⁰) ヲ經タル者ニちふす桿菌ノ存在ヲ確認セル報告例二三止マラズ此事實ハ難テ瘧疾流行ノ源ヲ拓クモノニシテ防疫上留意セザルベカラザル要點ノ一ナリトス。

借問ス。ちふす桿菌ガ膽囊内ニ侵入スルニハ如何ナル徑路ヲ執ルヤ。ぶらつくすたいん及るひ Blackstein u. Wolk¹⁵⁰ ハ多數ノ家兔ノ靜脈内ニ生活スルちふす桿菌ヲ注入セシニ其膽囊中ニ菌芽ヲ證明シ得タルノミナラズ百二十八日ヲ經タル後チ他ノ諸内臓ニハ既ちちふす桿菌ヲ發見スルコト能ハザリシニ拘ラズ獨リ膽囊内ニハ其存在ヲ確認セリふゆるすて及かいせる Forster u. Kayser¹⁵⁰ ハ之ヲ覆審シ類似ノ成績ヲ得。Dort¹⁵⁰ ハ幾多ノ動物試驗ヲ反覆シタル後遂ちちふす桿菌ハ血行ヲ經テ膽囊内ニ進入スルモノナルヲ確證セリ即チ皮下又ハ腹腔内ニ注射セルモノ若クハ經口ニ菌芽ヲ送レル試獸(家兔)ニアリテハ膽囊ハ常ニ無菌性ナルノミナラズ靜脈内注射ニ先チテ膽囊管ヲ結紮セルモノニアリテモ無菌性ナリ雖然靜脈内ニ注射セルモノニアリテハ假令輸膽管結紮後ニ注射スル

95). Finster u. Kayser, münch. med. Wochenschr. 1905. 96). Laubenheimer, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 58. 97). Kautz, wien. klin. Wochenschr. 1903. 98). Bitter, deutsche med. Wochenschr. 1910. 99). Foe'rl, münch. med. Wochenschr. 1909. 100). Hülgermann, klin. Jahrb. Bd. 21. 1909. 101). Kamm, münch. med. Wochenschr. 1909. 102). Findlay u. Buchanan, Glasgow med. Journ. 1906. 103). Sisto, Arch. p. l. sc. med. Vol. 30. 1906. 104). Gilbert u. Girode, Compt. rend. soc. Biol. 1890. et 1893. 105). Dupré, les infections biliaire. Paris 1891. 106). Chiari, prager med. Wochenschr. 1893. 107). Guarnieri, Riv. gen. di clin. med. 1892. 108). Anderson, Baumgartens Jahresber. 1896. 109). Parmentier, Sem. méd. 1900. 110). Cushing, Johns Hopk. Hosp. Bull. 1898. 111). Hunner, ebenda. 1899.

モ尙巨量ノ病芽膽囊内ニ侵入シ往々純粹培養ノ状態ニ存在ス而シテ其膽囊内ニ現ハルルヤ頗ル迅速ニシテ注射後八時間ニシテ既ニ多量ノちふす桿菌膽囊管内ニ現ハルモノアリ加之百二十日ヲ經過セル試獸ノ膽囊内ニモ亦其存在ヲ目撃ス又膽囊内ニ於ケルちふす桿菌ノ自然ニ消失スル時期ハ種々ナルモ一般ニ膽囊壁ニ炎症ヲ招來セルトキハ其逗留期久シ其他でるハ感染セル二頭ノ家兔ノ膽囊内ニ於テ結石ヲ發見セシガ其内部ニちふす桿菌存セルヲ實驗セリ。こは J. Koch¹⁵⁰ 及ちあろらんつ。 Chiarolanza¹⁵⁰ ノ覆審成績ハでるノ實驗ニ於ケルト多少異ナリ家兔ノ靜脈内ニ注射セル菌芽ハ既ニ二時間ニシテ膽囊内ニ現ハル又輸膽管ヲ經テ腸ヨリ直接ニ膽囊内ニ迷入シ且ツ血行ヨリ膽囊壁ノ毛細管ヲ經テ直接ニ侵入スル場合アリト云フ。要之血行ヨリちふす桿菌ガ膽囊内ニ轉移スルハ確實ナルモノナリト知ルベシ。

鼓上ノ外ちふす桿菌ハ諸種ノ臟器ニ轉移シ化膿又ハ炎症ヲ發セシム而シテちふす桿菌ハ炎症ヲ原發シ得 (Takaki u. Werner¹⁵⁰, Bollack u. Bruns¹⁵⁰) ルヤ又ハ既ニ他ノ發炎性菌芽ニヨリテ變化セル部ニ二次感染ヲナス (Baumgarten¹⁵⁰, E. Fraenkel¹⁵⁰, Dunin¹⁵⁰, Klemm¹⁵⁰ u. a.) ニ過ギザルモノナリヤノ疑問ニ關シテハ議論多キモ動物試驗ノ教フル所ニヨレバちふす桿菌ニヨリテ化膿ヲ原發スルハ不可能ニアラズ (Orlov¹⁵⁰, Gasser¹⁵⁰, Neumann u. Schäffer¹⁵⁰, Dujars¹⁵⁰, Houls¹⁵⁰, Golts¹⁵⁰, Ullmann¹⁵⁰, Tsching¹⁵⁰, Dmochowski u. Janowski¹⁵⁰) 及びひちちすちふす桿菌ハ一定ノ毒性ヲ有スルちふす桿菌ノ純粹培養ヲ海狸、家兔及犬ノ皮下組織、腦膜、舉丸、骨髓等ニ注射セシニ化膿ヲ形成スルヲ見タリ又同時ニ橙黄色化膿球菌ト混合シテ注射セルモノニアリテハちふす桿菌ハ往々膿瘍部ニ其影ヲ潜メ唯ダ球菌ノミ存スルコトアルモノニ反セル事實ハ一回ダモ實驗スルコト能ハザリキ。

112). Camac, Johns Hopk. Hosp. Rep. Vol. 8. 1908. 113). Ehret u. Stolz, Mitteil. a. d. Grenzgeb. d. Med. usw. 1900. 114). Brion, Centralbl. f. Bact. Bd. 3). 1901. 115). Droba, wien. klin. Wochenschr. 1899. 116). Blumenthal, münch. med. Wochenschr. 1904; med. Klin. 1905. 117). Levy v. Kayser, münch. med. Wochenschr. 1906. 118). Marmann, hyg. Rundschau. 1908. 119). Kamm, münch. med. Wochenschr. 1909. 120). Baemeister, ebenda. 1907. 121). Hunner-Writer, ebenda. 1905. P. 1476. 122). Fautou u. Ramond, Compt. rend. soc. Biol. 1896. 123). Nieter, münch. med. Wochenschr. 1907. 124). Kisskalt, deutsche med. Wochenschr. 1906. 125). Schuller, wien. med. Wochenschr. 1908. 126). Zacher, Centralbl. f. Bact. Ref. Bd. 49. 1911. 127). Nieter u. Liefmann, münch. med. Wochenschr. 1906.

轉移性膿瘍及炎症ノ最モ展現ハルルハ骨系統ニシテ骨膜稀ニ關節及骨髓ニ之ヲ見ルルニ Keen¹¹⁵⁾ハ此ノ如キ症例四十七ヲ擧ゲタルモ細菌學的證明ヲナサザリキゾーレン¹¹⁶⁾ニ Valentin¹¹⁷⁾創メテ膿骨膿瘍ニちふす桿菌ヲ證明セシ以來骨膜ニ於ケルちふす性膿瘍ヨリちふす桿菌ヲ分離セルモノ多シ (Ebermaier¹⁰³⁾, Achalm¹⁰⁴⁾, Barta¹⁰⁵⁾, Welch, Chantemesse u. Vidal¹⁰⁶⁾, Ullmann¹⁰⁷⁾, Richardson¹⁰⁸⁾, Dubray¹⁰⁹⁾, Yachi¹¹⁰⁾, Sultan¹¹¹⁾, Lampe¹¹²⁾, Lescer¹¹³⁾, Miksam¹¹⁴⁾, Conrad¹¹⁵⁾, Burdach¹¹⁶⁾, Unger¹¹⁷⁾, Richardson¹¹⁸⁾, Venema¹¹⁹⁾, Ess¹²⁰⁾ 骨髓又ハ骨膜ニ於ケル膿瘍ハ往々ちふす罹患後比較的長年月ヲ經過セル後チ發スルモノニシテちふす罹患後七年ヲ經タルモノノ骨膿瘍ニちふす病芽ガ純粹培養ノ状態ニ存スルヲ實驗セル者 (Buschke¹²¹⁾)アリ又四年半或ハ六年ノ後ニ骨膿瘍ヲ形成セル例 (Hübener¹²²⁾, Patu¹²³⁾)アリ其他類似ノ例ハ他ノ二三ノ學者 (Orlow¹²⁴⁾, Sulan, Keen)ニヨリテ報告セラレタリクシんケ Quincke¹²⁵⁾ハ毎常骨髓ニちふす桿菌ノ存スルヲ證明シ久シキ年月ニ互リ生活機能ヲ保シ得ルモノノ如ク若シ此際外傷等ヲ蒙ルムコトアレバ病芽ハ其虛ニ乘ジテ骨ニ炎竈ヲ惹起セシムルニ至ルナラト云ヘリ

ちふす罹患後往々化膿セザルモ骨膜肥厚シ且ツ疼痛ヲ訴ヘ後チ自然ニ消散スルコトアリクシんケ Quincke¹²⁶⁾ノ所謂ちふす性脊椎炎 Spondylitis typhosa モ亦タ之ニ屬スルモノニシテ諸家 (Konitzer¹²⁷⁾, Shans¹²⁸⁾, Lovell¹²⁹⁾, Kühn¹³⁰⁾, Bonard¹³¹⁾)同様ノ實驗ヲナセリ

皮下及筋肉間膿瘍ガちふす桿菌ニ原因スルコトアルハふら¹³²⁾ Prall¹³³⁾ニヨリテ報告セラレタリ其他ちふす桿菌ニヨリテ陰門及腫ノ多發性膿瘍ヲ發スルコトアリ (Larigan¹³⁴⁾)又他ノ學者 (Olat¹³⁵⁾, Holscher¹³⁶⁾, Raymond¹³⁷⁾, Swiezynski¹³⁸⁾, Fashing¹³⁹⁾, Zahradnicky¹⁴⁰⁾, Tictine, Melchior¹⁴¹⁾, Spitzig¹⁴²⁾, Prochaska¹⁴³⁾, Bollack u. Erum¹⁴⁴⁾, Richardson, Blasius u. Kath¹⁴⁵⁾, Narmann¹⁴⁶⁾)ノ報告例モ之ニ屬ス

128). Fromme, deutsche Zeitschr. f. Chir. Bd. 107. 1910. 129). Chiari, münch. med. Wochenschr. 1907. 130). Zinsser, Proceed. of the New York Pathol. soc. 1908. 131). Hammond, Journ. of the Amer. med. assoc. Bd. 52. 1909. 132). Drigalski, Centralbl. f. Bact. Bd. 35. 1904. 133). Thomas, klin. Jahrb. Bd. 17. 134). Blumenthal, deutsches Arch. f. klin. Med. Bd. 88. 135). Laubenheimer, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 58. 136). Bader, med. Klin. 1907. 137). Hunger-Writer, münch. med. Wochenschr. 1905. P. 1476. 138). Blacksten u. Welch, Johns Hopk. Hosp. Bull. 1899. 139). Forster u. Kayser, münch. med. Wochenschr. 1905. 140). Doerr, Centralbl. f. Bact. Bd. 39. 1905. 141). Koch, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 62. 1909. 142). Chiaroloma, ebenda. Bd. 62. 143). Takaki u. Werner, ebenda. Bd. 27. 1898. 144). Bollack u. Bruns, deutsche med. Wochenschr. 1901.

ルモノナラム又蓄積疹ニ於ケル病芽發育シテ皮下膿瘍ヲ形成シ (Mayer¹³²⁾)梅毒性分泌物中ニちふす桿菌ヲ發見シ (Stein¹³³⁾)癰腫中ニちふす病芽ヲ見タル者 (Benecke¹³⁴⁾)アリ

ちふす治療後長短種々ノ時日ヲ經テ瘰癧及副瘰癧發シ其病的產物中ニちふす桿菌ヲ見タル者 (Tavel¹³⁵⁾, Myra u. Belfant¹³⁶⁾, Pein¹³⁷⁾, Girde¹³⁸⁾, Strasburger¹³⁹⁾, Bunts¹⁴⁰⁾, Marchildon¹⁴¹⁾, Keen, Doerr)アリ又精囊ニ於ケル膿瘍中ニちふす桿菌ノ存スルヲ確認セル者 (Marchildon, Pick¹⁴²⁾)アリ

ばるどりに一腺モちふす桿菌ニヨリテ化膿スルコトアリ (Takaki u. Werner¹⁴³⁾)

化膿性攝護腺炎ニ唯ダちふす桿菌ノミヲ證明セル者 (Richardson¹⁴⁴⁾, Pick¹⁴⁵⁾)アリ

雌性生殖器ノ化膿性炎モちふす桿菌ニヨリ發スルコトアリ例令ハ卵巢膿腫 (Werth¹⁴⁶⁾, Wallgren¹⁴⁷⁾, Engelmann¹⁴⁸⁾, Watal¹⁴⁹⁾, Dirnseher¹⁵⁰⁾, Zantschenko¹⁵¹⁾, J. Koch¹⁵²⁾, Malagaque¹⁵³⁾, Sudeck¹⁵⁴⁾)

チ手術セル者ノ卵巢膿腫ノ膿液ニちふす桿菌ヲ有セシ一例アリ

化膿性喇叭管炎 (Galliard u. Chaput¹⁵⁵⁾)ノ内容ニちふす桿菌ヲ單獨ニ或ハ球菌ト共ニ發見セルガ如シ 其他惡露中ニちふす桿菌ヲ證明セル者 (Williams¹⁵⁶⁾, Dobbin¹⁵⁷⁾ Blasius u. Kath¹⁵⁸⁾)アリト雖モ二次性ニ分泌液中ニ迷入セルモノナリヤ否ヤ明カナラズ

甲狀腺殊ニ豫メ既ニ病的變性ヲ呈セル甲狀腺ニアリテハ毎常ちふす桿菌ノ存在スルヲ見ル (Colas, Tavel¹⁵⁹⁾, Krause u. Hartog¹⁶⁰⁾ u. a.)

ちふす桿菌ハ腦膜及脊髓膜ニモ發炎ノ因ヲナスコトアリ也ムハ¹⁶¹⁾及よ¹⁶²⁾の¹⁶³⁾ちふす¹⁶⁴⁾ Dmo-¹⁶⁵⁾ chowski u. Jonowski¹⁶⁶⁾ハちふす桿菌ノ存在ヲ立證シ得タル腦膜炎十一例ヲ報告シ他學者 (Kamen¹⁶⁷⁾, Kuhnau¹⁶⁸⁾, Stühler¹⁶⁹⁾, Atenof¹⁷⁰⁾, Siler¹⁷¹⁾, Olmshaker¹⁷²⁾, Turchetti¹⁷³⁾, Fisher¹⁷⁴⁾, Fernel¹⁷⁵⁾, Brelon¹⁷⁶⁾) Stäubli¹⁷⁷⁾, Southard u. Richards¹⁷⁸⁾)モ亦同様ノ實驗例ヲ敘セリ其他脊髓液ニちふす桿菌ヲ發見セル

145). Baumgarten, Lehrb. d. pathol. Mykologie; Baumgartens Jahresber. 1887-1900. 146). Fraenkel, Baumgartens Jahresber. 1887-1900; deutsche med. Wochenschr. 1887; Jahrb. d. Hamburger Staatskrankenanstalten Bd. 1. 1889. 147). Dunin, deutsches Arch. f. klin. Med. Bd. 29. 1886. 148). Klemm, Arch. f. klin. Chir. Bd. 46. 1893. 149). Orlov, deutsche med. Wochenschr. 1890. P. 1086. 150). Gasser, Thèse de Paris. 1890. 151). Neumann u. Schäfer, Virch. Arch. Bd. 109. 1887. 152). Dupraz, Arch. de méd. exp. et d'anat. path. T. 4. 1892. 153). Houl, Centralbl. f. Eact. Ref. Bd. 14. 1893. 154). Colzi, Lo sperimentale. 1890. P. 623. 155). Ullmann, Beitr. zur Lehre von der Osteomyel. acuta. wien. 1891. 156). Tictine, Arch. de méd. exp. et d'anat. path. T. 6. 1894. 157). Dmochowski u. Janowski, Ziegler's Beitr. Bd. 17. 1895.

者(Jemma³²⁵, Guinon³²⁶, Leokowicz³²⁷, Schütz³²⁸, Silberberg³²⁹, Schwartz³³⁰, Sizar³³¹, Nieter³³²)頗多シシ、ちよすハ、のたゝる反應未ダ發現セザルニ先チちよす桿菌ヲ骨髓液中ニ檢出セリ。彼上ノ外偶然ちよす桿菌ニ因スル炎症竈トシテ被包性腹膜膿瘍又ハ横膈膜下膿瘍(A. Fraenkel³³³, Weichselbaum³³⁴, Mayd³³⁵, Schmid³³⁶, Calon u. Thomas³³⁷)肝膿瘍(Haushalter³³⁸, Lannoir u. Lyonel³³⁹, Port³⁴⁰, Venema u. Grünberg³⁴¹, Sennert³⁴²)膿瘍ヲちよす桿菌ヲ有セテ肝膿瘍ニシテ實験ナル者(Parkes³⁴³)トイフ脾膿瘍(Roux³⁴⁴, Vincent³⁴⁵, Haushalter, Kruse³⁴⁶, Federmann³⁴⁷, Esau³⁴⁸, Bandel³⁴⁹)膿瘍ヲちよす桿菌ヲ有セテ脾膿瘍ニシテ實験ナル者(Parkes³⁴³)トイフ兩側乳腺炎(Luin³⁵⁰)耳下腺炎(齋藤³⁵¹)膿瘍ヲちよす桿菌ヲ有セテ耳下腺炎ニシテ實験ナル者(Parkes³⁴³)トイフニタリ其他重症ちよすノ經過中ニ發生セル頰部水腫 Wangenödem (Masuco³⁵², Ravenna³⁵³)股靜脈ニ於ケル血塞(Haushalter, Banneke³⁵⁴)脊髓ノ白質(Cerschmann³⁵⁵)等ヨリモ亦ちよす桿菌證明セラレタリ

ちよす桿菌ハ往々他種病芽ト混合傳染ノ状態ニテ存在スルコトアリ而シテ混合傳染ニハ二種アリテ一ハ本來ノ混合傳染ニシテちよすト無關係ニ同時ニ他ノ病芽在ルモノ他ハ第二次感染ニシテちよす桿菌ノ原發病竈ニ他種病芽ガ續發的ニ感染セルモノ是ナリ

本來ノ混合傳染ハ續發的ニシテ大ニ稀ニシテ熱帶地方ニアリテハ往々同時ニまらりわら患フコトアリおんLyon³⁵⁶ハ此種ノ例ヲ三十實檢セリ又まると熱(Dreyer³⁵⁷, Kennedy³⁵⁸)再歸熱(Tippa³⁵⁹)脾脫疽(Karlinsky³⁶⁰)これら^{恢復}(Girard³⁶¹)等トちよすト混合傳染ヲナセル例アリ其他ちよすト(P. Fraenkel³⁶²)又ハ粟粒結核(Kienor u. Villard³⁶³, Neunier³⁶⁴)ト混合傳染セル場合ハ比較的多シ又猩紅熱ト混合傳染ヲナシちよす桿菌ヲ證明シ得タルモノニ例アリ(Meisner³⁶⁵)赤痢ト同時ニ感染

158). Keen, Tisser Lectures Smithsonian Institution. Washington 1887; the surg. complic. and sequels of typhoid fever. Philadelphia 1898. 159). Valentini, berl. klin. Wochenschr. 1889. 160). Ebermaier, deutsches Arch. f. klin. Med. Bd. 44. 1889. 161). Achalmé, Sem. méd. 1890. 162). Barbacci, Lo sperimentale. 1889. 163). Chantemesse u. Vidal, Sem. méd. 1893. 164). Ullmann, Beitr. zur Lehre von der Osteomyel. acuta. Wien. 1891. 165). Dubray, Arch. de méd. exp. et d'anat. path. T. 4. 1892. 166). Tictine, Arch. de méd. exp. et d'anat. path. T. 6. 1894. 167). Sultan, deutsche med. Wochenschr. 1894. P. 675. 168). Lampe, deutsche Zeitschr. f. Chir. Bd. 63. 1899. 169). Lezer, Volkmanns klin. Vortr. N. F. 1897. 170). Mühsam, Centralbl. f. Chir. 1897. 171). Conradi, deutsche med. Wochenschr. 1900.

スルモ亦タ珍ナラズちよす桿菌ト同時ニ或ハふれさしねる赤痢菌ヲ發見シ(Rankin³⁶⁶, Nieter u. Liefmann³⁶⁷)或ハあめーバヲ目撃セリ(Martin³⁶⁸)ばらちよす桿菌B型トノ混合傳染ハ多數ノ學者(Kayser³⁶⁹, Conrad³⁷⁰, Gaeltgens³⁷¹, Levy u. Gaeltgens³⁷², Thomas³⁷³, Nieter³⁷⁴, Popp³⁷⁵, Beckers³⁷⁶, Bille³⁷⁷, Kulscher³⁷⁸)ニヨリテ報告セラレシモ保菌者ニ他ノ病芽感染セルモノナリヤ否ヤ或ハ同時ニ兩種ノ菌芽ニヨリテ發病セルモノナリヤ否ヤ詳ナラザルモノアリ唯べけるす及びびてるガ血中ニ同時ニちよす及ばらちよす桿菌ノ存在スルヲ見タルノミナリキ又なを(Noonhy³⁷⁹)ノ報告セル例ハちよす桿菌ヲ血中ニ見ばらちよす桿菌ヲ口蓋潰瘍ニ證明セルモノナリキ

續發的又ハ第二次性ニ他病芽ガちよす患者ニ感染セル例ハ頗ル多シ殊ニちよす後ニ發セル諸種ノ臟器ニ於ケル膿竈ニハ化膿球菌及化膿球菌ノ存スルヲ見ル(Baumgarten³⁸⁰, Eberth³⁸¹, Dunin³⁸², E. Fraenkel³⁸³, E. Fraenkel u. Simmonds³⁸⁴, Flener³⁸⁵, Pennato³⁸⁶, Dobbin³⁸⁷, Prochaska³⁸⁸, Saito³⁸⁹, Vincent³⁹⁰, Wassermann³⁹¹, Carter³⁹², Port³⁹³, Banneke³⁹⁴, Roberts u. Dlyna³⁹⁵, Moschkowitz³⁹⁶, Dmochowski u. Janowski³⁹⁷)即チ骨 腺 脾 肝 腎 皮下等ニ於ケル膿瘍又ハ腦膜 腹膜 肋膜等ノ炎症ニちよす桿菌ト同時ニ此等化膿性球菌存在スルヲ細菌學的ニ立證セラレタリ肺炎球菌モ屢々第二次感染者トシテ實驗セラレタリ殊ニちよすノ經過中ニ呼吸器發病セル場合ニ然ルヲ見ル大腸桿菌モ亦屢々ちよす菌芽ト共ニ發見セラレ(Petrushky³⁹⁸, Király³⁹⁹, Port)タルモ果シテ病原性意義ヲ有スルモノナリヤ否ヤ多少疑ヒナキ能ハズ但シ四五ノ學者(Silvestrin⁴⁰⁰, Blume⁴⁰¹, Petruschky⁴⁰², Neufeld⁴⁰³, E. D.)ハちよす患者ノ菌血症ノ原因トシテ大腸桿菌ヲ血中ヨリ分離セリ

細菌検査陽性ナリシ腸ちよす患者ニシテ腸ノ病理解剖學的變化僅微ナルカ又ハ全ク缺如シちよす

172). *Burdach*, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 41. 1902. 173). *Unger*, deutsche med. Wochenschr. 1901. 174). *Richardson*, Journ. of the Boston soc. of med. sc. Vol. 5. 1900. 175). *Venema*, hyg. Rundschau. 1907. 176). *Hess*, münch. med. Wochenschr. 1910. 177). *Buschke*, Fortsch. d. Med. 1894. 178). *Hübener*, Mitteil. a. d. Grenzgeb. usw. Bd. 2. 1897. 179). *Péau*, zit. nach *Bruni*: Ann. Past. 1896. P. 220. 180). *Orlow*, deutsche med. Wochenschr. 1890. - 181). *Quincke*, berl. klin. Wochenschr. 1894. 182). *Quincke*, Mitteil. a. d. Grenzgeb. usw. Bd. 4. 1899. 183). *Könitzer*, münch. med. Wochenschr. 1899. P. 1145. 184). *Schanz*, Arch. f. klin. Chir. Bd. 61. 1900. 185). *Lowell*, Boston Journ. Vol. 142. 186). *Kühn*, münch. med. Wochenschr. 1901. 187). *Bonardi*, Clin. med. ital. 1900. 188). *Pratt*, Journ. of the Boston soc. of the med. sc. Vol. 3. 1899.

性敗血症 Typhuseptikämie ト命名スベキモノアリ彼ノ初生兒又ハ胎兒ガちふすニ感染スルハ即チ罹患セル母ノ血液ニヨリテ病芽胎兒體ニ迷入シ次ギテ胎兒體内ニ於テ増殖スルモノニシテ原發性血液傳染ナリトス (*Eberth*³⁵⁰, *Hildenbrand*³⁵⁰, *Frascati*³⁵⁰, *Ernst*³⁵⁰, *Düvel*³⁵⁰, *Horton-Smith*³⁵⁰, *Gahtgens*³⁵⁰, *G. Mager*³⁵⁰ u. a.) *Blumer*³⁵⁰ ハ分娩四ヶ月前ちふすニ罹レル婦人ガ産ミシ初生兒ちふすニ罹リ居リシヲ實驗セリ胎兒若シちふすニ感染スルトキハ多クハ胎内ニテ又ハ出産後直チニ死亡スルヲ常トシ且ツ胎盤ニハ母兒兩側ニ變化アリテ菌芽移行ノ跡ヲ示スモノナリトス此ノ如キ胎兒ノちふすハ勿論敗血症トシテ現ハルモノナリ 其他大人ニアリテモ腸ニ病的變化ヲ缺如スルモ敗血症ヲ呈スルモノアルハ既ニ多數ノ學者 (*Chari* u. *Kraus*³⁵⁰, *Karlinski*³⁵⁰, *Banti*³⁵⁰, *Bryant*³⁵⁰, *Lartigian*³⁵⁰, *Fleener* u. *Harris*³⁵⁰, *du Cazat*³⁵⁰, *Chealle*³⁵⁰, *Silvestrin*³⁵⁰, *Nichols* u. *Keenan*³⁵⁰, *Turney*³⁵⁰, *Mc. Phedran*³⁵⁰, *Fleener*³⁵⁰, *Blumenhag*³⁵⁰, *Scheij*³⁵⁰, *Barjon* u. *Lesieur*³⁵⁰, *Opié* u. *Bassel*³⁵⁰, *Guizelle*³⁵⁰, *Weichhardt*³⁵⁰, *de Grandmaison*³⁵⁰, *Stadelmann* u. *Wlof-Eisner*³⁵⁰, *Krolicewicz*³⁵⁰, *Jores*³⁵⁰) ノ實驗セル所ニシテ多クノ場合ニハ其血液膽汁肝胃脾ニ稀ニ尿 (*Lartigian*) 中ニ病芽存スルヲ認メ眞性ノちふす性敗血症トシテ報告セラレタリ 夫レ嚴正ナル意義ノ下ニ於ケル敗血症ナルモノハ全身病ニシテ菌芽ハ管ニ血行中ニ存在スルノミナラズ血液中ニ於テ尙ホ増殖シ病理解剖學的ニハ敗血症機轉トシテ毛細血管ニ於ケル菌性血塞ヲ其特徴トスルモノナリ但シちふす性敗血症ノ場合ニハ菌性血塞及血行中ニ於ケル病芽ノ増殖ヲ立證シ能ハズシテ唯ダ病芽ガ血液及内臟ニ存スルノミニシテ所謂菌血症ノ一ニ過ギザルモノナリ是レ他ノ傳染病ニアリテモ亦タ屢々見ル所ナリ病芽若シ血中ニ存セバ諸臟器ニモ亦タ之ヲ發見シ且ツ轉移性病竈ヲ形成スルハ理ノ當然ニシテ怪ムニ足ラ

189). *Lartigian*, Boston med. a. surg. Journ. Vol. 141. 1899. 190). *Colzi*, Lo sperimentale. 1890. P. 623. 191). *Hölscher*, münch. med. Wochenschr. 1891. 192). *Raymond*, Gaz. méd. de Paris. 1891. 193). *Swiezynski*, Centralbl. f. Bact. Bd. 16. 1894. 194). *Fashing*, wien. klin. Wochenschr. 1892. 195). *Zahradnický*, wien. klin. Rundschau. 1895. 196). *Melchior*, Sem. méd. 1892. 197). *Spirig*, Mitteil. a. d. klin. u. med. Inst. d. Schweiz. Bd. 1. 1894. 198). *Prochaska*, deutsche med. Wochenschr. 1901. 199). *Bollack* u. *Brunz*, ebenda. 1901. 200). *Blasius* u. *Kathe*, hyg. Rundschau. 1909. 201). *Marmann*, ebenda. 1908. 202). *Mayer*, münch. med. Wochenschr. 1908. 203). *Stein*, Zeitschr. f. Med.-Beamte. 1910. 204). *Benneck*, deutsches Arch. f. klin. Med. Bd. 92.

ザルモノナリトス又血液及内臟等ニ病芽存スルモ腸ニ於ケル變化陰性ナルノ理ハ次ギノ二法ニヨリテ説明スルコトヲ得ベシ即チ(第一)腸ちふすニ於ケル腸ノ變化ハ疾病ノ輕重ト無關係ニ或ハ著明ナル強變化ヲ呈シ或ハ辛フジテ認識シ得ベキ輕微ノ變化ヲ惹起スルモノナリ從テ敗血症ト認ムベキ重症ノモノニ偶然腸ノ變化極メテ輕微ニシテ認識シ難キモノアルモ敢テ怪ムニ足ラザル所ナルノミナラズ假令腸ニ輕微ノ發赤及淋巴機ノ腫脹等存セリトスルモ其經過中治癒シ瘰癧ヲ貽サズ爲メニ剖見ノ際腸ニ變化アルヲ發見シ能ハザルモノモアルベシ此等ノ場合ニ於ケル菌芽ノ増殖部位ハ血行中ニアラズシテ腸ノ淋巴機ナリ 腸ニ變化ヲ缺如セル場合ニモ其血清中ニハ特異性抗體者明ニ新生セテ者他種ノ重篤ナル疾病ニ罹リタルトキハ其身體ノ抵抗力減却セル時ニ乘ジちふす桿菌ガ再タビ血中ニ出現スルコトアリ宛モ腸ちふす患者ニ肺炎鏈菌又ハ化膿菌ガ第二次感染ヲナスガ如クちふす桿菌モ續發的ニ血行ニ現出シ得ルモノナリ例令バ重症粟粒結核患者ノ生前ニ於ケル血液ヨリちふす桿菌ヲ分離セル者 (*Bussé*³⁵⁰; *vergl. auch: Dithorn, Lohia, Lieberknecht* u. *Schuster*³⁵⁰) アルガ如シ此等ハ粟粒結核ノ爲メニ生ゼル腸ノ損傷部ヨリ平素潛匿セルちふす桿菌ガ血中ニ再タビ進入シ所謂自家感染 Autoinfection (再感染) ヲナセルニ過ギザルモノナリ 予ハ更ニ步ヲ進メテちふす桿菌ガ人體内ニ進入シ次テ辭去スル跡ヲ觀察セムト欲ス 一 *Eberth*³⁵⁰ ハ二十三例ノちふす屍ヨリ腸間膜腺ノ切片ニ十二回 脾臟切片ニ六回 特異性病芽存スルヲ創見シ *Ro. Koch*³⁵⁰ ハ此ト無關係ニちふす屍ノ約半數ニ於ケル腸粘膜ノ深層及脾肝並ニ腎臟ニ病芽ヲ發見セリ而シテ *Mager*³⁵⁰ ハ二十例中十六例ノ腫脹セル濾胞切片中ニ病芽ヲ目撃シタルノミナラズ發病ノ初期ニ方リテハばいえる腺及孤腺強ク腫脹スルモ腸粘膜ハ無障ニシテ且ツ腸間

205). Tavel, Korresp. Bl. f. schweizer Aerzte. 1887. P. 390. 206). Mya u. Belfanti, Giorn. della R. Acad. Torino. 1890. 207). Pein, Thèse de Paris. 1891. 208). Girode, Arch. de méd. exp. et d'anat. path. T. 4. 1892. 209). Strasburger, münch. med. Wochenschr. 1899. 210). Bunts, med. News. Vol. 74. 1899. 211). Marchildon, Amer. Journ. of med. sc. Vol. 140. 212). De, Gaz. hebdom. 1900. 213). Fick, deutsche med. Wochenschr. 1910. 214). Takaki u. Werner, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 27. 215). Richardson, Journ. of the Boston soc. of med. sc. Vol. 5. 1900. 216). Fick, deutsche med. Wochenschr. 1910. P. 1436. 217). Werth, ebenda. 1893. 218). Wallgren, Arch. f. Gyn. Bd. 9. 1899. 219). Engelmann, Centralbl. f. Gyn. 1901. 220). Widal, Sem. méd. 1902. P. 59. 221). Dirmoser, Centralbl. f. Gyn. 1904.

膜腺モ腫脹スルコトナシ而シテ菌芽ハ其浸潤セル濾胞中ニ巨量ニ存シ是ヨリ粘膜及粘膜下ニ向テ蔓延スルヲ實驗セリ此等ノ事實ハ腸ちよすニ於ケル初感染部位ハ腸ノ淋巴機ナルヲ意味スルモノナリ次ギテがふさー(Caffey)ハ二十八例中二十六回腸間膜腺腎及肝ノ切片中ニ菌芽ヲ見且ツ脾及肝ヨリ之ヲ純粹ニ培養シ得タリ其他諸家(Levy u. Gaehgens, Bayer, u. a.)モ毎回腸間膜腺ヨリ菌芽ヲ培養シ得腸間膜腺ヲ最初ノ病芽主要蓄留所ナリト做セリ

斯クテちよす桿菌ハ消化管粘膜ヲ其侵入門口トシ之ヨリ腸間膜腺ニ達スルハ明カナリ又舌ノ囊狀腺竝ニ扁桃腺及稀ニ頸腺ガ僅ニ腫脹シ加之口蓋弓ニ潰瘍ヲ生ズルコト稀ナラズ胃及小腸上部ニモ特異ノちよす性膿瘍生ズルコトアリ

明セズ (Proskauer) ヲリガアス(Drigalski) 酸性胃粘膜炎 扁桃腺及食道ヨリちよす桿菌ヲ分離培養シ得タリ云々 Fournet 及他ノ學者ハ殆ド毎常十二指腸ヨリ病芽ヲ分離シ腸管ヲ其主ナル進入門口トセリ其他病芽ハ腸ノ下部ニ於テハ既ニ僅少ニシテ直腸ニ至ルニ從ヒ漸次消失ス (Forster u. Kaysers, Fournet)

感染ノ初メ菌芽ハ腸内ニ於テ殆ド増殖セズシテ腸粘膜ヨリ腸ノ淋巴機(ばいえる腺及孤腺)ヲ經テ腸間膜腺ニ達シ之ヨリ循環血ニ入り脾 骨髓 淋巴腺(Schmid) 腎及膽囊(Brown u. Kaysers, Levy u. Gaehgens, Lentz)ニ達スルモノナリ

ちよす桿菌ノ進入ニハ腸粘膜ノ障礙ヲ必須ノ前提條件トスルヤ否ヤニ關シテハ未ダ詳カナラザル所アリ

ベー(Büh)ハ細碎セル牛肉ニ混ズルニ亞硫酸ヲ以テシ粘膜ヲ傷ケバ感染シ易クナルヲ云フ

ウー(Weinberg)ハ糞便中ニ多量ノ鞭蟲卵ヲ有スル二頭ノ猿ニちよす桿菌ヲ與ヘシニ二日ニシテ發病セルヲ以テ寄生蟲ニヨリテ腸粘膜障礙セラレシ影響ヲ受ケシモノナラト云ヘリ但

222). Zantschenko, Monatschr. f. Geburtsh. u. Gyn. Bd. 19. 223). Koch, ebenda. Bd. 16. 224). Maldaque, Centralbl. f. Bact. 1905. 225). Sudeck, münch. med. Wochenschr. 1896. 226). Galliard u. Chaput, Soc. med. des hôp. Paris. 1909. 227). Williams, Amer. Journ. of med. sc. 1893. 228). Dobbin, Johns Hopk. Hosp. Rep. Vol. 8. 1900. 229). Blasius u. Kathe, hyg. Rundschau. 1909. 230). Tavel, Korresp.-Bl. f. schweizer Aerzte. 1887. P. 390. 231). Krause u. Hartog, berl. klin. Wochenschr. 1903. 232). Dmochowski u. Janowski, Ziegler's Beitr. Bd. 17. 1895. 233). Kamen, Internat. klin. Rundschau. 1890. 234). Kühnau, berl. klin. Wochenschr. 1896. 235). Stühlern, berl. klin. Wochenschr. 1891. 236). Adnot, Arch. de méd. exp. et d'anat. pathol. 1889. 237). Silva, Rif. med. 1891. 238). Ohlmacher, Cleveland. med. Gaz. 1897.

ちよす患者ノ糞便ヲ檢シ腸寄生蟲殊ニ鞭蟲ノ卵ヲ發見セムトセルモ毎回陰性成績ヲ得 (Chantemesse u. Rodrigues) 或ハちよす大流行ノ際多數ノ患者ノ糞便ヲ檢シ其九二五%ハ腸寄生蟲ヲ宿サザリシヲ實驗セル者(Stiles)アリ

病芽ハ主トシテ脾及骨髓中ニ於テ増殖シ血中ニアリテハ著シキ増殖ヲナサザルモノノ如シ但バハハバ Bäumler)ハちよすノ初期ニ於テ其腫脹唯ダ濾胞及腸間膜腺ニ局限シ他ノ淋巴腺障礙セラレザル際ニ既ニ其血中ニ病芽ヲ見ルコトアルハ是レ血中ニ於テ其増殖スルヲ意味スルモノナリト敘シしよとみられる。Schlotmiller)モ亦タ同シク腸ノ淋巴機ニ何等ノ變化ナキカ又ハ其變化僅微ナルニ拘ラズ循環血中ニ多量ノ病芽アルヲ見ルト云ヘルモよはん Jochmann)ハ之ニ反對ノ事實ヲ擧ゲタリ 菌芽ガ血中ニ於テ増殖スルノ確證ハ一モナキモ試獸ノ血液ニ於ケルちよす桿菌ノ運命ニ關シテハ動スベカラザル確乎タル實驗例アリ例令バ家兔ノ血中ニ注入セルちよす桿菌ハ三十分時ニシテ既ニ血中ヨリ其影ヲ没シ脾臟及骨髓中ニ集積シ膽汁中ニ最モ久シク證明セラル (Virna) 人ノ血中ニ於テモ亦タちよす桿菌ハ恐ク盛ニ崩潰死滅スルモノニシテ爲メニ菌體內毒素游離シ重篤ナル中毒症狀(昏睡等)ヲ招來スルニ至ルモノナラム又人體ニアリテモ血中ニ於ケル病芽ハ膽囊ヲ其貯留所トシ此處ニ久シク其生活ヲ繼續シ時々膽囊ヨリ腸ニ向テ排泄セラル (Forster) 故ニ此時期(第一及第二病週)ニ初メテ多量ニ腸内容物ニ病芽ヲ證明シ得ルモノナリトス

二三ノ學者(Conrad, G. Mayer)ハ潜伏期ニ既ニ其糞便中ニ病芽ノ存スルヲ見タリ又血行中ニ於ケル菌芽ハ管ニ膽囊ヲ經テ腸ニ出ヅルノミナラズ他ノ徑路例令バ淋巴道ニヨリ或ハ膽道ヲ經由セズシテ血液ヨリ直接ニ腸ニ排泄セラルルコトアリ何トナレバ豫メ輸膽管ヲ結紮セル家兔ノ耳靜脈内ニちよす桿菌ヲ注入スル

255). *Maydl*, wien. klin. Rundschau. 1896. 256). *Schmidt*, deutsche med. Wochenschr. 1896.
 257). *Caton u. Thomas*, Brit. med. Journ. 1900. 258). *Haushalter*, Rev. méd. de l'Est. 1893.
 259). *Lannoir u. Lyonet*, Sém. med. 1895. 260). *Port*, deutsche med. Wochenschr. 1908. 261).
Venema u. Grünberg, berl. klin. Wochenschr. 1907. 262). *Sennert*, Diss. Halle. 1906. 263).
Perthes, deutsche Zeitschr. f. Chir. Bd. 63. 264). *Roux*, Lyon Méd. 1888. 265). *Vincent*,
 Mercredi méd. 1892. 266). *Kruse*, Microorganismen von Flüge. Bd. 2. P. 391. 1896. 267).
Federmann, berl. klin. Wochenschr. 1905. 268). *Esau*, deutsche med. Wochenschr. 1905. 269).
Bandel, deutsches Arch. f. klin. Med. Bd. 84. 270). *Luigi*, Rif. med. 1900. 271). *齋藤*, 衛生
 學及細菌學時報第二卷. 272). *Janowski*, Centralbl. f. Bact. Bd. 17. 1895.

ラズらむの—せ凝集上ニ於ケルちふす桿菌モ亦タ娘聚落ヲ形成ス但シ此ノ如ク變性セル菌芽ト雖モ
 凝集反應動物試験等ヲ行ヒ之ヲ檢スルニ敢テ常態ノ菌芽ト相擇ブ所ナシ (*Miller*²⁶⁰) 又ら、くむす乳
 糖くりすたるぐおれど凝集上ニちふす桿菌ヲ培養スルトキハ能ク發育セル聚落ノ傍ニ發育阻止セ
 ラレタル小聚落多數發生スルヲ見ル 而シテ此小聚落形成性菌ハ原聚落型ニ復スルコト不可能ニシ
 テ抵抗力亦タ弱ク加熱及亞硫酸那篤留誤又ハ硫酸那篤留誤ノ添加ニヨリテ容易ニ其生活機能ヲ失フ
 (*Taobersen*²⁶¹, *Miller*²⁶²) 其他遠藤養基以外ノ常用培養基ニ亞硫酸那篤留誤ヲ加フルトキハちふす桿菌
 ハ萎微セル發育状態ヲ示ス變種トナル (*Fromme*²⁶³) トナフ
 わむもに、一ひ加養基ニ於テハちふす桿菌ハ旺盛ナル發育ヲナス而シテわむもに、陽性菌ニ二様
 ノ發育型ヲ見ル一ハわむもんぐりせんノ液面ニ常ニ菌膜ヲ形成シ他ハ養液ヲ潤濁セシム又一培養菌
 ヨリわむもに、陽性及陰性ノ聚落ヲ得 (*van Loghem*²⁶⁴)
 近時、るどら、*Berthlein*²⁶⁵ ハ凝集平板上ニ異様ノ發育型ヲ示スモノヲ見タリ即チ一株ノ純粹
 培養ヨリ透明ノ聚落ノ傍ニ帶黃白色ニシテ濕潤シ不透明ナル聚落現ハル而シテ後者ノ菌體ハ短且肥
 大スルモ前者ノ菌體ハ細長ナリ又他ノちふす培養ニアリテハ透明平滑ナル聚落ノ傍ニ同質無構造ニ
 シテ滑澤ナル邊緣ヲ有シ潤濁セル聚落生ジ且ツ他ノちふす菌株ニアリテハ鋸齒狀邊ヲ有スル葡萄葉
 狀ノ聚落ノ傍ニ邊緣平滑ニシテ透明ナルモ帶黃白色ノ中央部ヲ有スル聚落ヲ生ズ此等聚落ノ異ナル
 ト共ニ菌型モ亦タ多少異ナル而シテ茲ニ興味アルハ一株ノちふす桿菌ニシテ多種ノ變型ヲ出スコト
 是ナリ
 養基中ニ於ケル養素ノ種類 鹽量及あるかり度培養温度消毒劑ノ添加如何ニヨリ發育状態ハ比較

239). *Turchetti*, Chron. de clin. med. di Genova. 1893. 240). *Fisher*, Philadelphia med.
 Journ. 1900. 241). *Fernet*, Bull. de la Soc. méd. des hôp. 1891. 242). *Breton*, Rev. mensuelle
 des mal. de l'enfance. 1891. 243). *Stäubli*, deutsches Arch. f. klin. Med. 1905. 244). *Southard*
 u. *Richards*, Journ. of med. research. 1908. 245). *Jemna*, Gaz. d. ospid. Milan. 1897. 246).
Guinon, Rev. mens. des mal. de l'enfance. 1901. 247). *Lewkowitz*, Centralbl. f. Kinderheilk. 1902.
 248). *Schütz*, berl. klin. Wochenschr. 1905. 249). *Silberberg*, ebenda. 1908. 250). *Schwartz*,
 Med. record. Vol. 78. 1910. 251). *Sicard*, Sem. méd. 1905. 252). *Nieter*, münch. med. Wochenschr.
 1908. 253). *Fraenkel*, Verhandl. des 6. Kongr. f. innere Med. Wiesbaden 1887. 254).
Weichselbaum, Centralbl. f. Bact. Bd. 5. 1889.

モ亦タ病芽ハ腸内ニ排泄セララルヲ見ル (*Ribadeau-Dumas* u. *Harvier*²⁴⁰) ヲ以テナリ而シテ其腸壁
 ニ於ケル通過部位モ亦タ一定(例令バ蟲様突起部)セルガ如シ
 如是論シ來リ論ジ去レバ腸ちふすニ關シテハ猶ホ不明ナル點尠カラザルモ要スルニ該症ハ二次的
 ニ菌血症ヲ發スル傳染病ニシテ原發的ニちふす桿菌ニヨリテ發スル敗血症ニアラズ即チ病芽先ヅ消
 化管ニ迷入シ腸ノ淋巴機ニ原發病竈ヲ作り次ギテ茲ニ附隨セル腸間膜腺ニ菌芽侵入シ更ニ血行ニヨ
 リテ諸臟器就中脾 淋巴腺 骨髓 腎臟 殊ニ肝及膽囊ニ現ハレ膽囊ヲ其主要貯留所トシテ病芽ハ久シ
 ク此處ニ逗留シ時々腸管ニ向テ流出ス此際最モ多數ノ菌芽糞便ニ顯ハル 腸壁ヨリ直接ニ出デテ糞
 便中ニ菌芽ヲ混ズルニ至ルハ唯ダ腸潰瘍ヲ形成セル場合ナリトス而シテ一タビちふすニ罹患セル者
 ノ多クハ保菌者トシテ久シキ間病芽ヲ膽囊及泌尿器ニ藏シ糞尿ト共ニ之ヲ體外ニ排泄シ新ニ其蔓延
 ノ源ヲ拓クモノナリ

ちふす桿菌ハ普通大腸桿菌ノ變種ナリヤ否ヤニ關スルノ論争アリ あるいは性糞便桿菌 *Bacillus*
faecalis alicigenus ヲ久シク人工養基上ニ培養スルカ (*Altshuler*²⁴¹) 又ハ久シク海痕體ヲ通過セシメバ
 (*Dober*²⁴²) 遂ニ真正ノちふす桿菌ニ變ズルヲ説ケル者アルモ是レちふす桿菌ヲ混ゼルハあるかり性
 糞便桿菌ヲ用ヒ試験セル結果ニ外ナラズ (*Berghaus*²⁴³, *vergl. auch: Trommsdorff*²⁴⁴, *Conrad*²⁴⁵, *Ter-*
*burgh*²⁴⁶, *Burr*²⁴⁷, *Miller*²⁴⁸, *Sobernheim* u. *Seligmann*²⁴⁹) ちふす保菌者ノ體內ニ年餘寄生セルちふ
 す桿菌ト雖モ其發育状態及生物學的性状等變化スルヲ見ズ
 ちふす桿菌ヲ久シク培養スルトキハ他種菌芽ニ見ルガ如キ突然變化 *Mutationen* 若クハ變種 *Varia-*
tionen ヲ實驗ス一のシゴづるし一と凝集 *Isodiatagar* 上ニ於ケル表在性聚落ハ卸鈕狀ヲナスノミナ

273). *Destree*, Journ. méd. de Bruxelles. 1892. (74). *Panas*, V. Congrès de Chir. Paris 1891. 275). *Bucalossi*, Jahresber. von Baumgarten. 1886. P. 331. 276). *Masucci*, Ann. di med. naval. 1903. 277). *Reveana*, Lo speriment. 1903. 278). *Bennecke*, deutsches Arch. f. klin. Med. Bd. 92. 279). *Curschmann*, Verhandl. d. Kongr. f. inn. Med. Wiesbaden 1886. 280). *Lyon*, Johns Hopk. Hosp. Rep. Vol. 8. 1900. 281). *Dreyer*, münch. med. Wochenschr. 1909. P. 2482. 282). *Kennedy*, Journ. of the Royal Army med. corps. Vol. 4. 1905. 283). *Ippa*, Baumgartens Jahresber. 1896. 2-4). *Karlinsky*, berl. klin. Wochenschr. 1888. 285). *Girode*, Sem. méd. 1893. 286). *Fraenkel*, deutsche med. Wochenschr. 1901. 287). *Kiener u. Villard*, Sem. méd. 1893. 88). *Aleunier*, Centralbl. f. Bact. Ref. Bd. 21. 1897. 289). *Alaussner*, münch. med. Wochenschr. 1911.

的迅速ニ且ツ往々突然ニ變化シ聚落ノ形状菌形及生物學的性状等ニ異常アルヲ見ス (*de Vries*²⁸⁰⁾ Klein²⁸¹⁾)

ちふす桿菌 (*Mandelbaum*²⁸²⁾) ガちふす桿菌 (真正ちふす *Orlotoyphus*) ノ變種トシテ彼セル變性ちふす桿菌 (*Metalophus bacillus*) ナル者アリ 即チ臨牀上ちふす症ヲ呈スル患者ノ糞便及血液ヨリ分離セル活動性桿菌狀ニシテ免疫反應いんせーる酸及ビ瓦斯產生機能 凝乳力等 真正ちふす桿菌ニ於ケルト毫モ異ナル所ナキモセリセリニ凝集上ニ特ニ好ク發育シ且ツ其聚落中ニ結晶ヲ生ズ血液凝集 凝集五立方センチメートルニテニセリニ添加セルモノノ上ニ於テちふす及ばらちふす桿菌ハ血色素ヲ 入血ニ立方センチメートルニテニセリニ添加セルモノノ上ニ於テちふす及ばらちふす桿菌ハ血色素ヲ 變化セシメ聚落ノ周圍ニ帶緑黄色ノ輪廓ヲ生ズルモ變性ちふす桿菌ニアリテハ養基變化スルコトナシ 其他ろぞーる酸ぐりせりん凝集ニ培養スルニ變性ちふす桿菌ハあるかりテ産スルガ爲メニ赤色ノ聚落ヲ生ズルモ真正ちふす桿菌ハ酸ヲ産シ黄色ノ聚落ヲ形成ス (*Mandelbaum*) 爾來變性ちふす桿菌 即チ血色素反應又ハろぞーる酸ぐりせりん凝集ニ於ケル色素反應異ナルノミニシテ他ノ性状及免疫反應真正ちふす桿菌ト全ク同一ニシテ區別シ能ハザル者存スルハ他ノ學者 (*Nieter*²⁸³⁾, *Russowicz*²⁸⁴⁾, *Stahly*²⁸⁵⁾) ニヨリテ立證セラレタリ

ちふす桿菌ノ爲メニ自然ニ發病スルハ唯人ノミニシテ他ノ動物ニ之ヲ實驗セルモノナシ 動物ハ 營ニ自然感染ヲナスコトナキノミナラズ本菌ヲ人工的ニ接種スレバ發病致死スルモ人體ニ於ケルガ 如キ特殊ノ病的變化ヲ呈スルコトナシ猿ニ試験セル者 (*Gaffky*²⁸⁶⁾) アルモ亦タ同シク陰性ニ了ハレリ 但ふれんける及さんもん E. *Fraenkel* u. *Simmundts*²⁸⁷⁾ ハ靜脈内注射ヲナセル家兎ノ脾及腸間膜腺腫 脹シばいえる腺及濾胞モ腫起シ且ツ所々表皮ヲ結ベルヲ實驗シ脾及腸間膜腺中ヨリちふす桿菌ヲ分

290). *Remlinger*, Rev. de méd. 1901. 291). *Nieter u. Liefmann*, münch. med. Wochenschr. 1906. 292). *Martin*, deutsche med. Wochenschr. 1906. 293). *Kavser*, ebenda. 1904. 294). *Conradi*, ebenda. 1904. 295). *Gaeltgens*, Centralbl. f. Bact. Bd. 40. 1906. 296). *Levy u. Gochtgens*, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 25. 1906. 297). *Thomas*, klin. Jahrb. Bd. 17. 1907. 298). *Nieter*, münch. med. Wochenschr. 1907. 299). *Popp*, ebenda. 1910. 300). *Beckers*, hyg. Rundschau. 1908. 301). *Bitter*, deutsche med. Wochenschr. 1910. 302). *Kutscher*, Handb. von Kolle-Wassermann. 2. Aufl. Bd. 3. P. 777. 303). *Nowotny*, wien. klin. Wochenschr. 1909. 304). *Baumgarten*, Lehrb. d. pathol. Mykologie; Baumgartens Jahresber. 1887-1900. 305). *Eberth*, Volkmanns Samml. klin. Vortr. 1883. 306). *Dunin*, deutsches Arch. f. klin. Med. Bd. 29. 1886.

離シ得タリト云ヘリ 皮下 腹腔内腸管内接種 試験ハ陰性ニ了ハレリ ふれんける A. *Fraenkel*²⁸⁸⁾ ハ海豚ノ十二指腸内ニちふす桿菌ヲ注射セシニ試験ハ爲メニ發病シ三乃至七日ノ後斃死セリ而シテ其脾臟ヨリ病芽ヲ分離セルノミナラズ腸ニ於ケル變化ハ前者ニ略ボ類似セルヲ發シ *S. S. O. Seitz*²⁸⁹⁾ ハ海豚ニちふす桿菌培養ヲ餌セシメ これら菌ヲ以テアセシニニ其半ハ急性腸加答兒ヲ發シテ斃レタリ而シテ其四日ノ後斃レタル試験ニハ脾臟腫大ヲ認メ腸内容物中ヨリ菌芽ヲ證明シ得タルモ内臟ニ之ヲ認メタルハ唯破格ノ例ニ過ギザリキ 又若シ肉汁培養五乃至十立方センチメートルニテニ靜脈内ニ注入セル家兎ニアリテハふれんける及さんもんノ實驗セルト同様ノ變化ヲ見ルコトヲ得タリト彼セリ尙ホ興味アルハ殺害セル培養ヲ腹腔内ニ注入スルモ生菌ヲ注入セル場合ト同様ノ病狀ノ下ニ試験 (家兎及海豚) 致死スルノ事實ニシテはいぬる及ばいえる *Beumer u. Peiper*²⁹⁰⁾ ノラ證認シ且ツ曰クちふす桿菌ノ作用ハ純粹ノ中毒ニ外ナラズシテ生菌ヲ注射スルモ其量少ナキトキハ發病スルコトナク量多キトキハ菌芽ノ生死ヲ論ゼズ試験ハ重症ニ陥ルモノナリト ヒロウチニシテ *Sirovkin*²⁹¹⁾ モ亦タ百度ニ加熱セル培養ヲ以テ試験シ其病的作用ハ純粹ニ毒成分ノ作用ニ歸スベキモノナルヲ云ヘリ加之ちふす桿菌ヲ靜脈内ニ注入スルトキハ血行中ヨリ迅速ニ其影ヲ失ヒ最モ久シク之ヲ宿スハ骨髓ニシテ肝及脾之ニ次グ其他諸試験ノ腸中ニちふす桿菌ヲ接種シ濾胞ノ腫脹及結痂並ニ出血其他脾及腸間膜腺ノ腫脹等ノ如キ變化ヲ起スハ決シテちふす桿菌ニ獨得ノモノニアラズ大腸桿菌其他ノ菌芽ニテモ亦タ惹起スルモノナリト論ゼリ後チふす桿菌 *Bacteroides*²⁹²⁾ ハ家兎ノ靜脈内ニ大腸桿菌ヲ注射シちふす桿菌ヲ應用セル場合ニ於ケルガ如クばいえる腺ノ腫脹及ビ脾臟腫大ヲ實驗セリ 他ノ學者 (*Ali-Cohen*²⁹³⁾, *Baumgarten*²⁹⁴⁾, *Wolfsohn*²⁹⁵⁾) モ亦タちふす桿菌ハ動物體內ニ於テ増殖シ能ハザルモノニシテ其有害作用ハ全ク毒素ニ因スルヲ彼

321). *Dmochewski u. Janowski*, Ziegler's Beitr. Bd. 17. 1895. 322). *Petruschky*, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 40. 1902. 323). *Királyfi*, deutsche med. Wochenschr. 1910. 324). *Silvestrini, Settim.* med. 1896 u. 1897. 325). *Blumer*, The Johns Hopk. Hosp. Rep. Vol. 5. 1895. 326). *Petruschky*, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 38. 1901. 327). *Neufeld*, deutsche med. Wochenschr. 1900. 328). *Eberth*, Fortschr. d. med. Bd. 7. 1889. 329). *Hildenbrandt*, ebenda. Bd. 7. 330). *Frascati*, Rev. gen. ital. di clin. med. 1892. 331). *Ernst*, Ziegler's Beitr. Bd. 8. 1890. 332). *Dürk*, münch. med. Wochenschr. 1896. 333). *Horthon-Smith*, Lancet. 1900. 334). *Gaetgens*, münch. med. Wochenschr. 1909. 335). *Mayer*, Centralbl. f. Bact. Bd. 53. 1909. 336). *Blumer*, Journ. of the Americ. med. assoc. 1901. 337). *Chiari u. Kraus*, Zeitschr. f. Heilk. Bd. 18. 1897.

307). *Fraenkel*, Baumgartens Jahresber. 1887-1900; deutsche med. Wochenschr. 1887; Jahrb. d. hamburger Staatskrankenanstalten. Bd. 1. 1889. 308). *Fraenkel u. Simmonds*, die aetiolog. Bedeutung des Typhusbac. Hamburg. 1886. 309). *Flechner*, Johns Hopk. Hosp. Ref. Vol. 5. 1896. 310). *Pennato*, Gaz. degli. osped. 1898. 311). *Dobbin*, Johns Hopk. Hosp. Rep. Vol. 8. 1900. 312). *Prochaska*, deutsche med. Wochenschr. 1901. 313). *齋藤*, 衛生學及細菌學時報第二卷. 314). *Vincent*, Ann. Past. 1893. 315). *Wassermann*, Charité-Annalen. 1895. 316). *Carter*, Baumgartens Jahresber. 1897. 317). *Port*, deutsche med. Wochenschr. 1908. 318). *Bennecke*, deutsches Arch. f. klin. Med. Bd. 92. 319). *Roberts u. Glynn*, Brit. med. Journ. 1909. 320). *Moschkowitz*, Proceed. of the New York pathol. Soc. 1908.

セリ但シ中毒ト同時ニ菌芽感染ノ可能性ヲ信ズル者 (*Oguzansky*) アルノミナラズ少量ノちふす桿菌ヲ白鼠海狸及家兎ノ皮下ニ注射シ其斃死後同名菌ヲ肝及脾ニ證明セル者 (*Chantemesse u. Vidal*) アリ又肉汁培養一立方センチメートルニ注射シ二三週ヲ經テ斃レタル海狸ヲ檢シばいえる腺ニ腫脹及潰瘍アリシノミナラズ其脾臟ヨリ菌芽ヲ培養シ得タル者 (*Gilbert u. Girault*) アリ

彼上ノ如ク一派ノ學者ハちふす桿菌ハ試獸體內ニ於テハ生菌死菌ノ別ナク唯ダ其量ノ多キトキノミニ限リ中毒症狀ヲ發スルモノナルヲ説ケルモ他ノ學者ハ菌芽増殖スルヲ實驗セリ此等反對ノ結果ハ勿論其實驗ニ不備ノ點アリシ爲メナルベク菌芽ノ増殖ヲ目撃セル者ハばらちふす桿菌ヲ混用セルニアラザルヤノ疑ヒナキ能ハズ又假令其菌芽真正ナリトスルモ用量ノ多寡及用法ノ如何ニヨリ其成績ヲ異ニスルモノナリと云へり

Petruschky ノ實驗ニヨレバ白鼠ニ對スル最小致死量ハ腹腔内注射ノ場合ニハ0.5乃至0.5ミリグラム即チ體重一キログラムニ對シテ十乃至十五ミリグラム時トシテ至0.3ミリグラムト最少ナルモ皮下注射ノ場合ニハ其五乃至六倍ヲ要ス大鼠ニ對スル致死量亦之ニ準ズ海狸ニ對スル致死量ハ體重一キログラムニ付キ五乃至十ミリグラムニナリ

家兎ニ對シテハ致死量多少異ナルスルコトノ如ク其接種法ノ如何ニヨリテ毒力異ナリ毒素濃メ動物體ニ作用セルトキハちふす桿菌ハ著シク増殖ス即チ致死量ノ菌芽ヲ腹腔内ニ注射シ爲メニ斃レタル白鼠ノ腹腔滲出液 (即チ斐毒素) ヲ他ノ健鼠ニ注射スルニ又有害ナリ此際病芽ハ微弱ナガラモ尙殊ニ漿液膜腔内ニ於テ増殖シ内臟及心臓内血液中心ニ僅ニ存スルヲ見ルト云ヘリ又せる中ノ *Germano u. Mouras* モ亦白鼠ニ就キ實驗シちふす桿菌ガ動物體ニ作用スルヤ主トシテ其毒素ナリト雖モ尙ホ菌芽ノ増殖モ之ヲ確認シ得ルモノナルヲ説キ他ノ學者 (*Chantemesse u. Vidal*, *Sancetelli*) モ亦之ヲ證シセリ

ば *Peiffer u. Kollé* ノ實驗ニヨレバちふす桿菌ノ病原性ハ其應用セル菌株ノ毒性及量ニヨリテ異ナルモノニシテ海狸 (體重約三キログラム) ノ腹腔内ニ注射スルニ新二分離セルモノ (培養培養約ハ其毒性五分ノ一白金耳) 一白金耳 (約二五十分ノ一白金耳) ノ間ヲ往來スルモ久シク教室ニ貯藏セシモノハ二分ノ一乃至五分ノ一白金耳ノ間ヲ昇降ス

幼鼠ニ對シテハ其致死量尙少シ但シ百分ノ一乃至二分ノ一白金耳ニテ海狸ヲ致死セシムル菌株ヲ得タル者 (*Kirischer u. Meisnick*) アリ 此ノ如キ猛毒性菌株ハ勿論稀有ナリ

海狸體ヲ通過セシメバ海狸ニ對スル毒性ハ一定度迄増進ス

ばいふる及これるノ實驗ニヨルニ海狸腹腔内ニ比較的大量ノ菌芽ヲ注射スルトキハ多量ノ漿液性又ハ混血性ノ腹腔滲出液現ハル之ヲ毛細管ニテ採取シ檢スルニ巨量ノ活動性菌芽アリテ試獸ノ致死スル迄増殖スルヲ見ル試獸ハ注射後六乃至八時間ヲ經テ體温 (初メ上昇ス) 下降シ三十度ヲ示スノ外特異ノ全身症狀ヲ呈スルコトナク二十四時間以内ニ斃ル之ヲ剖見スルニ脾臟ハ小ニシテ軟弱ナリ小腸ハ蒼白色ナルモ往々微ニ潮紅シ粘液様汁ヲ充タス腹腔滲出液ニハ巨量ノちふす桿菌ヲ藏シ其少數ハ血液及内臟中ニモ迷入ス故ニ其全身感染ヲナセルヲ窺知スルニ足ル又最少致死量ヲ應用セルトキハ試獸ノ腹腔内ニハ唯僅微ノ粘稠ナル膿様液滲出スルノミニシテ活潑ニ運動スル菌芽少數ニ存在ス而シテ其菌芽ノ大半ハ不動性トナリ一部ハ滲出液中ニ游離シ一部ハ白血球内ニアリテ破潰スルヲ見ル此ノ如キ場合ニハ試獸ハ數日 (五日以内) ノ後チ初メテ斃ル之ヲ剖見スルニ腸漿液膜及肝臟面ニハ粘稠ナル膿様纖維素性苔附著シ少數ノ菌芽ヲ有ス但シ往々腹腔滲出液中ニ菌芽ヲ發見シ能ハザルコトアリ内臟及血液中ニモ亦菌ヲ含有スルコトナシ是レ健康組織ハちふす桿菌ニ對シ一定ノ殺菌作用ヲ有スルモノニシテ菌芽ノ死滅ト共ニ游離セル菌體内毒素吸收セラレ爲メニ動物ハ中毒シ遂ニ斃死スルヲ表白スルモノナリ

ばいふる及これるノ實驗成績ハ諸家ニヨリ更ニ

354). Guisetti, Rif. med. 1900. 355). Weichardt, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 36. 1901. 356). De Grandmaison, Arch. de méd. exp. et d'anat. pathol. 1900. 357). Stadelmann u. Wolf-Eisner, münch. med. Wochenschr. 1907. 358). Krokiewicz, wien. klin. Wochenschr. 1908. 359). Jores, münch. med. Wochenschr. 1911. 360). Weichardt, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 33. 1901. 361). de Grandmaison, Arch. de méd. exp. et d'anat. pathol. 1900. P. 289. 362). Krokiewicz, wien. klin. Wochenschr. 1908. 363). Busse, münch. med. Wochenschr. 1908. 364). Dithorn, Leliva, Lieberknecht u. Schuster, hyg. Rundschau. 1908. 365). Eberth, Virchows Arch. Bd. 81. 1880 u. Bd. 83. 1881. 366). Koch, Mitteil. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 1. 1881. 367). Meyer, Diss. Berlin. 1881. 368). Gaffky, Mitteil. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 2. 1881.

爲メニ病徴ヲ呈スルコトナシ (Courmont u. Rocharia²⁰⁰)
 家兎 犬 及 海狸 等ノ 皮下ニ ちふす 桿菌ヲ 注射スレバ 膿瘍 及 膿瘍ヲ 發ス (Pratt²⁰¹)
 ぐりーんばうじ (Grubbaum²⁰²)、黒狸々ニ ちふす 桿菌ノ 病理解剖學的 變化アリシヲ 實驗シ わいんべ
 るく Weinberg²⁰³、ハ 多數ノ 鞭蟲ヲ 排泄セル 猿ノ 胃中ニ ちふす 桿菌純培養ヲ 輸入セシニ 真正ノ ちふ
 す性熱ヲ 發セルヲ 實驗セリ 蓋シ 鞭蟲ガ ちふす 桿菌ノ 腸壁ニ 侵入スルニ 便ナラシメタル 結果ナルベシ
 絞上ノ 實驗ニ 徵スルニ 家畜 及 試獸ハ ちふす 桿菌ニ 自然ニ 感染シ 且ツ 發病スルコトナキモ 尙ホ 其 糞
 便ト 共ニ 病芽ヲ 外界ニ 排泄スルコトアルモノノ 如シ 若シ之ヲ 事實ナリトセバ 防疫上 留意スルヲ 要ス
 但シ 大鼠 及 犬ニ 於ケルニ 二者 (Wiener, Courmont u. Rocharia)ノ 實驗成績ノ 價値未ダ 確認セラレズ
 人體ニ アリテハ ちふす 桿菌ハ 口腔ヲ 經テ 體內ニ 侵入シ 消化器 殊ニ 腸 就中 小腸ノ 淋巴系ニ ヨリテ
 攝取セラレ 血行ニ 入り 次ギテ 諸臟器ニ 蔓延スルモノナリ せり かるす D. Riggs²⁰⁴ハ 腸ちふす 患者
 ノ 四十物ハ 安魏那ヲ 以テ 始マリ 扁桃腺 上 及其 内部ニ 屢々 ちふす 桿菌ノ 存スルヲ 見ル 故ニ 扁桃腺ヲ 其
 侵入 門口ト ナス 場合アルヲ 論ゼリ 菌芽ハ 血中ニ 於テハ 其 増殖至 難ナルモ 腸間膜 脾 及 骨髓等ニ
 於テハ 能ク 増殖ス 而シテ 此等 臟器ニ 於テ 増殖セル 病芽ハ 再タ ビ 血中ニ 入り 各臟器ニ 迷入スルニ 至ル
 スクテ 血液 其他ノ 臟器ニ 於ケル 生理的作用ニ ヨリテ 病芽 死滅スレバ 其 體內 毒素ハ 露出シ 爲メニ 諸種
 ノ 病狀ヲ 呈スルニ 至ル 往時 腸ちふすハ これニ 於ケルガ 如ク 腸ノ 疾病ナリト 做セルモ 多數ノ 學者
 (Schottmüller, Castellani, Neufeld u. a.)ノ 精査セル所ニ ヨリ 菌血症ヲ 起スモノナルヲ 確メタリ 腸
 管ニ 於ケル 病變極メテ 少ナク ばいえる 腺 及 孤腺 僅ニ 腫脹スルニ 止マルノ ミニ シテ 血液 及 他ノ 臟器ニ
 ハ 却テ 多數ノ 菌芽ヲ 藏スルコトアリ 但シ 本菌ハ 血行中ニ 於テ 増殖スルコト 能ハズ 組織ニ 宿リテ 始メ

ちふす桿菌ニ因スル疾病(ちふす桿菌ノ病原性)

338). Kartinski, wien. med. Wochenschr. 1891. 339). Banti, Rif. med. 1887 u. 1891. 340). Bryant, Brit. med. Journ. 1899 and 1901. 341). Lartigan, Johns Hopk. Hosp. Bull. Vol. 10. 1899. 342). Flezner u. Harris, ebenda. Bd. 8. 1897. 343). Du Castel, Bull. et mém. soc. méd. d. hôp. de Paris. 1893. 344). Cheadle, Lancet. 1899. II. 345). Silvestrini, Settimana med. 1897. 346). Nichols u. Keenan, Montreal med. Journ. Vol. 27. 1898. 347). Turney, Lancet. 1900. 348). Mc. Phedran, Philadelphia monthly med. Journ. 1900. Vol. 1. 349). Flezner, Johns Hopk. Hosp. Rep. Vol. 5. 1896 and Vol. 8. 1900. 350). Blumenthal, Ver. f. inn. Med. 23. April. 1902. 351). Scheib, prag. med. Wochenschr. 1902. 352). Borjou u. Lesieur, Journ. de physiol. 1901. 353). Opie u. Basset, ref. Jahresber. Virchow-Hirsch. 1901.

證認セラレタリ 試ミニ ちふす 桿菌ノ 新鮮培養ヲ 六十度ニ 加温スルコト 二十分 時ニ シテ 以テ之ヲ 滅
 殺シ 其 十二乃至 十五 分 ぐらひヲ 海狸 腹腔内ニ 注射スルトキハ 生菌ヲ 注射セル 場合ト 同ジク 二十四
 時間 以内ニ 試獸 斃ル 反之 肉汁 培養液 數立方 せんちめー てるヲ 海狸ノ 腹腔内ニ 注射スルモ 何等ノ 病
 徴ダモ 呈スルコト ナシ 從テ 本菌ノ 毒素ハ 菌體內ニ 存シ 其 病原作用ハ 菌體內 毒素ニ 因スルモノナルコ
 ト 今ヤ 疑フベクモ アラズ
 予ハ 猶ホ 茲ニ 動物體ニ 於ケル ちふす 桿菌ノ 出現 及 感染 試驗ノ 成績ヲ 略敘セムトス
 數日間 餓餓ノ 状態ニ アラシメタル 家兎 及 大鼠ニ ちふす 桿菌ヲ 浸セル 野菜ヲ 與フルトキハ 其 排泄セ
 ル 糞便中ニ ちふす 桿菌 存在スルヲ 見ル 而シテ 數週間ノ 後チ 斃レシ 又ハ 撲殺セシ 試獸ノ 二三ヲ 檢スル
 ニ 腸ノ 濾胞ニハ 潰瘍 形成ヲ 見 且ツ 脾 及 腸間膜 腺ヨリ 病芽ヲ 檢出シ 得ベシ (Beningherg²⁰⁵) 又 接種 ちふ
 すニ ヨリテ 死セル 鼠屍ヲ 喰セシ 大鼠モ ちふすニ 病ミ 斃レ (Wieners²⁰⁶) ちふす 桿菌 所含ノ 糞便ニ 接近
 セル 大鼠モ 亦 同様ノ 運命ニ 了レリ (Mills²⁰⁷) 而シテ 此等ノ 大鼠ノ 腸内 及 糞便中ニハ ちふす 桿菌ノ 存
 スルヲ 見ル
 山羊ノ 靜脈内ニ ちふす 桿菌ヲ 注入スルトキハ 山羊ハ 微ニ 病徴ヲ 發スルノ ミニテ 其 乳中ニハ 久シク
 毒性 ちふす 桿菌ヲ 含ム (Gabbis²⁰⁸) する 處 Scordas²⁰⁹ハ 山羊ニ ちふす 桿菌ヲ 口腔 及 靜脈ヨリ 接種セシニ
 靜脈内ニ 注入セルモノノ 病徴ヲ 呈セリ 此等 感染獸ハ 數ヶ月ニ 互リ 傳染力ヲ 有シ 糞便 尿 及 乳ト 共
 ニ 毒性 菌芽ヲ 排泄スルヲ 實驗セリ 但シ 覆審者 (Hailer u. Ungermann²¹⁰)ハ する 處ノ 業績ヲ 否認セリ
 牛ニ ちふす 桿菌ニ 因スル 脾臟 膿瘍ヲ 發見セル者 (Levy u. Jakobshaus²¹¹)アリ
 ちふす 患者ノ 排泄物ヲ 喰セシメシ 犬ノ 糞便ニハ 多日間 生活機能ヲ 有スル ちふす 桿菌ヲ 藏ス 但シ 犬

ちふす桿菌ニ因スル疾病

269). *Levy u. Gaetgens*, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 28. 1908. 370). *Eyer*, Centralbl. f. allgem. Pathol. u. pathol. Anatomie. Bd. 29. 1909. Ergänz.-H. 371). *Froskauer*, deutsche med. Wochenschr. 1907. 372). *Drigalski*, Centralbl. f. Bact. Bd. 35. 1904. 373). *Forst*, münch. med. Wochenschr. 1906. 374). *Forster u. Kayser*, ebenda. 1905. P. 1473. 375). *Schmidt*, Centralbl. f. allgem. Pathol. u. pathol. Anat. 1907. 376). *Brio u. Kayser*, 77. Vers. deutsch. Naturf. n. Aerzte. 1905. c 377). *Lenz*, med. Klin. 1907. 378). *Bähr*, hyg. Rundschau. Bd. 18. 1908. 379). *Weinberg*, münch. med. Wochenschr. 1907. 380). *Chontemesse u. Rodriguez*, ebenda. 1908. 381). *Stiles*, Centralbl. f. Bact. Bd. 40. Ref. 1907. 382). *Bäumler*, internat. Hygiene-Kongress. 1907. 383). *Schottmüller*, deutsche med. Wochenschr. 1900; Zeitschr. f. Hyg. Bd. 36. 1901.

ちふす桿菌ニ因スル疾病

テ増殖シ一定ノ病的變化ヲ惹起セシムルモノナリ
 人ノ腸ノ粘膜ハ動物ニ於ケルガ如ク本菌ニ對スル抵抗力大ナラザルヲ以テ飲食物ト共ニ腸ニ達セル
 ちふす桿菌ハ回腸末端ノ粘膜ニ寄生シテばいえる腺及ビ孤腺ノ腫脹ヲ發シ髓樣滲潤ヲ來シ(第一週)
 壞死ニ陥ラシメ(第二週)遂ニ固有ノ潰瘍(第三週)ヲ形成ス而シテちふす桿菌ハ腸粘膜ニ寄生スル
 共ニ血行中ニ侵入シ所謂ちふす桿菌性敗血症ヲ惹起ス腸中最モ多クノ病竈ヲ形成スルハばうひに辯
 ノ上部回腸ノ下端ニシテ盲腸 蟲樣突起 回腸上部 空腸及大腸ニハ順次其數ヲ減ズ 或ハ例外トシ
 テ腸ニ原發竈ヲ缺クコトアリ 即チ病芽ハ無事ニ腸粘膜ヲ通過シテ腸ニ何等ノ變化ヲ印スルコトナ
 ク直接ニ腸間膜腺及脾臟ニ或ハ單ニ脾臟ニ原發竈ヲ形成スルコトアリ斯ル破格症ニアリテハ臨牀上
 ニモ亦タ腸症狀ヲ呈スルコトナシト雖モ其全身症狀ハ他ノモノト異ナルコトナシ 胎盤ニ組織缺損
 又ハ出血竈アリテ此ヨリ母體ノ病芽胎兒ニ移行シ胎兒ノ腸ニ變化ナキモ其血中ニ病芽存シ且ツ爲メ
 ニ流産スルニ至ル 其他腺ニ微小ナル病的變化アルノミニシテ重篤ナル全身感染ヲ惹起スル場合ア
 リ(*Quersmann*) 斯クテ腸間膜腺及脾ニ達セル病芽ハ其滲潤腫脹ヲ將來セシメ時トシテハ腸間膜腺
 ハ腸ノ濾胞ト同ジク初メ充血シ次ギテ髓樣變化ヲ現ハシ或ハ化膿スルコトアリ廻盲嚢ノ部分ニ屬ス
 ルモノ最モ著シク腫脹ス又脾ノ腫大ハ每常起ルモノナルモ稀ニ老人及衰弱セル者ニハ之ヲ認メザル
 コトアリ腫脹セル脾ノ被膜ハ強ク緊張シ切面ハ柔軟ナリ肝臟ハ濁潤性腫脹及脂肪變性アリ又心筋ハ
 弛緩シ往々右側擴張ス直腹筋及内轉股筋ハ顆粒狀濁潤 脂肪變性及著明ノ蠟樣變性ヲ呈ス 其他病芽
 ハ血行ニヨリテ腎臟ニ轉移シ茲ニ増殖シ遂ニ細小壞疽竈ヲ形成ス主トシテ腎臟被膜下ニ生ズ是レ蓄
 薇疹ト同一機轉ノ下ニ且ツ同ジク高熱期ニ發生スルモノナリ而シテ該病竈ハ數日乃至十數日ヲ經テ

384). *Jochmann*, Zeitschr. f. klin. Med. Bd. 54. 1904. 385). *Arima*, Arch. f. Hyg. Bd. 73. 386). *Forster*, münch. med. Wochenschr. 1907. 387). *Conradi*, klin. Jahrb. Bd. 17; deutsche med. Wochenschr. 1907. 388). *Mayer*, Centralbl. f. Bact. Bd. 53. 1909. 389). *Hibadeau-Dumas u. Harvier*, Compt. rend. soc. Biol. 1910. P. 181. 390). *Altschüler*, münch. med. Wochenschr. 1904. 391). *Doebert*, Arch. f. Hyg. Bd. 52. 392). *Berghaus*, hyg. Rundschau. 1905. 393). *Trommsdorff*, münch. med. Wochenschr. 1905. 394). *Conradi*, ebenda. 395). *Terburgh*, Centralbl. f. Bact. Bd. 40. 1906. 396). *Burri*, das Tuscheverfahren. usw. Jena 1909. 397). *Müller*, Centralbl. f. Bact. Bd. 53; vergl. auch: *R. Müller*, ebenda. Bd. 50. 1. Abt. Ref. Beiheft. P. 141. 398). *Sobernheim u. Seligmann*, ebenda. 399). *R. Müller*, münch. med. Wochenschr. 19. 9.

ちふす桿菌ニ因スル疾病(ちふす桿菌ノ病原性)

往々細尿管内ニ破潰シ遂ニ尿中ニ菌ヲ混ジ所謂ちふす菌尿症ヲ發スルニ至ル 第五百七十頁乃至
 尿症ハ千八百八十六年(*Huppe*) 及 *Forst* (*Seitz*) ノ創見セル所ナルモ當時諸學者注意スル所
 ナク千八百九十八年ニ至リベシ *Petruschky* ノ研究報告ニヨリ初メテ人ノ注意ヲ惹起ス
 ルニ至レリ一般ニちふす桿菌ハちふす患者ノ二分ノ一乃至四分ノ一ノ尿中ニ現ハレ解熱後數週乃至
 數ヶ月或ハ數年間持續性又ハ間歇性ニ現出ス膀胱ハ多クハ異常ナシ只ダ稀ニ慢性膀胱加答兒ヲ發ス
 ルコトアリ又化膿性腎炎 化石性腎炎 *Nephrothiosis* ヲ發セル例(*Bousing*)アリ
 病芽ハ膀胱中ニ侵入シ茲ニ永ク生存殘留シテ膀胱炎ヲ發シ或ハ該菌ガ核トナリテ膽石ヲ形成ス
 ルコトアリ *Forster* u. *Kayser* 亦タ同一試驗ヲ行ヒ同様ノ結果 百二十八日間膀胱内ヲ得タリ
 及カス *Doebert* ノ實驗ニヨレバちふす桿菌ハ血行中ニ入レバ膀胱ニ現ハルルモ皮下 腹腔又ハ消化管接種ニ
 テハ膀胱ニ常ニ無菌性ナリ又膀胱管ヲ結紮シテちふす桿菌ヲ膀胱内ニ注射セバ該菌ハ膀胱ニ達セザ
 ルモ輸尿管ヲ結紮シテ靜脈内注射ヲ行ヘバ膀胱中ニ多數ニ現ハル而シテちふす桿菌ノ膀胱ニ現ハル
 コト最モ早キハ感染後八時間ニシテ往々百二十日間ノ久シキニ互リ存在ス 概スルニ膀胱ニ炎症ヲ
 發スレバ長ク生存ス加之でハ實驗中膽石形成二例ヲ發見セリ 其他 *Richardson* 等
 ハ家兎ノ膀胱ニ凝集セルちふす桿菌ヲ注入シテ膽石ノ形成ヲ證明シ得ル *Drigalski* 等
 ちふす患者ノ胆汁中ニ常ニ本菌ヲ證明シ得ル及カイセルハ十七例ノちふす屍ヲ檢シ十六回膽
 囊内ニ病芽ヲ發見シ *Thomas* 等ハ八例中七回陽性成績ヲ得タリ就中其一例ハ發病第一週ノ前

400). *Jakobsen*, Centralbl. f. Bact. Bd. 56. 1-10. 401). *E. Müller*, ebenda. Bd. 58. 1911. 402). *Fromme*, ebenda. Bd. 58. 1911. 403). *van Loghem*, ebenda. Bd. 57. 1911. 404). *Baerlein*, berl. klin. Wochenschr. 1911; Centralbl. f. Bact. Bd. 50. 1911. Beilage. 405). *de Vries*, die Mutationslehre. 1901-1903. 406). *Klein*, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 73. 1912. 407). *Mandelbaum*, münch. med. Wochenschr. 1907 u. 1909. 408). *Nieter*, ebenda. 1908. 409). *Russow*, hyg. Rundschau. 1909. 410). *Stahr*, ebenda. 1910. 411). *Gaffky*, Mitteil. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 2. 1884. 412). *Fraenkel* u. *Simmonds*, Centralbl. f. klin. Med. 1885. P. 737; die aetiol. Bedeutung des Typhusbacillus. Hamburg 1886. 413). *A. Fraenkel*, Centralbl. f. klin. Med. 1886. 414). *Seitz*, bacteriol. Studien zur Typhusaetiologie. München 1886.

半ニアルモノナリキル一めんたる *Blumenthal* ハ手術ヲナセシ膽石患者ノ膽汁及膽石中ヨリ屢
ちふす桿菌ヲ培養セリ又あるに *Verneke* ハ多數ノ患者ノ膽囊ニちふす桿菌ヲ證明シ且ツ既ニ脾
臓ニ同名菌存在セザルトキニモ亦之ヲ膽囊中ニ發見スルコトアルヲ彼シ *村山* ハ五例ノちふす屍中
四例ノ膽囊ニ病芽存在ヲ證明セリ其他此種ノ實驗報告枚舉ニ遑アラズ 而シテ膽囊中ニ於ケル菌芽
ノ生存期限ハ不明ナルモ *Buschle* u. *Miller* ハちふす桿菌ニシテ膽囊炎ヲ發セルモノヲ
中ニちふす桿菌ヲ發見シづんげん *Dunger* ハちふす桿菌ニシテ膽囊炎ヲ發セルモノヲ
實驗シて *Droba* ハちふす桿菌ニシテ膽石患者ヨリ本菌ヲ培養シはんでる及らいて
るハちふす桿菌ニシテ二十年ヲ經シ膽石ヨリ之ヲ證明シ *ふる* する及らいてるハ百四十屍ヲ剖キ八例
ノ膽石中七回ちふす桿菌ヲ證シ且ツ其一例ハちふす桿菌ニシテ二十年ヲ經過セル者ノ膽石ナリシヲ彼セ
リ 第五百八
十頁參照
往時血液ハちふす桿菌ニ對シ強大ナル殺菌作用ヲ有スルヲ以テ本菌ハ血中ニ於テ發育増殖シ能ハ
ザルノミナラズ久時生活ヲ保ツコト能ハズ故ニ血行ニヨリテ本菌ヲ輸送スルハ只距離ノ臟器ニ向
ヒテノミナリ從テ重症ちふすハ全身感染ナルモ輕症ノモノハ腸及淋巴腺ノ局部的感染ナリト説ケリ
但シ近時血中ニ於ケルちふす桿菌證明法完全シ腸ちふすハ腸及淋巴腺ノ局部性感染ニアラズシテ常
ニ全身感染ヲナスモノナルヲ知ルニ至レリ 實ニ本菌ハ獨リ腸ノミナラズ殆ド各臟器ニ發見セラル
ぶりおん及かいせる *Brown* u. *Kayser* ハ發病第一週以内ノ患者ノ血中ニ百%病芽ヲ證明シ第二週ニ
ハ五十八%第三乃至五週ニハ約四十%陽性成績ヲ得タルノミナリ蓋シ血液ノ殺菌作用ノ爲メニ滅殺
セラルル菌芽逐日増加スルニヨルモノナリトス

415). *Beumer* u. *Peiper*, Centralbl. f. klin. Med. 1886; Zeitschr. f. Hyg. Bd. 1 u. 2. 416). *Sirotnin*, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 1. 1886. 417). *Blackstein*, the Johns Hopkins Hoep. Bull. 1891. 418). *Ali-Cohen*, Diss. Groningen 1886. 419). *Baumgarten*, Centralbl. f. klin. Med. 1887. 420). *Woffowicz*, Ziegler's Beitr. Bd. 2. 1887. 421). *Cygnaeus*, ebenda. Bd. 7. 1890. 422). *Chantemesse* u. *Widal*, Arch. de physiol. norm. et pathol. 1887. 423). *Gilbert* u. *Girarde*, Gaz. méd. de Paris. 1891. 424). *Peitruschky*, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 12. 1892. 425). *Germano* u. *Mausrea*, Ziegler's Beitr. Bd. 12. 1893. 426). *Chantemesse* u. *Widal*, Ann. Past. T. 6. 1892. 427). *Sanarelli*, ebenda. T. 6. 1892. 428). *Pfeiffer* u. *Kolle*, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 21. 1896. 429). *Kutscher* u. *Meinicke*, Handb. von Kolle-Wasserman. 2. Aufl. Bd. 3. P. 801. Jena 1913.

どりがるすきハ腸ちふす屍ニ就キ本菌ノ分布状態ヲ檢シ直腸下端ニハ多クハ之ヲ發見セズ盲腸
ニハ太ダ少ナク時トシテハ存在セザルコトアリ回腸ニ至リ漸ク多ク空腸ニハ太ダ多ク十二指腸ニハ
常ニ純粹培養ノ觀アリ胃及食道ニモ多數存在シ扁桃腺ノ截面 舌苔 及肺ニモ發見セリ其他本菌ノ最
モ多ク存在スルハ肝 膽囊 脾 腎ニシテ腸間膜腺 骨髓 脊髄ニモ亦證明セラルちふす桿菌ガ最モ
好シテ増殖スル臟器ハ脾ニシテ膽囊及骨髓モ亦好殖地ノ一ナリ膽囊及骨髓ニハちふす桿菌ヲ往々數年
乃至數十年遺殘シ化膿性炎ヲ誘發スルコトアリ又本菌ハ皮膚ニ轉移シテ所謂 瘰癧ヲ生ズ即チ皮膚
ノ淋巴道殊ニ乳嘴體ニ達セル病芽ガ増殖シ局部ニ充血滲潤ヲ發シ終ニ細小瘰癧點ヲ生ゼルニ至ル菌
芽ハ新鮮ナル疹ニハ常ニ(約八十乃至九十%)之ヲ證明シ得ルモ後ニ至リ漿液滲潤スルトキハ其殺菌
作用ノ爲メニ滅殺セラルルヲ常トス其他皮下結締織又ハ筋肉等ニちふす桿菌ニシテ
化膿又ハ膿瘍ヲ發スルコトアリ
ちふす桿菌ハ膜ニ轉移シテ續發性腦膜炎ヲ發スルコト尠カラズ *ふる* する及らいてるハ百四十屍ヲ剖キ八例
Dmowski u. *Janowski* ハ其十一例ヲ報告セリ *ふる* する及らいてるハ百四十屍ヲ剖キ八例
剖見セシ一例 卒然高熱ヲ發シ腦膜炎ノ症狀
ヲ呈シ五日ニシテ死亡セル者 膿性腦膜滲出液ニ純粹ニちふす桿菌ノミアルヲ發見シ同時ニ
はいえる腺ノ腫脹ヲ認メタリ 其他類似ノ報告二三アリ 又臨牀上急性腦膜炎ノ症狀ヲ呈シ腸ちふす
ノ症狀ヲ缺如スルモノ必シモ稀ナラズ此等ハ勿論解剖シ且ツ細菌學的検査ヲ行ハザレバ其腦膜ちふ
す Meningococcus ナリシヤ否ヤヲ斷定スルコト能ハザルモノナリトス
ちふす桿菌ハ肺炎球菌ト共ニ續發性肺炎ヲ醸スコトアリ (*Widal, Glaeser, Eisecker*) 稀ニ本菌ノミ
ニテ原發性肺炎ヲ發スルコトアリ (*v. Stühler*), (*Dieudonne*) 其他喉頭又ハ咽頭ニ轉移性肺炎ヲ發ス

430). *Remlinger*, Ann. Past. T. 11. 1897. 431). *Wiener*, Centralbl. f. Bact. 1903. 432) *Mills*, Brit. med. Journ. 21. 1. 1911. 433). *Gabbi*, Rif. med. 1908; deutsche med. Wochenschr. 1908, P. 666. 434). *Scordo*, Centralbl. f. Bact. 57. 1911. 435). *Hailer u. Ungermann*, 6. Tagung d. Freien Vereinig. f. Mikrobiol. Berlin. 1912. (Centralbl. f. Bact. 1912. Beilage.) 436). *Levy u. Jakobsthal*, Arch. f. Hyg. Bd. 44. 437). *Courmont u. Rocharz*, Sem. méd. 1910; Lyon méd. 1910. P. 530. 438). *Pratt*, Journ. of the Boston Soc. 1899. 439). *Grünbaum*, Brit. med. Journ. Vol. 2. P. 817. 1904. 440). *Weinberg*, Sem. méd. 1907. 411). *Hüppe*, Fortschr. d. Med. 1886. 442). *Seitz*, bact. Studien u. Typhus. Aetiolog. 1886. 443). *Petruschky*, Centralbl. f. Bact. 1898. 444). *Rousing*, Infektionskrankh. d. Harnorg. 1898. 445). *Blackstein u. Welch*, Johns Hopk. Hosp. Bull. 1899.

ルコトアリ扁桃腺ニハ原發性炎ヲ發スルコト稀ナラズ又耳下腺ニ本菌ノミニテ (*Janowski*) 或ハ化膿球菌ト共ニ (*Anton u. Fütterer*) 及齶腺) 作用シテ發炎セシムルコトアリ 往々肋膜炎殊ニ膿胸ヲ發スルコトアリ (*A. Fraenkel*)

其他骨髓 骨膜 關節ニ轉移シテ炎症ヲ發スルコトアリ殊ニ下肢ニ多シ骨髓炎ハ多クハ腸ちふす經過後數月乃至數年ニシテ發ス六年 (*Brunn*) 又ハ七年 (*Buschke*) ニテ發セルヲ實驗セル者アリ又くいんけ *Quincke* ハ打撲ノ誘因ニヨリテ嘗テ骨髓中ニ侵入シ居リシちふす桿菌ノ爲メニ骨髓炎ヲ發セルヲ實驗セリ *ヒューペ* ねる *Hübner* ハ腸ちふす經過後二ヶ月ニシテ股關節炎ヲ發シ四年ヲ經テ尺骨ノ骨髓炎ヲ發セルヲ實驗セリ 又本菌ハ生殖器ノ化膿ヲ惹起ス *らん* *Lantigan* ハ陰及陰門ノ多發性潰瘍ヨリちふす桿菌ヲ純粹ニ培養シ且ツ本菌ニ因スル辜丸炎及ビ副辜丸炎ノ二十乃至二十五%ハ化膿ニ陥ルヲ云ヘリ又ばるどりに腺 (高木及るねる) 攝護腺 (*Nichardson*) ノ膿瘍ニ本菌ヲ證明シタルモノアリ其他扁桃腺潰瘍 (*Mja*) 甲狀腺膿瘍 卵巢膿腫 腹膜膿瘍 耳下腺炎 淚囊ノ化膿 化膿性中耳炎 眼窩ノ化膿 肝及脾ノ膿瘍ヨリ本菌ヲ證明セルモノアリ

腸ちふす經過中細菌 化膿球菌 肺炎球菌等ノ如キモノ混合傳染シ (註) 此ハ諸文獻ニ基キ十八例ノちふす桿菌ト共ニ或ハ單獨ニ轉移性化膿炎ヲ發スルコトアリ 又細菌ノ二次感染ニヨリテ敗血症ヲ發シ以テ病症増悪シテ出血性症狀ヲ呈スルコトアリ (*Wassermann, Petruschky, Lemartz, Bomberg, u. a.*) 加之べどるすきーハ普通大腸桿菌ニ因スル腎臟疾病ニヨリテ死セルちふす屍ヲ剖見セシニ腸ニ小ナルちふす性潰瘍存シ他ノ各臟器ニハ純粹ニ大腸桿菌ヲ藏セルヲ目撃セリ

ちふすノ流行蔓延ニ關シ土地ヲ重視スル者 (*Petruschky, Brühl*) ベッてんノノ説ニ曰ク地下水低キトキハ高キトキヨリ腸ちふす患者

446). *Forster u. Kayser*, münch. med. Wochenschr. 1905. 447). *Doerr*, Centralbl. f. Bact. 1905. 448). *Richardson*, Jahrb. von Baumgarten 1899. 449). *Drigalski*, Centralbl. f. Bact. 1904. 450). *Blumenthal*, münch. med. Wochenschr. 1904; med. Klin. 1905. 451). 村出, 東京醫學會雜誌 第十七卷 明治三十二年. 452). *Buschke u. Miller*, Johns Hopk. Hosp. Bull. 1899. 453). *Dungern*, münch. med. Wochenschr. 1897. 454). *Doroba*, wien. klin. Wochenschr. 1899. 455). *Dmonowski u. Janowski*, Ziegl. Beiträge, 1895. 456). *Fernet*, Bull. de la soc. med. des ho-p. 1891; vergel. auch: 佐藤, 陸軍醫學會雜誌 第四百四十九號 及 細菌學雜誌 明治三十九年; *Schütz*, berl. klin. Wochenschr. 1905. 457). *Stühler*, Centralbl. f. Bact. Bd. 27. 1900. 458). *Dieudonne*, ebenda. Bd. 30. 1901. 459). *Anton u. Fütterer*, münch. med. Wochenschr. 1888. P. 315.

數及其死亡數共ニ大ナリ是レ地下水低キトキハちふす病部ハ地層内アルモ他方ニハ之ニ重キヲ置カズシテ觸接傳染ニ於テ繁殖シタキキ空氣中ニ散置シ流ク流行スルニ至ルモノナリトナリ

ヲ主トスル者 (*R. Koch*) アリ蓋シちふす桿菌ハ土地ニ久シク (月餘) 生存シ得ルモ増殖スルコト能ハズ加之ちふす桿菌ヲ合メル地層ト地下水トノ連絡ナク又戰時ニ陸上或ハ海上ニ發生スルちふす疫ハちふす流行ト土地トガ密接ナル關係ヲ有セザルヲ暗示スルニヨル但シ雨量トちふす患者數トノ正比例スルハ四五ノ學者 (*Reincke, Berger, Bands, Behrens, Rieger u. a.*) ニヨリテ唱道セラレタリ斯クテ土地説ノ可否ハ未ダ確定セザルモ飲料水ニヨリテちふす症大流行スルコトアルハ毫モ疑フベキニアラズ又季節及地質ノ如何ト關係ナク水中ニ病芽ノ存スルハ屢々證明セラレタル所ナリ

傳染源ノ主ナルモノハ病芽ヲ合メル糞便及尿ニシテ爾他ノ分泌物稀ニ喀痰及ちふす後ニ於ケル膿瘍内容物等モ亦傳染ノ源ヲナス

ちふす桿菌ガ患者又ハ恢復者ノ糞便ト共ニ外界ニ排泄セララルルヤ正規的ナラズシテ屢々階段的ナリ (*Simon u. Demme, k, Drigalski*) 故ニ *S. & Mager* ハ定期性又ハ持續性泄菌例ヲ區別セリちふす桿菌ハ往々糞便中ニ巨量ニ現ハレ爲メニ糞便菌ハ久シキ間抑制セララルコトアリ (*Drigalski*) 又病日ニヨリテ其數量異ナルモノニシテ第三週即チ腸ノ腐爛剝離シテ潰瘍ヲ形成セル時最も多ク之ヲ其糞便中ニ見ル (*Drigalski, Brion u. Kayser, Gaehlgens u. Brückner, vorgl. auch: Leovy u. Gaehlgens, Richardson*)

ちふす桿菌ガ患者ノ尿中ニ出現スルヲ創見セルハ *ペトル* *Petruschky* 及 *スニ* *S. & Neufeld* ニシテ患者ノ約二十五乃至三十%ニ之ヲ證明セリ但シ *ペトル* ハ其出現頻繁ナラザルヲ云ヘリ 而シテちふす菌尿症ハちふすノ各期ニ之ヲ見ルモ恢復期ニ最も多シ含菌數不定ニシテ其數

460). *Fraenkel*, deutsche med. Wochenschr. 1899. 461). *Bruni*, Ann. Past. 1896. 462). *Buschke*, Fortsch. d. Med. 1896. 463). *Hübener*, Mitteil. aus d. Grenzgeb. 1899. 464). *Quinke*, berl. klin. Wochenschr. 1896. 465). *Lartigan*, boston med. and surg. Journ. 1899. 466). *Tabaki* u. *Werner*, Zeitschr. f. Hyg. 1896. 467). *Richardson*, Journ. of the Boston soc. 1900. 468). *Miya*, Centralbl. f. Bact. Ref. 1905. 469). *Petruschky*, Zeitschr. f. Hyg. 1902. 470). *Pettenkofer*, Zeitschr. f. Biologie. Bd. 4. 471). *Buhl*, ebenda. Bd. 1. 472). *Reincke*, deutsche Vierteljahrschr. f. öffentl. Ges.-Pfleger. 1896. 473). *Berger*, therapeut. Monatsh. 1898. 474). *Bandi*, Rev. d'igiene. 1897. 475). *Behrens*, Arch. f. Hyg. Bd. 40. 1901. 476). *Rieger*, klin. Jahrb. Bd. 13. 1908. 477). *Simon* u. *Denmark*, deutsche milit.-ärztl. Zeitschr. 1907.

少ナキトキハ尿ノ外觀變ズルコトナキモ其數多キトキハ往々一億以上ノ菌芽ヲ含ミ濁濁スルコトアリ勿論其清濁ト含菌量トハ必シモ一致スルモノニアラズ(*Throsch*, *Drigalski*)又排泄ハ階段的ナルコトアルノミナラズ持續期モ長短不同ナリ
呼吸器及喀痰其他ちふす經過後ヲ發スル膿瘍等ニちふす桿菌ノ出現スルコトアルハ既ニ破セル所ナリ
ちふす患者ノ吐出セル酸性胃内容物モ亦タ偶然傳染力ヲ保有スルコトアリ(*Drigalski*, *Prigge*, *Mayer*, *Niepraschke*, *Hoke*)
ちふす症ノ傳染能力ト病期トノ關係ヲ知ルハ敢テ無益ニアラザルベシ菌芽ガ最モ多ク糞便ト其ニ外界ニ排出セラルルハ第三週ニアリ故ニ此時期ニ傳染率最モ多カラムト思惟スルハ自然ノ理ナリト雖モくりんげる(*Klinger*)ノ報告ハ必シモ其然ルニアラザルヲ示ス即チ八百十二例ノちふすヲ檢セシニ第三週ニ傳染セル者僅ニ百十六例アルノミナラズ發病初期ニ既ニ感染セル者三百四十五例アリキ然リちふす患者ノ傳染能力ハ管ニ病ノ極期ニ於テノミナラズ發病第一日否 潜伏期中ニモ既ニ傳染能力ヲ有シ加之快復期及ビ臨牀的全癒後ニモ亦タ斯力アリ是レ防疫上最モ留意警戒ヲ要スベキ點ニシテ潜伏期ニ既ニちふす桿菌ヲ糞便中ニ確認セル例(*Conradi*, *Mayer*, *Prigge*) 抄カラズ其他快復期ニ至ル迄ちふす桿菌ヲ持續的ニ排泄スルハ敢テ珍トセズ(*Drigalski*, *Herbert*, *Lentz*, *Kutschera*, u. a.) 或ハ恢復後十五日ヲ經タル者ノ七〇ノ糞尿中ニ病芽ヲ證明シ(*Brion* u. *Kayser*) 或ハちふす快復者ノ三分ノ二ニ尙ちちふす桿菌ヲ證明セリ(*Simon* u. *Denmark*) *St. S. Mayer*ハ多數ノ重症患者中全然解熱セル後六乃至八週間ヲ經テ始メテ其糞便中ニ病芽ヲ泄ラスモノアルヲ

478). *Drigalski*, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 41. 1912. 479). *G. Mayer*, münch. med. Wochenschr. 1908; *O. Mayer*, ebenda. 480). *Drigalski*, Centralbl. f. Bact. Orig. Bd. 35. 1904. 481). *Brion* u. *Kayser*, deutsches Arch. f. klin. Med. Bd. 85. 482). *Gaehgans* u. *Brückner*, Centralbl. f. Bact. Orig. Bd. 53. 1909. 483). *Levy* u. *Gaehgans*, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 41. 484). *Richardson*, Journ. of exper. Med. 1893; Centralbl. f. Bact. Ref. Bd. 26. P. 148. 485). *Petruschky*, Centralbl. f. Bact. Bd. 23. 1898. 486). *Neufeld*, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 31; deutsche med. Wochenschr. 1900. 487). zit. nach *Drigalski*: Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 41. 1912. 488). *Hoke*, prager med. Wochenschr. 1909. 489). *Klinger*, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 30. 490). *Conradi*, klin. Jahrb. Bd. 17; deutsche med. Wochenschr. 1907.

報告セリこんらーちハ此種ノモノヲ遲延性泄菌者 *Sphaerusscheider*ト呼ベリ 又吾人ハ臨牀上全癒シタル者ニシテ尙ホ病芽ヲ排泄スルコト久シキニ及ブモノアルハ屢々實驗スル所ナリ之ヲ持久性泄菌者 *Dauerusscheider*ト稱ス之ニ一時性ノモノ持續期一ト慢性ノモノ持續スル者トノ別アリ(*Prigge*) 往時ハ三ヶ月ヲ以テ其界トセリ(*Kirchner*, *Foelkel*, u. a.) 其他全ク健康ニシテちふす桿菌ヲ藏シ或ハ臨牀上診斷ヲ下シ能ハザル輕症者ニシテ之ヲ保有スルアリ之ヲ保菌者 *Bacillenträger*ト云フ 勿論持久性泄菌者モ亦保菌者ノ一ニシテちふす宿主 *Typhusvirte Fornet*ナリ近時こんらーち *Conradi*ハ罹患後病芽ヲ排泄スル者ヲ主保菌者トシ發病セザリシ者ヲ副保菌者ト命名セリ實ニちふすノ流行ニハ持久性泄菌者ハ往時ノ所謂保菌者(狹義)ニ比セバ特ニ重大ナル意義ヲ有スルモノナリ
腸ちふすガ臨牀的治療ヲナセル後チ感染臓器ニ年餘一二ノ病竈ヲ胎スコトアリ是レ醫家ノ久シク知レル所ナリちふす後ニ發セル骨膿等ニ潜伏セル病芽ノ如キハ疫ノ流行蔓延ニ大意義ヲ有セズ蓋シ外界ト交通セザル部ニ病竈存スルガ故ナリ 潜伏性病芽ヲ藏スル竈若シ外界ト交通スル部ニ發セルトキハ其期間ノ長短ヲ論ゼズ危險ニシテ防疫上重視スベキモノナリトス而シテ此法ニヨレル病芽ノ外出ハ即チ尿及糞便ニ倚ルモノナリトス
腸ちふすハ菌血症ノ一ニシテ其經過中ニ脾 肝腎 骨髓 腸間膜腺等ノ如キ諸臓組織ニ栓塞性轉移ヲナス若シ其轉移竈ガ腎臓淋巴腺腫(Vasculitis) 膀胱 攝護腺又ハ精囊等ニ發シ且ツ其病竈泌尿官ニ向テ破裂スルトキハちふす桿菌ハ尿ニ混スルニ至ル勿論其持續ハ病竈部ノ治療ノ遲速ニヨリテ或ハ一時性菌尿者トナリ或ハ慢性菌尿者トナルモノナリトス 菌芽ガ患者ノ尿ニ現ハルルニ先チ腎臓ニ栓塞ヲ形成スル事實ト病芽ハ全病日血中ニ認めルモ尿中ニ現ハルルハ疾病ノ末期ニアルノ事實トニ徴

- 1). Irvin u. Houston, Lancet. 1909.
- 2). Davies, Emerys-Roberts u. Fleischer, ebenda. 1910. Vol. 2. P. 723.
- 3). Lentz, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 41. 1912.
- 4). Drigalski u. Conradi, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 39. 1902.
- 5). Scheller, Centralbl. f. Bakt. Orig. Bd. 46. 1908.

劑ト伍シテ用ヒタル場合ナリトス 又七ケ年ニ亙リちふす桿菌ヲ泄ラセル菌尿者ニ殺害セルちふす桿菌ヲ用ヒテ自働免疫法ヲ試ミ接種苗ヲ反覆注射セシニ遂ニ菌尿症全癒セルヲ實驗セル者(Lewin, Rowston)アルモ其無効ヲ論ズル者(Davies, Lentz)ナキニシモアラズ

ちふす桿菌ノ感染門口ハ即チ腸粘膜ナリ故ニ病芽ヲ攝取セル者ノ糞便中ニ存在スルハ明カナリ而シテ菌芽ヲ攝取スルモ猶ホ健康状態ヲ保ツモノアリ(健康保菌者)或ハ爲メニ發病シ一時性又ハ慢性持久性ノ泄菌者タルコトアリ

一時性泄菌者ハ五乃至十歳ノモノニ最も多ク持
久性泄菌者ハ三十乃至四十五歳ノ者ニ最も多シ

健康保菌者ハちふす患者ノ周圍ニ屢々發見セラルルモノニシテ偶々病芽ヲ消化官ニ攝取セリト雖モ何等ノ障礙ヲ蒙ルコトナク病芽ハ再タビ糞便ト共ニ外界ニ排出セラルルニ至ル此種ノ健康保菌者ノ血清ヲ檢スルモ凝集反應陰性ナリ 健康保菌者ハ必ずりがるすきー及こんらーちのガちふす患者ノ周圍ニ於テ二例ヲ創見セシ以來諸家ニヨリテ實驗セラレタリ 殊ニしるれる Scheller⁽⁴⁾ハ持久性泄菌婦ノ乳ヲ哺セシ四十名中十六名ハ健康保菌者トシテ持續的ニ糞便検査毎ニちふす病芽ノ檢出陽性ナリキ但シ其哺乳ヲ廢セルト共ニ病芽ノ排泄ヲ見ザルニ至レリト云フ 健康保菌者ノ頻度ハ詳ナラザルモ一萬六千五百ノちふす患者ヲ出セル際 百九名ノ健康保菌者ヲ發見シ 内 婦人四十四名 男子三十三名 小兒二十二名ナリシヲ被セル者(Berg)アリ 但シ其實數ハ恐ク遙ニ大ナルモノナラヌ是レ其検査法容易ナラザルノミナラズ健康保菌者ノ糞便中ニ於ケル病芽ノ數量ハ少ナク且ツ其持續モ短ク唯ダ暫時詳言セバ含菌性食物ヲ攝取セルトキノミニ限り糞便ト共ニ排泄セラルルガ爲メ少數ノ健康保菌者ヲ發見シ得ルニ過ギザルモノナラヌ

健康保菌者ト雖モ勿論危險ニシテ疫ノ流行ニ對シ大ナル意義ヲ有スルモノナリト雖モ排泄セラル

- 1). Drigalski, Centralbl. f. Bact. Orig. Bd. 35. 1904.
- 2). Forster u. Kayser, münch. med. Wochenschr. 1905. P. 1473.
- 3). J. Koch, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 62. 1909.
- 4). Chiarolanza, ebenda.
- 5). Levy u. Kayser, münch. med. Wochenschr. 1906. P. 2434.
- 6). Kamm, ebenda 1909. P. 1011.
- 7). Hilgermann, klin. Jahrb. Bd. 20. 1909.
- 8). Grimme, münch. med. Wochenschr. 1907. P. 1822.
- 9). Loele, deutsche med. Wochenschr. 1909 P. 1429.

ル病芽ノ數少ナク且ツ時間短キトニヨリ持久性菌尿者 *Schilhaneranuschoider* ニ比セバ其危險ノ度遙ニ小ナリト謂ハザルベカラズ

消化官ノ或ル部例令バ膀胱又ハ小腸ノ輪襞及絨毛或ハ蟲様突起若クハ扁桃腺等ガちふす病竈ト交通スルトキハ病芽ハ糞便ト共ニ外界ニ排出セラレ所謂持久性菌尿者トナリ得ルモノナリト雖モ實際
上腸内容中ニ混加スル病芽ノ根源地ハ膽囊ニアルガ如シ 第五百七十八及第五百九十九頁參照 二三ノ學者(Drigalski, Forster u. Kayser⁽⁵⁾)ハちふす屍ヲ檢シ腸ノ上部殊ニ十二指腸ニハ每常多量ノちふす桿菌存在シ往々純粹培養ノ觀アルモ腸ノ下部ニアリテハ其數少ナク加之時トシテハ全ク發見シ得ザルコトアルヲ實驗セリ 其他ちふす屍ノ膽囊内容ニモ多量ノ病芽アルヲ見ル 第六百頁參照 又小腸下部ニ於ケルちふす性潰瘍ヨリちふす桿菌ヲ培養スルハ比較的困難ナルモ此處ヨリ小腸ノ上部ニ遍歷セルモノハ能ク増殖ス此等ノ事實ニ徴セバ持久性菌尿者ノ糞便中ニ混スル病芽ノ根源地ハ膽囊ニ索ムベク十二指腸ニ多量ノ病芽存在スルハ即チ膽囊ヨリ排泄セラレタル結果ナルベシ

病芽ガ膽囊ニ達スルノ徑路ニ關シテハ上文既ニ被セリ或ハ血行ヨリ肝組織ヲ經テ或ハ膽囊壁ニ形成セル栓塞性ちふす桿菌竈(*J. Koch*⁽⁶⁾, *Chiarolanza*⁽⁷⁾)ヨリ膽囊内ニ達スルモノナリ 但シ其兩途中孰レガ多キヤノ疑問ハ未ダ解決セララルニ至ラズ

膽囊内ニ侵入セル病芽ハ腎及膀胱等ニ於ケルヨリモ消滅シ難ク後者ノ場合ニハ病竈ハ不絶尿ニヨリテ洗滌セララルモ膽囊内ニ於テハ病芽ハ胆汁ヲ養素トシ却テ發育増殖スル傾アリ即チ侵入セル病芽ノ爲メニ膽道ハ多少發炎スルヲ以テ胆汁鬱積シ病芽ヲシテ増殖セシム是レちふす恢復後ニ多數ノ持久性菌尿者ヲ出ス所以ナリ多數ノ學者(Lewy u. Kayser⁽⁸⁾, Kamm⁽⁹⁾, Hilgermann⁽⁷⁾, Grimme⁽⁸⁾, Loele⁽⁹⁾)

1). Brückner, deutsche med. Wochenschr. 1910. P. 2047. 2). Lentz, klin. Jahrb. Bd. 14. 1905. 3). Nieter u. Liefmann, münch. med. Wochenschr. 1906. P. 1611. 4). Eecard, ebenda. 1910. P. 129. 5). Lemke, Zeitschr. f. Medizinalbeamte. 1909. 6). Zueig, deutsche med. Wochenschr. 1910. P. 1803. 7). Quinke u. Hoppe-Seyler, die Krankh. der Leber. Nothnagels spez. Pathol. u. Therapie. 1907. 8). Förster, münch. med. Wochenschr. 1908. 9). Prigge, klin. Jahrb. Bd. 22. 1910; Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 41. 1912. 10). Fornet, münch. med. Wochenschr. 1910. 11). Lentz, klin. Jahrb. Bd. 14. 1905. 12). Drigalski, Centralbl. f. Bact. Orig. Bd. 35. 1904. 13). Friedel, Zeitschr. f. Med.-Beamte. 1905. 14). Kutscher, Handb. von Kolle-Wassermann. 1. Aufl.

ハ解剖學的ニちふす桿菌ヲ證明スル場合ニハ膽囊ハ常ニ多少異常(穿孔又ハ膽石)アルヲ謂ヘリ但シ
 ぶりおねる Brückner¹⁾ハちふす様疾病ニ罹リシ後一ケ年間ちふす桿菌ヲ漏ラセル婦女ノ膽囊及爾
 餘ノ組織ニちふす桿菌ヲ發見スルコト能ハザリキ勿論此事實ニヨリ菌尿者ニ於ケル病芽根源地ハ膽
 囊ニアラズト云フコトヲ得ズ何トナレバ菌芽排泄經過中ニ膽囊ニ於ケル僅微ノ變化全癒セル結果菌
 芽消滅セルモノナラムトモ云ヒ得ベケレバナリ
 事實ノ數フル所ニヨレバ慢性保菌者ハ特ニ婦女ニ多ク(Lentz²⁾)且ツ精神病患婦ニモ亦タ尠カラズ
 (Nieter u. Liefmann³⁾, Eecard⁴⁾, Lemke⁵⁾, Zueig⁶⁾)是レ恐ク屢々産褥ニ入り且ツ營養不良ナルト神
 身ノ過勞等ニヨリ素因増加(膽汁鬱積)スル結果ナルベシ
 膽石ハ頗ル多ク大人ノ約四乃至六%ハ之ヲ有シ膽石アルモノノ約九十%ハ何等ノ苦痛ヲ訴フルコ
 トナシ(Quinke u. Hoppe-Seyler⁷⁾)而シテ膽石患者ノ比較的多數ノモノハちふす菌尿者ナリ蓋シちふ
 す桿菌ニヨリテ膽道ハ發炎化膿スルノミナラズ菌芽ハ直チニ膽石核トナリ膽石形成ニ資スルコト多
 大ナルニヨルモノナリトス(Vergl.: Förster⁸⁾, Prigge⁹⁾, Fornet¹⁰⁾)男女間ニ於ケル膽石患者ト慢性
 ちふす保菌者トノ數量的關係ハ殆ンド相均シク膽石患者ハ男二對女八ノ比ヲ示シ(Quinke u. Hoppe-
 Seyler, Prigge⁹⁾)二百六十一名ノ慢性菌尿者中男五十一名女二十名即チ二對八ナリ(Prigge)斯ク
 ノ如ク男女間ニ於ケル慢性保菌者率ト膽道病率トノ相均シキハふさるすてる Försterガ創見セル所ニ
 シテ彼ハ兩者ノ原因同一ナル結果ナリト云ヘリ
 持久性菌尿者ガ排泄スル病芽ハ往々純粹培養ノ状態ニ存スルコトアリ(Lentz¹¹⁾, Drigalski¹²⁾, Trie-
 del¹³⁾, Kutscher¹⁴⁾ u. a.)此ノ如キ場合ニハちふす宿主タルヲ容易ニ證明シ得ルモ時トシテハ其検査困

1). Kayser, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 25. 1907. 2). G. Mayer, Centralbl. f. Bact. Orig. Bd. 53. 1909. 3). Scheller, ebenda. Orig. Bd. 46. 1908. 4). Klinger, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 24. 1906. 5). Frosch, klin. Jahrb. Bd. 19. 1908. 6). Woodhouse, Journ. of the royal army med. corps. 1908. Juni. 7). Sporberg, klin. Jahrb. Bd. 24. 1911. 8). Schumacher, ebenda. Bd. 22. 1909. 9). Levy u. Kayser, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 25. 1907. 10). Baumann, ebenda. Bd. 28. 1908. 11). Drigalski, münch. med. Wochenschr. 1905. 12). Erion u. Kayser, deutsches Arch. f. klin. Med. Bd. 85. P. 525. 13). Brückner, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 33. 1910. 14). Frosch, klin. Jahrb. Bd. 19. 1908. 15). Prigge, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 41. 1912. 16). Fornet, ebenda. Bd. 41.

難ナルコトアリ殊ニ一時性健康保菌者ノ糞便中ニ於ケル病芽ノ數ハ甚僅少ナリ加之持久性菌尿者ト
 雖モ糞便又ハ尿ト共ニ菌芽ヲ排泄スルハ正規的ナラズシテ週期的又ハ階段的ナリ (Lentz, Kayser¹⁾,
 G. Mayer²⁾, Scheller³⁾, Klinger⁴⁾, Frosch⁵⁾, Woodhouse⁶⁾, Sporberg⁷⁾, Schumacher⁸⁾, Levy u. Kayser⁹⁾,
 Baumann¹⁰⁾)菌芽ノ排泄持續的ナラズシテ中絶スルハ是レ病芽ガ腸ニ占居セズシテ膽囊内ニ在ル證
 左ナリ(Kayser)膽囊ヨリ出デシ病芽ハ腸ノ末端ニ達スルニ先チ枯死スルコト屢々アリ
 ぶりおねる Drigalski¹¹⁾ノ所說ニヨレバ持久性菌尿者數ハ患者ノ三乃至五%ナリ れんつハ四
 百人ヲ檢セシニ内六名(一五%)十週間以上泄菌セルヲ實驗シかいせるハ曩年ちふすヲ患ヒシモノ
 ニ三%ノ持久性菌尿者ヲ發見シ未ダちふすヲ患ヒシコトナキ健康者千八百人中二十七名(一五%)
 ハ菌尿者ナリシト云ヘリ ぶりおん及かいせる Erion u. Kayser¹²⁾ハ二百八十ノちふす經過者ヲ檢
 シ三名ノ持久性菌尿者ヲ發見シ後年更ニ檢シ五%ノ持久性保菌者ヲ得タリ くりんげる Klinger¹³⁾
 ちふす患者ノ一%ハ持久性保菌者ナリト云ヘリ ぶりおねる Brückner¹⁴⁾ハ三百十六名ヲ檢シ九人
 (二八%)ノちふす菌尿者ヲ得タリ其内大人二百十二名アリシガ十一人即チ五二%陽性ナリキ其他
 ぶりおねる Frosch¹⁵⁾ガ千九百四年ヨリ千九百六年ニ亙リ検査セル結果ヲ總括セル所ニヨレバ六千七百
 八名ノちふす患者中十週間以上病芽ヲ排泄セル者三百十名即チ四六二%アリテ内三ヶ月以上排泄
 セル者百六十六名(即チちふす患者ノ二四七%)三ヶ月以内ノモノ百四十四名(二二五%)ナリシト
 云フ 又千九百四年ヨリ千九百九年ニ亙リ統計セル者(Prigge⁹⁾, Fornet¹⁰⁾)殊ニぶりおねる報告ニヨ
 レバ一萬千七人ノちふす經過者中暫時性又ハ慢性ノちふす菌排泄者トナリシモノ四百一十一人即チ約
 三七%アリテ内二百七十三人即チちふす患者ノ二四%ハ慢性保菌者ト變ゼリト云フ 故ニ此等諸家

- 1). *Frosch*, klin. Jahrb. Bd. 19. 1908. 2). *Schumacher*, ebenda. Bd. 22. 1910. 3). *Drigalski*, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 41. 1912. 4). *Frosch*, Festschr. z. 60. Geburtstage von R. Koch. 1904. 5). *Lenta*, klin. Jahrb. Bd. 14. 1905. 6). *Klinger*, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 25. 1907. 7). *Mayer*, Centralbl. f. Bact. Orig. Bd. 53. 1909. 8). *Nieter*, münch. med. Wochenschr. 1907. P. 1622. 9). *Nieter* u. *Liefmann*, ebenda. 1906. 10). *Eccard*, ebenda. 1910 P. 129. 11). *Lentke*, Zeitschr. f. Medizinalbeamte. 1909. 12). *Zoelig*, deutsche med. Wochenschr. 1910. 13). *Lentke*, Zeitschr. f. Med.-Beamte. 1911. 14). *Leddingham*, Brit. med. journ. 1908. Vol. 1. 15). *Minelli*, Centralbl. f. Bact. Bd. 41. 1906. 16). *Bötticher*, hyg. Rundschau 1910; Zeitschr. f. hyg. Bd. 67. 1910. 17). *Kayser*, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 24. 1906.

ノ實驗成績ハ相互略一致スルヲ見ル
算スルノ如ク慢性保菌者ノ半週以上ノ患者ノ約四乃至五%ヲ
 算スルモノノ如ク計上セラルルモ實數ハ尙ホ遙ニ大ナラム
 持久性泄菌者及健康保菌者ハ男子ヨリモ女子ニ多シブリッゲハ五百一名ノ持久性泄菌者及健康保菌者中

- (1) 一時性保菌者百九名中 女六十名即チ五十五%
 - (2) 慢性保菌者七十八名中 女六十八名即チ八十七%
 慢性持久泄菌者(一ケ年以上)百三十一名中 女九十名即チ六十八%
 慢性持久泄菌者(一ケ年以上)百八十三名中 女百四十二名即チ七十七%
 アルヲ發見セリ故ニ(2)以下(4)迄即チちよす發病後ニ病芽ヲ排泄スルモノハ女子ニ七十三%アリ
 ト謂ハザルベカラズ^{ふるね}モ亦タ更ニ多數ノ材料ヲ用ヒ統計セシガ略同様ノ成績ヲ得タリ
 - (4) 慢性持久泄菌者ト年齢トノ關係ヲ見ルニ齡ヲ重スルニ從ヒ漸次増多シ一乃至十四歳ノ小兒ハ六十乃至七十四歳ノ大人ニ比シ泄菌者數遙ニ少ナク約六十分ノ一ニ過ギズ
- ふるねノ統計ニヨレバ慢性^{ふるね}ちよす宿女中八十二%ハ結婚シ十八%未婚者ナリキ 反之一時性^{ふるね}ちよす宿女中結婚セル者(四十六%)ハ少ナク未婚ノ者(五十四%)多カリキ此數字ハ妊娠其他ノ膽汁排泄ニ及ボス影響ト病芽ノ増殖竝ニ生活力ノ強弱トノ關係ヲ知ルノ一緒端トナリ得ルモノナラム
 ちよす桿菌ガ糞便ト共ニ排泄セラルル期間ニ關シテ四五ノ學者ノ報告アリ ぶりッゲノ所說ニヨレバ長年月間泄菌スルモノハ短日月間泄菌スルモノニ比シ稀ナリ而シテ其泄菌者中ちよす恢復後約七十年ヲ經シモノアリキ^{三十五年或ハ四十二年間ニ互}又一年前ヨリ排泄スル者八十名(内男子二十二名)ニ乃至四年排泄スル者五十四名(内男子十三名)五乃至九年泄菌スル者十七名(内男子二名)アリシト云

- 18). *Kossel*, deutsche med. Wochenschr. 1907. P. 1584. 19). *Stott*, Lancet. 1910. Vol. 2. P. 793. 20). *Lumsden* u. *Woodward*, Journ. of Amer. med. assoc. 1909. 21). *Scheller*, Centralbl. f. Bact. Orig. Bd. 43. 1908. 22). *Haskell*, Journ. of Amer. med. assoc. 1908. 23). *Mandelbaum*, münch. med. Wochenchr. 1908. 24). *Wernicke*, klin. Jahrb. Bd. 17. 1907. 25). *Friedel*, Zeitschr. f. Med.-Beamte. 1905. 26). *Denemark*, Centralbl. f. Bact. Orig. Bd. 54. 1910.

フ (Vergl. auch: *Frosch*¹⁾)
糞便ト共ニ排泄セラルル^{ちよす桿菌ヲ確實ニ連續}
 的ニ證明セル者ノ内最モ長キハ三ケ年中ナリトス

持久性泄菌者ガちよす感染源ヲナスモノナルハ既ニ明瞭ニシテ疑フベキニアラズ健康觀ヲ呈スル者ガ殆ンド純粹培養ノ状態ニテ往々間斷ナク年餘病芽ヲ排泄スルノ事實アルニ徴セバ何人モ其危險ヲ首肯スベシ ^{ふるね}ノ敘事ニヨレバ三百十名ノちよす宿主ニヨリ二百七十六名即チ患者全數ノ四・一%の發病セリ内二百二十八名ハ相手ガちよす宿主ナルコト明瞭トナラザル以前ニ既ニ感染シ四十八名ハ明確トナリシ宿主ニヨリテ發病セルモノナリト云フ ^{くりんげ}ハ持久性泄菌者ノ爲メニ觸接感染ヲナスハ全觸接感染者數ノ約十一分ノ一ニ過ギズト云ヘリ若シ之ヲ眞ナリトセバ持久性泄菌者ノ危險ノ度比較的大ナラザルモノノ如シ但し^{ふるね}ハ^{Schumacher}ハ觸接傳染性^{ちよす}流行ノ際其感染源僅ニ五十一%の判明セルノミナリシモ後チ七名ノ持久性泄菌者アリシコト確定セル爲メ全部ノ感染源明瞭トナリシヲ云ヘリ 其他彼ノ所謂ちよす家屋^{Typushäuser}ナルモノニアリテハ新ニ住メルモノヲシテ約二乃至三週間ノ後チ皆ちよすニ罹ラシム而シテ其傳染源ハ全ク持久性泄菌者ニ存スルモノナリトス (*Drigalski*³⁾, *Frosch*¹⁾, *Lenta*⁵⁾, *Klinger*⁶⁾, *G. Mayer*⁷⁾ u. a.) 又彼ノ癡狂院暨獄等ニ於テ流行スルちよすニアリテモ此等不明瞭ノちよす保菌者ヲ其感染源トナス場合尠カラザル^ニ (*Nieter*⁸⁾, *Nieter* u. *Liefmann*⁹⁾, *Eccard*¹⁰⁾, *Lentke*¹¹⁾, *Zoelig*¹²⁾, *Lentke*¹³⁾, *Leddingham*¹⁴⁾, *Minelli*¹⁵⁾, *Bötticher*¹⁶⁾)

食品殊ニ牛乳ガちよす宿主ノ爲メニ偶然汚染セラレ爲メニ多數ノ者發病スルコトアリ (*Kayser*¹⁷⁾, *Kossey*¹⁸⁾, *Stoff*¹⁹⁾, *Lumsden* u. *Woodward*²⁰⁾, *Scheller*²¹⁾, *Haskell*²²⁾, *Mandelbaum*²³⁾, *Wernicke*²⁴⁾) 菓子製造者ニちよす宿主アリシ爲メ菓子ニヨリチよす流行セル例 (*Friedel*²⁵⁾, *Denemark*²⁶⁾, *Hecker*²⁷⁾)

- 1). Hecker u. Otto, deutsche militärärztl. Zeitschr. 1909. 2). Ustvedt, Centralbl. f. Bact. Ref. Bd. 49. 1911. 3). Davis u. Hall, Proceed. of the royal soc. of med. 1908. 4). Soper, Journ. of the Amer. med. assoc. Vol. 48. 1907. 5). Woodhouse, Journ. of the royal army med. corps. 1908. 6). Baumann, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 28. 1908. 7). Brückner, ebenda. Bd. 33. 1910. 8). Bitter, deutsche med. Wochenschr. 1910. P. 400. 9). Dean, Brit. med. Journ. 7. III 1908. 10). Gregg, Boston med. and surg. journ. 1908. 11). Huggenberg, Korresp.-Bl. f. schweizer Aerzte. 1908. P. 622. 12). Jundell, Hygiea. 1908. 13). G. Meyer, Centralbl. f. Bact. Orig. Bd. 53. 1909. 14). Seitz, klin. Jahrb. Bd. 22. 1909. 15). Simon, ebenda. Bd. 17. 1907. 16). Stede, hyg. Rundschau. 1909. 17). Schönbrod, klin. Jahrb. Bd. 22. 1909.

Otto¹⁾, Ustvedt²⁾, Davis u. Hall³⁾, Soper⁴⁾, Woodhouse⁵⁾ マリ 其他ちふす宿主ニヨリテ或ハ廣ク或ハ狭クちふす症流行セルハ既ニ多數ノ醫學者 (Baumann⁶⁾, Brückner⁷⁾, Bitter⁸⁾, Dean⁹⁾, Gregg¹⁰⁾, Huggenberg¹¹⁾, Jundell¹²⁾, G. Mayer¹³⁾, Seitz¹⁴⁾, Simon¹⁵⁾, Stede¹⁶⁾, Schönbrod¹⁷⁾, Schumacher¹⁸⁾, Suber¹⁹⁾, Rommel²⁰⁾, Trüger²¹⁾, Momose²²⁾)ニヨリテ紹介セラレタリ實ニちふす宿主ハ不明ナルニヨリ其危険ノ度ハ寧ろ患者ヨリモ大ナリト謂ハザルベカラズ

ちふす宿主ハ嘗ニ其周圍ノモノニ對シ危險ヲ醸スモノナルノミナラズ其保有スル病芽ハ往々宿主自身ニ對シ再感染ノ源ヲナスコトアリ (Levy u. Kayser²³⁾, Grinne²⁴⁾, Kamm²⁵⁾, G. Mayer²⁶⁾) 此ノ如キ場合ニハ隱家ナル膽囊ヲ出デシ病芽ガ腸粘膜ヲ經テ再タビ體內ニ侵入スルノ結果ニ外ナラザルベシ由來保菌者ハ必ズシモ血中ニ抗體ヲ有スルモノニアラズ既ニ血中ノ抗體消失セル場合ニモ尙ホ保菌者トシテ病芽ヲ排泄スルコト往々アリ蓋シ腸管粘膜ガ所謂局所免疫性ヲ享有スル爲メナルベシ故ニ若シ其腸管ノ局所免疫性減弱スルコトアラムカ病芽ハ直チニ宿主體ヲ襲ヒ宿主ハ再感ノ不幸ヲ見ルニ至ルベシ

ちふす宿主ガ多量ノ病芽ヲ排泄シ以テ其周圍ヲ汚染スルニ拘ハラズ危險全クナキカ或ハ極メテ少ナキコトアリ (Prigge) 是レ其毒性減弱セル結果ナルンシ (Levy u. Weber²⁷⁾, Hilgermann²⁸⁾) 此ノ如キ弱毒性病芽若シ好良ナル養基例令バ牛乳等ヲ得バ其毒性ヲ再タビ恢復スト説ク者 (Levy u. Weber) アルモちふす宿主ノ爲メニ發セル牛乳性流行ノ際多數ノ一時性健康保菌者ヲ出セル例 (Scheller²⁹⁾) アリ 此のけるまんハ他ノ人體ヲ通過セバ再タビ猛毒性トナルト説ケルモ患者及持久性泄菌者竝ニ保菌者ヨリ得タルちふす桿菌株ヲ用ヒテ動物試験ヲ行フモ其毒性ノ特ニ増強セルヲ確認スルコト能ハ

- 18). Schumacher, klin. Jahrb. Bd. 22. 1910. 19). Suber, Centralbl. f. Bact. Ref. Bd. 48. 20). Rommel, münch. med. Wochenschr. 1910. P. 956. 21). Trüger, Zeitschr. f. Med.-Beamte. 1908. 22). Momose, Centralbl. f. Bact. Ref. Bd. 40. 1907. 23). Levy u. Kayser, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 25. 1907. 24). Grinne, münch. med. Wochenschr. 1907. P. 1822. 25). Kamm, ebenda. 1909. P. 1011. 26). G. Mayer, Centralbl. f. Bact. Orig. Bd. 53. 1900. 27). Levy u. Weber, Centralbl. f. Bact. Orig. Bd. 43. 1907. 28). Hilgermann, klin. Jahrb. Bd. 19. 1908. 29). Scheller, Centralbl. f. Bact. Orig. Bd. 46. 1908. 30). Lentz, zit. nach Prigge: Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 41. 1912. 31). Prigge, ebenda. Bd. 3. 1908. 32). Brummund, sociale Medizin u. Hygiene. 33). Hilgermann, klin. Jahrb. Bd. 22. 1909.

ズ (Lentz³⁰⁾) ト云フ

持久性泄菌者ニ於ケル病芽ヲ藥劑ニテ除去セムト企圖セル者 (Prigge³¹⁾) アルモ未ダ確效ヲ奏スルモノヲ發見スルコト能ハズ ちふす桿菌ノ Omorol これりじん Cholestylin (Brummund³²⁾) ちりちる酸曹達 (Hilgermann³³⁾) トーベロソ (Liefmann³⁴⁾) めんソー (Stade³⁵⁾) 等ノ如キモノ試用セラレタリ ちふす桿菌ヲ感染セシメタル家兎ニくろろふるむ列布油乳劑ヲ其直腸内ニ注入シテ好果ヲ得タル者 (Conrath³⁶⁾) アリ 持久性泄菌者ニ應ニ用セル例ヲ聞カズ 其他めちりるよぢーど ちちーれんふるみーど ちふるもふるむよーどふるむじノ如キモノヲ應用シ動物試験上多少効價アルヲ認メタル者 (Ehler u. Rimpau³⁷⁾) アリ 近時ちふす桿菌³⁸⁾ハ十二名ノ保菌者ニねおるばるちふす桿菌ヲ初回ニ〇.三回ニ〇.六回注射セシニ二例ヲ除ク外ハ皆菌芽ノ排泄中絶セルヲ云ヘリ ちふす桿菌³⁹⁾ハ久シクちふす桿菌ヲ排泄スル者ニ例ニ膽囊切開術ヲ施シ久シキニ互リ胆汁排泄ヲ試ミタリ手術後短時日竝ニ二及八ヶ月ヲ經タルトキ其糞便ヲ檢セシニ尙ホ病芽混存セリト雖モ更ニ連續檢査セシニ遂ニ其病芽消失シ三年又ハ四年間之ヲ證明スルコト能ハザルニ至レリ故ニ恐ク全瘥セルモノナルベシト彼セリ又ふるむじ Fromme⁴⁰⁾モ膽囊切開術ヲ施セル三例ガ好果ヲ齎ラセルヲ彼シ ちりちるめ Grinne⁴¹⁾モ手術後五十五日ニシテ病芽消失セル一例ヲ實驗セリ但シちりちるめノ實驗セルモノハ果シテ繼續的ニ無菌性トナリタルモノナリヤ否ヤノ證明ヲ缺ク 其他膽囊切開術ヲ試ミタルモノアルモ病芽ハ爾餘ノ膽道内ニテ増殖スルヲ見ル (Loche⁴²⁾) 加之ちふす桿菌ハ無菌性ナリシモ肝組織ニちふす桿菌ヲ有セル持久性泄菌者ノ一例ヲ實驗セリ 由是觀之保菌者ニ對シ假令外科的手術ヲ施スト雖モ百發百中常ニ好果ヲ結ブモノナリト謂ヒ得ザルモノナルベシ

34). *Liefmann*, münch. med. Wochenschr. 1909. P. 509. 35) *Stude*, hyg. Rundschau. 1909. 36). *Conradi*, Centralbl. f. Bact. Ref. Bd. 47. 1910. 37). *Hailer u. Rimpau*, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 8, 1911. 38). *Leitner*, deutsche med. Wochenschr. 1918. 39). *Dehler*, münch. med. Wochenschr. 1907. 40). *Fromme*, deutsche Zeitschr. f. Chir. Bd. 107. 1910. 41). *Grimme*, münch. med. Wochenschr. 1908. 42). *Loelz*, deutsche med. Wochenschr. 1909. P. 1429. 43). *Lenke*, Zeitschr. f. Medizinalbeamte. 1909. 44). *Lentz*, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 41. 45). *Griesinger*, Virchows Handbuch d. spez. Pathol. u. Therap. 46). *Curschmann*, deutsche med. Wochenschr. 1904. 47). *Stern*, Diskuss. zum Vortrag v. *Lentz*, 14. intern. Kongr. f. Hyg. u. Demographie. 1907. 48). *G. Mayer*, deutsche militärarztl. Zeitschr. 1905.

自働免疫法ヲ施シ菌尿症ヲ根治セシメムトセル者(Lenke⁴³, Lentz⁴⁴)アリシモ其結果陰性ニ了ハレリ

腸ちふす潜伏期ニ既ニ病芽ヲ排泄スル者及保菌者竝ニ殊ニ持久性泄菌者ノ外ニ猶ホ特ニ注意ヲ要スルモノアリ即チ所謂遺毒性ちふす Typhus ambulatorius 又ハ流行性感胃をらりハ肺炎 氣管枝肺炎 安魏那 不消化症等ノ名稱ノ下ニ經過スル不定型性ノちふす是レナリ小兒及老人ニ屢々之ヲ實驗ス加之産褥婦ニアリテハ屢々産褥熱ノ如キ症状ヲ呈スルモノ稀ナラズ (Griesinger⁴⁵, Curschmann⁴⁶, Stern⁴⁷, G. Mayer⁴⁸, O. Mayer⁴⁹, Lintz⁵⁰, Westervijk⁵¹, Weichardt⁵², Ghon⁵³, Bajinsky⁵⁴, Drigal'ski⁵⁵, Rosenhag⁵⁶, Brückner⁵⁷, Oswald⁵⁸, Rommle⁵⁹, Levy u. Wieber⁶⁰) 之ハ R. Koch⁶¹ハ小兒病ハちふすノ蔓延ニ對シ大ナル意義ヲ有スルヲ云ヘリ 其他膽石患者トちふすとノ關係ハ既ニ之ヲ上述セリ又腸ちふすと何等ノ關係ナキガ如キ局所疾病例令バ膀胱加答兒及中耳炎ノ如キモノガ偶然ちふす病芽ニ原因スルコトアリ (Neumann⁶², Drigal'ski⁶³) 故ニ防疫ニ際シ多大ノ注意ヲ要ス

腸ちふすノ頻度ハ職業年齢及性ト多少關係ヲ有スルモノノ如シ例令バ千九百六年ニ於ケル四百五十四人ノ患婦中三百十四名(六十九%)ハ家婦ニシテ五十六名(十二%)ハ下婢ナリシヲ以テ八十一%ハ家事ニ従事スル婦女ナリキ (Frosch⁶⁴) くりんげるモ八百四十二人ノ患婦中五百七十四名ハ家婦百一名ハ下婢ニシテ三十二名ハ看護婦ナリシヲ被セリ 男子ニアリテモ亦タ看護ニ従事スルモノハ能ク之ニ感染ス (Kutscher⁶⁵, Sample u. Graig⁶⁶) 性モ亦其發病率ニ差ヲ生ズ是レ主トシテ其職業ト關聯セルモノノ如シ即チ統計ノ致フル所ニヨレバ男子ハ女子ヨリモ多ク之ニ罹リ女子ハ屢娠中ニ感染ス 一般ニ精神感傷憂悶 消化障礙 神身ノ過勞 營養不良等ハ感染素質ヲ高ムルモノ

49). *O. Mayer*, münch. med. Wochenschr. 1906. P. 1782. 50). *Lentz*, 14. intern. Kongr. f. Hyg. u. Demographie. 1907. 51). *Westervijk*, Sitzungsber. der Mikrobiol. Gesellschaft zu St. Petersburg. März 1904. 52). *Weichardt*, Zeitschr. f. Hyg. u. Infektionskrankh. Bd. 33. 1901. 53). *Ghon*, Diskuss. zum Vortrag von *Lentz* (s. 47.) 54). *Bajinsky*, Ann. méd. d. Pôp. d. enf. Hamidié. 1903. 55). *Drigal'ski*, Centralbl. f. Bact. Orig. Bd. 35. 1904. 56). *Rosenhag*, deutsche med. Wochenschr. 1906. P. 1933. 57). *Brückner*, ebenda. 1910. P. 2047. 58). *Conradi*, ebenda. 1917. 59). *Rommel*, münch. med. Wochenschr. 1910. 60). *Levy u. Wieber*, Centralbl. f. Bact. Orig. Bd. 43. 1907. 61). *Koch*, Veröffentl. a. d. Geb. d. Militär-Sanitätswesens. 1901. 62). *Neumann*, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 25. 1907. 63). *Drigal'ski*, ebenda. Bd. 41. 1912.

ナリトス 其他年齢ハ其感受性ニ大ナル影響ヲ及ボスモノニシテ十五乃至二十五歳ノ者最モ多ク之ニ罹ル 又小兒ハ一般ニちふすと對シ抵抗力大ニシテ輕ク且ツ短ク經過シ死亡數モ少ナク大人十五ニ對シ小兒六ノ比ニテ死亡者ヲ出ス (Borne) 又婦女ノ死亡數ハ同年齡ニ於ケル男子ニ比シ多少大ナリ但シ本邦ノ死亡統計ニヨレバ男子ノ死亡率却テ多シ (第六百三十六乃至六百四十一頁參照) 季節モ亦ちふすノ流行ニ影響スルモノニシテ八月ヨリ十月ニ亙リテ最モ多ク發生ス是レ外氣ノ溫度ト密接ナル關係ヲ有スルガ爲メナラム (Hornet, O. Mayer⁶⁷, Rosenau, Lamsden u. Kastle⁶⁸, Kutscher⁶⁹) 其他鞭蟲ノ寄生ハ猿ヲシテちふすニ感染原因ヲ與フルモノノ如シ (Weinborg⁷⁰) ト雖モ人ニアリテハ爲メニ特ニ感染シ易キヲ見ルコト能ハズ (Stiles⁷¹, Chantemesse u. Rodrigues⁷², Rosenau, Lamsden u. Kastle, Drigal'ski) 第五百八十 八頁參照

腸ちふすノ傳染徑路ヲ尋ヌルニ本症ハ常ニ其病芽ノ嚙下ニヨリテ發スルモノナルヲ以テ保菌者又ハ泄菌者ノ排泄セル病芽所含ノ汚物ニヨリテ直接又ハ間接ニ傳染セラルタル飲食物ヲ攝取スルヲ其主要ナルモノトス

腸ちふすガ觸接傳染病ナルハ既ニ諸家ノ實驗ニ徴シテ明カナル所ニシテ Frosch⁶⁴ガ千九百七年迄調査セル九百七十八例ノ患者中六百六十二例即チ六十五%ハ觸接ニヨリテ感染セルモノナリキ 又ちりがるす⁷³モ千九百四年ヨリ千九百九年迄實驗セルちふす患者ノ六十四%ハ觸接傳染ナリシヲ云ヘリ此等ハ皆或ハ直接ニ患者ヨリ或ハ間接ニ他物ヲ介シテ感染セルモノナリ故ニ觸接傳染ノ場合ニハ先ヅ患者及保菌者ノ周圍ニアリテ病芽ニ直接又ハ間接ニ觸接スル機會アル者ニ傳染發病スルコト多シ雖然遠隔ナル場所ニ居ルモノト雖モ亦タ間接ニ感染スルコトナキニシモアラ

64). *Frosch*, klin. Jahrb. Bd. 19, 1908. 65). *Kutscher*, Typhus. Lehrbuch d. Militärhyg. von Bischoff, Hoffmann u. Schwiening. Bd. 4. Berlin 1912. 66). *Semple u. Graig*, münch. med. Wochenschr. 1909; Centralbl. f. Bact. Ref. Bd. 43. 67). *O. Mayer*, münch. med. Wochenschr. 1909. P. 368; klin. Jahrb. Bd. 21. 68). *Rosenau, Lumsden u. Kastle*, Centralbl. f. Bact. Ref. Bd. 43, 1909. 69). *Weinberg*, Compt. rend. soc. Biol. 1906. 70). *Stiles*, Centralbl. f. Bact. Ref. Bd. 40, 1907. 71). *Chantemesse u. Rodriguez*, münch. med. Wochenschr. 1908. 72). *Frosch*, klin. Jahrb. Bd. 19, 1908. 73). *Klinger*, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 3, P. 584. 74). *Fornet*, ebenda. Bd. 41, 1912.

第六百二十
十頁参照

ズ
潜伏期第一週ノ者ヨリ傳染セル例 三十三
百八十三(約二十三%)
潜伏期第二週ノ者ヨリ傳染セル例 百五十

發病第一週ノ者ヨリ傳染セル例	百八十七
發病第二週ノ者ヨリ傳染セル例	百五十八
發病第三週ノ者ヨリ傳染セル例	百十六
發病第四週ノ者ヨリ傳染セル例	五十九
發病第五週ノ者ヨリ傳染セル例	三十四
發病第六週ノ者ヨリ傳染セル例	二十二
發病第七週ノ者ヨリ傳染セル例	十四
發病第八週ノ者ヨリ傳染セル例	十六
發病第九週ノ者ヨリ傳染セル例	十五
發病第十週ノ者ヨリ傳染セル例	八

アリシヲ云ヘリ 故ニ觸接傳染ヲ分チテちよす症ノ時期ニヨリテ早期及後期觸接 *Früh- u. Spätkon-*
takte ノ二トナスコトヲ得ベシ こんらーちハ八十五例中四十九例ハ發病第一週以內ニ十六例ハ發
病第二週ニ傳染シ二十例ハ其レ以後ノ觸接ニヨレルモノナリシヲ發病第一週又他ノ三十例ニアリテハ內
八例ノミ第二週ニ二十例ハ反之第一週ニ觸接感染セルモノナリシト云フ せりがるすさーモ亦同
様ノ事實ヲ公表セリ ぶるね *Fornet* ノ所說ニヨレバ第二週ニ感染スル者最モ多ク 第一及第三週

1). *Baginsky*, Ann. med. des enfants Hamidie, 1903.

ノ者之ニ次ギ 患者ノ十二例ハ第一者ノ發病前ニ既ニ感染セル者ナリ 故ニ潛伏期中ニアリテ尙自由
ニ運動スル者ハ就擽セル患者ヨリモ其危險ノ度却テ大ナリ 其他保菌者又ハ持久性泄菌者ニヨリテ
ナサレタル後期觸接ノ危險ナルハ上文既ニ之ヲ發セリ

彼上ノ如クちよす發生ノ源ヲナスモノハちよす患者ニシテ管ニ糞便ノミナラズ凡テノ排泄物(尿
及喀痰等)ニ對シ消毒法ヲ嚴ニセザルベカラズ 患者ヨリモ特ニ危險ナルハ輕症又ハ不全ちよす患者
ニシテ醫師ニヨリ觀過セラレタルモノナリトス故ニ小兒ニ對シテハ慎重ナル警戒ヲ要スちよす患者
ノ家ニ於ケル小兒ガ僅ニ異常ヲ感ズルノミニシテ所謂輕症又ハ不全ちよすニ感染セル例アルハ吾人
ガ屢々遭遇スル所ナリ故ニばざんすやー *Baginsky* ハ小兒ノ殊ニ危險ナルヲ警告シ其糞便處置ノ不
注意ニヨリちよす流行セル例屢々アルヲ舉ゲタリ其他健康保菌者ノ危險モ亦酷ダシ ぶるすてるハ
ちよす流行ノ二十七例ハ保菌者ニヨリテ發スルモノナルヲ云ヘリ せりがるすさーハ嘗テ受るさす
ノ寒村ニ於テちよす患者八名ノ届出アリシトキ健康調査及糞便ノ細菌検査ヲナセシニ七十二名ノち
よす患者ヲ發見セリ此等ハ皆輕症ちよすニシテ內五十二名ハ小兒ナリキ又或ル一家ニ四名ノちよす
患者アル届出アリシニヨリ其家人ヲ調査セシニ更ニ二名ノ輕症ちよす患者ヲ得タリ 該村ニハ當時
久シクちよす發生セザリシニヨリ其發生徑路ヲ調査セルニ患者家族中ノ一少女ガ嘗テ就牀シ恢復後
脱毛セシコトアリ故ニ其血液ヲ檢セシニせりだる反應陽性ナリキ 而シテ其少女ハ隣村ノ某家ニ備
ハレ居リシ者ナルヲ以テ更ニ其家ニ就キ調査セシニ家婦及一名ノ小兒ガちよす樣疾病ニ罹リシコト
ヲ知り採血シせりだる反應ヲ檢セシニ陽性ナリキ 於是其小兒ノ通學スル小學校ヲ調査セシニちよ
す流行アリテ既ニ五名ノちよす患者ノ届出アリキ仍テ全生徒ノ健康診斷ヲ行ヒシニ更ニ十六名ノ輕

1). Firth u. Horrocks, 70. Jahresversamml. der Brit. med. Assoc., Manchester 2902. 2). Nepraechk, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 64. 1909. 3). S. einer Arb. von Drigalski: Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 41. 1912. 4). Pfuhl, deutsche militärärztl. Zeitschr. 1888. P. 335. 5). Berghaus, Arch. f. Hyg. Bd. 60. 1907. 6). Hoffmann, hyg. Rundschau. 1905. 7). Berghaus, Arch. f. Hyg. Bd. 60. 1907. 8). Meyer u. Prigge, sit. nach Drigalski: Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 41. 9). Dürck, münch. med. Wochenschr. 1890. P. 842. 10). Gaehlgens, ebenda. 1909. P. 288. 11). Mayer, Centralbl. f. Bact. Orig. Bd. 53. 1909. 12). Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 41. 1912. 13). 日本帝國第三十七統計年鑑 大正七年十二月刊行 第三百九十頁。(同書第五十頁所載ノ死亡數トモ多大ノ相違アリ)

症ちよす患者ヲ發見セリ此等ハ熱發頭痛等ニヨリ一二日間休校シ或ハ休校スルニ及バズシテ治セシモノナリシト云フ

觸接傳染ノ多クハ汚染セル手ニヨリテ營マルモノニシテくりんげるハ千三百九十七例中千三百十五例ハ汚手ニヨリテ病芽ガ口腔ニ運バレタルモノ(觸接傳染)ニシテ五十九例ハ牛乳ニ因シ二十二例ハ食物ニ基キ猶ホ水及洗濯物ニ由レルモノ各二例アリシヲ被セリ

病芽ニテ汚染セル飲食器具 衣服靴又ハ患者ノ浴水 便所等ヲ介シテ間接ニ感染スルコトアルハ自明ノ理ナリ 衣服ニ附着セルちよす桿菌ハ月餘生存ス(Firth u. Horrocks) 履靴ニヨリテ感染セル例(Nieprschk, Conrad, Drigalski)及浴水ノ飛沫ニヨリテ發病セル例(Pfuhl, Berghaus)アリ其他使所ヨリ感染スルモ亦可能ナリ(Hoffmann, Berghaus)三十三回ノちよす流行中一回ハ便所ノ不足ニ因セル者(Meyer u. Prigge)アリ

胎兒ノ感染及ちよす宿主ノ自家感染第六百十モ亦タ觸接傳染ノ一ナルベシ胎兒ノ感染ニ關シテハ諸家之ヲ實驗シ且ツ細菌學的ニ立證セリ(Duroz, Gaehlgens, Mayer)往々胎盤ニ病芽ヲ證明シ得ザルニ拘ハラズ胎兒ニ之ヲ發見スルコトアリ 第五百八十 第六百八十

職工労働者大工左官等ノ如キモノニヨリテ間接ニ病芽ヲ蔓延セシメタル報告例(Drigalski, Fornel)アリ

今參考ノ爲メ我邦ニ於ケルちよす患者及死亡數ヲ表示セム該統計表ハ内閣統計局ノ編纂セル衛生統計ニヨリ抄録セルモノナルモ第六百三十六頁ニ掲ゲタル同局編纂ノ死亡統計トハ勿論明治四十四年同局編纂ノ「衛生統計ニ關スル描畫並ニ統計表」第五十九頁及第六十五頁ニ載セルモノトモ其數字ナ異ニス勿論相當ノ理由アルヲラムモ今ハ其源ヲ追窮スルノ暇ナク唯之ヲ模寫スルニ止メム

年次	患者數	死亡數	患者一百ニ對スル死亡率	人口一萬ニ對スル死亡率	年次	患者數	死亡數	患者一百ニ對スル死亡率	人口一萬ニ對スル死亡率
明治十五年	一八六八	四九四	二七五	一五五	明治三十三年	三三八九	五五二	三三六	一七〇
明治十六年	一八二四	四〇三	二二一	一六六	明治三十四年	三三三三	五二二	三三三	一七〇
明治十七年	二〇一六	五〇六	二五一	一六九	明治三十五年	三〇〇九	四八八	三三三	一七〇
明治十八年	二七三三	六〇九	二二二	一七三	明治三十六年	一八八三	四三三	三三三	一七〇
明治十九年	二七三三	六〇九	二二二	一七三	明治三十七年	一九三三	四三七	三三三	一七〇
明治二十年	二七三三	六〇九	二二二	一七三	明治三十八年	三三九	五三七	三三三	一七〇
明治二十一年	三〇〇〇	六〇九	二〇六	一七三	明治三十九年	三二七	五三七	三三三	一七〇
明治二十二年	三〇〇〇	六〇九	二〇六	一七三	明治四十年	三二七	五三七	三三三	一七〇
明治二十三年	三〇〇〇	六〇九	二〇六	一七三	明治四十一年	三二七	五三七	三三三	一七〇
明治二十四年	三〇〇〇	六〇九	二〇六	一七三	明治四十二年	三二七	五三七	三三三	一七〇
明治二十五年	三〇〇〇	六〇九	二〇六	一七三	明治四十三年	三二七	五三七	三三三	一七〇
明治二十六年	三〇〇〇	六〇九	二〇六	一七三	明治四十四年	三二七	五三七	三三三	一七〇
明治二十七年	三〇〇〇	六〇九	二〇六	一七三	明治四十五年	三二七	五三七	三三三	一七〇
明治二十八年	三〇〇〇	六〇九	二〇六	一七三	明治四十六年	三二七	五三七	三三三	一七〇
明治二十九年	三〇〇〇	六〇九	二〇六	一七三	明治四十七年	三二七	五三七	三三三	一七〇
明治三十年	三〇〇〇	六〇九	二〇六	一七三	明治四十八年	三二七	五三七	三三三	一七〇
明治三十一年	三〇〇〇	六〇九	二〇六	一七三	明治四十九年	三二七	五三七	三三三	一七〇
明治三十二年	三〇〇〇	六〇九	二〇六	一七三	明治五十年	三二七	五三七	三三三	一七〇

今更ニ五ヶ年間ニ於ケル平均數ヲ以テ人口一萬ニ對スルちよす患者率ヲ計算スルニ

平均	患者數	死亡數	患者一百ニ對スル死亡率	人口一萬ニ對スル死亡率
明治十五乃至十九年ニ於ケル平均	二〇一六	四〇九	二〇三	一七〇
明治二十乃至二十四年ニ於ケル平均	二七三三	五〇九	二二二	一七三
明治二十五乃至二十九年ニ於ケル平均	三〇〇〇	六〇九	二〇六	一七三
明治三十年乃至三十四年ニ於ケル平均	三二七	五三七	三三三	一七〇
明治三十五乃至三十九年ニ於ケル平均	三二七	五三七	三三三	一七〇
明治四十乃至四十四年ニ於ケル平均	三二七	五三七	三三三	一七〇
明治四十五乃至四十九年ニ於ケル平均	三二七	五三七	三三三	一七〇

1). *Jordan, Russel u. Zeit, Journ. of infect. Diseases.* 1904. 2). *Russell u. Fuller,* ebenda-Suppl. 2. 1906. 3). *Gärtner u. Rubner,* Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 19. 1903. 4). *Ohlmüller,* ebenda. Bd. 20. 1904. 5). *Gärtner,* klin. Jahrb. Bd. 9. 1902. 6). *Springfeld, Gräve u. Bruns,* klin. Jahrb. Bd. 12. 1904. 7). *Hoffmann,* Arch. f. Hyg. Bd. 52. 1904. 8). *Tavel,* Centralbl. f. Bact. Bd. 33. 1903. 9). *Almqvist,* hyg. Tijdskrift T. 1. 1908. 10). *Küster,* hyg. Rundschau. 1910.

ナリ故にちふす患者ハ明治十五年以來逐年増加シ發病及死亡率共ニ明治十九年ニ至リ最も高ク翌年ヨリ多少減セルモ明治二十四年迄ハ毎年殆ど同高ニアリシ爲メ前五十年ニ於ケル平均率ヨリモ其數遙ニ大ナルヲ示ス夫ヨリ遞次減少ニ傾ケルモ明治三十七年頃ヨリ又漸次増加ノ傾ヲ示シ舊態ニ復セムトスルノ狀アリ

間接傳染ノ頻度及意義ハ病芽ガ外界ニ於ケル生活力及外界ニ現出スル頻度如何ト關係スルモノナリ 水中ニ於ケルちふす桿菌ハ他ノ水菌ノ爲メニ壓倒セラレ且ツ養素不充分ナルニヨリ速ニ枯死スルモノニシテ約五乃至十日間生存スルニ過ギザルノ例(*Jordan, Russel u. Zeit, Russel u. Fuller*)ニ徴セバ水ニヨリテ流行スル危險ハ或ハ觸接ニ於ケルヨリモ其度少ナキニアラザルヤヲ想ハシム但所謂糞塊(糞片等)中ニ於ケルモノハ久シク生存ス(*Gärner u. Rubner, Ohlmüller*)又ける³⁾ねる³⁾ハ巴里ノ上水中ニ於テちふす患者ガ一日半ニシテ百四十きろめーてる(約二十五里)ヲ流レタル後尙ホ生存セルヲ證明セリ停止セル水(井水)中ニアリテハちふす桿菌ハ比較的久シク生存スルモノノ如ク⁴⁾はーんは⁴⁾Donhoffハちふすが飲料水ニヨリテ流行スル際井水ヲ檢セシニ陰性成績ヲ得シモ井中ノ泥土ヲ檢セシニ陽性成績ヲ得タリト云フ其他濁水中ニアリテハちふす桿菌久シク生存シ泥土井壁及水導管ニ附著シテ數ヶ月間生存セルノ例アリ汚染セル泥土中ヨリ約五週間ヲ經テ確實ニちふす桿菌ヲ分離セル者(*Springfeld, Gräve u. Bruns*)水族館ニ於ケル水中ニハ二ヶ月間泥土中ニハ二ヶ月間ちふす桿菌生存セルヲ實驗セル者(*Hoffmann*)アリた⁵⁾うる⁵⁾Tavel⁶⁾ハ此等實驗ノ正確ナルヲ認定シ且ツちふす病芽ガ水導水中ニ於テ約半年間生存セルヲ證明セリ其他泥土及濾砂ニ於ケルちふす菌芽ヲ證明シ以テ其生存期ノ短ナラザルヲ證セル者(*Almqvist, Küster*)アリ河水ニアリテモ井水ニ於ケルガ如ク尙ホ數ヶ月間生存ス

1). *Löffler, Weyls Handbuch d. Hyg.* Bd. 1. 1896. 2). *Neufeld, Handb. von Kollo-Wassermann.* 1. Aufl. 3). *Emmerich u. Gemünd,* münch. med. Wochenschr. 1904. 4). *Hunte-Müller,* Arch. f. Hyg. Bd. 54. 1905. 5). *Fehrs,* hyg. Rundschau. 1906. 6). *Korschun,* Arch. f. Hyg. Bd. 60. 1907. 7). *Schepilewski,* ebenda. Bd. 72. 1910. 8). *Kübler u. Neufeld,* Zeitschr. f. Hyg. Bd. 31. 1899. 9). *Hankin,* Centralbl. f. Bact. Bd. 26. 1899. 10). *Fischer u. Flatau,* ebenda. Bd. 29. 1901. 11). *Matthes u. Neumann,* Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 24. 1906. 12). *Strössner,* Centralbl. f. Bact. Bd. 38. 1905. 13). *Kaiser,* deutsche Vierteljahrsschr. f. oeffentl. Gesundheitspflege. Bd. 39. 1907. 14). *G. Mayer,* Centralbl. f. Bact. Orig. Bd. 53. 1909. 15). *Drigalski,* Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 24. 16). *Conradi,* deutsche med. Wochenschr. 1904.

純水殊ニ殺菌水中ニ於テハちふす桿菌ハ比較的久シク(三週乃至三ヶ月)生存ス(*Drigalski, Neufeld*)ル⁷⁾ニナラズ多少増殖スルヲ見ル但シ若シ同時ニ多數ノ原始蟲(鞭毛蟲)存在スルトキハ菌芽ハ原始蟲ノ食餌トシテ攝取セラレ比較的速ニ(數日乃至四週間)其影ヲ没ス(*Emmerich u. Gemünd, Huntmüller, Fehrs, Korschun, Schepilewski*)

千八百九十二年及千八百九十三年はむふる⁸⁾ニ於ケル腸ちふすノ流行ニハ頗ル興味アル事實アリ即チ上水ハ同時ニこれら⁸⁾菌及ちふす桿菌ニヨリテ汚染セラレシガちふすノ潜伏期ハこれらニ比シ久シキヲ以テ先ノこれら⁸⁾流行ニ二三週ヲ經タル後チふす流行セリト云フ

井水及上水等ノ如キ飲料水ガ汚染スルハ患者ノ排泄物 下水等ニ因スルノミナラズ汚染セル手ニヨリテ汲水時ニ井水汚染セラルルコトアリ

井水(Kübler u. Neufeld⁹⁾, Hankin¹⁰⁾, Fischer u. Flatau¹¹⁾, Matthes u. Neumann¹²⁾, Strössner¹³⁾, Kaiser¹⁴⁾, G. Mayer¹⁵⁾, Drigalski¹⁶⁾, Conradi¹⁷⁾) 濾過上水(Springfeld, Gräve u. Bruns, Jaksch u. Rau,¹⁸⁾ Tavel, Gärtner¹⁹⁾, Noele²⁰⁾) 泉水(Noele, Beck u. Ohlmüller²¹⁾, Bienslock²²⁾, Gärtner) ニモリテちふすノ流行セル例頗多シ往時はむふる⁸⁾ニ於テハ⁸⁾る⁸⁾ベ河水ヲ濾過セズシテ直チニ之ヲ飲用ニ供セシニ滿潮ノ時ハ下水逆流シ上水中ニ進入スルコトアリシ爲メニ年々歲々ちふす發生絶ユルコトナカリキ千八百八十七年ヨリ翌年ニ互リ腸ちふす大流行セルトキ獨リ兵營ノミハ特ニ井水ヲ使用セシ爲メ一人ノ患者ヲモ出サザリシト云フ(*Gurschmann²³⁾, Reinke²⁴⁾, Simmonds²⁵⁾*) 又千八百七十二年すつ²⁶⁾どがる²⁶⁾ニ於ケルちふす流行時ニハ水導水ヲ使用セル三階四階ニ住メル者ノミ之ニ罹リ井水ヲ使用セル一階二階ノ者ハ其傳染ヲ免レタリト云フ(*Simmonds*) ²⁷⁾バ²⁷⁾ウ²⁷⁾ Picht²⁸⁾ハ河ノ上流ニ於テちふす患者ノ衣類ヲ洗濯セシ爲メ其下流域ニ四ヶ月間ちふす流行セル例ヲ報告セリ 又²⁹⁾り²⁹⁾ね²⁹⁾ふる²⁹⁾く

17). *Jakob u. Rau*, Centralbl. f. Bact. Bd. 36. 1904. 18). *Gärtner*, klin. Jahrb. Bd. 9. 1902.
 19). *Noetel*, Sanitätsber. über die Kgl. Preuss. Armee. osw. 1903-04. 20). *Beck u. Ohlmüller*,
 Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 24. 1906. 21). *Bienstock*, hyg. Rundschau. Bd. 13. 1903. 22).
Curshmann, deutsche med. Wochenschr. 1888. 23). *Reinke*, deutsche Vierteljahrsber. f. öffentl.
 Gesundh. 1896; Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. 1893. 24). *Simmonds*, ebenda. 1886. 25). *Picht*,
 Zeitschr. f. med. Beamte. 1900. 26). *Peiffer*, klin. Jahrb. 1900. 27). *Barth*, Zeitschr. f. klin.
 Med. 1900. 28). *Konrich* Zeitschr. f. Hyg. Bd. 60. 1908. 29). *Hochstetter*, Ab. a. d. Kais. Ges.-
 Amt. Bd. 2. 1887. 30). *Pfuhl*, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 40. 1902. 31). *Küster*, hyg. Rundschau.
 1910. 32). *Pierce u. Thresh*, Lancet. 1906. Vol. 2. P. 645. 33). *Lentz*, klin. Jahrb. 1903.

Lüneburg ニ於ケルちふす桿菌ハ其後三ヶ月間其河流ニ沿フテ船夫漁人間ニ流行シ同市ノ下流二十
 キロメートル(約五里)ニ蔓延セリト云フ(*Peiffer*²²⁾) 河川ノ自淨作用ノ實
 ちふす病芽ニテ汚染セル井水ヲ飲用セル五百人中 罹患者十三五〇アリテ其潜伏期七日ナリシ者
 二〇二週間ノ者二〇二十乃至二十五日ノ者六十二〇三十日ノ者二〇アリシノミナラズ 潜伏期短
 キモノハ病症重ク 長キハ輕カリシヲ實驗セル者(*Barth*²⁷⁾)アリ故ニ病芽ヲ攝取セル者皆發病スルニ
 アラザルヲ知ルニ足ル 又井水ちふす病芽ニテ汚染セルルモ常ニ流行ノ因ヲナスニ限ラレタルニ
 アラズ(*Konrich*²⁸⁾)
 人工礦水中ニ於テハちふす桿菌ハ五日(*Hochstetter*²⁹⁾)又ハ十五日(*Pfuhl*²⁹⁾)以內生存ス 其他汚染
 セル上水ニテ製造セル曹達水中ニちふす桿菌ヲ證明セル者(*Küster*³⁰⁾)アリ ちふすニテハ炭酸水ニ
 ヨリテちふす流行ヲ來セルコトアリ(*Herssig*) 蒸餾水ヲ飲ミテちふすヲ發セルヲ細菌學的ニ立證セ
 ル者(*Pierce u. Thresh*³²⁾)アリ又麥酒(*Lentz*²⁹⁾)及清酒(齋藤³³⁾)中ニアリテハちふす病芽ハ二時間ニシ
 テ枯死ス
 一般ニ飲料水ニヨリテ流行スルトキハ俄然一時ニ多數ノ患者ヲ出スヲ以テ觸接傳染ニヨレル所謂
 漸進性流行 langsame Epidemie トハ其趣ヲ異ニスルヲ以テ爆發性流行 Explosionsepidemie ト稱ス故
 ニ飲料水性流行 Trinkwasser-Epidemie ハ其罹患者ニヨリテ容易ニ之ヲ識別スルコトヲ得ルモノナリ
 トス
 飲料水汚染セララルトキハ勿論之ヲ應用セル凡テノ食物及器具等汚染セララルハ理ノ當然ナリ殊
 ニ爲メニ容器ヲ介シテ牛乳ノ汚染セララルコトアリ(*Schüder*³⁵⁾, *Schlegelendal*³⁶⁾, *Neufeld*³⁷⁾)其他水浴ノ

34). 齋藤, 衛生學及細菌學時報 第一卷. 35). *Schüder*, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 33. 1901. 36).
Schlegelendal, deutsche Vierteljahrschr. f. öff. Gesundh. Bd. 42. 1900. 37). *Neufeld*, Handb. von
 Kolle-Wassermann. 1. Aufl. 38). *Nesemann*, Vierteljahrschr. f. gerichtl. Med. u. öff. Sanitätswesen.
 Bd. 29. 1905. 39). *Schill*, zit. nach *Gärtner u. Rubner*: Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 19. 40).
Dönitz, Festschr. z. 60. Geburtstage von R. Koch. Jena 1903. 41). *Reinke*, deutsche Vierteljahrschr.
 f. öff. Ges.-Pfleger. Bd. 33. 1896. 42). *Ohlmüller*, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 20. 1904. 43). *Klein*,
 klin. Jahrb. Bd. 17. 1907. 44). *Schüder*, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 38. 1901. 45). *Drigalski*, Arb.
 a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 41. 1912.

爲メ發病シ(*Nesemann*³⁸⁾, *Schüder*³⁵⁾, *Dönitz*⁴¹⁾)或ハ船夫之ニ罹ル(*Reinke*⁴¹⁾, *Ohlmüller*⁴²⁾, *Klein*⁴³⁾)モ亦
 タ水ガ汚染セル爲メナリ
 水ニ因スル流行數ハ觸接性ノモノニ比シ比較的少ナク四千四百九十九回ノ流行中飲料水ニ原因セ
 ル確證アルモノ僅ニ三百二十九回ナリシ⁴⁴⁾である *Schüder*⁴⁵⁾ハ水ニ因スル流行ハ流行史上七十⁴⁶⁾ヲ
 算スト云ヘルモ事實ハ僅ニ五乃至十⁴⁷⁾ニ過ギザルヲ教フ(*Drigalski*⁴⁸⁾)我邦ニ於ケル上水導ヲ有スル
 都市ノちふす死亡率ヲ見ルニ上水導開通後ニ於テモ毫モ減少スルノ徵ナク却テ増加スル傾向アルヲ
 見ル例ハ横濱及大阪市ニ於ケル人口一萬ニ對スルちふす死亡率ハ

	明治三 十六年	明治三 十七年	明治三 十八年	明治三 十九年	明治四 十年	明治四 十一年	明治四 十二年	明治四 十三年	明治四 十四年	明治四 十五年
横濱市	一・六	一・八	一・五	一・〇	一・七	三・三	一	一	一	一
大阪市	〇・九	〇・九	〇・九	一・〇	一・三	〇・九	一・〇	一・五	二・〇	二・三

ノ如シ是レ下水導ノ完成セザル爲メナルベシ伯林ニ於ケル上水ハ既ニ千八百五十六年ニ完成セシモ
 下水ノ設備未ダナカリシ爲メちふす死亡率減少スルコトナカリシガ千八百七十五年暗渠工事ヲ開始
 シテヨリ漸次減少シ從來人口十萬ニ對シ八十乃至八十五ノ死亡率アリシモノ千八百七十五乃至千八
 百七十九年ニハ四十二トナリ千九百乃至千九百二年ニハ四トナレリ 是ハひびるく市だんち⁴⁹⁾市及
 みんへん市ニ於ケル下水工事ノ效果ハ既ニ第一卷第四百十二頁ニ略敘セリ 斯クテ獨逸ノ大都會ニ
 於テハちふす大ニ減少シ中小都會却テ多ク郡村ハ更ニ多シ是レ一ニ上下水導工事ノ如キ衛生設備ノ
 不完ニ基クモノナリトス

水中ニ於ケルちふす桿菌ノ生活力ハ水中ニ於ケルヨリモ却テ強大ニシテ容易ニ枯死スルコトナシ

- 1). Sedgwick u. Winslow, Centralbl. f. Bact. Ref. Bd. 27. 1900; Baumgartens Jahresber. 1902. P. 268.
- 2). Brehme, Arch. f. Hyg. Bd. 40. 1906.
- 3). Park, Journ. of the Amer. med. assoc. Vol. 49. 1907.
- 4). Prudden, Med. record. 1887.
- 5). Ferron, Centralbl. f. Bact. Bd. 43. 1907.
- 6). Testi, ebenda. Ref. Bd. 33. 1903.
- 7). Ravenel, ebenda. Ref. Bd. 28. 1900.
- 8). Conradi, deutsche med. Wochenschr. 1904.
- 9). Park, Ref. Virchows-Hirschs Jahresber. Bd. 2. 1901.
- 10). Schüder, Zeitschr. f. Hyg. 1901.
- 11). Heim, Arb. a. d. Kais.-Ges.-Amt. Bd. 5. 1889.
- 12). Stockis, hyg. Rundschau. 1909.

勿論抵抗力弱キ菌體ハ凍死スル爲メ其數ヲ減ズ(Sedgwick u. Winslow¹⁾) 溶解及氷結交互ニ來ルトキハ持久的氷結ノ場合ヨリモ菌ノ抵抗力ハ減ズ 氷結セルノミナルトキハ百四十日迄ハ生存セル菌芽アルヲ見ル(Brehme²⁾) 又ハPark³⁾ハちふす桿菌ガ水中ニ於テ二十二週間 ぶるべん Prudden⁴⁾ハ三ヶ月間生活機能ヲ有セルヲ實驗セリ零下百七十度ニ於テハ甚ダシク衰弱スルモ室温ニ十二時間放置スルトキハ其毒性再タビ復舊ス(Perron⁵⁾) 其他液體空氣ノ寒冷ヲ以テスルモちふす桿菌ハ猶之ニ抗スルヲ見ル(Testi⁶⁾, Ravenel⁷⁾) 患者ニヨリテ汚染セル水ヨリちふす桿菌ヲ證明シ(Conradi⁸⁾) ちふす便ヲ注加セル池ノ水ニヨリテちふす流行セル例(Park⁹⁾) アリ

食物傳染ナルモノモ亦タ等閑ニ附スベキモノニアラズ ちふす桿菌ハ或ハ糞池汚物汚手等ニヨリテ直接ニ 或ハ含菌水汚染セル食器又ハ昆蟲ニヨリテ間接ニ食物ニ達シ次ギテ人體ニ迷入シ得ルモノナリ

ちふすニ於ケル食物傳染中最ナルハ牛乳傳染ナリ ちふす流行史ノ四四〇ハ含菌性牛乳ニヨルモノナリト云ヘリ患者又ハちふす宿主ノ汚染セル手ノミナラズ汚染セル水ヲ用ヒテ容器ヲ洗ヒ又ハ故意ニ乳量ヲ多カラシメムガ爲メニ添加セル水ニヨリテ牛乳ハ有毒性トナリ得ルモノナリ 斯クテ多數ノ搾乳所ヨリ來レル牛乳ヲ集合シ市場ニ出セルモノニモ有毒乳アラム其危險ノ度頗ル大ナリ Schüder¹⁰⁾ハちふす流行ノ原因ヲ調査セシニ牛乳ニヨリシモノ百十回飲料水ニヨリシモノ四百六十二回 他ノ飲食品ニヨリシモノ三五〇ナリシト云ヘリ 生乳中ニ於テハちふす桿菌ハ先ヅ増殖ス(Heim¹¹⁾, Schüder¹²⁾) 早晩乳酸菌等ニヨリテ産生セラレタル酸ノ量一定度ニ達セバ(即チ二三日ノ後) 枯死ス生乳ハ速ニ〇.三乃至〇.四度(とさすれ)ノ酸ヲ産出ス而シテ此酸度若シちふ

- 1). Bassenge, deutsche med. Wochenschr. 1903.
- 2). Kollé, Kutscher, Meinicke u. Friedel, klin. Jahrb. Bd. 13. 1904.
- 3). Fraenkel u. Kister, münch. med. Wochenschr. 1898.
- 4). Rubinstein, Arch. f. Kinderheilk. Bd. 35. 1903.
- 5). Broers, hyg. Rundschau. 1907. P. 1276.
- 6). Broers, Tijdschr. v. Geneesk. Bd. 2.
- 7). Bruck, deutsche med. Wochenschr. 1903.
- 8). Bolley u. Field, Centralbl. f. Bact. 2. Abt. Bd. 4. 1898.
- 9). Rabinowitsch, Centralbl. f. Bact. Ref. Bd. 34. 1904.

す桿菌ニ作用スルコト二十四時間以上ナレバ菌芽ハ死滅ス(Bassenge¹⁾) 又乳中ニ存スルちふす桿菌ハ六十度ニ五分間加熱セバ死滅ス(Bassenge²⁾) ルモ貯藏ノ目的ニふるまりんヲ二萬五千乃至四萬分ノ一加フルモちふす桿菌ハ三乃至五日間生活力ヲ有ス(Kollé, Kutscher, Meinicke u. Friedel³⁾) 酪漿 Buttermilch ニアリテハ含酸量多ク且ツ乳酸菌繁殖セル爲メニ全乳 Vollmilch 脱脂乳 Magel-milch ニ比シちふす桿菌ノ發育ニ適セズ ちふすは十分ノ一定規那篇倫滴汁三乃至六立方センチちめーてるニ對スル酪漿酸度ハちふす桿菌ヲシテ増殖セシムルコトナキヲ云ヘリ 無菌性酪漿中ニアリテハちふす病芽ハ長クトモ九日間生存スルノミナリ 又殺菌處置ヲ施サザル酪漿中ニアリテハ室温ニテハ二日 體温ニテハ一日ヲ經タルトキ 既ニちふす桿菌ヲ證明スルコト能ハズ(Fraenkel u. Kister⁴⁾) ちふすしたん Rubinstein⁵⁾ハ生酪漿中ニ於ケルちふす病芽ハ二十四時間以内ニ死滅スルヲ云ヘリ けふる Kehr 中ニアリテモ亦ちふす桿菌ハ二日ノ後致死ス(Broers⁶⁾) 故ニ酪漿ニ於ケルト同ジクちふす傳染ノ危險大ナラズ

牛酪ニハちふす桿菌比較的善ク生存スルモノナリト雖モ試ニ酸性乳ヲ用ヒテ牛酪ヲ製スルニ豫メ其乳中ニアリシちふす桿菌ハ牛酪及酪漿ニ移行スルコトナシ(Broers⁶⁾) 但シ甘酪 Süßrahmbutter ニ於テハ病芽三乃至四週間生存ス(Bruck⁷⁾, Heim⁸⁾) 牛酪製造ニ際シ菌芽ハ乳脂 Sahneニ直接ニ迷入スルコトアリ(Bolley u. Field⁸⁾, Rabinowitsch⁹⁾) 由來ちふす桿菌ハ牛酪中ニ於テ久シク其生活機能ヲ保有スルニ拘ハラズ之ヲ食セルガ爲メニちふすヲ發セル例ヲ耳ニセルコト未ダナシ

病芽ヲ以テ汚染セル牛乳ニ因スル感染ヲ豫防スルノ良策ハ之ヲ煮沸スルカ 又ハ低熱殺菌法 Pasteurisierung ヲ行フニアリ 六十度ニ五分間加熱セバちふす桿菌ヲ滅却セシムルコトヲ得(Bassenge¹⁾)

- 1). s. o. 2). Weigmann, Milchzeitung. Bd. 30, 1901. 3). Schlegelndal, deutsche Vierteljahresschr. f. off. Ges.-Pfl. Bd. 42, 1900. 4). Behla, klin. Jahrb. Bd. 10, 1903. 5). Hart, Brit. med. Journ. 1895. 6). Rossi, Centralbl. f. off. Ges.-Pfl. 1898. 7). Almqvist, deutsche Vierteljahresschr. f. off. Ges.-Pfl. Bd. 21. 8). Reich, berl. klin. Wochenschr. 1894. 9). Schmidt, Diss. Halle. 1893. 10). Reincke, deutsche Vierteljahresschr. f. off. Ges.-Pfl. Bd. 38, 1896. 11). Rappmund, Zeitschr. f. Med.-Beamte. 1897. 12). Davies, Lancet. 4. XII. 1894. 13). Wilkens, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 27, 1899. 14). Nageli, deutsches Archiv f. klin. Med. Bd. 67, 1900. 15). Hünermann, deutsche milit.-ärztl. Zeitschr. 1901. 16). Pfuhl, Festschr. z. Stiftungsfest. d. Friedrich Wilhelm-Instituts. Berlin 1895.

Kolle, Kutcher, Meivick u. Friedel²⁾ 但シ六十一乃至六十三度ニ熱スルコト二十分間ナルモ尙ホ死滅セザルモノアリ (Drigalski³⁾) 故ニ低熱殺菌法ヲ行フニ際シテハ約八十五度ニテ半乃至五分間加熱スルヲ良シトスナレバ凡テノ菌種死滅ス (Weigmann²⁾)

殺上ノ外牛乳ニ因スルちふす流行ニ關シテ報告セルモノ頗ル多シ (Schlegelndal⁴⁾, Bekla⁵⁾, Hart⁶⁾, Rossi⁷⁾, Schlegelndal, Almqvist⁸⁾, Reich⁹⁾, Schmidt¹⁰⁾, Reincke¹¹⁾, Rappmund¹²⁾, Davies¹³⁾, Wilkens¹⁴⁾, Nageli¹⁵⁾, Hünermann¹⁶⁾, Pfuhl¹⁷⁾, Rembold¹⁸⁾, Dunitz¹⁹⁾, Pelschulz²⁰⁾, Nesemann²¹⁾, Hicken²²⁾, Brunnmund²³⁾, Burmeister²⁴⁾, Jaster²⁵⁾, Neumann²⁶⁾, Thiersch²⁷⁾, Heinemann²⁸⁾, Berger²⁹⁾, Schoemaker³⁰⁾, Konrad³¹⁾)ト雖モ煩ヲ避ケテ略ス

蠟及貝類モ亦ちふす保菌者ノ一ニシテ其食用ニヨリテ發病セル例多シ (Horcicka³²⁾, Klein³³⁾, Hassenmann³⁴⁾, Whittier³⁵⁾, Harrington³⁶⁾, Giacomini³⁷⁾, Eade³⁸⁾, Broadbent³⁹⁾, Remlinger⁴⁰⁾, Saquepé⁴¹⁾, Chatin⁴²⁾, Bordoni-Uffreduzzi⁴³⁾, Neumann⁴⁴⁾, Neuscholme u. Nasch⁴⁵⁾, Viardi u. Rodella⁴⁶⁾, Soper⁴⁷⁾, Beale⁴⁸⁾, Marsh⁴⁹⁾, Neller⁵⁰⁾, Vaillard⁵¹⁾, Patten⁵²⁾, Pechère⁵³⁾, Buchanan⁵⁴⁾, Popp⁵⁵⁾) に一まんハるんせんニ於テハ蠟及貝ノ食用ニヨレルちふす流行ハ牛乳流行ヨリモ大ナルヲ云ヘリ 細菌學的研究ノ結果ニヨレバ川口又ハ下水放水口附近ニテ採集セル蠟ノ多クハ巨量ノ大腸桿菌ヲ含有シちふす桿菌モ蠟 (Saquepé) 及貝 (Buchan) ニ證明セラレタリ ばるんせんに一うふれづち一 Bordoni-Uffreduzziノ實驗ニヨレバ新ニ分離シ且ツ毒性アルちふす桿菌ハ海水ニ二週間以上蠟ノ殺菌ニ九日間生活機能ヲ保有ス又他ノ學者 (Fooke⁵⁶⁾, Hyman u. Boice⁵⁷⁾, Horcicka) ハ人工的ニちふす病芽ヲ加ヘタル水槽ニ蠟ヲ飼養セシニ該菌ハ水中ヨリ早ク消失セルモ蠟體內ニアリテハ二十日迄ちふす桿菌ヲ證明シ得ルヲ

- 17). Rembold, med. Korrespondenzbl. d. Württemb. ärztl. Landesvereins. 1902. 18). Dönitz, Festschrift von R. Koch. Jena. 1903. 19). Petschull, klin. Jahrb. Bd. 14, 1905. 20). Nesemann, med. Klinik. 1905. 21). Bicken, Zeitschr. f. Med.-Beamte. Bd. 14, 1901. 22). Brunnmund, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 56, 1907. 23). Burmeister, hyg. Rundschau. 1903. 24). Jaster, klin. Jahrb. Bd. 17, 1907. 25). Neumann, ebenda. Bd. 21. 26). Thiersch, münch. med. Wochenschr. 1911. 27). Heinemann, Zeitschr. f. Med.-Beamte. 1911. Beil. Nr. 1-28). Berger, ebenda. 1907. 29). Schoemaker, Journ. of the Amer. med. assoc. Vol. 43, 1907. 30). Konrádi, Centralbl. f. Bakt. Orig. Bd. 40, 1906. 31). Horcicka, wien. med. Wochenschr. 1900.

云ヘリね。 Neller ハ汚染セル店舗ニ於ケル蠟ニ五乃至六日ヲ經タル後尙ホちふす病芽ヲ發見セリ

ちふす桿菌ハ蠟體內ニテハ増殖セザルモノノ如ク從テ清水ニ飼養スルコト一週間ナレバ其影ヲ没スルヲ實驗セル者アリ

殺上一二ノ食物ノ外果、實、野菜等ニヨリテちふすニ傳染スルコトアリ 野菜ハ肥料ニヨリテ果實ハ汚染セル手及ビ汚染セル土地ニヨリテ病芽ヲ附着シ得ルモノナリ 病芽ニヨリテ汚染セル土地ニ生ゼル植物ノ葉及幹ヨリちふす桿菌ヲ證明セル者 (Wurtz u. Bourges⁵⁸⁾, Claudet⁵⁹⁾) アリ 而シテ植物ニ附着セルちふす桿菌ハ單ニ洗滌セルノミニテハ之ヲ確實ニ除却シ得ズキモノニアラズ (Claudet⁶⁰⁾) に一まん Nauman ハるんせんニ於ケルちふす流行ノ一部ハ序 Brunnenkresse ノ生食ニ基因スルモノナリ何トナレバ農民ハ糞便ヲ以テ汚染セラレタル水溜地ニ生ゼル序ヲ市場ニ出スコトアレバナリト云ヘリ

薯菜 Kartoffelsalat ニヨリテちふすニ罹レル例 (Pfuhl⁶¹⁾, Hecker u. Otto⁶²⁾) アリ 中 Sauer Mayer⁶³⁾ ハちふすニ罹レル肉商ヲ介シテ腸詰ノ爲メニちふすヲ病メル者ヲ實驗セリ ちふす桿菌ハ糞糞上ニ大腸桿菌及他種ノ菌芽ト共ニ發育シ得 (Pfuhl) ルノミナラズ肉饅頭 Fleischpasteten 及腸詰ニ少クモ四十八時間生存スルヲ實驗セル者 (Maurer⁶⁴⁾) アリ

酒精飲料中ニ於テハちふす桿菌ハ抵抗力比較的弱シ但シ汚染セル水ニテ盃ヲ洗フトキハ麥酒飲用ニヨリテちふすニ罹ルコトアルベシ ちふす桿菌ハ稀釋セザルならんびーる中ニ二時間 水ニテ稀釋セルモノニアリテハ四十八時間生存ス (Lantz⁶⁵⁾) ちふすみーけ Sachs-Mike⁶⁶⁾ 亦同様ノ成績

2). Klein, Brit. med. Journ. 1893. Vol. 2. P. 639. 33). Husemann, wien. med. Blätter. 1897. 34). Whittier, Boston med. and surg. Journ. 1901. 35). Harrington, ebenda. 36). Giaza, Brit. med. Journ. 1895. 37). Ende, ebenda. 38). Broadbent, ebenda. Vol. 1. 90. 39). Remlinger, Rev. d'hyg. 1902. P. 872. 40). Sicquépée, ebenda. P. 575. 41). Chatin, Sem. méd. 1896. P. 235. 42). Bordoni-Uffreduzzi, Congr. d'hyg. d. Como. 1899. 43). Neumann, Practitioner. 1904. 44). Newsholme u. Nash, 71. Jahresvers. d. Brit. med. assoc. Swansea. Juli 1903. 45). Vivaldi u. Rodella, hyg. Rundschau. 1905. 46). Soper, Med. news. Vol. 86. 47). Beale, Lancet. 5. 1. 1905. 48). Marsh, ebenda. P. 257. 1909. 49). Netter, Acad. d. méd. 5. et. 12. 11. 1907; ref. münch. med. Wochenschr. 1907; Sem. méd. 1907.

ちふす桿菌ニ因スル疾病

六三〇

ヲ得タリ 白葡萄酒ニアリテハ水ニテ稀釋セルモノナリト雖モ猶ホ菌芽ニ對シ有害ニ作用シちふす桿菌ハ唯ダ暫時乃至數時間生存スルノミナリ(Schvazés u. Narvandier³³, Cresenzi³⁸) 葡萄酒ノ殺菌作用ノ強弱ハ主トシテ其含酸量ノ多寡ニ因スルモノナリトス故ニ之ヲ中和スルトキハちふす桿菌ハ久シク葡萄酒中ニ生存ス(Sabrazès u. Narvandier) 又清酒中ニアリテモちふす桿菌ハ僅ニ二時間生存スルノミナリ(齋藤³⁵) 由是觀之酒精飲料ニ因スルちふす感染ノ危険ハ少クシテ怖ルニ足ラザルモノナリト謂フベシ

せりがるすきーハ千九百四年ヨリ千九百九年ニ亙リ五千四百四十五例ノちふすヲ實驗セシガ内百十一例ハ牛乳以外ノ食物ニ因スルモノナリシヲ云ヘリ 食品商ニ持久性泄菌者アルトキハ殊ニ危険ナルヤ明カナリ

ちふす桿菌ハ肥料 糞便 汚物等ト共ニ管ニ水中ニ迷入スルノミナラズ勿論土地ヲモ汚染スルモノナリ 借問スちふす保菌者トシテノ土地ノ意義如何

由來ちふす病芽ハ糞池又ハ肥料中ニ於テ久シク傳染能力ヲ保有スルモノニシテラッふるせん U. Lehmann³⁹ ハちふす病芽ガ糞便中ニ四ヶ月以上存スルヲ證明セリ 但 かるりんすてー Karinska⁴⁰ ハ其生活期ノ短キヲ云ヘリ 其他がふー等(Gaffky u. Schiller⁴¹)ハ糞池ニ於テハ六日迄糞便ニハ四週間迄證明シ げるとねる Gärtner⁴² ハ肥料及糞便中ニ約一週間ちふす桿菌ガ生存スルヲ實驗シ ぶーりらんげる及すちちる Rührlinger u. Stitzel⁴³ ハ下水溜ニ八十五日間生存スルヲ見且ツ糞池中ニ於テハ少ナクモ四十日間病芽存在シ傳染ノ危険アルヲ論ゼリ せいえる O. Mayer⁴⁴ ハ三ヶ月ヲ經シ圃内容物ニヨリテ發病セル者ヲ實驗シ ぶりとねる Brückner⁴⁵ モ糞池中ニ存スル病芽ニヨリ

50). Vaillard, münch. med. Wochenschr. 1907. 51). Pattin, Lancet. 1902. P. 338. 52). Pèchère, münch. med. Wochenschr. 1908. 53). Buchan, Journ. of hyg. Vol. 10. 1910. 54). Popp, münch. med. Wochenschr. 1910. P. 584. 55). Foote, Med. news. 1895. 56). Herdmann u. Boice, Baumgartens Jahresber. 1899. 57). Wurtz u. Bourges, Arch. de méd. expér T. 13. 1904. 58). Claudis, hyg. Rundschau. 1904. 59). Pfuhl, Centralbl. f. Bakt. Bd. 28. 1899. 60). Hecker u. Otto, deutsche militärarzt. Zeitschr. 1909. 61). Mayer, Centralbl. f. Bact. Orig. Bd. 53. 1909. 62). Maurel, Compt. rend. soc. biol. T. 69. P. 574. 1910. 63). Lentz, klin. Jahrb. Bd. 11. 1903. 64). Sachs-Mülke, ebenda. Bd. 18. 1908. 65). Sabrazès u. Mercandier, Sem. méd. 1907. P. 311. 66). Cresenzi, Centralbl. f. Bact. Ref. Bd. 40. 1907. 67). 齋藤, 衛生學及細菌學時報第一卷.

ちふす桿菌ニ因スル疾病(傳染経路)

六三一

テちふすニ罹レル者ニ關シ絞セリ即ちちふす便ノ糞池ニ入りテヨリ四十日ヲ經シモノノ池内容ヲ檢シ三回ちふす桿菌ヲ證明シ得タリ又もーせば Mosebach⁴⁶ ハ六個ノ糞池ヲ檢シ内三池ヨリちふす桿菌ヲ得一池ヨリハばらちふす桿菌ヲ獲得セリ かるらぐの及かるでりに Calderini⁴⁷ ハ糞池及糞桶ニ於ケルちふす病芽ノ壽命ハ平均約三週間ナルヲ云ヘリ れーバー及かしせる Looy u. Kayser⁴⁸ ハ五ヶ月前ニ病毒ニ染メル圃内容物ヲ施肥セシ土地ヨリちふす桿菌ヲ分離セリ肥料中ニ於ケルちふす病芽ノ毒性ハ十四日ヲ經ルモ尚ホ減却セザルノミナラズ糞池中ニ於ケル病芽ノ毒性ハ却テ増強スルヲ論ゼル者(Wagner⁴⁹)ナキニシモアラズ 他ノ一二ノ學者(Pollak⁵⁰, Küster⁵¹)モ便所感染ニ關シ絞スル所アリキ

濕地ニ病芽ガ三ヶ月乃至五ヶ月半生存スルヲ絞セル者(Grancher u. Desclamps⁵²)アルモ其検査法ニ不備ノ點ナキニシモアラズ又他ノ學者(Martin⁵³, Robertson⁵⁴, Rullmann⁵⁵)モ生存期限ノ久シキヲ云ヘルモ其證明確實ナラズ 月間土中ニ生存スルヲ云ヘリ ぶーり Pfuhl⁵⁶ ハ砂 腐葉及牛糞ヲ施セル土地持ニ殺菌法ヲ施スニちふす桿菌ヲ接種シ充分ニ濕氣ヲ保タシメバ三ヶ月ヲ經過スルモ尚ホ其表層ノ下部ニ同名菌ノ存在スルヲ見テ酸素ノ存否ハちふす桿菌ノ生存ニ大ナル關係ヲ及ボスモノナリト云ヘリ 但シ他ノ學者(Firth u. Horrocks⁵⁷, Fofor⁵⁸, Kovars⁵⁹, Almqvist⁶⁰, Troiti-Peterson⁶¹)ハ若シ無菌性ノ土砂ヲ應用セル場合ニハぶーりノ實驗ニ於ケルト同様ノ成績ヲ得ルモ殺菌法ヲ施サザリシモノニアリテハちふす桿菌ハ速ニ枯死スルヲ云ヘリ せねる Lössner⁶² ハ腸ちふす患者ノ脾臟ヲ豚屍ト共ニ地中ニ埋葬シ九十五日ヲ經シ後ニ尙ちふす桿菌ノ存在ヲ證明シ得タリト云フ くらいん Klein⁶³ 及ペトリー Petri⁶⁴ ノ實驗ニヨレバ其生活期ハ甚ダ短ク 他ノ學者(Galvagno u. Calderini⁶⁵)

84). Bullmann, Centralbl. f. Bact. Bd. 30. 1901. 85). Fyhl, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 40. 1902.
 86). Farth u. Horrocks, 70 Jahresversamml. der Brit. med. Assoc. Manchester 1902. 87). Fodor,
 deutsche Vierteljahrschr. f. off. Ges.-Pf. 1900. 88). Kawaen, Diss. Stockholm. 1907. 89).
 Alquist, Centralbl. f. Bact. Bd. 45. 1908. 90). Troili u. Petersson, ebenda. Bd. 48. 1909. 91).
 Lössner, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 12. 1896. 92). Klein, Centralbl. f. Bact. Bd. 25. 1899.
 93). Petri, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 7. 1891. 94). a. o. 95). Kutscher, Vierteljahrschr.
 f. gerichtl. Med. und. off. San.-Wesen. 3. Folge. 49. 2. 1909. 96). Martini, Zeitschr. f. Hyg. Bd.
 55. 1906. 97). Heim, ebenda. Bd. 50. 1905. 98). Neisser, Centralbl. f. Bact. Ref. Bd. 24. 1899.
 99). Germano, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 24. 1897. 100). Orsi, Centralbl. f. Bact. Orig. Bd. 43. 1907.

Klein¹⁰⁰, Marie⁹⁸, O. Mayer, Woodhouse¹⁰⁰, Dutton¹⁰⁰, Ainsworth¹⁰⁰, Purdy¹⁰⁰, de la Roquette¹⁰⁰ 家
 蠅ニ因レルちふす傳播ノ可能性ヲ實驗的ニ立證セル者 (Manning¹⁰⁰, Ficker¹⁰⁰, Nuttall¹⁰⁰, Klein) ア
 リムツけるノ實驗ニヨレバ ちふす桿菌ヲ食セル蠅ハ二十三日間尙ホ病芽ヲ傳播セシメ得ルモノナ
 リ但シ其蠅ノ内臓中ニ病芽ノ生存スルハ九日以内ナリト云フ故ニ汚物山積シ蠅發生スル場所又ハ家
 ニアリテハ蠅ノ危険想像スルニ難カラズ南わふりカニ於テハ蠅ノ多少トちふす流行ノ濃度ト相一致
 スルヲ見ル (Turner¹⁰⁰)
 蚤 (Abe¹⁰⁰, Dutton¹⁰⁰, Purdy¹⁰⁰) 壁虱 (Marie⁹⁸, Dutton¹⁰⁰) 虱 (Abe¹⁰⁰) 等モ亦ちちふすヲ人ヨリ人ニ傳染
 セシムルノ媒介ヲナスモノニシテ 安倍¹⁰⁰ハちふす患者ニ寄生セル虱ノ七十五%ニちふす桿菌ヲ證明
 セリ
 家鼠 (Mills¹⁰⁰) 水蛭 (Steffenhagen u. Andreyev¹⁰⁰) 及牛ノ脾臟 (Levy u. Jakobshat¹⁰⁰) 等ニちふす桿
 菌ヲ發見セルモノアルモちふす流行トハ關係スル所ナキモノノ如シ
 彼上ノ如クちふす症ハ衛生設備ノ完成ト共ニ其影ヲ没シ衛生設備不完全ナルトキハ其害毒ヲ逞フ
 スルモノナリ從テ其罹患率ノ多少ハ以テ其國ノ文化ノ程度ヲト知スルノ資料トナスニ足ルベキモノ
 ナキニシモアラズ 我邦ニ於テハ各地其濃度ヲ異ニシ人口一萬ニ對スル罹患率ハ 山形 福島 栃木 宮
 城 東京 福岡 長野ノ如キ府縣最モ大ナルモ其罹患數ハ概シテ大都市ヲ有スル府縣ニ多シ 又總死亡
 一千ニ對スル腸ちふす死亡率ハ 山形縣 青森縣 及東京府 其最ナルモノニシテ 福岡 栃木 長野 福島
 宮城 京都 群馬ノ諸府縣之ニ亞ギ沖繩 及徳島ノ二縣最モ少ナシ 今明治三十二年ヨリ大正四年ニ至
 レル腸ちふす平均患者及死亡者ノ數及率ヲ府縣別ニシテ示セバ左ノ如シ

ちふす桿菌ニ因ル疾病(ちふすノ濃度)

68). Uffelmann, Centralbl. f. Bact. Bd. 5. 1889. 69). Karlinski, ebenda. Bd. 6. 70). Gaffky,
 u. Schiller, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 6. 71). Gärtner, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 28. 1898. 72).
 Fürbringer u. Stietzel, ebenda. Bd. 61. 1908. 73). O. Meyer, münch. med. Wochenschr. 1909; klin.
 Jahrb. Bd. 21. 74). Brückner, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 31. 75). Mosebach, Centralbl. f.
 Bact. Bd. 52. 1909. 76). Galagno u. Calderini, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 61. 1908. 77). Levy u.
 Kayser, Centralbl. f. Bact. Orig. Bd. 33. 1903. 78). Wagner, Diss. Bern. 1905. 79). Pollock,
 wien. klin. Wochenschr. 1907. 80). Küster, hyg. Rundschau. 1910. 81). Groncher u. De-
 schamps, Arch. de méd. exp. et d'anatom. pathol. 1889. 82). Martin, Rep. of med. officer of
 the local gov. board. 1897-98. 83). Robertson, Brit. med. Journ. 1898.

モ殺菌法ヲ施行セザリシ濕地ニ播種セルちふす病芽ノ壽命ハ頗ル短クシテ平均約十日ニ過ギズト論
 ゼリ ふるむびん⁶⁹ Brunnman⁷⁰ハ病芽ヲ有スル糞便及尿ヲ注加セル土地ニ四週間迄病芽生存セルヲ
 實驗セリ
 要之ちふす桿菌ノ壽命ハ肥料中ニ於テハ甚ダシク短ナラザルモ土地上ニ來レバ短日ニシテ枯死ス
 ルモノナリト知ルベシ其他該菌芽ガ外界ニ於テ自然ノ状態ノ下ニ増加スルハ未ダ證明セラレタルコ
 トナシ
 養基上ニ於ケルちふす桿菌ハ乾燥ニ對シ甚ダシク過敏ナラズ (Hutscher⁷⁰, Martins⁷⁰) 又硝子面ニ
 薄塗セル菌芽ハ五乃至十五日乾燥ニ耐ヘ 園土ト共ニ乾燥セシメバ二十一日 麻布ニ附著セルモノハ
 六七十日 かいさ色ノ軍服ニ附著セルモノハ八十七日間生活機能ヲ保有ス 故ニ偶然塵埃ト共ニ地表
 ニ存スル病芽ガ人體内ニ迷入スル場合ナキニシモアラザルノ疑アルベシ は⁷¹Heine⁷¹ハ塵埃ニヨ
 リテ傳染スルコトアルヲ實驗的ニ證明セリ但シ 他ノ學者 (Neisser⁷², Germano⁷³)ハ陰性成績ヲ得タ
 リ 其他ちふす桿菌ハ日光ニ對シ過敏ニシテ乾燥ニ於ケルちふす桿菌ハ日光直射スルトキハ比較的
 速ニ枯死ス (Orsi¹⁰⁰) 故ニ此等ノ諸實驗例ニ徵セバ塵埃ニ因スル傳染ハ敢テ憂慮スベキモノニアラザ
 ルベシ
 ちふす病芽運搬者トシテ蠅ノ有意義ナルヲ力説スルモノ頗ル多シ 南わふりカ (Tooth¹⁰⁰, Le Hunter
 Cooper¹⁰⁰, Veeder¹⁰⁰) 及カ¹⁰⁰ (Hamilton¹⁰⁰) 等ニ於テ蠅ニ因スルちふす大流行實驗セラレ且ツ含菌性排
 泄物上ニ止マル蠅ニちふす桿菌附著セルヲ證明セル者モ亦タ多シ (Nuttall¹⁰⁰, Trembur¹⁰⁰, Quill¹⁰⁰,
 Bornmann¹⁰⁰, Galli-Valerio¹⁰⁰, Aldridge¹⁰⁰, Bertall¹⁰⁰, Sangre¹⁰⁰, Santesson¹⁰⁰, Holub¹⁰⁰, Dawson¹⁰⁰,

ちふす桿菌ニ因ル疾病

118). Woodhouse, Journ. of the Roy. Army med. corps. Juni. 1908. 119). Dutton, Journ. of the Amer. med. assoc. Vol. 53. 1909. 120). Ainsworth, ebenda. 1909. 121). Purdy, Journ. of the royal sanit. inst. 1909. 122). de la Roquette, intern. Kongr. f. Hyg. u. Dem. 1907. Sekt. VII. 123). Manning, Journ. of the Amer. med. assoc. Mai 1902. 124). Ficker, Arch. f. Hyg. Bd. 43. 1903. 125). Turner, Brit. med. Journ. 15. Febr. 1902. 126). Abe, münch. med. Wochenschr. 1907. P. 1924. 127). s. o. 128). Mills, Brit. med. Journ. 1911. 129). Steffenhagen u. Andrejew, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 31. 1910. 130). Levy u. Jakobsthal, Arch. f. Hyg. Bd. 44. 1903.

101). Tooth, Practitioner. Januar. 1904. 102). Le Hunter Cooper, Lancet. März 1903. 103). Veeder, Repr. from the med. record. 26. Juli. 1902. 104). Hamilton, Journ. of the Amer. med. Assoc. 28. Febr. 1903. 105). Nuttal, hyg. Rundschau. 1899. P. 203. 106). Trembur, deutsche milit.-ärztl. Zeitschr. 1908. P. 556. 107). Quill, Brit. med. Journ. 1902. 108). Bormans, Riv. d'igiene. Vol. 19. 1908. 109). Galli-Valerio, Centralbl. f. Bact. Orig. Bd. 54. 1910. 110). Aldridge, Journ. of the Roy. Army med. corps. Vol. 9. 111). Bertarelli, Centralbl. f. Bact. Bd. 53. 1909. 112). Singree, Med. record. Vol. 53. 1899. 113). Santesson, Hygiea. Vol. 62. 1900. 114). Holub, Centralbl. f. Bact. Bd. 31. 1901. 115). Dawson, Amer. veter. review. 1901. 116). Klein, Brit. med. Journ. Okt. 1908. P. 1150. 117). Marie, Sem. méd. 1906.

ちふす桿菌ニ因スル疾病(ちふすノ濃度)

予ハ初メ統計表ニヨリテ腸ちふす流行地圖ヲ製作セムト欲セルモ徒ニ醫師ノ智識不充分乃至正届出ノ跡ヲ見シノミニテ要領ヲ得ザリキ徳島縣ニアリテハ腸ちふす患者ノ約七十二%ハ死ノ轉歸ヲ取ル前表及ビ第四十七圖ハ即チ此間ノ消息ヲ齎ラスモノナリ
今更ニ我邦ニ於ケル各年ノ腸ちふす死亡數ヲ體性ニヨリ分チ統計スルニ左表ノ如キ成績ヲ得

府縣	人口	總死亡數	腸ちふす患者數	腸ちふすニ因スル死亡數	人口一萬ニ對スル腸ちふす患者率	人口一萬ニ對スル腸ちふす死亡率	總死亡一千元ニ對スル腸ちふす死亡率	腸ちふす患者百ニ對スル病死率
東京府	2,993,933	51,345	2,822	5,666	94	18.9	203	218
京都府	1,096,771	24,348	7,644	2,622	69	18.8	84	239
大阪府	1,702,904	41,740	8,655	2,040	51	19.1	62	389
神奈川縣	1,048,594	19,915	7,566	1,676	72	15.4	82	297
兵庫縣	872,218	17,792	7,844	1,854	90	21.1	66	304
長崎縣	1,013,765	17,765	4,466	1,074	44	10.6	24	104
新潟縣	1,787,076	29,741	10,066	2,339	56	13.1	74	289
群馬縣	1,339,904	19,398	7,772	2,042	58	15.3	67	293
埼玉縣	1,903,000	28,709	10,916	2,633	57	13.8	81	300
茨城縣	1,229,529	17,549	8,996	1,623	73	13.2	27	107
栃木縣	929,533	17,549	8,996	1,623	73	13.2	27	107
群馬縣	1,339,904	19,398	7,772	2,042	58	15.3	67	293
山梨縣	559,911	10,110	3,698	804	66	14.5	22	81
静岡縣	1,339,904	19,398	7,772	2,042	58	15.3	67	293
愛知縣	1,778,218	28,709	8,996	2,633	50	14.8	22	81
三重縣	1,033,376	17,765	3,333	666	32	7.2	18	68
奈良縣	1,033,376	17,765	3,333	666	32	7.2	18	68
和歌山縣	707,888	12,765	2,666	533	37	7.5	19	71
山口縣	1,013,765	17,765	4,466	1,074	44	10.6	24	104
廣島縣	1,339,904	19,398	7,772	2,042	58	15.3	67	293
岡山縣	1,339,904	19,398	7,772	2,042	58	15.3	67	293
島根縣	707,888	12,765	2,666	533	37	7.5	19	71
鳥取縣	407,888	7,765	1,666	333	41	8.4	22	81
富山縣	707,888	12,765	2,666	533	37	7.5	19	71
石川縣	707,888	12,765	2,666	533	37	7.5	19	71
福井縣	507,888	9,765	1,666	333	33	6.6	16	58
總計	20,000,000	300,000	100,000	20,000	50	10	100	100

六三五

ちふす桿菌ニ因スル疾病

六三四

年	人口		總死亡數		腸ちふすニ因スル死亡數		人口一萬ニ對スル腸ちふす死亡率		總死亡一萬ニ對スル腸ちふす死亡率	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
明治三十二年	三三三〇六八	二九三九八〇	四三〇七九	四三〇七九	三三〇	三〇九	一・三二	一・一三	七・六七	六・八三
明治三十三年	三三三〇七三	二九三九八〇	四三〇七九	四三〇七九	三三〇	三〇九	一・三二	一・一三	七・六七	六・八三
明治三十四年	三三三〇七三	二九三九八〇	四三〇七九	四三〇七九	三三〇	三〇九	一・三二	一・一三	七・六七	六・八三
明治三十五年	三三三〇七三	二九三九八〇	四三〇七九	四三〇七九	三三〇	三〇九	一・三二	一・一三	七・六七	六・八三
明治三十六年	三三三〇七三	二九三九八〇	四三〇七九	四三〇七九	三三〇	三〇九	一・三二	一・一三	七・六七	六・八三
明治三十七年	三三三〇七三	二九三九八〇	四三〇七九	四三〇七九	三三〇	三〇九	一・三二	一・一三	七・六七	六・八三
明治三十八年	三三三〇七三	二九三九八〇	四三〇七九	四三〇七九	三三〇	三〇九	一・三二	一・一三	七・六七	六・八三
明治三十九年	三三三〇七三	二九三九八〇	四三〇七九	四三〇七九	三三〇	三〇九	一・三二	一・一三	七・六七	六・八三
明治四十年	三三三〇七三	二九三九八〇	四三〇七九	四三〇七九	三三〇	三〇九	一・三二	一・一三	七・六七	六・八三
明治四十一年	三三三〇七三	二九三九八〇	四三〇七九	四三〇七九	三三〇	三〇九	一・三二	一・一三	七・六七	六・八三
明治四十二年	三三三〇七三	二九三九八〇	四三〇七九	四三〇七九	三三〇	三〇九	一・三二	一・一三	七・六七	六・八三
明治四十三年	三三三〇七三	二九三九八〇	四三〇七九	四三〇七九	三三〇	三〇九	一・三二	一・一三	七・六七	六・八三
明治四十四年	三三三〇七三	二九三九八〇	四三〇七九	四三〇七九	三三〇	三〇九	一・三二	一・一三	七・六七	六・八三
明治四十五年	三三三〇七三	二九三九八〇	四三〇七九	四三〇七九	三三〇	三〇九	一・三二	一・一三	七・六七	六・八三
大正二年	三三三〇七三	二九三九八〇	四三〇七九	四三〇七九	三三〇	三〇九	一・三二	一・一三	七・六七	六・八三
大正三年	三三三〇七三	二九三九八〇	四三〇七九	四三〇七九	三三〇	三〇九	一・三二	一・一三	七・六七	六・八三
大正四年	三三三〇七三	二九三九八〇	四三〇七九	四三〇七九	三三〇	三〇九	一・三二	一・一三	七・六七	六・八三
平均	三三三〇七三	二九三九八〇	四三〇七九	四三〇七九	三三〇	三〇九	一・三二	一・一三	七・六七	六・八三

我邦ニ於ケル腸ちふす死亡率ハ總死亡ニ對シ四・九二%トハセ%トノ間ヲ昇降シ明治三十二年ヨリ大正四年ニ至ル十七ケ年間ノ平均ハ六・四四%ヲ算ス故ニ普魯西(四・九二%)ヲ除ケル他ノ諸國ニ比セバ其數少ナシ 例合バ佛國ニアリテハ總死亡ニ對スル腸ちふす死亡率ハ九・七五%ニシテ北米合衆國ノ四州(まさらうせつ州、みんねそつ州、わいしんがらう州、こんねくとつ州)ノ平均ハ十五・九八%ナルガ如シ但シ破格ノ例トシテ明治十九年(百二

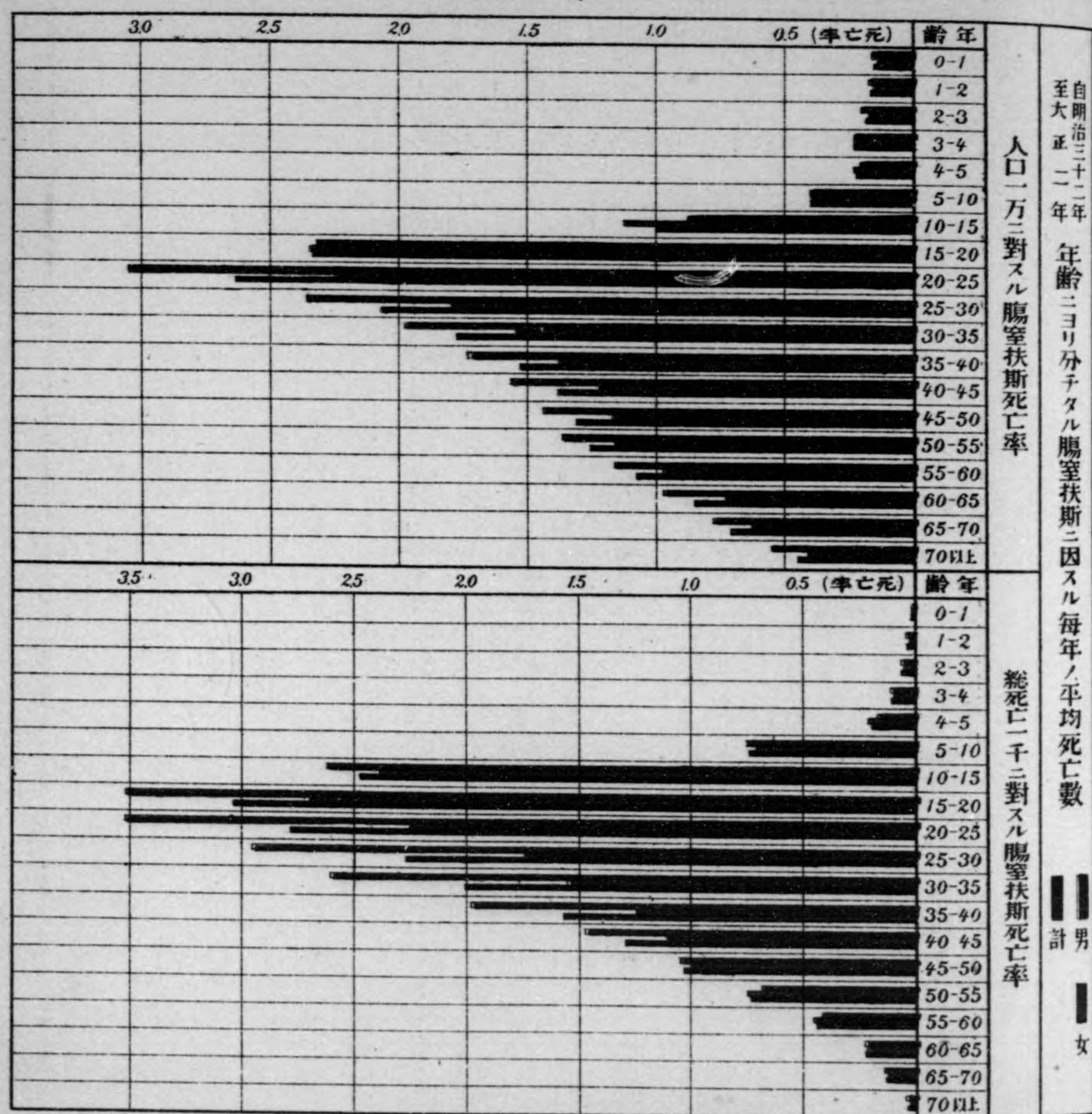
- 1). 衛生統計ニ關スル描畫圖説明, 明治四十四年内閣統計局編纂 第三十四頁
- 2). 二階堂, 同上, 第四十七頁
- 3). 吉水, 衛生學及細菌學時報 第四卷

十一頁ニハ人口一萬ニ付キ二・五九ノ死者ヲ出セリ 斯クテ我邦ニ於ケル腸ちふすハ毎年平等ナルガ如キモ多少減少ノ傾向アリ今試ミニ人口一萬ニ對スル腸ちふす死亡數ノ每五ヶ年ノ平均ヲ見ルニ(本表ト死亡統計表トノ數字異ナルコト既ニ前ニ敘セリ)

年	一・一〇	一・一〇	一・一〇	一・一〇
至明治十七年	一・一〇	一・一〇	一・一〇	一・一〇
至明治二十一年	一・一〇	一・一〇	一・一〇	一・一〇
至明治二十六年	一・一〇	一・一〇	一・一〇	一・一〇
至明治三十一年	一・一〇	一・一〇	一・一〇	一・一〇
至明治三十六年	一・一〇	一・一〇	一・一〇	一・一〇
至明治三十七年	一・一〇	一・一〇	一・一〇	一・一〇
至明治四十一年	一・一〇	一・一〇	一・一〇	一・一〇

ノ如ク累年減少スルヲ示ス但シ二階堂ハ此現象ハ隱蔽ノ結果ニアラザルヤ疑ヘリ 蓋シ明治三十年傳染病豫防法ヲ改正セルニ同年ヨリ腸ちふす死亡俄然減少シ從來人口一萬ニ對スル死亡率平均二以上ヲ算セシニ明治三十年ニハ一・三三ヲ示シ爾後逐年減少セルヲ以テナリ 其他我邦ニ於ケル腸ちふす死亡率ハ一般ニ男子ニ多シ又死亡率ハ年齢ニヨリテ異ナルコト既ニ敘セルガ如シくりんけるノ調査ニヨレバ乳兒期ニ最モ少ナク二乃至五歳ヨリ漸次増加シ二十乃至二十五歳ニ於テ其極ニ達シ是レヨリ再タビ減少スルモノニシテ二十乃至二十五歳ノ間ニハ殆ンド全數ノ四十五五%ヲ占ム 我邦ニ於ケル關係亦タ然ルヲ見ル(左表參照)而シテ年齢別中十歳乃至十五歳ノモノハ女子ノ死亡率男子ニ比シ高シ其由テ來レル所以詳ナラズ但シ小兒ノちふすガ輕症ナルノ理ニ至リテハ吉永(之ヲ精査セリ其所見ニヨレバ小兒ノ腸粘膜炎中ニハ大人ニ比シちふす桿菌及ビ其毒素ニ對スル受體量少ナク從テ小兒ハ大人ヨリモ比較的ちふすニ對スル免疫性ヲ有ス又小兒若シちふす病芽ニ侵サルトスルモ其血液ハ強大ナル殺菌作用及喰菌力ヲ有スルヲ以テ病芽ノ發育増殖ヲ防遏スルノ能力アリ是レ小兒ハちふすニ罹ルコト大人ニ比シ少ナク且ツ輕ク經過スル所以ナリト云フ

圖八十四第

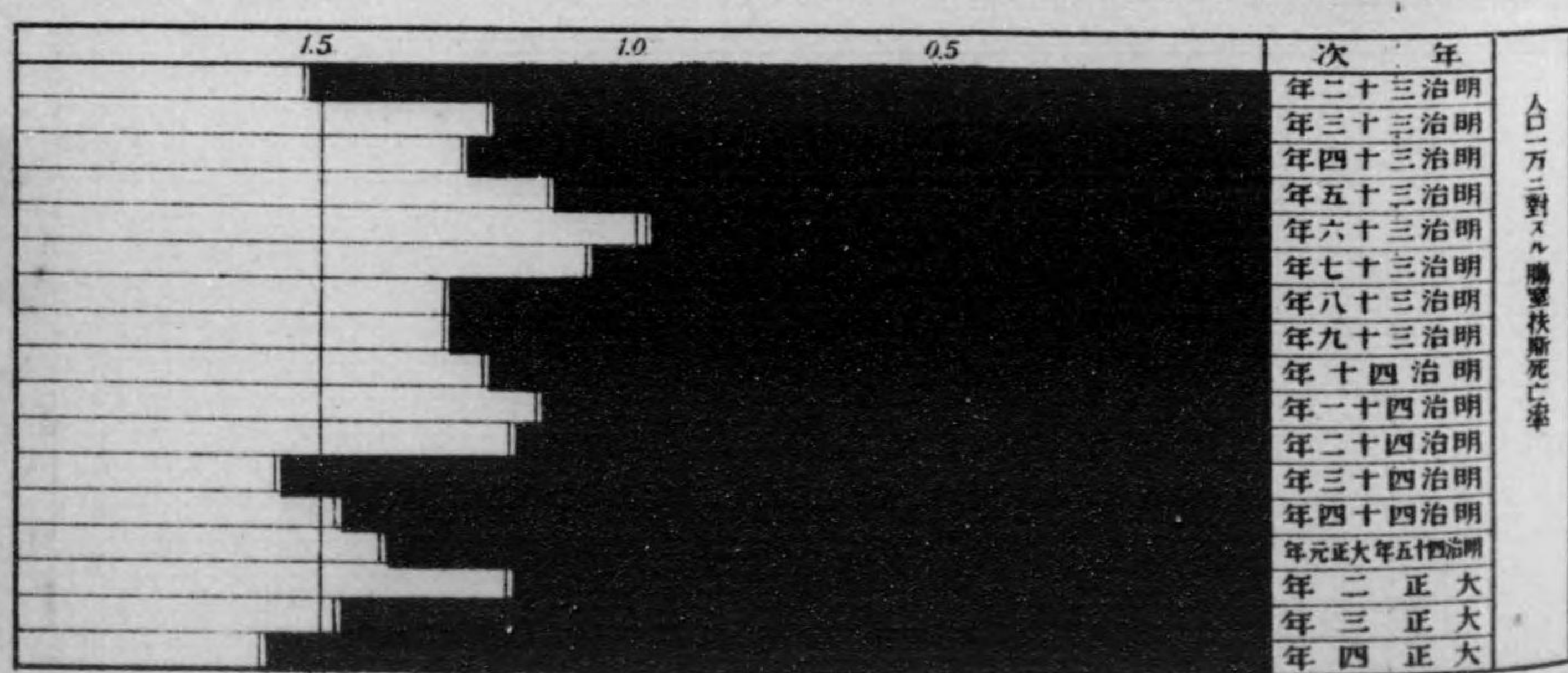


自明治三十二年 至大正二年 年 齡 二 ヨ リ 分 ケ タ ル 腸 窒 扶 斯 二 因 ス ル 毎 年 ノ 平 均 死 亡 數

人口一萬ニ對スル腸窒扶斯死亡率

総死亡一千ニ對スル腸窒扶斯死亡率

計 男 女



人口一萬ニ對スル腸窒扶斯死亡率

由是觀之腸ちふす死亡率ハ二十歳迄ハ齡ト共ニ増加スルモ爾後ハ漸次減少シくりんけるノ調査セ
ル所ト略ボ一致ス第六百三十
七頁參照是レ總死亡ニ對スル關係ニシテ患者數ニ對スル死亡率トハ勿論其撰ヲ異
ニスForrestハちふす病芽ニ對スル人體ノ抵抗力ハ齡ト共ニ減少シ齡長ズルニ從ヒ死亡率増
加スルヲ云ヘリ第六百四十
三頁參照今試ミニ前表ニ據リ總死亡一千ニ對スル腸ちふす死亡率ヲ約スルニ

年齡	十歳以下	二十歳以下	四十歳以下	六十歳以下	九十歳以下
死亡率	一九七	三三六	三三七	八四	二六九

ノ如シ又臨牀醫家ノ統計ニヨレバ女子ノ死亡率ハ男子ニ比シ多キヲ示ス第六百四十
三頁參照雖然我邦ノ死因統
計ハ其必シモ然ラザルヲ表白シ死亡數及死亡率ハ概シテ女子ニ少ナシ加之次表ノ示スガ如ク無業家
族ニアリテハ有業者ニ比シ腸ちふす死亡率少ナシ

ちふすノ濃度ト社會的事情トハ直接ノ關係ナキモ給水ノ不備 除穢法ノ不完全 等ハちふす症ノ流
行ニ便ナルノミナラズ其地住民ノ社會的地位モ亦與リテ大ニ力アリ富メル都市ニシテ衛生設備完全
セバちふす少ナキハ自明ノ理ナリ 其他貧富ノ度ハちふすノ轉歸ニ影響スルコト大ナリローゼンフェル
ド Rosenfeldガ千八百九十一年ヨリ千九百年迄維納ニ於ケルちふす死亡率ヲ調査セル所ニヨレバ

富民區(第一及第四區) 十六・五零及十九・七四%
貧民區(第五及第十區) 二十四・六一及二十二・一九%

ナリト云フ 職業ハ罹患率ニ影響スル所大ナラズ但かいせるハ厨者 飲食品業者ノ如キ料理ニ關係ス
ル者ニ特ニ多キヲ云ヘリ第六百十
六頁參照 今自明治三十九
年 至大正四年 腸ちふす死亡年平均數ヲ體性及職業別ニシ表示セム

有業者	男		女		男女計	
	總死亡數	腸ちふすニ因スル死亡數	總死亡數	腸ちふすニ因スル死亡數	總死亡數	腸ちふすニ因スル死亡數
一 農業 牧畜 養蠶等並ニ林業及狩獵	147,079	1,371	110,531	999	257,610	2,370
二 漁業及製鹽業	6,633	92	5,661	136	12,294	228
三 鑛業及冶金業(第四ナ除外)	1,233	35	1,011	17	2,244	52
四 石灰及石油ノ採取及精製業	28,276	285	27,911	101	56,187	386
五 土石類ノ採取及製造業	70,904	1,044	67,811	101	138,715	1,145
六 金屬ニ關スル製造業	25,177	300	23,611	99	48,788	399
七 機械器具製造業	5,631	51	5,011	1	10,642	52
八 化學的製品及類似品製造業	19,334	288	18,111	66	37,445	354
九 綿絲 織物 編物等ノ製造業	97,877	2,857	91,111	1,196	188,988	4,053
一〇 染色 其準備潤色並ニ晒練業	6,633	174	6,011	66	12,644	240
一一 紙 皮革 護膜ニ關スル製造業	34,912	1,044	32,111	333	67,023	1,377
一二 木竹類ニ關スル製造業	30,912	866	28,111	233	59,023	1,100
一三 飲食料品及嗜好品製造業	130,676	2,977	123,111	1,196	253,787	4,173
一四 被服及身廻リ品製造洗濯湯	181,979	3,333	173,111	2,196	355,090	5,529
一五 土木建築業	28,276	1,371	26,111	333	54,387	1,704
一六 銅板 石板 木版等ノ彫刻印	3,333	33	3,011	33	6,344	66
一七 其他ノ工業	18,111	333	16,111	333	34,222	666
一八 商業	8,888	133	8,111	133	16,999	266
一九 交通業(第二〇及第一九ノ人力車挽及乗用馬車業)	88,888	1,371	83,111	333	172,000	1,704
二〇 船泊運輸業	9,999	133	9,111	133	19,111	266
二一 公務及自由業(第二三及第二四ノ現役陸軍及海軍)	7,777	133	7,111	133	14,888	266
二二 教育ニ關スル業	10,000	133	9,111	133	19,111	266
二三 其他ノ有業者及有業者ニシテ職業ノ申告詳ナラザル者	28,276	333	26,111	333	54,387	666
二四 無職業及職業ヲ申告セザル者	22,222	333	20,111	333	42,333	666
總計	375,788	10,000	353,111	11,111	728,889	21,111

無業家族	男		女		男女計	
	總死亡數	腸ちふすニ因スル死亡數	總死亡數	腸ちふすニ因スル死亡數	總死亡數	腸ちふすニ因スル死亡數
一 農業 牧畜 養蠶等並ニ林業及狩獵	18,111	333	13,111	133	31,222	466
二 漁業及製鹽業	9,999	133	7,111	133	17,111	266
三 鑛業及冶金業(第四ナ除外)	9,999	133	7,111	133	17,111	266
四 石灰及石油ノ採取及精製業	20,000	333	18,111	333	38,111	666
五 土石類ノ採取及製造業	33,333	666	30,111	666	63,444	1,332
六 金屬ニ關スル製造業	8,888	133	8,111	133	16,999	266
七 機械器具製造業	3,333	33	3,011	33	6,344	66
八 化學的製品及類似品製造業	18,111	333	16,111	333	34,222	666
九 綿絲 織物 編物等ノ製造業	11,111	333	10,111	333	21,222	666
一〇 染物其準備潤色並ニ晒練業	11,111	333	10,111	333	21,222	666
一一 紙 皮革 護膜ニ關スル製造業	28,276	666	26,111	666	54,387	1,332
一二 木竹類ニ關スル製造業	28,276	666	26,111	666	54,387	1,332
一三 飲食料品及嗜好品製造業	20,000	666	18,111	666	38,111	1,332
一四 被服及身廻リ品製造洗濯湯	20,000	666	18,111	666	38,111	1,332
一五 土木建築業	20,000	666	18,111	666	38,111	1,332
一六 銅板 石板 木版等ノ彫刻印	3,333	33	3,011	33	6,344	66
一七 其他ノ工業	18,111	333	16,111	333	34,222	666
一八 商業	8,888	133	8,111	133	16,999	266
一九 交通業(第二〇及第一九ノ人力車挽及乗用馬車業)	88,888	1,371	83,111	333	172,000	1,704
二〇 船泊運輸業	9,999	133	9,111	133	19,111	266
二一 公務及自由業(第二三及第二四ノ現役陸軍及海軍)	7,777	133	7,111	133	14,888	266
二二 教育ニ關スル業	10,000	133	9,111	133	19,111	266
二三 其他ノ有業者及有業者ニシテ職業ノ申告詳ナラザル者	28,276	333	26,111	333	54,387	666
二四 無職業及職業ヲ申告セザル者	22,222	333	20,111	333	42,333	666
總計	298,889	8,889	276,111	9,999	575,000	18,888

1). Emmerich u. Gemünd, münch. med. Wochenschr. 1904. 2). Chaumont, de l'helminthiase dans ses rapports avec les maladies infectieuses. Thèse de Paris, 1903. 3). Steffenhagen u. Andrejew, Centralbl. f. Bact. 1910. Beibft. P. 89. 4). Saquépés, Revue d'hyg. 1902. P. 575. 5). Dutton, Journ. of Amer. med. ass. Vol. 53. 1909; Abe, münch. med. Wochenschr. 1907. P. 1924; Purdy, Journ. of the roy. san. inst. 1909; Bertarelli, Centralbl. f. Bact. I. Abt. Orig. Bd. 53. 1910. 6). Remlinger et Osman, Compt. rend. soc. Biol. T. 64. 1908; Hoffmann, Arch. f. Hyg. Bd. 52. 1905. 7). Goëré, Sem. med. T. 33. 1913. 8). Gaffky, Mitteil. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 2. 1884. 9). Courmont, Bull. acad. med. T. 63. 1910. 10). Kinyoun, Science, Washington 1909. 11). Baruchello u. Mori, Rivista d'artigl. e genio. Vol. 3. 1905. 12). Basset, Compt. rend. acad. soc. T. 153. 1911.

ちふす桿菌ニ對スル諸動物ノ天然免疫性ハ未ダ汎ク精査セラレズト雖モ鞭毛蟲 Fungellaten²⁾ 内臟 蟲 Helminthen³⁾ 環節動物 Anneliden⁴⁾ 貝類 Muscheln⁵⁾ 昆蟲類 Insekten⁶⁾ 魚類 Fisch⁷⁾ 兩棲類 Reptilien⁸⁾ 等ハ殆ンド全ク免疫ナルモノノ如ク此等動物ノ體內ニちふす桿菌存在スルモ爲メニ病的變化ヲ發スルコトナシ 鼠 大鼠 海狸 家兔 及犬ハ經口的又ハ直腸感染ニ對シ免疫ニシテ何等ノ病徴ヲ呈スルコトナク輸入菌芽ハ速ニ再タビ排泄セラレ (Gaffky⁹⁾) 加之犬 (Courmont¹⁰⁾) 及豚 (Kinyoun¹¹⁾) ハちふす桿菌散蔓セシムルモノナリ 所謂馬ちふす症ナルモノハ一ニベるとがふさ一菌ニ因スルモノニアラズシテ原始蟲其因ヲナスガ如シ (Baruchello u. Moris¹²⁾ Basset¹³⁾) ト雖モちふす桿菌ニ對スル凝集素ハ爲メニ大ニ増加ス (Smith, Lishman u. Quick¹⁴⁾) ちふす桿菌ヲ馬ニ注射セバ凝集素ヲ産スルニ拘ハラズ病徴ヲ呈スルコトナシ是レ馬ガ免疫性ヲ有スル結果ナルベシ 山羊ニちふす桿菌ヲ喰セシムルニ何等ノ病徴ヲ發スルコトナキモ其糞便中ニハ週餘乃至月餘病芽ヲ混スルヲ見ル (Scordo¹⁵⁾) 但シ之ヲ否認セル者 (Hailer u. Ungermann¹⁶⁾) アリ ちふす桿菌ヲ食セルニ頭ノ獼猴 Makakus¹⁷⁾ ハ二日ノ後チ驚レ (Weinberg¹⁸⁾) 黒猩猩 Schimpansse¹⁹⁾ ハ人ノちふすニ類似セル疾病ヲ發ス (Metschnikoff u. Barykka²⁰⁾) 云フ故ニ猿ハ天然免疫性ナキニ似タリト雖モ是レ多量ノ生菌ヲ食セシメタル場合ニ限レルモノニシテ他ノ學者ガ試験セル結果ハ皆陰性ナリキ 第六百八十九乃至六百九十三頁參照 人ニアリテモ亦ちふすニ對スル免疫性アルハ吾人ガ屢々實驗スル所ニシテちふす宿主ノ爲メニ汚染セル薯菜 Kartoffelsalat²¹⁾ ヲ共ニ食セル二百二十九名ノ兵士中發病セルハ僅ニ二十二名ニ過ギズ他ノ健康者中五十九名ハゐだる反應陽性ニシテ内四名ノ糞便ヨリちふす桿菌ヲ分離シ得タル例 (Dennis²²⁾) アリ又年餘ちふす宿主ノ爲メニ汚染セル牛乳ヲ不知不識ノ間ニ飲用セシ七十二名ノ中發病

13). Smith, Lishman u. Quick, Journ. of trop. veter. science. Vol. 6. 1911. 14). Scordo, Centralbl. f. Bact. I. Abt. Orig. Bd. 57. 1911. 15). Hailer u. Ungermann, ebenda. Bd. 63. 1912. 16). Weinberg, Compt. rend. soc. Biol. T. 61. 1906. 17). Metschnikoff u. Besredka, Ann. Past. T. 25. 1911. 18). Denmark, Centralbl. f. Bact. I. Abt. Orig. Bd. 54. 1910. 19). Scheller, ebenda. Bd. 46. 1908. 20). Fernet, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 41. 1912. 21). Liebermeister, Vorlesungen über Infektionskr. Leipzig 1885. 22). Curschmann, der Unterleitsphus. Wien 1889. 23). Beumer u. Paiper, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 1. 1886. 24). Chantemesse u. Widal, Ann. Past. 1892. 25). Brieger, Kitasato u. Wassermann, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 12. 1892. 26). Stern, deutsche med. Wochenschr. 1892.

セルモノ三十二名(四十五%)ニシテ四十名(五十五%)ハ健康ナリシモ其健康者中十八名ノ糞便又ハ往々尿ニハちふす病芽ヲ含メリ故ニ病芽ハ腸管壁ヲ貫通シ血中ニ侵入スルモ必ズ病徴ヲ發スルモノニアラザルヲ立證シ得ルモノナリト論ゼル者 (Scheller²³⁾) アリ其他一回モちふすニ罹リシコトナキ健康人百八十七名中七十八名ノ糞便ニちふす桿菌ヲ月餘乃至年餘排泄スルヲ實驗セル者 (Fornet²⁴⁾) アリ 由來人ノちふす桿菌ニ對スル抵抗力ハ性 年齢等ニヨリテモ差アルモノニシテ死亡率ハ婦人(十六%)ハ男子(十四%)ヨリモ多ク大人(十五%)ハ小兒(六%)ヨリモ多ク乳兒(二十五%)及老人(六十五%)ニアリテハ最も多シ (Fornet²⁵⁾) 一回ちふすヲ經過セル者ハ後天免疫性ヲ得是レ人ノ久シク知レル所ナリ其他既ニちふすヲ經過セル者再タビ罹患セル場合ニハ通常輕ク經過スルヲ説ケル者 (Liebermeister²⁶⁾) アルモ之ニ反スルノ事實ヲ實驗セル者 (Curschmann²⁷⁾) アリ鼠ニちふす生菌ヲ與フルトキハ後チ其致死量ヲ與フルモ尙健康ヲ害スルコトナシ是レ人工的ニ強度ノ免疫性ヲ獲得セル結果ナリ (Beumer u. Peiper²⁸⁾) 又死菌ヲ用フルモ其結果同シ (Chantemesse u. Widal²⁹⁾) 後 ぶりー げる 等 (Brieger, Kitasato u. Wassermann³⁰⁾) ハ白鼠及海狸ニ殺菌セルちふす桿菌(胸腺ニテ製セル肉汁養液ニ培養セル者)ヲ注射シちふすニ對スル高度ノ免疫性ヲ賦與セシメタリ此等免疫獸又ハちふす快復者 (Stern³¹⁾, Chantemesse u. Widal³²⁾) ノ血清ヲ健獸ニ注射シ次ギテ猛毒性ちふす病芽ヲ接種スルモ發病スルコトナシ而シテ此豫防價ハ特異性ニシテ唯ちふすニ對シテノミニ其作用ヲ逞フス又他種ノ菌芽 例令バこれら 豚丹毒等ノ病芽ヲ用ヒ免疫セルモノノ血清ニハちふすヲ豫防スルノ力ナク且ツちふす免疫血清ハ他種菌芽ニ因スル發病ヲ防グ力ナシ

免疫動物ノ血清中ニハ溶菌素 凝集素 攝食素等ノ如キ諸種ノ所謂免疫性物質ヲ含有ス故ニ吾人ハ此等成分ノ有無ヲ檢シ以テ診斷防疫及治療等ノ方針ヲ確定スルノ指針トナス 依テ予ハ茲ニ其免疫反應 Immunitätsreaktion ニ關シ聊カ敘スル所アラムトス

① 溶菌素 Bacteriolysin ニ關シ創メテ實驗セルハ、ちふす及、*Pfeiffer u. Kolla* ニシテ、ちふす快復者又ハ免疫動物ノ血清ニ

ちふす桿菌ヲ混加シ之ヲ海鼠腹腔内ニ注入シ、爾後如何ヲ檢セシニ該血清ハ殺菌性ニシテ抗毒性ニ作用セザルヲ知レリ 試ミニ肉汁ニテ稀釋セル免疫血清一立方センチメートルニ至リ至二十時間培養セルちふす生菌一白金耳即チ二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、一百一、一百二、一百三、一百四、一百五、一百六、一百七、一百八、一百九、二百、二百一、二百二、二百三、二百四、二百五、二百六、二百七、二百八、二百九、三百、三百一、三百二、三百三、三百四、三百五、三百六、三百七、三百八、三百九、四百、四百一、四百二、四百三、四百四、四百五、四百六、四百七、四百八、四百九、五百、五百一、五百二、五百三、五百四、五百五、五百六、五百七、五百八、五百九、六百、六百一、六百二、六百三、六百四、六百五、六百六、六百七、六百八、六百九、七百、七百一、七百二、七百三、七百四、七百五、七百六、七百七、七百八、七百九、八百、八百一、八百二、八百三、八百四、八百五、八百六、八百七、八百八、八百九、九百、九百一、九百二、九百三、九百四、九百五、九百六、九百七、九百八、九百九、一千、一千一、一千二、一千三、一千四、一千五、一千六、一千七、一千八、一千九、二千、二千一、二千二、二千三、二千四、二千五、二千六、二千七、二千八、二千九、三千、三千一、三千二、三千三、三千四、三千五、三千六、三千七、三千八、三千九、四千、四千一、四千二、四千三、四千四、四千五、四千六、四千七、四千八、四千九、五千、五千一、五千二、五千三、五千四、五千五、五千六、五千七、五千八、五千九、六千、六千一、六千二、六千三、六千四、六千五、六千六、六千七、六千八、六千九、七千、七千一、七千二、七千三、七千四、七千五、七千六、七千七、七千八、七千九、八千、八千一、八千二、八千三、八千四、八千五、八千六、八千七、八千八、八千九、九千、九千一、九千二、九千三、九千四、九千五、九千六、九千七、九千八、九千九、一万、一万一、一万二、一万三、一万四、一万五、一万六、一万七、一万八、一万九、二万、二万一、二万二、二万三、二万四、二万五、二万六、二万七、二万八、二万九、三万、三万一、三万二、三万三、三万四、三万五、三万六、三万七、三万八、三万九、四万、四万一、四万二、四万三、四万四、四万五、四万六、四万七、四万八、四万九、五万、五万一、五万二、五万三、五万四、五万五、五万六、五万七、五万八、五万九、六万、六万一、六万二、六万三、六万四、六万五、六万六、六万七、六万八、六万九、七万、七万一、七万二、七万三、七万四、七万五、七万六、七万七、七万八、七万九、八万、八万一、八万二、八万三、八万四、八万五、八万六、八万七、八万八、八万九、九万、九万一、九万二、九万三、九万四、九万五、九万六、九万七、九万八、九万九、十万、十一万、十二万、十三万、十四万、十五万、十六万、十七万、十八万、十九万、二十万、二十一万、二十二万、二十三万、二十四万、二十五万、二十六万、二十七万、二十八万、二十九万、三十万、三十一万、三十二万、三十三万、三十四万、三十五万、三十六万、三十七万、三十八万、三十九万、四十万、四十一万、四十二万、四十三万、四十四万、四十五万、四十六万、四十七万、四十八万、四十九万、五十万、五十一万、五十二万、五十三万、五十四万、五十五万、五十六万、五十七万、五十八万、五十九万、六十万、六十一万、六十二万、六十三万、六十四万、六十五万、六十六万、六十七万、六十八万、六十九万、七十万、七十一万、七十二万、七十三万、七十四万、七十五万、七十六万、七十七万、七十八万、七十九万、八十万、八十一万、八十二万、八十三万、八十四万、八十五万、八十六万、八十七万、八十八万、八十九万、九十万、九十一万、九十二万、九十三万、九十四万、九十五万、九十六万、九十七万、九十八万、九十九万、一百万

- 1). Pfeiffer u. Kolla, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 21. 1896.
2). Pfeiffer, deutsche med. Wochenschr. 1896.
3). Marx, die experimentelle Diagnostik, Serumtherapie u. Prophylaxe der Infectionskr. Berlin 1902.
4). Löffler u. Abel, Centralbl. f. Bact. I. Abt. Orig. Bd. 19. 1896.
5). Emmerich u. Löw, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 31. 1899.
6). Walker, Centralbl. f. Bact. I. Abt. Orig. Bd. 29. 1901.
7). Flügge, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 4. 1888.

ハ二十四時間以内ニ斃死セルヤ否ヤニヨリテ殺菌性ノ有無ヲ判斷スルノ要アリ (Marx)
未ダ嘗テちふすニ罹リシコトナキ人又ハ動物ノ健康血清ノ大量ヲ用ヒテ、ちふす桿菌ニ對シ僅ニ作用スルヲ見ルモノ以下ノ血清量ニテ該現象ノ現ハルルハ蓋シ稀薄ナリ加之健康血清ノ作用ハ特異性ニアラズシテちふす桿菌ニ對スルト同シク他種菌ニ對シテモ亦タ作用ス ちふす免疫血清ノ溶菌力ハ反シテ血清量一みりぐらむ以下ニテモ亦タ現ハレ且ツ特異性ニシテ他種菌ニ對シテ溶菌作用ヲ呈スルコトナシ故ニちふす桿菌ヲ診斷スルニ、ちふす免疫血清ヲ檢スルモ亦蛇足ニ屬セザルニシテ、*Pfeiffer u. Kolla, Löw, Jäger u. Abbt* (u. a.)
免疫血清ノ試験管内ニ於ケル殺菌力ハ、僅微ニシテ極メテ新鮮ナル血清ヲ微量ノ菌芽ニ用ヒタル場合ノミニ限リ其殺菌力アルヲ認ム (Pfeiffer) 但シ其試管ニ於ケル空氣ヲ驅除スルトキハ溶菌作用増強スルモノナリトス (Emmerich u. Löw, Walker) 此ノ如ク、免疫血清及ビ海鼠ノ健康血清ハ無酸素部ニ於テハ試験管内ニテ強力ナル溶菌作用ヲ營爲スルモノ有ルニシテ、其發現セザルヲ實驗セリ、*Flügge* モ亦タ試験管内ニ於ケル血清ノ殺菌作用ヲ精査スル所アリキ 其他血清ノ殺菌作用ハ五十六度ニ加熱セ

- 1). Nuttall, Zeitschr. f. Hyg. 1868.
2). Fraenkel u. Sobernheim, hyg. Rundschau. 1894.
3). Metschnikoff, Ann. Past 1895.
4). Bordet, ebenda. 1895.
5). Gruber u. Durham, wien. klin. Wochenschr. 1896.
6). Wright, Lancet. 1900.
7). Sern u. Korie, berl. klin. Wochenschr. 1904.

バ消滅スルモノナリ (Nuttall) 但シ加熱七十度ニヨリテ試験管内ニ於ケル殺菌力ヲ失ヘル血清ヲ動物ノ皮下又ハ腹腔内ニ注入スルトキハ同種菌芽ニ對シテ防禦力再現ス (*Fraenkel u. Sobernheim*) ルノミナラズ五十五度ニ一時間加熱シ非働性トナル血清ヲ試験管ニ盛リ更ニ健康動物ノ新鮮ナル腹腔液又ハ血清ヲ添加セバ殺菌力再現ス (*Metschnikoff, Bordet, Gruber u. Durham*)
S. S. Wright ハ血清ノ殺菌力ヲ檢スル爲メニ血清又ハ稀釋血清液ト溶解セシメタルちふす阿膠培養トノ同量ヲ毛細硝子管内ニテ混和セシメ之ヲ二十二度ニ二乃至三日間靜置シ培養セル後チ其毛細管ヲかなだばるさむ又ハちすでる油ニテ封シ鏡下ニ致シ以テ發生セル聚落ヲ算セリ 後すてるん及こるて *Sern u. Korie* ハ試験管内ニテ檢スルノ法ヲ案出セリ 即チ可檢血清ヲ五十六度ニ三十分間加熱シテ非働性トナセル可檢血清ヲ生理的食鹽水ニテ種々ノ度ニ稀釋シ其各一立方センチメートルニテ宛テ試験管ニ盛リ次ギテ二十四時間培養セルちふす肉汁養液ヲ肉汁ニテ五千倍ニ稀釋セルモノ〇五立方センチメートルニテ加へ更ニ食鹽水ニテ約十倍ニ稀釋セル新鮮家兔健康血清〇五立方センチメートルニテ注加シ孵籠内ニ三乃至四時間靜置シタル後其全内容ヲ以テ凝菜平板培養ヲナス 對照トシテちふす肉汁稀釋液〇五立方センチメートルニテ食鹽水一五立方センチメートルニテ加へタルモノ二管 (對照第一及第二) トちふす肉汁培養稀釋液〇五立方センチメートルニテ新鮮健康血清稀釋液〇五立方センチメートルニテ食鹽水一立方センチメートルニテ混加セル試管 (對照第三) トヲ必要トスルノミナラズ兩血清ノ無菌性ナリヤ否ヤヲモ檢スルノ要アリ 對照第一ハ直チニ 對照第二及第三ハ血清試管ト共ニ孵籠内ニ三乃至四時間靜置セル後チ凝菜平板トス 斯クテ其平板ハ十二時間解温ニ靜置シ茲ニ發生セル聚落數ヲ算ス而シテ對照第一ハ種菌數ヲ示シ第二ハ血清ノ作用ヲ受ケズシテ三乃至四時間ノ後チ増

1). Toepfer u. Jaffé, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 52. 1906. 2). Ulrichs, hyg. Rundschau. 1906.
 3). Marmann, Arch. f. Hyg. Bd. 76. 1912. 4). Gruber, wien. klin. Wochenschr. 1904; Durham,
 Proceedings of the roy. soc. London. 11 Vol. 59. 5). Widal, Bull. de la soc. med. d's hôpit. T.
 6. 1896. 6). Lichtheim, deutsche med. Wochenschr. 1896. 7). Breuer, berl. klin. Wochenschr.
 1896. 8). Haushalter, Presse. méd. 1895. 9). Durham, Lancet. 1896. 10). Stern, berl. klin.
 Wochenschr. 1897. 11). Hippus, Wratsch. 1901. 12). Siniew, Serodiagnostik des Typhus nach
 Widal. Medizinskoje Obozrenie. 1897. 13). Berghinz, Gazzetta degli ospedali. 1897. 14). Bor-
 mann, Presse. méd. 1898. 15). Bieberstein, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 27. 1898. 16). Busch, ebenda.
 Bd. 28. 1898. 17). Widal, Compt. rend. du congr. intern. de méd. à Moskou. T. 3. 1899.

殖セル菌數ヲ示シ第三ハ健常血清ノ殺菌力ヲ示スモノニシテ可檢血清ノ殺菌作用檢定ノ標準トナル
 べきモノナリ するん及こるてノ實驗ニヨレバ一週間若クハ以上發熱セルちふす患者或ハちふす
 恢復者ノ血清ノ殺菌力ハ千倍乃至四百萬倍ナルモ健人又ハ他種患者ノ血清ハ稀ニ百倍又破格例トシ
 テ一千倍ノ殺菌價ヲ有スルコトアルノミナリするん等ハ本法ヲ多數ノちふす患者及恢復者ニ試ミ
 シニぐるーべる及むだーる反應ヨリモ往々著明ニ且ツ強度ニ現ハレ診斷ノ目的ニ使用シ得べきヲ
 セリ

本法ヲ覆試セル者(Toepfer u. Jaffé, Landenheimer, Ulrichs)ハ試管内及動物體內ニ於ケル殺菌
 反應ハ相併行スルモノニアラズばふる試驗ハちふす恢復者及ちふす豫防接種者ニ強ク現ハレ試
 管内殺菌現象ハちふす患者ニ最モ顯著ナルヲ云ヘリ故ニ凝集反應ニヨリテ疑ハシキ場合ニ應用スル
 ニ足ル(Marmann³⁾)

凝集素 Agglutinine ハちふす免疫血清中ニ存シ同名菌ヲシテ凝集セシム是レぐるーべる及ぶるは
 Gruber u. Durham⁴⁾ノ創見セル所ナリ むだーる Widal⁵⁾ハ更ニ發病後一乃至二週間ヲ經タル患
 者ノ血清ニ此凝集作用アルヲ發見シ遂ニ臨牀診斷上ニ汎用セララルルニ至レリ

ちふす患者ノ血清ガ其病芽ニ對シむだーる反應即チ凝集反應ヲ呈スルハ諸家ノ實驗ニ徴シテ明カ
 ナリ雖然定型性ちふす患者ニシテ其全經過中及再發時ニモ凝集反應全然現ハレザルコトアリ(Licht-
 heim⁶⁾, Breuer⁷⁾) 同様ノ實驗例ハ既ニ諸家(Haushalter⁸⁾, Durham⁹⁾, Stern¹⁰⁾, Hippus¹¹⁾, Siniew¹²⁾,
 Berghinz¹³⁾, Bormann¹⁴⁾, Bieberstein¹⁵⁾, Busch¹⁶⁾, Widal¹⁷⁾百七十七 Kasel u. Mann¹⁸⁾ニ Kohler¹⁹⁾九
 十例一 Dombrowski²⁰⁾ニヨリテ報告セラレタリ又他方ニハ反應現ハルルモ比較的遅キモノアリ例令バ第

十八病日一ニ始メテ反應ヲ呈シ(Lentz)或ハ第十五病日ニ反應スルコトナカリシ二例ガ第二十二日
 若クハ第四十日ニ至リ陽性反應ヲ呈シ(Köhler)又ハ第二十五病日ニ反應セザリシ一患婦同日腸出血
 ヲ發シ第三十二日ニ至リ始メテ陽性反應ヲ示セル例(Lentz)アルガ如シ 其他殺菌セルちふす桿菌
 乳劑ヲ三回接種セルモノノ中一例ハ常ニむだーる反應陰性ナリシヲ實驗セル者(Maverick²¹⁾)アリ又
 定型性腸ちふす患者ヲ規則整シク檢セシモ遂ニ陰性ナリシ一例(Dévé²³⁾)アルノミナラズ血液及糞便
 中ニちふす桿菌ヲ證明セシちふす患者ニシテむだーる反應陰性ナリシ例(Hösslin²⁴⁾)アリ
 彼上ノ諸例ハ皆破格ノ場合ナルベシト雖モ由此觀之むだーる反應陰性ナリト雖モ其ちふす症ニア
 ラザルヲ斷言シ能ハザル場合アルモノナリト知ルベシ

ちふす桿菌ト化膿球菌トノ混合傳染チナセル者ニシテむだーる反應陰性ナリシ一例チ實驗シ之チ動物
 ニ試ミシニ兩種菌ヲ接種セル場合ニハ往々ちふす凝集素ハ極メテ微量ニ其血中ニ出現スルコトアリ故ニむだーる反應陰性ノ場合ニ
 ハ混合傳染ノ疑ヲ以テ檢索ノ步ヲ進ムルチ其シト云ヘリ

ちふす患者ノ血中ニ凝集素ノ發現スル時期ハ一定セザルモ多クノ實驗例ニ徴セバ發病後七乃至十
 日ニアリ但シ發病ノ第一日ニ既ニむだーる反應陽性ノモノ決シテ稀ナラズ又症候備ハラズシテ診斷
 確ナラザルトキ反應陽性ナリシ爲メ早期診斷ヲ下シ得ルコトアリ第二病日(G. Fraenkel²⁶⁾)第三病日
 (Köhler)第四病日(Weinberg²⁷⁾)各一第五病日三(Weinberg)ニ凝集反應陽性ナリシ例アリれん(Lentz²⁸⁾
 ハ四歳ノ童子ト幼女トガ各五日ニ五百倍稀釋ニ肉眼的陽性反應ヲ呈セル例ヲ實驗セリ而シテ此等ノ
 諸例ハ皆ニ凝集反應ノミナラズ糞便ヨリ病芽ヲ同時ニ證明シ其ちふす症ナリシヲ明カニセル者ナリ
 血液中ニ於ケル凝集素ノ消失期モ亦出現期ト同ジク不定ナリ又其高潮ハ通常快復期ノ初ニシテ凝

18). Kasel u. Mann, münch. med. Wochenschr. 1909. 19). Köhler, klin. Jahrb. Bd. 8. 1901.
 20). Dombrowski, hyg. Rundschau. Bd. 13. 1903. 21). Lentz, klin. Jahrb. Bd. 14. 1905. 22).
 Maverick, Journ. Amer. med. assoc. Chicago. Vol. 58. 1912. 23). Dévé, Normandie méd. T. 28.
 1912. 24). Hösslin, deutsches Arch. f. klin. Med. Bd. 91. 25). Kayser, Arch. f. Hyg. d. 48.
 1903. 26). Fraenkel, deutsche med. Wochenschr. f. 1897. 27). Weinberg, Presse. med. 1896.
 28). Lentz, Handb. von Kolle-Wassermann. 1. Aufl. Bd. 4.

- 1). Förster, Zeitschr. f. Hyg. B. 24. 1897. 2). Jürgens, ebenda. Bd. 43. 1903. 3). Gruler, Verhandl. des Kongr. f. inn. Med. Wiesbaden. 1896. 4). Grünbaum, Lancet. 1896. Vol. 2. 5). Stern, Centralb. f. inn. Med. 1896. 6). du Mesnil de Rochemont, münch. med. Wochenschr. 1897. 7). Lery, wien. klin. Wochenschr. 1897. 8). Meunier, Sem. méd. 1897. 9). Haedke, deutsche med. Wochenschr. 1897. 10). Kasel u. Mann, münch. med. Wochenschr. 1897. 11). Sklower, Diss. Leipzig. 1897. 12). Kalle, deutsche med. Wochenschr. 1897. 13). Kühnau, berl. klin. Wochenschr. 1897. 14). van Oordt, münch. med. Wochenschr. 1897. 15). Köhler, klin. Jahrb. Bd. 8. 1901. 16). Dombrowski, hyg. Rundschau. Bd. 13. 1903. 17). Becker u. Kuhland, Journ. of the Amer. med. ass. Vol. 52. 1909.

集價千倍又ハ二千倍(肉眼的ニ達スルモノハ稀ナラズ五千倍(Förster)又ハ一萬五千倍(顯微鏡的反應)(Jürgens))ニ反應セル例アリ(げんつ)Germハ千例以上ノゐだる反應ヲ檢セシニ唯ダ一回五千倍稀釋ニ肉眼的ニ反應スルモノヲ見タリ 此ノ如キ高價ヲ示スハ暫時ニシテ稍々速ニ其價下降ス而シテ其下降ハ破格ノ例トシテ有熱期ニ既ニ之ヲ見ルコトアリ(Widal u. Köhler)但シ常規トシテハ解熱後ノ第一ケ月中ニ下降スルモノニシテ或ハ徐々ニ或ハ迅速ニ其價ヲ減却スれんつ(Lenz)ハ一例ノちふす快復者ガ解熱後第六及第七週ノ十四日間ニ凝集價ガ千倍ヨリ五千倍トナレルヲ實驗セリ但シ血清ノ凝集價ハ五十倍又ハ以上ノ稀釋度ニ於テ數ヶ月乃至數ヶ年持續スルモノナリトスけられるKöhlerハ一患者ノ凝集力ガ百六十倍ニ八ヶ月間八十倍ニ一ヶ年アリシヲ實驗シふれんけるG. Fraenkelハちふす快復後三ヶ年半ヲ經ルモ猶其凝集價五十倍ナリシヲ實驗シれんつ(Lenz)ハ一女ハ七ヶ年半一女ハ十一ヶ年間五十倍稀釋度ニ於テ陽性反應ヲ呈スルヲ實驗セリ

ゐだるハ曩時十倍以上ニ稀釋セル血清ニ陽性反應ヲ呈スルトキハ其ちちふすナルヲ證スル者ナリト言ヘルモ健康人又ハ他種疾病患者ノ血清ハ猶ホ高度ノ稀釋ニテちふす桿菌ヲ凝集セシムルコトアリ是ノ諸家(Gruber²⁾, Grünbaum³⁾, Stern⁴⁾, du Mesnil de Rochemont⁵⁾, Lery⁶⁾, Meunier⁷⁾, Haedke⁸⁾, Kasel u. Mann⁹⁾, Sklower¹⁰⁾, Kalle¹¹⁾, Kühnau¹²⁾, Förster, van Oordt¹³⁾, Köhler¹⁴⁾, Dombrowski¹⁵⁾ u. a.)ノ屢々實驗セル所ナリ例令ベ二例ノ格魯布性肺炎患者ノ血清ガちふす桿菌ヲシテ五十倍稀釋ニ凝集セシメ(Kasel u. Mann)一名ノ健康人(Sklower u. Förster)及ヒ腦膜炎ニ罹レル一患者(van Oordt)ノ血清ガ四十倍稀釋ニテちふす桿菌ヲ凝集セシメタル例アルガ如シ

流行性腦脊髄膜炎一患者ノ血清ガ百倍稀釋ニテちふす桿菌ヲ凝集セシメ(Becker u. Kuhland)甚ダシキハ硬項症二十一例中

- 1). Wilson, Brit. med. assoc. Belfast 1909. 2). Markuse, berl. med. Gesellsch. Sitz. vom 9. Dez. 1908. 3). Krenker, münch. med. Wochenschr. Bd. 56. 1909. 4). 小杉, 小兒科雜誌 大正六年九月二十日. 5). Roth, Centralb. f. inn. Med. 1910. 6). Busse, münch. med. Wochenschr. Bd. 55. 1908. 7). Grünbaum, münch. med. Wochenschr. Bd. 44. 1897. P. 330. 8). Eckard, ebenda Bd. 43, 1902. P. 1129. 9). Zupnik, ebenda Bd. 43, 1903. P. 1305.

七例四百倍以下ノ稀釋度ニ陽性反應ヲ呈シ發疹チふす三十一例中十八例ハ五十倍乃至二百倍稀釋ニゐだる反應陽性ナリシヲ實驗セル者(Wilson)アリ但シ現今ニ至ル迄確實的證明ヲ缺ク

結核患者ノ血清ハ往々ちふす桿菌ヲシテ凝集セシム 即チ百倍稀釋ノ血清ニ陽性反應ヲ呈セルヲ粟粒結核患者ニ一例(Markuse)結核患者二十八名中ニ八例(Krenker)結核患者四十四例中ニ四名(九%)アリシヲ實驗セル者アリ ちふす桿菌モ亦同様ノ事實ヲ實驗シ説明シテ曰ク是レチふす桿菌トノ混合傳染ナルカ又ハ豫メちふす桿菌ヲ經過セルコトアルモノナラト實ニ此種ノ混合傳染ハ稀アラズ ちふす桿菌ハ多數ノ結核患者ノ血中ヨリチふす桿菌ノ存在ヲ證明セリくれんけるハ一患者ノ血清ヲ反覆精査シちふす桿菌ニ對スル凝集素形成ハ結核ノ經過中ニ現出スルモノナルヲ云ハ

諸種ノ血清殊ニ黃疸患者血清ガちふす桿菌及これら孤菌ニ對シ顯著ナル凝集反應ヲ呈スルヲ認メ凝集反應ノ特異性ニ對シテ疑惑ノ第一聲ヲ放テタルハ(ちふす桿菌)Grünbaum)ナリトス 千八百九十七年(ちふす桿菌)ハ未ダ嘗テちふす桿菌ヲ經過セルコトナキ健康人血清ノ十例ヲ檢セシニ其中四例ハちふす桿菌ヲ凝集シ特ニ其三例ハ反應強カリキ次テ此中ノ六例ニ就キこれら孤菌ヲ以テ檢シタルニ其三例ハ顯著ナル陽性成績ヲ示セリ又未ダ嘗テちふす桿菌ヲ檢シタルコトナキ諸種ノ患者十三例ノ血清ニ在リテハちふす桿菌ニ對シテ六例ハ弱度六例ハ強度ノ陽性反應ヲ呈シ更ニこれら孤菌ヲ以テ檢シタルモノハ十八例中四例ハ弱度七例ハ強度ニ凝集シ諸種ノ血清中殊ニ凝集反應ノ最モ強度ニシテ急速且ツ完全ナリシモノハ黃疸患者血清ナルコトヲ發見セリ

此報告一度出テテヨリ黃疸患者血清ノ凝集反應ニ關スル研究相續テ現ハルルニ至レリ(Lehmann)ハ千九百二年數例ノ黃疸患者血清ヲ檢セシニ其第一例ハ黃疸 輕度ノ肝臟腫脹 脾臟肥大及出血性腎炎ヲ有シ發病第十日ニ其血清ノちふす桿菌ニ對スル凝集反應ヲ檢シタルニ一千倍稀釋ニテ陽性成績ヲ得タリ第二例ハ既ニ治癒シテ黃疸ナク勞動ニ堪フル者ニシテ同名菌ニ對スル凝集反應ハ千倍稀釋迄陽性ナリキ又他ノ八例ノ黃疸患者血清ノちふす桿菌ニ對スル凝集反應ハ多數ハ百倍稀釋ニテ現ハレ中一例ハ千倍稀釋ニテ弱陽性反應ヲ呈シ又他ノ一例ハ癰腫ニ因スル黃疸ニシテ營養衰退シ其凝集反應ハ僅ニ五十倍稀釋ニ止マレリ而シテ此等八例ノ黃疸患者ノ大多數ハ膽石症ニ因スル黃疸ナリシト云フ

(Zupnik)亦チ同年(ちふす桿菌)ノ病六例中四例 膽石症ノ二例 化膿性膽道炎ノ二例 無熱肝臟病ノ一例ノ血清ガちふす桿菌

- 1). Megele, münch. med. Wochenschr. Bd. 50. 1903. P. 598.
- 2). Langstein u. Meerwein, wien. klin. Wochenschr. 16. Jahrg. 1903. P. 787.
- 3). Joachim, ebenda. 16 Jahrg. 1903. P. 988.

ニ對シ陽性ノ凝集反應ヲ呈セシテ於シ千九百三年メゲル(Megele)ハ生前凝集反應陽性ナリシ者ニシテ臨牀上及剖檢上並ニ細菌學的検査ニ由リテ何等認ムベキチ又ハちふす桿菌ニ對シ陽性ノ結果ハ正ニ肝臟腫瘍ナルヲ明示セル例ヲ實驗シ其凝集反應ノ陽性ナリシハ悉ク膽汁ノ血行中ニ移行シタル結果ナルコトス。及リシハ例ノ如クナルメシト論セリ。次ギテちふす桿菌ニ對シ陽性ノ凝集反應ハ百倍稀釋ニ陽性ナリシモ後一週間ヲ經テ再々檢セシニ僅ニ二十倍稀釋ニ陽性ナリシ該患者尿中ニハ膽汁色素蛋白質ハ一ふまいするべふとん及ちろじんヲ證明セリ。開腹術ノ結果膽管ハ強度ニ擴大シ其中ニ膽石ヲ藏セリ。手術後三週間膽管ヲ採取シタル膽汁ヲ用テちふす桿菌ニ對シ凝集反應ヲ檢シタルモ全然陰性ニ終レリ。第二例ハ高熱及ビ高度ノ凝集反應ハ同シク陰性ナリシ第四例ハ加答兒性黃疸ニシテ強度ノ黃疸及ビ高熱ヲ有シ凝集反應ハ又陰性ヲ呈セリ。今此等數例中第一例ニ就キ凝集反應ノ經過ヲ見ルニ膽汁ノ絕對的濃積ヲ存スル間ハ陽性反應ヲ呈シ外觀上黃疸ハ同一ナレドモ膽汁ノ少量ガ既ニ腸内容ニ混入スルニ至レバ血清ノ凝集反應ヲ認ムルコト能ハズ種々ノ原因ニ由ル黃疸ノ他ノ數例ニアリテモ少量ノ膽汁ガ腸内ニ流注セラルル時ハ血清ノ凝集反應ハ消失スルガ故ニ絕對的濃積ヲ以テ黃疸患者血清凝集反應ノ解決點ト認ムルコトヲ得ベシト論セリ。

よあひむ Joachim)モ亦同年二例ノ黃疸患者ニ就キ此ト同一ノ所見ヲ述ベタリ。其第一例ハ強烈ナル腹痛腰痛黃疸及發熱ヲ有シ出産後虛脫症ノ下ニ逝ク。尿中ニハ膽汁色素ヲ證明シタルノミナリ剖檢上化膿性膽道炎及膽囊擴張等ヲ有シ生前該患者血清ノ凝集反應ヲ檢セルニちふす桿菌ニ對シ凝集反應ハ各八十倍赤痢桿菌ハ二十倍綠膿桿菌ハ六十倍稀釋ニテ皆陽性反應ヲ呈シ獨リ大腸桿菌ノミハ全然陰性反應ヲ示セリ。此患者ノ脾臟ヨリ分離シタル一種ノ桿菌ニ對シテ生前ノ血清ヲ用テ檢セシニ四十倍稀釋ニテ陽性ナリキ第二例ハ強度ノ黃疸發熱及腹痛ヲ有シ剖檢ニ由リ輸膽管ノ痙攣膽囊ノ擴大等ヲ認メ死後其血清ヲ用テ檢セシニ凝集反應ヲ檢シタルニちふす桿菌ニ對シテハ二十倍これら孤菌ニ對シテハ八十倍綠膿桿菌ニ對シテハ六十倍稀釋ニテ各陽性反應ヲ呈シ唯大腸桿菌及ビ赤痢桿菌ニ對シテハ全ク陰性成績ヲ示セリ。今此二例ノ凝集反應ヲ比較スルニちふす桿菌ニ對シテハ兩者間ニ大ナル差異アリテ膽囊炎患者ヨリ採取セル第一例血清ハ高度ノ稀釋ニテ集作用凝集有シ肝臟癌患者ヨリ得タル第二例血清ハ比較的其弱度ノ稀釋ニテ凝

集セルノミナリ即チちんぐすたいん及ぬいんノ所見ト殆ド一致ス

けいれる Köhler)ハ同年臨牀的及ビ動物試驗上ノ觀察ニ基キ有益ナル業績ヲ發表セリ。即チ先ヅ健人ヲ含メル百例ノ非ちふす患者血清ノちふす桿菌ニ對シ凝集反應ヲ檢シ其中十二例ハ二十倍稀釋ニテ陽性反應ヲ示シ此十二例中六例ハ三十倍迄又此六例中ノ二例ハ四十倍迄更ニ其二例中ノ一例ハ五十倍稀釋迄陽性ナリキ故ニ比較的廣くちふす桿菌ニ對シテ凝集反應ヲ呈スルモノハ血液疾患及ビ黃疸ヲ伴ヘル肝臟患者血清ナリ。次テけいれるハまるグェー(Marx)ノ報告ニ由リザリ。此ハ極メテ微細ナル少數ノ細菌ヨリ成レル集團ヲ作リ苛性加里及ビぬいんハ水ハ菌浮液ヲ加水ヲ以テ製スレバ集團ヲ作ルコトナキモ之ニ反シテ常水ヲ以テセバ強度ノ凝集反應ヲ呈シタルコトぶらうすたいん(Brauer)ノ所見ニ由リこれら孤菌ガくりせいんニ由リテ凝集セラルル事實ハ「*in vitro*」Bessert 及グィン(Lambert)ノ研究ニ由リ細水ヲ以テ製セルちふす桿菌浮液ヲ同量ノふるもーと混ズレバ直ニ凝集反應ヲ呈スルコト及ぼせしめるノ研究ニ係ハる。さふらにんノ一千倍溶液ニちふす桿菌浮液ヲ加フルバ凝集シ濾過セルふくしん飽和水溶液モ凝集作用ヲ有シ六千倍稀釋ノダスグィン液又之ト同シク爾後ノ比較的簡單ナル成分ヲ有スル化學的物質モ亦これら孤菌ヲ凝集スル性質ヲ有スル等ノ諸種ノ事實ニ鑑ミ凝集反應ニ及ボス膽汁ノ作用ハ免疫關係ヲ以テ論ズベキモノニ非ズシテ寧ろ其性質ハ化學的作用ノ範圍内ニ屬スベキモノナリト説ケリ。

以上諸説ハ何レモ黃疸ト凝集反應トノ間ニ特殊ノ關係ヲ有スルコトヲ認メタルモノナリト雖之ニ反シテ兩者ノ間ニ毫モ關係ノ存セザルチ主張スル者アリ例令バ

けいにのびすたいん Königstein)ハ千九百三年二頭ノ犬ノ皮下ニ少量ノ溶血毒ヲ注入シ少時ノ後定型的重症ノ黃疸ヲ伴ヘル疾患ヲ起サシメ其前後ニ於ケル兩犬血清ノ凝集反應ヲ檢シタルモ其影響ヲ認ムルコトナカリキ。最後ニ黃疸患者血清ヲ檢シタルニけいれるノ實驗成績ト全然反對ニシテ健人又ハ非ちふす患者ノ血清ニ比シ其凝集作用毫モ異ナラザルヲ見更ニ牛膽酸ヲ以テ檢シタル實驗モ同シク陰性ニ終レリ。

あいせいん Eissenberg u. Keller)ハ膽道ノ閉塞及ビ重症ノ黃疸ヲ有スル膽石症患者ノ一例ノ血清ハ五百倍稀釋ニテ結核桿菌ヲ凝集セシメタルヲ以テ膽汁成分ガ凝集反應ヲ促進スルニアラザルヲ疑ヒ次テ黃疸ヲ有スル他ノ一例ヲ檢シタルモ其五

- 1). Köhler, münch. med. Wochenschr. Bd. 50. 1903. P. 1379.
- 2). Königstein, wien. klin. Wochenschr. 16. Jahrg. 1903. P. 985.
- 3). Eissenberg u. Keller, Centralbl. f. Bakt. I. Abt. Bd. 33. Orig. 1903. P. 549.

- 1). Steinberg, münch. med. Wochenschr. Bd. 51. 1904. P. 469.
- 2). Kämmerer, berl. klin. Wochenschr. 41 Jahrg. 1904. P. 699.

十倍稀釋血清が同名菌ヲ凝集セシメシニ過ギズ其後檢シタル加答兒性黄疸ノ一例モ凝集反應ノ陰性ニシテ全ク之ト一致セル成績ヲ得タリ加之特ニ膽汁ノ凝集反應催進作用ヲ認ムルコト能ハズト云ヘリ

すたいる(Steinberg)ハ千九百四年二十二例ノ黄疸患者ヲ檢シ其中十五例ノ血清ハちふす桿菌ニ對スル凝集作用四十倍以下ノ稀釋度ニアリキ此十五例ヲ細別スレバ六例ハ加答兒性黄疸ニ例ハ膽石症 三例ハ癌腫 一例ハ恐クカ膿瘍ノ腫瘍 其他一例宛急性黄色肝臟萎縮症 全身敗血症及熱性黄疸ナリキ而シテ血清ノ凝集反應ガ四十倍又ハ夫レ以上ノ稀釋ニテ陽性成績ヲ得タルモノ七例アリシガ其中二例ハちふすヲ經過シタル者ニシテ爾餘ノ五例中二例ハ加答兒性黄疸 各一例宛重症熱性黄疸ヲ患ヒシ者 肝臟痛及原因不明ノ黄疸ナリキ此五例中三例ハ八十倍稀釋ニテ凝集反應ヲ呈シ他ノ二例ハ同一稀釋ニテ明確ナル陽性反應ヲ示セリ斯クテすたいる(Steinberg)ハ黄疽ノ存在ト凝集反應出現トノ間ニ一定ノ關係ナキヲ認メ更ニ其原因ニ就キ論シテ曰ク「いん及びけいれ」等ハ此現象ヲ類屬凝集反應 Gruppenspezifitätin 以テ説明セリト雖モ該現象ハ會ニ大腸桿菌屬ニ由リテ惹起セラルルニ止ラズ又黄疽ヲ有セザル變形桿菌疾患ノ二例位ニ實驗的變形桿菌及化膿球菌疾患ニアリテモ其血清ハちふす桿菌ニ對シ凝集反應ヲ呈ス故ニ其ハ決シテ類屬凝集反應ノ範圍内ニ止ラザルヲ知ルベシ膽道ノ細菌性疾患ガ加答兒性黄疸ノ原因ノ關係ヲ有スルハ諸家ノ認メタル事實ニシテ本實驗ハ例ノ黄疸患者中其二例ニちふす桿菌ニ對スル凝集反應 Nitroblin ヲ現ハセルハ又上述ノ理由ニ基クモノナルベク且膽汁ノ凝集ハ容易ニ細菌ノ侵害ヲ招來スルヲ以テ強度ノ膽汁凝集ハ本來細菌性疾患ニアラザルモ又能クちふす桿菌ニ對シテ凝集反應ヲ呈セシムルコトヲ得ベシト

けいめれる(Kämmerer)ハ同年五十例ノ黄疸患者ヲ檢シ其成績ヲ報告セリ實驗ニ供セルハ肝臟硬變十五例 膽石症十四例 加答兒性黄疸八例 肝臟痛八例 心筋炎二例 肺膿瘍 重症黄疸及肝臟腫毒各一例宛ナリキ而シテ凝集價ノ二十倍又ハ以上ニ達シタルモノハ四例(二十八%)ノ膽石症 二例(十三%)ノ肝臟硬變 一例(十二%)宛ノ加答兒性黄疸及ヒ肝臟痛アリキ就中最高ノ凝集價(七十五倍)ヲ示セル第一例ハ既往ニ途遙チちふすヲ經過セル疑ヒアリ 第二例(凝集價四十倍)ハ膽石症ニシテ黄疸ハ甚ダ輕微ナリシヲ以テ普通大腸桿菌ニ因ル膽道ノ細菌性疾患ノ結果類屬凝集反應ヲ呈セルモノト了解スベシ 第三例(凝集價五十倍)ハ膽石症ヲ有セリ前例ト其原因ヲ同シクスルモノナルベシ 第四例(凝集價二十倍)ハ肝臟硬變症ニシテ二十七年以前ニちふすヲ經過セリ此患者ハ丹毒ヲ有セシ

チ以テ之ニ因ル類屬凝集反應ナルベシ第五例(凝集價二十倍)ハ膽石症ニシテ膽道ノ細菌性疾患ノ外二十八年以前ニちふすニ罹リタルヲ以テ凝集反應ヲ呈セルモノナルベシ第六例(凝集價二十倍)ハ膽石症ヲ有シ其凝集反應ハ細菌性膽道炎及膿瘍ニ基クモノナルベク第七例(凝集價二十倍)ハ剖檢ノ結果膿瘍ノ縮膿及ヒ膽石症ヲ確定セシモノナリ 瘤腫ニ因スル高度ノ膽汁凝集ハ容易ニ膽道ノ細菌性疾患ヲ誘發セシム故ニ凝集反應ヲ呈シタルモノナルベシ 此等ノ實驗ハ何レモ「いん」法ニ由リテ檢セシガ別ニ八例ノ黄疸及ヒ肝臟病者血清ニ就キ「いん」法ヲ用ヒテ凝集反應ヲ檢シタルモ其凝集價ノ十倍以上ナルモノハ一例モ存セザリキ於是「いん」法ハ黄疽ニ際シ其血清ノ凝集價ガ四十倍又ハ夫レ以上ヲ超セルコト甚ダ稀ナルヲ斷言セリ

けいめれる(Kämmerer)ハ二十一例ノ黄疸患者ヲ檢セルモちふす桿菌ニ對スル特異性凝集素アルヲ發見シ能ハザリキ

菱刈(ハ)大正七年黄疸患者三十例ニ就キ血清ノ凝集反應ヲ檢スルコト四十二回ニ及ベシ疾病ノ種類ハ加答兒性黄疸(十五例)再歸熱性黄疸(九例)妊娠性黄疸(一例) 膽石性黄疸(二例) 肝臟膿瘍性黄疸(二例)あめーび性赤痢兼黄疸(一例)ナリキ加答兒性黄疸ノ第一例ハちふす桿菌ニ對スル血清ノ凝集價百六十倍ニ達シタルモ最近二年間毎年ちふす豫防接種ヲ受ケタルモノナリキ又第二例ノ凝集價ハちふす桿菌ニ對シテ五十倍ナリシガ二年以前ちふすニ罹レルモノナリ 第三例ハちふす桿菌 A 及 B 型ばらちふす桿菌ニ對シテ何レモ五十倍稀釋血清ヲ以テ陽性成績ヲ呈シ前年ちふす及ばらちふす混合豫防接種ヲ受ケタル者ナリキあめーび性赤痢兼黄疸ノ一例ハちふす桿菌 A 型及 B 型ばらちふす桿菌ニ對シテ五十倍稀釋ニテ凝集シ前年ちふす及ばらちふす混合豫防接種ヲ受ケタル者ナリ而シテ上記諸例ニ於テハ其黄疸中位ニ黄疸經過後其凝集反應ヲ比較シタルモ毫モ變動ヲ見ルコトナカリキ爾他ノ諸例ハ二十五倍以上ノ稀釋ニテ凝集反應ヲ呈セザリキ

黄疽患者血清ノちふす桿菌ニ對スル凝集反應ハ膽汁ノ影響ニ由ルニアラズシテ黄疽ヲ起セル細菌性疾患ニ基クモノナリトナス者亦尠カラズ今其二三ヲ列舉セムニ

けいれれるハ加答兒性黄疸ガ大腸桿菌ニ因ル時ハ其影響ニ由リテ血清ガちふす桿菌ヲ凝集セシメ得ルハ疑フベキ餘地ナキ所ニシテ純粹ノ大腸桿菌ニ因スル患者血清ニシテちふす桿菌ニ對シテ凝集作用ヲ有スルコト稀ナラザルハ産褥熱敗血症 大腸桿菌性膿瘍 腸加答兒 大腸桿菌性轉移症ノ諸例ニ徴シテ明カナリト云ヘリ

- 1). Kuntler, wien. klin. Wochenschr. 1907.
- 2). 菱刈, 東京醫事新誌, 大正七年, 第千八百二十九頁.

- 1). Lubowsky u. Steinberg, deutsch. Arch. f. klin. Med. Bd. 79, 1903. P. 396.
- 2). Lüdke, ebenda. Bd. 81, 1904. Cit. aus Centralbl. f. Bakt. I. Abt. Bd. 36, Ref. 1905. P. 388.
- 3). Blumenthal, münch. med. Wochenschr. Bd. 51, 1904, P. 1641.
- 4). Forster u. Kayser, ebenda. Bd. 52, P. 1473, 1905. u. Bd. 55, 1908.

るばつすきい及すたいんへるく、Lubowsky u. Steinberg) は千九百三年變形桿菌ニ因スル中耳炎二例ニ於テちふす桿菌ニ對スル血清ノ凝集反應ハ八十倍稀釋ニテ陽性成績ヲ示シ又實驗的ニ變形桿菌及化膿球菌注射ニ由リテ家兎及ビ海豚血清ノちふす桿菌ニ對スル凝集反應ハ顯著ナル亢進ヲ示スチ見黃疸患者血清ニ凝集作用アリトスルモ之ヲ以テ直ニ血清中ニ移行セル膽汁ノ作用ニ歸スベカラザルコトヲ敘セリ

千九百四年リウヂ(Lüdke)ハ比較的多數ノ患者及動物ニ就キ檢セシニ諸種ノ肝臟疾患三十六例中黃疸ヲ伴ヘン者三十二例アリシガ此三十二例中十九例ハ二十倍稀釋ニテ十一例ハ五十倍若クハ以上ノ稀釋ニテちふす桿菌ニ對シ凝集作用ヲ呈セリ就中最モ強度ノ凝集性黃疸ノ一例ハ僅ニ二倍稀釋ニテ痕跡反應ヲ呈シ全身鬱血ノ他ノ一例ハ尿中ニうるびりんヲ證明セル外何等黃疸症狀ヲ存セザリシモ其血清ハ能ク二百倍稀釋ニテ凝集セルハ以テ黃疸自己チちふす桿菌ヲ凝集スルニ主要ナル任務ヲ演ゼザルヲ示スモノナリ加答兒性黃疸ノ九例中七例ハ他ノ肝臟疾患ニ見得ザル程度ニ顯著ナル凝集反應ヲ呈セリ是ヲ以テ稀釋ノレバ黃疸患者ニアリテハ恐ラク其大多數ハ黃疸ヲ伴ヘル細菌性疾患ノ爲メニ其血清ガ凝集作用ヲ呈スルモノナラト論シ尙とるいれんちあみん 砒化水素吸入エーテテ注射等ニ由リテ動物ヲシテ實驗的ニ急性黃疸ヲ起サシムルモ其血清ノ凝集作用著シク増進スルコトナシト云ヘリ

又黃疸患者血清ノちふす桿菌ニ對スル凝集反應ハちふす又ハばらちちふす桿菌ニ因スル膽道又ハ肝臟ノ疾患ノ爲メナルヲ主張スル者アリ例令ハ

ぶるーめんたー Blumenthal) は千九百四年ちふす桿菌ヲ檢出シ得タル膽石ヲ有スル膽囊炎患者ノ血清ハ同名菌ニ對シ二千五百倍ノ稀釋ニテ凝集作用ヲ有シ又他ノA型ばらちちふす桿菌ヲ分離シ得タル膽石ヲ有スル膽囊炎患者ノ血清ハ同名菌ニ對シテ二百倍ノ凝集價ヲ有セシヲ敘シちふす又ハばらちちふす桿菌ヲ有スル慢性病竈ハ比較的長時間存在シ得ルコト此二例ニ於ケル凝集價稍高キハちふす又ハばらちちふす桿菌ニ因スル膽道ノ疾患ノ爲メナリトナスチ妥當トスベシト論セリ

ぶるすてら及ロイヤ Forster u. Kayser) は千九百五年多數ノ膽汁ヲ用非テ細菌學的檢案ヲ行ヘリ實驗ニ供シタルハ四百四十八例ノ屍體ヨリ採取シタル膽囊内容液ニシテ其中四百十例ハ確實ニちふす以外ノ諸種ノ疾患ノ爲ニ殺シタルモノ又八例ハちふすが其死因トナルモノナリキ檢案ノ結果二例ハちふすニ強クシコトナクシテ膽石ヲ有セシガ其膽汁中ニ一例ヨリハちふす桿菌ヲ他ノ一

- 1). Blumenthal, med. Klinik. I. Jahrg. 1905. P. 1227.

例ヨリハB型ばらちちふす桿菌ノ存在ヲ證明セリ ちふす屍體ノ中一例ハ膽汁中ニ普通大腸桿菌ノミヲ認メ他ノ七例ノちふす屍體ノ膽汁ヨリハちふす桿菌ヲ純粹ニ培養シ得タリ此等ノ七例ハ膽石ヲ有セズ又嘗テ膽道炎ノ診斷ヲ受ケタルコトナカリシ者ナリキ次ギテ其ちふす屍體ニ就キ腸内容ヲ檢セシニちふす桿菌數ハ常ニ二十指腸ヨリ下部ニ至ルニ從テ漸次減少スルヲ發見シ且チちふす桿菌ニ感染スルトキハ膽道必ズ發炎スレ體ヲちふす症ニ罹レル者ガ糞便ト共ニ排泄スルハちふす桿菌ハ膽囊ニ其源ヲ拓クモノナルコトヲ示スモノナルベシト論シ更ニ二十五頭ノ家兎ヲ用ヒちふす桿菌A及B型ばらちちふす桿菌ニテ實驗セルニ六分りぐらむノ菌量ヲ注射セバ六週間ノ後尙其膽囊ニちふす桿菌アルノミナラズ小腸上部ノ内容ヨリモ之ヲ檢出シ得ルコト稀ナラズ若シ少量ノ菌液ヲ靜脈内ニ注入スル時ハ三日ノ後膽汁中ニ同名菌ヲ證明スルモ往々陰性ナルコトアリ又實驗中二回ハ注射後數週間ニシテ膽汁ハ無菌性ナリシモ膽囊壁ノ一部ヨリ菌芽ヲ證明シ得タルコトアリ即チ病芽ノ方サニ消滅セントスルハ膽囊粘膜炎其最後ノ占居部トナルヲ知ルニ足ルベシ又殺害セルちふす桿菌培養ヲ以テ免疫處置ヲ行ヘル家兎ノ靜脈内ニちふす生菌ヲ注入セシニ菌芽ハ膽囊内ニ現ハレタルモ多クハ數日間證明シ得ルニ止マリ血液ヲ靜セル菌芽ハ徐徐ニ膽汁中ヨリ消滅セリ此實驗成績ニ徵スレバ動物ニアリテモ膽囊ハちふす桿菌ノ避難所ニシテ且ツ靜脈内ニ注入セル桿菌ハ膽囊ヲ經テ腸ニ出ルヲ示スモノナリト云ヘリ尙ふるすてら及ロイヤハ二人ノちふす保菌者ガ共ニ膽石ヲ有セシニ其一人ハ三十年前ニちふすヲ經過シ他ノ一人ハちふすノ經過中膽道炎ノ診斷ヲ受シ者ナリキ又全然健康ノ外親ヲ有シ偶然ちふす保菌者ナルコトヲ發見セラレシ者ヲ剖檢セシニ膽囊炎及膽囊膿瘍ヲ認メヨシヲ敘シ由テ以テ保菌者ガ病芽ヲ特ニ膽囊中ニ藏スルヲ窺知スルニ足ルベクちふす桿菌ハ特ニ保菌者ニアリテハ膽汁ト共ニ膽囊ヨリ腸内ニ出テ更ニ外界ニ達スルモノナルヲ詳敘セリ

ぶるーめんたー Blumenthal) は同年膽石ノ爲ニ手術セル二例ノ患者ヲ檢セシニ其血清ハ五千倍及二百倍稀釋ニテちふす桿菌ヲ凝集セシメ且ツ二例共ニ膽汁ヨリちふす桿菌ヲ分離シ得タリ其後肝臟及ビ膽道ノ患者二十九例ヲ檢セシニ五十倍以上ノ凝集價ヲ有スルモノハ六例アリシノミナリキ而シテ其第一例ハ膽石症ニシテ黃疸ヲ有セズ桿菌ノ存在ヲ證明シ得タルモノニシテ凝集價二千五百倍ヲ示セリ第二例モ亦タ膽石症ニシテ輕微ノ黃疸ヲ有シ培養試驗ノ結果A型ばらちちふす桿菌ヲ認メ之ニ對スル凝集反應ハ三百倍稀釋迄陽性ナリキ 第三例モ同シク膽石症ニシテ強度ノ黃疸ヲ有シ培養シ得タルモノハ普通大腸桿菌 嫌氣性大腸桿菌ニシテ此兩菌ニ對スル

ちふす桿菌ニ因スル疾病(免疫性凝集反應)

1). Cantani, Centralbl. f. Bakt. I. Abt. Bd. 32, Orig. 1903. P. 731.

血清ノ凝集價ハ一千倍ナリキ第四例ハ膿瘍炎及膿石症ヲ有シ黄疽ナクちふす桿菌ヲ分離セリ而シテ之ニ對スル血清ノ凝集價ハ五千倍ヲ示セリ第五例ハ膿石症ニシテ輕微ノ黄疽ヲ有シ普通大腸桿菌ノミ存セリ之ニ對スル凝集價ハ百倍ナリキ第六例ハ膿石症ニ化膿性膿瘍炎ヲ兼テ黄疽ヲ有セズちふす桿菌ヲ凝集シ其血清ハ之ニ對シテ五十倍ニテ凝集反應ヲ呈セリ此所見ニ基キ黄疽ト凝集反應トノ間ニハ何等ノ關係ナク高度ノ凝集價ヲ有スル場合ニアリテハ常ニちふす桿菌ニ因スル疾患ナルコトヲ看取シ得又手術シテ無菌的ニ得タル十七例ノ膿汁ヲ細菌學的ニ検査セシニ四例ハ細菌ヲ存セザリシモ三例ハ化膿球菌ヲ凝集中一例ハ球菌ト共ニ一例ハ疑似ちふす桿菌ト共ニ存セリ又一例ハ螢石光變形桿菌ヲ有シ九例ハ大腸菌ちふす菌屬ノ桿菌ニシテ内四例ハ大腸桿菌ヲ認メ(其中一例ハ嫌氣性大腸桿菌ト共ニ一例ハ球菌ト共ニ存セリ)他ノ四例ニハちふす桿菌存シ(其中一例ハ化膿球菌ト共ニ存セリ)残りノ一例ハA型ばらちふす桿菌ナリキ即チ十三例中ちふす及ばらちふす桿菌ヲ證明シ得タルハ五例ニシテ大腸桿菌ヨリモ其頻度多キハ注目ニ値スベキモノナリト云ヘリ

膿汁ヲ用ヒテ凝集反應ヲ檢セルモノ亦尠カラズ例令バ

けいられるハ膿囊嚢管ヨリ採取シタル犬ノ膿汁及ヒ人ノ膿汁モ屬スちふす桿菌ヲ凝集シ且ツ膿汁ノ凝集作用ハ膿汁ノ濃度ニ由リテ亢進スルヲ認メ且ツ十%ノ牛膽酸ハ往々ちふす桿菌ニ對シテ明カニ凝集反應ヲ呈スルモ必發的ニアラズ宛モ黄疽患者血清ガ必シモ常ニ凝集反應ヲ呈スルニアラザルニ類スト云ヘリ

〔人〕に Cantani¹⁾ハ千九百三年牛家兎及海狗ノ健康膿汁ハちふす桿菌 大腸桿菌 化膿球菌 化膿球菌 流行性感胃桿菌及ちふす桿菌ヲ凝集セシムルコトヲ得ズ之ニ反シテ大腸汁ハ稍多量ノ粘液ヲ含有シ流行性感胃桿菌及ちふす桿菌ニ對シテ凝集反應ヲ呈ス但シ其度ハ十乃至二十五倍ヲ超ユルコトナシ一般ニ膿汁ガ稀薄證明ニシテ且ツ平等ニ凝集セル時ハ凝集反應ヲ呈スルコトナク濃厚ニシテ濁濁セル時ハ凝集反應ヲ呈スルヲ見ル恐ラク粘液ノ含有量多キニ基因スルモノナラム又一回前液ヲ注射シタル動物ノ膿汁ヲ檢スルニ少量ノ菌液注射ノ場合ニハ影響スル所ナキモ比較的大量ヲ用ヒタル場合ニハ其膿汁ハ凝集作用ヲ現ハシ更ニ長期ニ互リ數回ニ分チ多量ノ菌液ヲ用ヒ免疫處置ヲ行フ時ハ常ニ著シキ凝集反應ヲ呈スルヲ認メ而シテ其血清ハ膿汁トノ凝集作用ヲ比較スルニ同一ノ動物ニアリテハ血清ハ常ニ膿汁ヨリモ遙ニ優劣ナル作用ヲ有スルモノナルヲ敘セリ

1). s. o.
2). Venema, berl. klin. Wochenschr. 43. Jahrg. 1906. P. 999.
3). 竹村, 日本微生物學會雜誌, 第十一及十三卷.

ハニシテ及ウイザル(1)ハ高度ニ免疫セル動物ノ膿汁ハ常ニ凝集作用ヲ有スルモノニシテちふす桿菌ノ膿汁モ死後即時ニ採取スレバ常ニ凝集作用ヲ有スルヲ實驗セリ

けいにちひすたい人(1)ハ右ノ二三者ノ實驗成績ニ反シちふす桿菌 大腸桿菌及これら弧菌等ヲ用ヒ二十一例ノ屍體ヨリ採取セル人膿汁ニ就キ凝集反應ヲ檢シタルモ一例ダニ明瞭ナル陽性成績ヲ呈セルモノナク又十例ノ健康家兎膿汁及三例ノ牛膿汁ニ就キ行ヘル凝集反應試驗モ陰性ニ了ハレテ敘セリ

あいぜんへる及ける(1)モ亦屍體ヨリ採取セル數例ノ膿汁ヲ檢シタルニ其結果ハ全然陰性ナリキ

りごご(1)ハ膿汁及膿汁加血液ノ試験管内凝集作用ヲ檢シタルモ其結果陰性ナリキ又人及動物ノ膿汁ヲ動物體內ニ入ルルモ其血清ノ凝集作用特ニ變化スルコトナク牛膽酸及牛膽酸那爾留誤溶液ヲ各單獨ニ應用シタル場合ニモ其結果ハ同一ナリシヲ以テけいれノ所説ヲ駁シテ曰ク黄疽患者血清ノ凝集反應ノ主因ハ膿汁又ハ牛膽酸ガ血行中ニ進入セル爲メニアラズト

けいめれる(1)ハふりける法ニ由リ諸患者ノ膿汁五例ヲ檢セルモちふす桿菌ニ對スル凝集反應全然陰性ナリシヲ云ヘリ

がえれま Iremid²⁾ハちふす桿菌ニテ處置セシコトナキ動物ノ膿汁及非ちふす症ニテ斃レタル人ノ膿汁ノちふす桿菌ニ對スル凝集反應ヲ檢シタルニ偶々ちふす及ばらちふす桿菌ニ對シテ凝集反應現象ヲ呈シタル人膿汁アリシモ對照トシテ用ヒタル菌液ヲ加ヘザル膿汁ニモ同様ノ現象ヲ呈セリ次ニ五頭ノ家兎ノ膿汁中三例ハ豚疫桿菌ヲ注射シタル後二十四時間ニシテ斃レタルモノ 一例ハ細菌ヲ含メル健康家兎膿汁 一例ハ健康家兎ノ無菌的膿汁ナリシガ唯ダ最後ノ一例ノミニ凝集現象ヲ認メタリ但シ對照試驗管モ亦同様ノ成績ヲ呈セリ故ニ血清ノ凝集價ガ膿汁ノ影響ニヨリ増強スルハ事實ナラザルニ近シト唱道セリ

最近竹村(3)ハ膿汁ノ凝集反應ニ及ボス影響ヲ精細ニ實驗シ敘上諸家ノ矛盾セル説ニ對シ解決ヲ與フル所アリキ其論ニヨレバ健康又ハ免疫家兎ノ血清及膿汁ノちふす桿菌ニ對スル凝集價ハ同一ナラズシテ前者ハ後者ニ優ルヲ通例トス而シテ試験管内ニ健康家兎血清ニ同量膿汁ヲ四對一ノ比ニテ混ズルニ血清ノ凝集價ハ爲メニ往々顯著ナル増強ヲナス又健康若クハ免疫家兎ノ腹腔内ニ膿汁ヲ注入シ而シテ後ヲ採取セル血清ハ凝集力増強シ二倍若クハ以上ヲ示ス其他膿汁ハちふす桿菌ノ凝集性ニモ影響スルモノニシテ試ミニ菌乳劑ニ膿汁ヲ加ヘ一定時間作用セシメバ處置セザリシ同名菌ヨリモ健康家兎血清ニヨリテ凝集スルコト約二倍又此等ノ事

- 1) Liefmann, münch. med. Wochenschr. 1908. 2) de Nobele, Ann. soc. méd. Gand. 1899.
- 3) Rimpau, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 41. 1912. 4) Stern, Centralbl. f. inn. Med. 1896.
- 5) Kolle, deutsche med. Wochenschr. 1897. 6) Grünbaum, Lancet. 1896. Vol. 2. 7) Fraenkel, deutsche med. Wochenschr. 1897.
- 8) Köhler, klin. Jahrb. Bd. 8. 1901. 9) Bruns u. Kayser, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 43. 1903.
- 10) Fornet, Handb. von Kolle-Wassermann. 2. Aufl. Bd. 3; Arb. a. d. Kais.-Ges.-Amt. Bd. 41. 1912.
- 11) Achard u. Bensaude, Soc. méd. des hôp. 1896.
- 12) Gilbert u. Fournier, Bull. acad. méd. 1896. 13) Durham, Lancet. 1898. 14) de Nobele, Ann. soc. méd. Gand. 1899.
- 15) Petruschky, Centralbl. f. Bact. Bd. 19. 1896.

實ハ細菌ヲ黄疽患者ノ血液ハ假令ちふす桿菌又ハ爾餘ノ病芽ニ因スル疾病ニアラザル場合ト雖モ其健常凝集價ハ著シク増進セシメニ健常血清ニ比シ二倍若クハ數倍ノ稀釋ニテ陽性反應ヲ呈スルニ至ルモノナルヲ告白スルモノナリト謂ハザルベカラズ竹村ハ更ニ進ミテ膽汁ニ因スル凝集反應増強ハ所謂膠着反應ニアラザルヲ疑ヒ之ヲ精査シ健常家兔血清中ニハちふす桿菌ニ對スル膠着素ヲ缺如シ菌芽ノ聚合現象ハ全ク凝集素ニ因レル反應ナルヲ確實ニセリ其他免疫家兔體內ニ於ケル凝集素減退期ニ際シ家兔膽汁ヲ注入スルトキハ其凝集價ハ再タビ著シク増強シ其大多數ノモノハ二倍以上ニ現ハル故ニちふす桿菌ニ對シテ凝集素減退セル時黃疽病ムトアラムカ其血清ハ再タビ比較的著明ノ凝集反應ヲ呈スルニ至ルコトアルベキヲ想ハザルベカラズ 其他凝集素產生最モ旺盛ナル時膽汁ヲ注入スルトキハ其血液ノ凝集價ハ倍加ス 然リ而シテ凝集反應増強作用ヲ營爲スル物質ハ膽汁中ニ於ケル如何ナル成分ナリヤヲ檢シ牛膽酸那高價價ニハ此作用アルモウラン及甘膽酸那高價價ニハ此種ノ作用ナキヲ明確ニセリ

リーマン(Liefmann)ハけるとれる腸炎桿菌ノ爲メニ病者ノ血清ガちふす桿菌ニ對シ腸炎桿菌ニ對スルヨリモ強ク凝集反應ヲ呈スルヲ實驗シタリ 又他ノ學者(Ca. Koteles, Rimpau)モ屢々同様ノ事實ヲ實驗セリ 其他ばちちふす患者ノ血清ガちふす桿菌ヲ強ク凝集セシムルハ既ニ人ノ熟知スル所ナリ

絞上ノ如キ事實アルニ微セバ勿論其血清稀釋度ニ一定ノ境界若クハ標準ヲ置キ以テ健常凝集素又ハ副凝集反應ト真正ノ値ナリ反應トナ識別セザルベカラザル要アルヲ必セリ而シテ其稀釋標準ヲ或ハ三十倍(Stern, Kolle)或ハ三十二倍(Grünbaum)若クハ五十倍(Fraenkel, Köhler)又ハ七十五倍(Bruns u. Kayser)トナセ

又他方ニハ一回ちふすニ罹リタルモノノ血清ハ久シク百倍又ハ二百倍稀釋ニ陽性反應ヲ呈スル事實アリ(Fornet)

管ニ健常血清又ハ非ちふす患者血清ガ弱稀釋度ニテちふす桿菌ヲシテ凝集セシムルノミナラズちふす患者ノ血清ガ他種菌芽ヲ凝集セシムルコトアリ

例令バ鷓鴣ノ病因チナスモノヲ桿菌(Wald, Archard u. Benavente, Gilbert u. Fournier)腸炎桿菌(Durham, de Nobele)あるヨリ性質便桿菌(Petruschky)ガちふす患者ノ血清ニ反應スルガ如シ勿論其反應力ハ他種菌芽ニ對スルヨリモちふす桿菌ニ對シテ

- 1) Driga'ski, Festschr. z. 60. Geburtstag R. Koch. Jena 1903. 2) Fischer, ebenda. 3) Rimpau, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 41. 1912. 4) Rehberg, klin. Jahrb. Bd. 26. 1912.
- 5) Conrad, Centralbl. f. Bact. I. Abt. Ref. Bd. 44. 1909. Beiheft. Diskussionbermerkung. 6) Lenz, ebenda. 7) Kuhn u. Wothke, ebenda. 8) 小田, 日本微生物學會雜誌 第十四卷. 9) Frost, Hyg. lab. bull. 1910. 10) Köhler, münch. med. Wochenschr. 1903. 11) Bl. Müller, Centralbl. f. Bact. Bd. 55. 1910. 12) Bieberstein, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 27. 1898. 13) Kurth, deutsche med. Wochenschr. 1901. 14) Hünermann, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 40. 1902. 15) Conrad, Drigalski u. Jürgens, ebenda. Bd. 42. 1902.

ニ強シ但シ肉中毒桿菌ガちふす桿菌ヨリモちふす患者血清ニヨリ強ク凝集セル一例(De Nobele)アルヨリ此モノナリト謂ハザルベカラズ散發性又ハ流行性肉中毒ノ際其原因菌及ちふす桿菌ヲ用ヒ當該患者血清及ちふす患者血清ニ對スル反應ヲ檢セシニ每常隨伴凝集反應ハ主反應ヨリモ低クシテ誤診ノ因チナスコトナキヲ立證シラセシキヤモ亦肉中毒症ニ於ケルけるとれる桿菌ハばちちふす患者血清ニ隨伴凝集反應ヲ呈スルコトアルモ爲メニ診斷シテ不確實ナラシムルコトナキヲ云ハハリリむばり(Rimpau)ハ反之ちふす患者血清ガ腸炎桿菌ヲ凝集セシメ血清學的診斷困難ナルコトアルヲ敘シレバるベシ(Rehberg)亦之ヲ承認セリ

ちふす患者及恢復者ノ排泄セル糞便中ニ於ケル普通大腸桿菌ハちふす免疫血清ニヨリ強ク凝集ス(Conrad)ルモ人工培養ヲ重スルニ從ヒちふす血清ニ反應セザルニ至ル(Lenz)〔亦病者ヨリ得タル菌モ亦々同様ノ非定型凝集反應ヲ呈スト云フ(Kuhn, Wothke)〕但シちふす桿菌ト共ニ培養セル普通大腸桿菌ハちふす凝集素ニ反應スベキ新性質ヲ享受シ且ツ往々之ヲ其菌芽ニ遺傳ス(小田)絞上ノ外水ヨリ分離セル菌芽ガちふす患者血清ニ反應セル例(Fornet)アリ

斯クノ如クちふす患者ノ血清ハ普通大腸桿菌及其近縁菌ヲシテ副凝集反應ヲ起サシムルモノナルヲ以テ菌芽種別ノ目的ニ此種ノ血清即チちふす患者又ハ恢復者ノ血清ヲ應用スルトキハ往々誤謬ヲ招クコトアルモノナリトス(Köhler, Ed. Müller, Bieberstein)

ばちちふす桿菌ハちふす桿菌ノ近縁者ニシテ管ニ其臨牀上ノ症候ノミナラズ血清學的反應ニヨルモ往々誤ルコトアリ故ニ予ハむだなる反應ニヨレルちふす及ばちちふすノ鑑別ニ關シ聊カ敘スル所アラムトス

くいと Kurth)ノ所謂バチル菌熱桿菌 Bacillus Bremsensis febris gastricae ハちふす患者ノ血清ニ反應スルコトナク又ちふす桿菌ハ該胃熱患者ノ血清ニ反應セズト雖モくいと桿菌及しよとみれるノばちちふす桿菌B型ト同様ナルモるるよりちふす桿菌ニ因リテ發病セル者ノ血清ニ對シ同病原菌ハ千倍若クハ以上ノ稀釋度ニ反應シ(四十二%)ちふす桿菌ハ百倍稀釋ニ反應セリ(Hinnermann)ノ人(51)等(Conrad, Drigalski u. Jürgens)モ亦五例ノばちちふす患者ノ血清ニテ同様ノ事實ヲ實驗セリ而シテ

1). *Sion u. Negel*, Centralbl. f. Bact. Bd. 32. 1902. 2). *Fischer*, Festschr. z. 60. Geburtstag von R. Koch. Jena 1903. 3). *de Feijfer u. Koyser*, münch. med. Wochenschr. 1901. 4). *Castellani*, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 40. 1902. 5). *Bruno u. Kayser*, ebenda. Bd. 43. 1903. 6). *Jürgens*, ebenda. Bd. 43. 1903. 7). *Stern*, berl. klin. Wochenschr. 1903. 8). *Korte*, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 44. 1903. 9). *Drigalski*, Centralbl. f. Bact. Bd. 35. 1904. 10). *Lentz*, ebenda. 1. Abt. Ref. Bd. 38. 1906. Beiheft. 11). *Grünberg u. Rolly*, münch. med. Wochenschr. 1905. 12). *Fornet*, Handb. von Kolle-Wassermann. 2. Aufl. Bd. 3. 13). *Posselt u. Sagasser*, wien. klin. Wochenschr. 1903. 14). *Fornet*, Centralbl. f. Bact. Bd. 41. 15). *d'Amato*, ebenda. Bd. 53. 1910. 16). *Gaeltgens*, ebenda. Bd. 40 u. Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 25. 1907.

其一部ノモノハ既ニ發病ノ初期ニちふす桿菌ヲシテ百倍稀釋ニ凝集セシメ加之其一例ハ五百倍稀釋ニ反應セシメタリ又他ノ學者(Sion u. Negel) ちふす桿菌ニばちちふす患者血清ニヨリテ五十倍ニ陽性反應ヲ呈スルヲ實驗セリ但シ、Fischer によるノ實驗成績ニ於ケルト同シクちふす桿菌ガちふす患者及其恢復者ノ血清ニヨリテ何等ノ反應ヲ呈セザルヲ云々

患者ノ血清ガばちちふす及ちふすノ病芽ヲシテ同一強度ニ凝集セシムル例(De Feijfer u. Koyser) アルモ是ハ兩病芽ノ混合感染ナルベシ宜シク「すてらに」(Castellani) 法ニヨリテ吸收試驗ヲ行ヒ之ヲ識別スベキモノナリトス

ちふす免疫動物ノ血清ハばちちふす桿菌ヲ凝集セシメばちちふす免疫動物ノ血清ハちふす桿菌ヲ凝集セシムル作用アリト雖モ同種菌ニ對スル作用ハ常ニ強大ナリ(Bruno u. Kayser) 但シ、Jürgensガ多數ノちふす患者ニ就キ實驗セル所ニヨレバ細菌學的ニ確診セルちふす患者ノ血清ニシテばちちふす桿菌ニ對シ陽性反應ヲ呈スル者稀ナラザルノミナラズ往々ちふす病芽ニ對スルヨリモ却テ強ク反應シ又ばちちふす患者血清ニシテ同病芽ニ對スルヨリモ却テちふす桿菌ヲ強ク凝集セシムルコトアリト云フ是ハ後日二三ノ學者(Stern, Korte, Drigalski, Lents) ニヨリテ證明セラレタリ「グリンベルグ及ローリ」(Grünberg u. Rolly) ちふす患者ノ七十%ハばちちふす桿菌ニ對シ強ク凝集反應ヲ起サシメ三十五%ハ却テちふす桿菌ニ對スルヨリモ反應強大ナリト云ハルモ、Fornetノ實驗ニヨレバちふす患者ニシテ凝集形成著明(二百倍稀釋度)ナルトキハちふす桿菌ニ對シ凝集反應強大ナルモ凝集形成ノ初期五十倍稀釋度ニアリテハ破格ノ例トシテばちちふす桿菌ニ對シ強ク反應スルコトアリト云フ

彼上ノ如ク一患者ノ血清ニシテ兩種ノ菌芽ニ對シテ反應スルコトアル場合ニ之ヲ確診セムト欲セバ勿論吸收試驗ヲ行ヒ其反應ヲ決定ス(Castellani, Jürgens, de Feijfer u. Kayser, Stern, Korte, Posselt u. Sagasser, Fornet, d'Amato, Gaeltgens, Fornet, Porf, Popp) ナカ或ハ爾見ノ法ニ基キ菌乳劑ニ鉛丹ヲ加ヘ以テ副被凝性受體ヲ除却セル診斷液ヲ應用スルヲ良シトス

ちふす凝集素ハ會ニ血清中ニ現出スルノミナラズちふす免疫性ヲ有スル婦及動物ノ初乳及乳汁(Adams, Vidal u. Stauden, Kozel u. Mann, Remlinger, Thierlein u. Lenoble, Castellani, Schumacher, Mahg, Stäubi) 其他腹腔 胸腔及心臓

17). *Fornet*, Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 25. 1907. 18). *Port*, deutsche med. Wochenschr. 1908. 19). *Popp*, münch. med. Wochenschr. Bd. 57. 1910. 20). 爾見, 日本微生物學會雜誌第九卷. 21). *Achard*, Sé. méd. 1896. 22). *Vidal u. Sicard*, ebenda. 1897. 23). *Kozel u. Mann*, münch. med. Wochenschr. 1899. 24). *Remlinger*, Ann. Past. T. 13. 1899. 25). *Thierlein u. Lenoble*, Presse méd. 1896. 26). *Castaigne*, Sé. méd. 1897. 27). *Schumacher*, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 37. 1901. 28). *Mohr*, Centralbl. f. Stoffwechsel- u. Verdauungskr. 1901. 29). *Stäubi*, Centralbl. f. Bact. Bd. 33. 1903. 30). *Gaeltgens*, münch. med. Wochenschr. Bd. 56. 1909. 31). *Jurewitsch*, Centralbl. f. Bact. Bd. 33. 1903. 32). *Stern*, berl. klin. Wochenschr. 1903. 33). *Förster*, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 24. 1897. 34). s. o. 36). *Stern*, berl. klin. Wochenschr. 1897.

出液 發泡液及尿(Vidal u. Sord) 中ニ現ハル但シ母體ハ二百倍稀釋度ニ於テ陽性反應ヲ呈スル場合ニモ四月ノ胎兒ノ血清ニ凝集素ノ存在ヲ認ムルコト能ハズ(Gaeltgens) 但シ腸ちふすノ免疫體ハ胎兒ニ遺傳シ得ルモノナリ唯ダ其量少ナク爲メニ證明困難ナルノミナリ試キニちふす免疫血清ヲ妊娠家兎ニ注射スルトキハ其免疫體ハ胎盤ヲ通過シテ胎兒ニ移行スルヲ見ル(Vidal u. Stern, Jurewitsch) 一般ニ乳汁中ニ存在スル凝集素量ハ著明ニシテ往々血清中ニ於ケルモノヨリモ多キコトアルモ尿 膽汁 涙液 唾液 及羊水中ニアリテハ血清ニ比シ其量微ナリ(Schumacher) 乳汁中ニ於ケル凝集素多キ理ハ詳ナラズ換言セバ乳線ニ於テ特ニ形成セラレタル爲メナリヤ或ハ血清中ノ凝集素ガ乳線ニ於テ濃厚トナリタル爲メナリヤ不明ナリト雖モ前者真ニ近シ又受胎前ニ免疫セラレタル動物ノ仔ノ血清ハ凝集作用大ナルモ妊娠後ニ免疫セラレタル場合ニハ該作用弱シト云フ(Jurewitsch, Stäubi) (第六百七十三頁參照)

斯クテ「だ」る反應ハ成績不確實ニシテ之ニヨリテ診斷ヲ確定シ得ルモノニアラズ唯ダ臨牀的症候ノ不備ノ點ヲ補フニ過ギズ決シテ單ニ該反應ノ陽陰如何ニ基キ之ガ診定ヲ下スベキモノニアラズ(Stern) 五十倍(否寧ロ百倍)以上ノ稀釋度ニ於テ日ヲ異ニシ數回反覆檢シ以テ其反應度ガ疾病ノ經過ト共ニ増強スルヤ否ヤニ注意スルト共ニちふすノ全經過中全然反應セザルモノアルノミナラズちふす症ニアラザルモノニシテちふす桿菌ヲシテ凝集セシムルコトアルヲ忘ルベカラズ 寄生物性病原補遺(又ハ寄生物診斷學) 第二頁參照

ちふす症ヲ診斷スルニ方リ「だ」る反應ヨリモ遙ニ信用ヲ措クベキハ其血液ヲ膽汁養液ニ移シ以テ病芽ノ存否ヲ明ニスルニアリ血液ヨリ病芽ヲ培養セバ毎常陽性成績ヲ得分離ノ目的ヲ達シ得ルモノナリトス(Fornet)

「だ」る反應ノ如何ニヨリ豫後ヲ知シ得ルヤ否ヤノ疑問ニ關シテモ吾人ハ現今猶ホ之レヲ否認セザルベカラズ何トナレバ輕ク且ツ眞性ノ經過ヲ取リシモノニ該反應ヲ缺如シ重ク且ツ死ノ轉歸ヲ取リシモノガ死ニ至ル迄凝集率不變狀態ニアリシ例(Fürstner, Thierlein u. Lenoble, Stern) 驗カラザレバナリ 加之屍血ニモ亦凝集素ノ存在ヲ認ム(Stern) 又「Trousseau」ハ後日死ノ

- 1). Nicolle u. Trenchel, Ann. Past. 1902.
- 2). Weil, prag. med. Wochenschr. 1904.
- 3). Wassermann, Zeitschr. f. Hyg. Ed. 42 1902.
- 4). Lents u. Tietz, münch. med. Wochenschr. 1903.

對スル感受性遲鈍ナルモ敢テ不可思議ナル奇現象トナスニ足ラザルヲ物語ルモノナラム又他ノ學者 (Nicolle u. Trenchel) ハ活潑ナル運動ト強力ナル被凝性トヲ有スルちふす桿菌ヲ四十二度ノ温所ニテ培養セシニ運動性及被凝性ヲ失フモ之ヲ更ニ三十六度ニテ培養スルトキハ再タビ復舊スルニ至ルヲ實驗セリ由是觀之患者ヨリ分離セル病芽ガ凝集シ難キハ當ニ免疫性物質ノミナラズ高温モ被凝性障礙ノ一因ヲナスモノナルガ如シ 雖然又他方ニハ之ニ反對ノ事實アリ即チ凝集反應ハ五十乃至五十五度ニ於テ速ニ且ツ確實ニ發現ス (Weiss) ルコト是ナリ 勿論被凝性缺如又ハ減却セルちふす桿菌ニ對シテハ高温ニ於ケル凝集反應促進作用モ力及バザルモノナリ (Fornet) 其他養基ノ種類モ亦ちちふす桿菌ノ被凝性ニ影響スルコト多大ナリ例令バ強カリ性養基 (Wassermann³⁾) ちふす桿菌及ばらちふす桿菌分離ニ應用スルまらひ¹⁾とぐり²⁾一³⁾加凝菜 (Lents u. Tietz⁴⁾) 或ハ無蛋白質性尿凝菜 (Kirstein) ニ培養スルトキハ被凝性減却スルガ如シ但シ五十二度ニ三十分間加温スルカ或ハ一⁴⁾醋酸ヲ添加セル馬鈴薯上ニ培養スルトキハちふす桿菌ノ被凝性稍々増強ス (Kirstein) 勿論人工的ニ減却又ハ増強セル被凝性ハ普通養基上ニ移植スルニヨリ容易ニ復舊スルモノナリトス

彼上ノ如クちふす桿菌ハ種々ノ影響ノ下ニ其被凝性ヲ變ズルモノナリ而シテ其原因ニ關スル説明ハ未ダ充分ナラズ隔靴搔痒ノ感ナクンバアラズ 予ガ教室ニ於テ爾見 豊島 風野 小田其他 三者ノ研究セル所ニヨレバ菌芽ノ所謂受體ハ諸種ノ影響ニヨリテ隱見出沒スルモノニシテ當ニ所謂非特異性受體ノミナラズ特異性受體ヲ被ヘル物質ハ理化學的處置例令バ鉛丹ニヨレル吸收作用ニヨリテ減却乃至消失シ所謂特異性受體著明ニ現ハル此事實ニ徴セバ患者體內ニ於ケルちふす桿菌ガ凝集シ難キハ其凝集性受體ノ消失又ハ減却セル爲メニアラズシテ他ノ物質ニヨリテ被ハレ隱匿セル結果ナル

- 1). Eisenberg u. Volk, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 40. 1902.
- 2). Totsuka, ebenda. Bd. 45. 1903.

ベク又之ヲ人工養基上ニ移植セル爲メ凝集性ヲ享有スルハ其被覆物質除却セラレタル結果ナルニアラザルヤヲ想ハシム換言セバ從來諸家ガ臆ヘルガ如ク受體ノ消失又ハ再生ノ結果ニハアラザルガ如シ予ハ目下凝集反應ヲ物理化學的ニ説明シ此等不可解ノ疑雲ヲ一掃セムト企圖シツツアリ其解決ノ日近キ將來ニアルヲ期ス

凝集セザル又ハ凝集シ難キちふす桿菌ヲ凝集性血清ニヨリテ診定セムガ爲メニあいせん⁵⁾及⁶⁾ Eisenberg u. Volk) ハ其菌芽ヲ處置スルニ弱酸又ハ温熱ヲ以テセシニ能ク大量ノ凝集素ト結合スルニ拘ハラズ凝集現象ヲ呈セザリキ蓋シ此處置ニヨリ被凝性菌體物質ノ作業簇又ハ凝集簇消失シ結合簇ノミ殘存スルニヨルモノナルベシト説ケリ (vergl. auch: Totsuka²⁾, Wassermann)

上文既ニ詳敘セルガ如クちふす桿菌ノ被凝性ハ變ジ易キヲ以テ免疫血清ニヨリちふす病芽ヲ診定スルハ困難ナルモノナリト謂フベシ故ニ或ハ免疫血清ニ代フルニちふす恢復者ノ血清ヲ以テスベキヲ説クモノアルモ是レ亦タ有利ナラザル點アリ何トナレバ恢復者ノ血清ハ當ニちふす桿菌ニ對スル主凝集素ヲ含ムノミナラズ諸種ノ近縁菌ニモ作用スル副凝集素ヲ含有スルヲ以テナリ

凝集反應ニヨリちふす病芽ヲ診斷スルニ際シテハ特ニ其反應ハ免疫血清中ニ於ケル副凝集素ニ基因スルモノニアラザルヤ否ヤニ留意セザルベカラズ故ニ其可檢菌ハ免疫ニ用ヒタル原菌株ト同一程度ニ或ハ近似セル程度ニ凝集反應ヲ呈スルヤ否ヤヲ知ルヲ要ス殊ニ此際應用スル免疫血清^{人工的ニ動物血清ナルベク恢復者血清ハ可及的高價ナラザルベカラズ蓋シ高價血清ニヨリテハ假令副反應ヲ發スル場}合ニアリテモ其程度主反應ニ比シ遙ニ低ク斷定ヲ下スニ有利ナリ又被凝性遲鈍ナル菌株ニ對シテハ勿論人工培養ヲ重ヌルカ或ハ理化學的處置ヲ行ヒテ之ヲ常態ニ復セシメザルベカラズ

凝集反應検査法ハ既ニ寄生生物性病論補遺(又ハ寄生生物診斷學)第三百十頁並ニ第四卷(又ハ免疫學)第七百十二頁ニ略叙セルヲ以テ茲ニ之ガ再叙ヲ避ケ唯ダ二三ノ注意事項ヲ記スルニ止メトス

① だる反應検査ニ際シテハ十八乃至二十時間三十七度ニ培養セル且ツ凝集シ易キ菌株ヲ撰ビ以テ菌乳劑ノ原料トナシ其加温殺菌セルモノニ爾見法①ニ基キ鉛丹(白陶土)又ハ白降汞ノ如キモノヲ約2%乃至1%ノ比ニテ加ヘ輕ク振盪シ充分ニ混和セシメタル後テ一定時間靜置シ其上清ヲ診斷液トシテ用フルヲ宜シトス サレバ菌芽ニ附著セル副凝集原ハ吸收除却セラレ凝集原ハ強ク又ハ著明ニ作用ス

② 十倍ニ稀釋セル可檢血清ニ生理的食鹽水及菌液ヲ和シ全量ヲ一立方センチメートルトナスコト次表ノ如シ

	第一試管	第二試管	第三試管	對照試管
十倍稀釋血清液	0.1	0.1	0.1	0.0
生理的食鹽水	0.9	0.9	0.9	0.9
菌乳劑	0.01	0.01	0.01	0.01
血清稀釋度	五十倍	百倍	二百倍	—

又同時ニばらち菌乳劑ヲ用ヒ同一患者血清ニ對スル凝集反應如何ヲ檢スルヲ宜シトス

反應ノ陰陽ハ可及的の肉眼的ニ檢スルヲ宜シトス其他反應發現ヲ促進セシムル目的ニハ試驗管ヲ遠心器ニ裝フニアリ(Gaibgen)サレバ約十分時ニシテ之ヲ明視スルコトヲ得ルモ常法ニ從ハバ三十七度ノ温ヲ二時間ヲ要ス遠心器ニ裝ヘルトキハ陽性管ニアリテハ管底ニ紗狀不正形ノ沈澱物生シ全底面ヲ被フモ陰性管ニアリテハ圓形ノ小サキ沈澱物アルノミナリ若シ之ヲ振盪スルトキハ陰陽二管ノ所見ハ常法ニヨレル凝集現象ヲ見ルガ如キ觀ヲ呈ス 其他五十乃至五十五度ノ高温ニ可檢管ヲ安置スルノ利ヲ說ケル者(Held)アリ又凍結セシムルノ有利ナルヲ叙セル者(淺川)アリ但シ非難ノ聲(Krawinkel)ナキニシモアラズ

分離セル菌芽ヲ診斷スル場合ニハ先ヅ覆蓋硝子上ニ生理的食鹽水及十倍稀釋ノちふす免疫血清各一滴ヲ致シ注意シテ可檢落ノ少量ヲ加ヘ針尖ニテ攪拌スルコト懸濁標本ヲ製シ顯微鏡下ニ致セバ初メ運動セル菌芽ハ漸次集合シテ塊團ヲ形成シ肉眼又ハルーベ

- 1) 畢見, 日本微生物學會雜誌 第九卷 第百十一頁.
- 2) G. G. Arb. a. d. Kais. Ges.-Amt. Bd. 25. 1907.
- 3) Weil, prag. med. Wochenschr. 1904.
- 4) Asakawa, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 45. 1903.
- 5) Kirstein, ebenda. Bd. 46. 1904.

チ用フルモ目撃シ得ルニ至ル但シ其可檢落ニシテチふす桿菌ニアラザリシトキハ食鹽水ニ浮遊セシメタルモノト同シテ致テ塊團ヲ形ルコトナク活潑ニ運動ス此法ハ單ニ診定指針ニ過ギザルヲ以テ必ズ其可檢落ノ殘部ヲ以テ凝集斜面培養ナシ更ニ其免疫血清ノ凝集價近ク迄反應スルヲ否ヤチ精査(肉眼的)シテ決定セザルベカラズ

- 1) Charrin u. Roger, siehe Handb. von Kolle-Wassermann, 1. Aufl. Bd. 2. P. 653.
- 2) Widal, Compt. rend. soc. Biol. 1897.
- 3) Pfandler, Centralbl. f. Bact. Bd. 23. 1898.
- 4) Kraus u. Löw, wien. klin. Wochenschr. 1899.
- 5) Mandelbaum, münch. med. Wochenschr. Bd. 57. 1910.
- 6) Tschernorutsky, Wratsch 1911. P. 2065.
- 7) Szeiko, ebenda. 1911.
- 8) Ast, münch. med. Wochenschr. Bd. 57. 1910.
- 9) Kessler, ebenda. Bd. 57. 1910.
- 10) Gaibgen u. Kamm, ebenda. Bd. 57. 1910.
- 11) Denmark, Centralbl. f. Bact. Bd. 58. 1911.
- 12) Bordet u. Gay, Ann. Past. 1906.
- 13) Stern, Centralbl. f. Bact. Bd. 50. 1909.
- 14) Bail, ebenda. Bd. 51. 1909.
- 15) Spät, ebenda. Bd. 54. 1910.
- 16) Barikine, ebenda. Bd. 56. 1910.
- 17) 藤原, 日本微生物學會雜誌 第八卷 第四百九十三頁.
- 18) Kraus, wien. klin. Wochenschr. 1897.

菌芽(ちふす桿菌 普通大腸桿菌 變形桿菌等)ハ同種免疫血清中ニアリテハ肉汁中ニ於ケルニ反シ特殊ノ發育即チ絲狀發育ヲナシ(Charrin u. Roger¹⁾, Widal²⁾, Pfandler³⁾, Kraus u. Löw⁴⁾, Mandelbaum⁵⁾ u. a.) ヲ以テ之ヲ診斷ノ目的ニ供用セムトセル者(Widal, Mandelbaum, フリット⁶⁾ 實際上ノ價値少ナシ(Kraus u. Löw) 但シ此所謂「ちふす」桿菌ノ絲狀反應(Frundersche Fadenreaktion) ちふす 桿菌⁷⁾ ノ改良法ニヨリ應用ノ價値大ナリトシテ大ニ謳歌セル者(Tschernorutsky⁸⁾, Szeiko⁹⁾, Ast¹⁰⁾, Kessler¹¹⁾ 等雖¹²⁾ 他ノ學者(Gaibgen u. Kamm¹⁰⁾, Denmark¹¹⁾ 凝集反應ニ比シテ所ナキヲ謂フ¹³⁾ 然レバ「ちふす」桿菌ノ所説ニヨル絲狀反應ニヨリ凝集素ノ主副ヲ區別シ得¹⁴⁾ 一ヶ年前ニちふすニ病メル者ノ血清ハ新ニ發病セルモノノ血清ト比シ異ナレル反應ヲ呈シ加之ちふす保菌者ヲ診定スルニ利アリト云フ勿論更ニ覆蓋硝子重ネザレバ其所論ノ眞否ヲ判ズルコト能ハザルモノナリト知ルベシ

ちふす免疫血清ニテ感應セシメタルちふす桿菌ハ非動物性血清補體トノ注加ニヨリテ所謂「ちふす」桿菌ノ凝集反應(Konglutination) ヲ惹起ス(Bordet u. Gaj¹⁵⁾, Szeiko¹⁶⁾ されんぐハ之ヲ臨牀上ニ應用セバ好ナル成績ヲ擧ゲむ¹⁷⁾ たる反應ヨリモ却テ好良ニシテ早期診斷ノ目的ニ適應シ且ツ豫後ト知ニ資シ得ルヲ云フ¹⁸⁾ (二例ノ患者ト二例ノ健康人トニ就キ實驗セリ) 但シ覆蓋硝子シキテ遺憾トス

凝集素ト膠著素 Konglutina トハ同種異名ニ過ギズト叙セル者(B. ¹⁹⁾, Spät²⁰⁾ 然レバ「ちふす」桿菌ノ凝集素ト膠著素トハ異ナルモノナリチこれら孤菌ニ作用セシムルトキハ凝集反應現ハルルモ膠著現象ノ現ハルルコトナキヲ以テ凝集素ト膠著素トハ異ナルモノナリチ叙シとれんぐモ濾膜分析法ニヨリ兩者ノ異ナレハ判明ヘリ 近時藤原¹⁷⁾ ハ膠著反應ヲ精査シ膠著素センじびりざと²¹⁾ 及補體ノ三者ノ性状及抵抗力等ヲ遺體ナク追究シテ其凝集反應ト異ナレルヲ明カニセリ

ちふす培養濾液ニ同質免疫血清ヲ加ヘバ沈降反應 Präzipitation ヲ發ス(Kraus¹⁸⁾) ルハ疑フベカラザル事實ニシテ「ちふす」桿菌ノ精査スル所アリシガ臨牀上ニ診斷ノ目的ニ應用スルニ

19). Uhlenhuth, Festschr. f. R. Koch. Jena. 1904. 20). Fornet, münch. med. Wochenschr. 1906. 21). Gaehgens, Zeitschr. f. Imm. Bd. 4. 1910. 22). Schottmüller u. Much, münch. med. Wochenschr. Bd. 55, 1908. 23). Krenker, deutsches Arch. f. klin. Med. Bd. 97, 19. 24). Rossi, Festschr. f. Maragliano; Gaz. degli ospedali 1907. 25). M'hit, Arch. de med. expér. T. 20, 1908. 26). Hektoen, Centralbl. f. Bact. Bd. 44, 1907. 27). Vignano, münch. med. Wochenschr. Bd. 57, 1910. 28). Ascoli, ebenda. Bd. 57, 1910. 29). Ascoli u. Isar, ebenda. Bd. 57, 1910.

便ナラズ蓋シ腸ちふす患者及恢復者ノ血中ニ存スル沈降素量ハ比較的少ナク且ツ凝集素ニ比シ沈降素ノ發現期遅シ 其他患者ノ血中ニ存在スル沈降原ヲ證明シテ診斷ノ補助トナサムト企圖セル者 (Fornet²⁰) アリ即チ免疫血清ト患者血清トヲ混シ久シク静置スルカ又ハ遠心器ニ裝フトキハ特殊ノ沈降物ヲ形成ス而シテ沈降原ハ凝集素及沈降素ヨリモ早ク血中ニ出現スルモノナリ若シ此法ヲ行ハムトセバ直徑〇五センチちめーてるノ試験管ヲ用ヒ患者ノ血清上ニ免疫血清ヲ疊積シ輪狀反應ノ現ハルヤ否ヤヲ檢スルヲ以テ最モ有利ナリトスト云フ 後チゲーとげんす Gaehgens²¹ ハ患者ノ血液ヲ檢シ一方ニハ凝集原及沈降原 他方ニハ凝集素及沈降素ノ存在スルヲ確證セリ 健康殊ニ免疫血清ハ細菌ニ作用シ白血球ノ喰盡作用ヲ旺盛ナラシムル作用アリ是レ調理素若クハ食菌素ヲ含有スルガ爲メナルハ人ノ熟知スル所ナリ 調理素系數ヲ算定シ診斷ノ補助ニ供セムトセル者ナキニシモアラザルモ技術煩ナルノミナラズ特ニ其價值ノ大ナルモノアルヲ見ルコト能ハズ從テ臨牀家ノ汎用スルニ至ラザルモ自然ノ數ナリト謂フベシ ちふす患者ノ血清ノ喰菌系數ハ疾病ニ對スル免疫性ノ度ト相併行シちふす再發ノ前ニハ恰モ凝集素ニ於ケルガ如ク調理素系數特ニ抄ナキヲ見ル 其他調理素系數ヲ檢査スルトキハちふす又ハばらちふすヲ識別シ或ハ分離セル病芽ヲ區別スルコトヲ得ト云フ ちふすノ調理素ニ關スル研究多カラズ唯四五ノ學者 (Schönmüller u. Much²², Krenker²³, Rossi²⁴, Milhitz²⁵, Hektoen²⁶) ニヨリテ實驗セラレタルノミナリ ちふす患者ノ血清ニシテハ唯だちふす越幾斯ノミナリ (Vignano²⁷) 二三ノ學者 (M. Ascoli²⁸, Ascoli u. Isar²⁹, u. a.) 之ヲ診斷ニ應用セムト努メタルモ的確ニシテ且ツ他ニ優レル法ナリト云フヲ得ズ

1). Bordet u. Gengou, Ann. Past. T. 15, 1901. 2). Vidal u. le Sourd, Compt. rend. soc. Biol. 1901; le Sourd, zit. bei Sachs u. Altmann, in Handb. von Kollé-Wassermann. 1. Aufl. Ergänzungsband. 2. P. 519. 3). Moreschi, berl. klin. Wochenschr. 1906 u. 1907. 4). Wassermann, Zeitschr. f. Infektionskr. d. Haustiere. Bd. 1, 1906. 5). Sachs u. Altmann, Handb. von Kollé-Wassermann. 1. Aufl. Ergänzungsband. 2. 6). Fürst, münch. med. Wochenschr. 1916. 7). Chantemesse, Acad. de méd. Paris. 1907. 8). Beckers, münch. med. Wochenschr. 1909. P. 1417. 9). Floyd u. Barker, Journ. med. res. Vol. 20, 1909. 10). Kraus, Lusenberger u. Russ, wien. klin. Wochenschr. 1907. 11). Orszag, deutsche med. Wochenschr. 1908. 12). Goodall, Proc. roy. soc. of med. 1909. 13). Wolf-Eisner, die Ophtho- u. Kutandiagnose der Tuberkulose. Würzburg 1908.

補體結合試驗モ亦ちふすニ試ミラレタリ (Bordet u. Gengou¹) 患者及免疫動物ノ血中ニ補體結合性抗體存在ス (Bordet u. Gengou, Vidal u. le Sourd²) ハ事實ニシテばるで一等ノ所説ノ眞ナルハ他ノ學者 (Moreschi³) ニヨリテ立證セラレタル所ナルモ該檢査法ノ汎ク世ニ紹介セラレタルハわっせるせん Wassermann⁴ ノ功ニ歸スベシ實ニ補體結合反應ハ特殊性ニシテちふす患者ノ診斷及ちふす病芽ノ鑑別ニ應用スルコトヲ得ルモノナリトス (Sachs u. Altmann⁵, Fürst⁶) ちふす桿菌製劑患者ノ結膜囊内ニ點セバ特异性結膜炎ヲ發スルモノニシテ七十人ノちふす患者ハ皆陽性ナリシモ五十人ノちふすニ罹ラザリシモノハ常ニ陰性ナリシヲ實驗セル者 (Chantemesse⁷) 此眼反應 (Ophthalmoreaktion) ノ價值ハ唯へけるす Beckers⁸ ガ承認セルノミナリふらいび及ばるける Floyd u. Barker⁹ ハ自家融解ニヨリテちふす桿菌ヨリ得タル製劑ヲ應用セシニ三十九名ノちふす患者中三十七名ハ之ニ反應シ二十四名ノ他ノ疾病ニ罹レル者ハ僅ニ四人陽性反應ヲ示セルノミナリキヤんちめつすノ原製劑ハ反之其成績好良ナラズト被セリ但シ他ノ學者 (Kraus, Lusenberger u. Russ¹⁰, Orszag¹¹, Goodall¹²) ハ之ヲ絶對的ニ拒ケテ曰ク 貴ニちふす患者ニ陰性ノ場合アルノミナラズ健康者ニアリテモ往々陽性反應ヲ呈スルコトアリト しゃんちめつすノ點眼劑ノ製法ハ次ノ如ク即ちちふす桿菌培養液ヲ貯蔵内ニ納ムルコト十八乃至三十時間ノ後チ生理的食鹽水ニテ乳劑ヲ製シ六十度ノ温熱ヲ三十分乃至一時間加ヘ次ギテ遠心器ニ裝ヒ其沈渣ヲ採リ之ヲ硫酸乾燥器内ニテ乾燥セシム而シテ其乾燥器ヲ瑪瑙乳鉢ニテ磨碎シ(食鹽少許ヲ加ヘバ磨碎比較的容易ナリ) 漸次水ヲ注加シ菌體内ノ毒素ヲ溶出セシメ之ヲ六十度ニ二時間熱シ次日ヨリ三日間六十度ニ一時間宛加熱シ遠心器ニ裝ヒ其上清ニ十倍量ノ無水あるこぼるヲ加ヘ毒素ヲ沈降セシメ其沈渣ヲ乾燥器内ニテ乾燥セシメ次ギテ磨碎シテ粉末トナシ一%ノ液ヲ作ル而シテ其一滴ニハ〇五ミリぐらむノ粉末ヲ含有ス ちふす桿菌製劑ちふす患者ノ皮中ニ注射スルトキハ他ノ患者ニ於ケルヨリモ異ナル反應ヲ呈スルコトナキヲ試ミムト欲シ ちふす桿菌製劑液チニ應用セルモ陰性成績ヲ得タリ (Wolf-Eisner¹³) リんく Link¹⁴ ハ陳舊ちふす肉汁培養ノ殺害セルモノヲ用ヒ好果ヲ得タリ即チ約半年前ちふすニ罹リシ三人中二人強反應ヲ呈シ 往時ちふすニ罹リシ疑ヒアルノミナラズ其血清ハ今猶百倍稀釋 ちふす桿菌ニ因スル疾病(免疫性)調理素系數補體結合試驗

- 14). Link, münch. med. Wochenschr. 1903. 15). Deehan, Univ. of Pennsylv. med. Bull. Vol. 22. 1909. 16). Floyd u. Barker, Amer. Journ. of the med. scienc. Vol. 138. 1909. 17). Chauffard u. T. oisier, Compt. rend. soc. Biol. T. 66. 1909. 18). Bergmark, Upsala Läkareförenings Förhdl. Bd. 13. 1910. 19). Keek, deutsche med. Wochenschr. 1918. 20). Paireu u. Fixier, Compt. rend. soc. Biol. T. 66. 1909. 21). Ascoli, ebenda. T. 65. 1908. 22). Yamanouchi, wien. klin. Wochenschr. 1908. 23). Delanos, Compt. rend. soc. Biol. 1909. 24). Livierato, Centralbl. f. Bact. Bd. 53. 1910. 25). Besredka, Ann. Past. 1902. 26). Mac Fadyen u. Rowland, Centralbl. f. Bact. Orig. Bd. 35. 27). Pfeiffer u. Besseau, ebenda. Bd. 56. u. 64.

ニナカドる反應陽性ナル者ノ一人ハ強ク發赤シ且ツ局部腫脹シ 他ノ確實ナルちふす症ニ病ム者一人及他ノちふす症ニ罹リシコト ナカシ者ハ無反應ニシテ唯僅ニ刺激症狀アリシノミナリキ Chamberlain (1909) ハ毒性ちふす桿菌培養ヨリ無菌性ノ振盪器菌ヲ 十二名ノちふす患者ニ試ミシニ弱乃至強反應ヲ呈セリ但シ八例ノ對照ハ無反應ナリキ而シテ該反應検査法ハ簡單ニシテ且ツ危險絶 無ナリト叙セリ 於茲他ノ學者 (Floyd u. Barker), (Chauffard u. Troisier), (Bergmark) 約二百例ノちふす患者ニ此法ヲ試ミシ ガ皆其特異反應ナルヲ疑ヘリ 近時 Keek (1918) ハちふす加熱ダクチン(菌數四百萬)ヲ皮下ニ注射シ以テ皮膚浸潤反應ヲ檢セシ ニ對照ノ健康者及結核患者計三十七名中十四名陽性(内七名強反應)疑ハシキ反應ヲ呈セル者十三名アリキ又チちふす患者四十五名中 解熱時ノ者三十六名陽性ニシテ死亡セル重症ノ八例ハ皆陰性反應ナリキ其他中等度及輕症ノ患者中陰性ナリシモノハ解熱後陽性ト ナレリ故ニ診斷ノ目的ヨリモ豫後ト知ニ資スルニ足ルモノナリト云ハリ Reissner (1910) ハちふす Reissner u. Reissner ハつべるクリ ン皮中注射チ行ヒシニちふす患者ハ陽性反應ヲ呈セルモ恢復者ハ陰性ナリシヲ實驗シ且ツ現ニちふすニ病メルモノニちふす桿菌製 劑ヲ用ルモ陰性率多シ蓋シ抗體形成不充分ナル結果ナルベシト論セリ

鼓上眼球及皮膚反應ガ眞ニちふす性造抗原及抗體ニヨリテ現ハルルモノナリトセバ寧ろ抗體即チ 免疫血清ヲ接種スルコソ策ノ得タルモノナラメ蓋シちふすノ初期ニ於テハ血中ニ存スル造抗原量ハ 抗體量ヨリモ常ニ多キヲ以テナリ

あすこりー M. Ascoli (1909) ハ結核ニ對スル山内法(1905)ニ倣ヒ過敏性ヲ他働的ニ移注シ以テちふす診斷ノ 補助トナナムトセリ雖然其成績良好ナラズ (Dalanos), (Livierato) ちふす症ニ於ケル頭痛 昏睡 發熱及血行障礙等ハ皆ちふす病芽ノ毒性物質ニ因スル中毒症狀ノ 一ナルハ何人モ疑ハザル所ナリ故ニ一ノ學者 (Besredka), (Mac Fadyen) ハ抗毒作用ヲ有スル血清 ヲ得ムト企圖シ其目的ヲ達セルヲ唱道セリ 但シ Reissner 及 Pfeiffer u. Bessau (1910) ガ精査セ ル所ニヨレバ此等所謂抗毒血清ナルモノハ抗毒作用ヲ有セズシテ假令其大量ヲ應用スルモ亦タ完

- 1). Kraus u. Stenitzer, Zeitschr. f. Imm. Bd. 3. 1909. 2). Friedberg u. Vallard, ebenda. Bd. 7. 1910. 3). Fernet u. Heubner, Arch. f. experim. Pathol. u. Pharmakol. Bd. 65. 1911. 4). Wassermann, berl. klin. Wochenschr. 1898. 5). Deutch, Ann. Past. 1901. 6). Heim, münch. med. Wochenschr. Bd. 55. 1908. 7). Köhler, klin. Jahrb. Bd. 8. 1901. 8). Pfeiffer u. Kolle, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 21. 1896.

全ナル解毒作用ヲ營ムコト能ハズト非難セリ 然リ吾人ハ方今猶ホ所謂菌體内毒素ナルモノニ對ス ル抗毒素ヲ得ルコト能ハズ又ちふす桿菌ニ眞性ノ毒素ナルモノノ存在ヲ認ムルコト能ハズ故ニ所謂 ちふす抗毒性血清ナルモノノ虚説ナルハ茲ニ特ニ説明スルノ要ナルベシ ちふす桿菌ヨリ試験ヲ 發病乃至致死セシムル毒性物質ヲ得タル者 (Kraus u. Stenitzer) アルモ特異作用ヲ有スルモノニア ラズ何トナレバよりいどべるける Friedberg (1910) ノ所謂過敏毒素若クハ Reissner 及 Reissner ノ Hornet u. Heubner (1911) ノ所謂せふしん Sepsin ト同ジク各種ノ菌芽殊ニ非病原性菌ヨリモ製シ得ル毒性物質ナ ルヲ以テナリ試験ハ爲メニ或ハ直チニ飛揚性痙攣シ Reissner 及 Reissner ノ呼吸及肺膨脹ノ下ニ斃レ或ハ下 痢後脚麻痺 血管ノ充實バ Reissner 及 Reissner ノ腫脹及ビ腸壁ニ於ケル出血ヲ發シテ遅ク死ス此等ハ恐ク Reissner 及 Reissner ノ Schuster ガ腐魚ヨリ得タル腐敗毒 (毒素ヲ含ミ且ツ類結晶性 性状ヲ有ス) ノ注射ニヨリテ 實驗セル毛細管中毒 Kapillarvergiftung ノ現象ナルベシ

於是吾人ハちふす桿菌ニアリテハ管ニ眞正毒素ノミナラズ抗毒素產生ヲモ認識シ得ザルモノナリ ト斷言シテ憚ラザルモノナリ ちふす桿菌ヲ動物體内ニ注射スルトキハ抗體產生セラルヲ目撃ス 而シテ其産生地ハ Reissner 及 Reissner ノ Wassermann (1909) ノ説ニヨレバ 脾 骨髓及 淋巴腺ナリ Reissner (1910) ハちふす桿 菌ニヨリテ破壊セル赤血球及他ノ臟器細胞ノ破砕物ハ病芽ニ 對シ有害ニシテ之ヲ不動性トナシ且ツ膨脹セ シムルノミナラズ遂ニハ消失セシムト云ヘリ 而シテ其抗體ノ免疫動物又ハ自然感染ノ人體内ニ存在スルノ時 期ハ比較的短ク (Pfeiffer u. Kolle, Widal, Franke, Köhler, u. a.) 小兒ニアリテハ發病後平均約三 ケ月間 (Köhler) 大人ニアリテハ此ヨリモ稍々後ニ凝集素及ビ殺菌素消失シ (Pfeiffer u. Kolle) ちふ す感染後一ケ年以上其血中ニ此等物質ノ存在スルハ破格ノ例ニ屬ス 但シ唯ダ一回罹患セルノミニ

- 1). *Dungern*, die Antikörper. Jena 1902; Centralbl. f. Bact. Bd. 34. 1903.
- 2). *Cole*, Zeitchr. f. Hyg. Bd. 46. 1904.
- 3). *Shiga*, berl. klin. Wochenschr. 1904.
- 4). *Curchmann*, Nothnagels spec. Pathol. u. Therapie.
- 5). *Lebe-meister*, die deutsche klinik am Eingange des 20 Jahrh.

テ其後天免疫性ハ年餘又ハ終生存在スルヲ見ル故ニゆゑにこゝムハ説ヲナシテ曰ク 菌芽ノ影響ヲ受ケタル者ノ白血球ハ新ニ侵入セル菌芽ヲ直チニ捕獲シ且ツ之ヲ滅亡セシムル性質ヲ獲得シ久シク又ハ終生保持スルモノナルベシト 雖然免疫性ト白血球トノ間ニハ密接ナル關係ナク免疫體ハ其血清中ニ存スルノミナラズ一回免疫處置ヲナシ爲メニ發生スル抗體消失セル後更ニ同種抗原ヲ注射スルトキハ僅少ノ潜伏期ノ下ニ多量ノ抗體發生ス (*Dungern*, *Cole*) ルノミナラズ對照獸ニアリテハ抗體產生ヲ促スニ足ラザル微量ノ造抗原ニモ反應シ忽チニシテ極度ノ抗體新生スルヲ見ル 是レハ *Wassermann* ガちふす凝集素ニ就キ實驗セル所ナリ (寄生性病原論第四卷 其他こゝれ 志賀⁶⁾等モ同様に實驗成績ヲ得タリ)

致上ノ如ク一たび腸ちふすヲ經過スルトキハ再感スルコト極メテ少ナシ 千八百八十八例中再感者五十四例(二四%)アルノミナリ (*Chittenden*) 而シテ再感ノ場合ニハ輕ク經過スルヲ常トス (*Lebe-meister*) 是レ後天免疫性ヲ享有セル結果ナリ 借問ス免疫ノ本態如何 曰ク二アリ一ハ血液中ニ現ハルル免疫體ニシテ他ハ組織細胞ノ抗菌作用亢進ナリ 腸ちふす恢復者ノ血清ニちふす病芽ヲ加ヘ動物ニ注射スルモ試獸ハ爲メニ能ク死ヲ免ル蓋シ其血清中ニ免疫體存在シ病芽ヲ滅殺スルニヨル又細胞ガ一旦細菌ニ對シ抗抵スル作用ヲ獲得セバ其慣性久ク殘留シ他日病芽ノ再襲ニ遇フコトアレバ直チニ其習練セル抗菌作用ヲ發揮スルニ至ル腸ちふすニアリテハ細胞ノ抗菌作用ハ腸粘膜ニ發生シ病芽ノ侵襲ニ抗ス而シテ此細胞ノ抗菌作用ノ持續期ハ久キニ互ルモノナリ是レ血中ニ於ケル免疫體ハ比較的速ニ消失スルモ細胞ノ抗菌作用亢進ノ存スルアリテ後天免疫性久シク持續スル所以ナリ

母體ニ於ケルちふす免疫性ハ胎兒ニ移行スルヤ否ヤニ關シテハ猶ホ明瞭ヲ缺ケル點多ク現今ニ至

- 1). *Zängerle*, münch. med. Wochenschr. 1900.
- 2). *Jehle*, wien. klin. Wochenschr. 1902.
- 3). *Grichtens*, zit. bei *Landouzy* u. *Griffon*, Compt. rend. soc. Biol. 1897.
- 4). *Herlich*, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 12. 1902.
- 5). *Landouzy* u. *Griffon*, Compt. rend. soc. Biol. 1897.
- 6). *Jurew tsch*, Centralbl. f. Bact. Bd. 33. 1903.

ル迄證明セラレタルハ其免疫體殊ニ凝集素ノ遺傳ニ過ギズ 免疫性ト凝集素トハ何等ノ關係ナキモノナルハ既ニ寄生性病原論第四卷又ハ免疫學ニ敍セリ

分娩前又ハ分娩中ニちふすニ罹レル母ノ産ミシ兒ノ血中ニハちふす凝集素存在スルヤ否ヤノ疑問ヲ解決スル爲メニ實驗セル者ノ成績ハ一致セズ ちふすノ第三週ニ分娩シ二日ヲ經シ母子ノ血液ヲ檢シむだゝる反應陽性ナリシ例 (*Zängerle*)¹⁾ アリ ちふすニ罹レル者 假令妊娠ノ後中期ニちふすニ罹リ母血ノ胎兒ノ血中ニハ凝集素全ク存在セザリシカ或ハ痕跡ニ存在セシ例 (*Jehle*, *Gaehgens*)²⁾ アリ 其他ちふすノ第二週ニ分娩セル母ノ血液ハ分娩後六日ヲ經シトキ四十倍稀釋ニテちふす桿菌ヲ凝集セシメシモ同日其嬰兒ノ血清ハ十倍稀釋度ニテモ作用セザリシ例 (*Maher*)³⁾ アリ 又反之三十倍稀釋ニちふす桿菌ヲ凝集セシムル作用ヲ有スル母乳ヲ哺乳スル間ちふすニ罹リシコトナカリシ嬰兒ノ血清ガ四十倍稀釋ニテ陽性反應ヲ呈シ廢乳一週半ニテ陰性トナレル例アリ 是レ管テ之レハ *Herlich*⁴⁾ ガあふりん りちん及ろびんニテ免疫セル牝鼠ノ乳ヲ哺乳セシモノノ血中ニ凝集素移行スルヲ實驗セル所ト符節ヲ合スルモノナリ又分娩ニ先ツコト三ヶ月ちふすニ罹リシ者ノ乳ヲ哺乳セシ嬰兒ノ血清ハ其母ノ血清ニ於ケルト同ジクむだゝる反應陽性ナリシ例 (*Landouzy* u. *Griffon*)⁵⁾ アリ

此等遺傳ノ關係ヲ實驗的ニ精査セルハむだゝる及じ⁶⁾ *Widal* u. *Sierad* ヲ以テ嚆矢トナス 即チ孕兔ニちふす桿菌ヲ接種セシニ其胎兒ノ血清ハ生後六日ニシテ凝集反應ヲ示セリ但シ母體血液ニ比シ其凝集度微弱ナリキ *Widal* u. *Sierad* ノ三十一頭ノ孕兔ニ初メ死菌後ニ生菌ヲ注射シ高度ノ凝集價ヲ賦與セシメシ者ノ三腹ノ仔ノ血清ハ毫モ凝集反應ヲ呈セザリキ但シ其母體血清ハ六百四十倍乃至千倍稀釋度ニテ陽性反應ヲ呈セリ又他ノ二十五腹ノ仔ノ血清ハ母體血清ノ三分ノ一乃

- 1). Säubli, Centralbl. f. Bact. Bd. 33. 1903.
- 2). Kehlenger, Ann. Past. T. 13. 1899.
- 3). Vidal u. S'card, Sem. méd. 1897.

至三十分ノ一ノ凝集力ヲ有セシガ其凝集力ノ強弱ハ母兔ノ免疫性ノ強弱及妊娠期ノ如何トハ何等ノ關係ヲ有セザリキ殘ノ四例ニアリテハ母仔ノ血清共ニちふす凝集素ヲ有セザリキ其他ゆれぬ^{ちふす}ノ實驗ニヨレバ妊娠ノ末期ニ高價ノちふす免疫血清ヲ母獸ニ注射スルトキハ母仔ノ血中ニハ常ニ凝集素ノ存在ヲ證明ス故ニちふす凝集素ハ胎盤ヲ通過シ得ルモノナリ而シテ母獸ノ免疫性ハ其自動的ナルト他働的ナルトヲ問ハズ分娩後神速ニ其凝集素ヲ失フモノナリトス 又妊娠ノ久シキ前ニ免疫操作ヲ行ヘル海豚ノ母仔ノ血清ハ母ノ血清ヨリモ二乃至五倍ちふす凝集價大ナリ是レ蓋シ母仔體內ニ於テ凝集素ガ自動的ニ新生セラルル結果ナルベシト説明セリ但シ哺乳ニヨリ母仔血中ニ移行セル凝集素ニアラザルヤノ疑ヒナキニシモアラズ ^{すといふり} Säubli^{ハゆれぬ}ハ無關係ニ同様ノ實驗ヲナシ略同様ノ成績ヲ得タリ即チ受胎前ニちふす桿菌ヲ以テ免疫セル母獸ノ産ミシ仔ノ血清ノ凝集力ハ母ノ血清ニ於ケルト略相均シキモ妊娠中ニ免疫處置ヲナセル場合ニハ胎兒ノ血清ノ凝集力ハ非常ニ小ナリ又他働的ニ免疫セル母獸ノ凝集素ノ一部ハ仔血ニ現ハル其他すといふりハちふすニ對シ自動免疫ヲナセル動物ノ乳ハ往々血清ヨリモ高度ノ凝集價ヲ有ス勿論血清中ニ於ケル凝集素ガ乳腺内ニ於テ濃縮セル結果ナリヤ又ハ乳腺中ニ於テ凝集素產生セラレタル結果ナリヤ詳ナラザルモ腺細胞ノ破潰スル事實ト他働的ニ免疫セルモノノ乳汁中ニ於ケル凝集素量ハ血中ニ於ケルヨリモ遙ニ少ナキ事實トニ徴セバ或ハ乳腺中ニ於テ新生セルモノナラム 非免疫海豚ノ産ミシ仔ニちふす免疫海豚ノ乳ヲ與フルトキハ其ちふす凝集素ハ仔體ニ移行スルヤ否ヤヲ檢セル者 (Säubli, Reisinger³, Vidal u. S'card) アルモ陰性成績ヲ得タリ 由來海豚仔ハ出産第一日ニ既ニ餌ヲ食シ他獸ノ如ク多ク且久シク母乳ヲ哺セズ從テ此ノ如キ陰性成績ヲ得タルニアラザルヤヲ想ハシム

- 1). Lüdke, Arch. f. klin. Med. Bd. 81. 1904.
- 2). Müller, Diss. Bern. 1901.
- 3). Gabert, Diss. Giessen 1904.
- 4). Löwit, Centralbl. f. Bact. Bd. 34. 1903.
- 5). Hahn u. Trommsdorff, münch. med. Wochenschr. 1900.
- 6). Rissling, Centralbl. f. Bact. Bd. 44. 1907.
- 7). 市川, 日本微生物學會雜誌 第四卷.
- 8). 天兒, 同上.
- 9). 吉村, 同上 第一卷.
- 10). Castellani, Centralbl. f. Bact. Bd. 52. 1909.
- 11). Besredka, Sem. med. T. 12. 1912.
- 12). Wright u. Leishmann, Brit. med. Journ. 1900; Wright, Lancet 1896.

彼上ノ實驗例ニ徴セバちふすニ對シ免疫性ヲ有スル母ノ凝集素ハ或ハ胎盤ヲ經テ或ハ乳ニヨリテ兒ニ移行スルモノナルヲ窺知スルニ足ルモノアリト雖モ池方ニハ積ノ血清ハちふす桿菌ヲ凝集セシメザルモ生長セル牛ノ血清ハ多クハ比較的強ク凝集セシム (Lüdke¹, Müller², Graber³, Lewis⁴, Hahn u. Trommsdorff⁵, Rissling⁶) 事實アルヲ以テ見レバ牛ノ凝集素ハ乳ニヨリ移行セルモノアラズシテ所謂健常凝集素トシテ自然ニ ^{偶然透入セルちふす} 發生セルモノナルヲ意味ス 免疫用又ハ豫防用或ハ治療用トシテ吾人ハちふす接種苗ヲ必要トス但シ此等接種苗ニ關シテハ既ニ寄生物性理論第四卷又ハ免疫學ニ敍セルヲ以テ茲ニハ唯ダ市川⁷天兒⁸及吉村⁹ノ敍事ヲ基礎トシ豫防及治療上參考ニ資スベキモノノミヲ略敍セムトス

ちふす豫防注射ニ應用スル接種苗トシテハ或ハ生菌ヲ用ヒ或ハ死菌ヲ用ヒ或ハ融解菌液ヲ供用セリ今其製法ノ一斑ヲ例示セム

- (一)ちふす桿菌 Chalkin¹⁰ノ四十九度乃至五十度ノ溫熱ヲちふす桿菌ニ加ヘ其毒性ヲ減弱セシメタルモノナリトシテ法ニヨリテ加熱殺菌セルモノヲ注射セル後ニ應用セリ(ちふす桿菌乳劑ニA及B型ばらちふす桿菌ヲ混和シテ用ヒタリ)
- (二)すれ¹¹ Besselt¹²ノ二十四時間培養セルちふす桿菌ヲ可及的少量ノ食鹽水ニ浮遊セシメ之ニ過量ノちふす免疫血清ヲ加ヘ室温ニ十二時間放置シタル後遠心器ニ裝ヒ其沈渣ヲ食鹽水ニテ洗ヒ而シテ後チ之ヲ皮下又ハ筋肉内ニ注射セリ
- (三)ニコル¹³ のろ¹⁴及ニコル¹⁵ Nicolle, Knorr u. Conroy¹⁶ノ二十四時間培養上ニ培養セルちふす桿菌ヲ食鹽水ニ浮遊セシメ微ニ濁濁スル迄稀釋セルモノヲチふすとん含有セザル凝集上ニ移植シ十六乃至二十時間三十五度ニテ發育セシメタル菌芽ヲ食鹽水ニ浮遊セシメ遠心器ニ裝ヒ又其沈渣ヲ食鹽水ニテ洗ヒ以テ各菌體ヲ分離セシメ之ヲ靜脈内ニ注射セリ サレバ菌芽ハ僅ニ二十五分間ニシテ血中ヨリ消失シ致テ危險ヲ胎スコトナシト云フ
- (四)さい¹⁷及さい¹⁸ Wright u. Leishmann¹⁹ノ初メニ乃至三週間肉汁ニ培養セルモノヲ三十分間六十度ニ熱シ殺菌シテ石灰

酸チ〇五%ノ比ニテ添加シタルモノヲ應用セルモ近時新鮮(四十八時間)肉汁培養ヲ五十二乃至五十三度ニ加熱シ以テ殺菌シ之チ皮下注射セリ(初回ニハ〇五立方センチメートル即チ五個ノ菌芽ヲ注射シ一乃至二週間ヲ經テ其倍量ヲ接種セバ約三週間ヲ經テ免疫體現ハシ六ヶ年ノ後ニモ痕跡ノ免疫體殘存ス而シテ防疫力ハ三ヶ年持續ス)

(五) ばいふスル及こるレ Pfeifer u. Kolan) 凝菜培養(二十四時間)ヲ生理的食鹽水ニ浮遊セシメ(菌量一白金耳ニ對シ食鹽水一立方センチメートルノ割合)五十六度(二時間)乃至六十度(一時間)ニ加熱シ殺菌シ更ニ石炭酸チ〇五%ノ比ニ加ヘ用ニ供セリ

(六) シャんとめつ Chandenese) 二十四時間凝菜上ニ培養セル菌ニ初メ高熱ヲ加ヘタルモ近時五十六度ノ熱ヲ加ヘ殺菌セルモノヲ用フ

- 1). Pfeiffer u. Kollé, deutsche med. Wochenschr. 1896.
- 2). Bassenge u. Rimpau, Festschr. von R. Koch, Jena 1903.
- 3). Löffler, deutsche med. Wochenschr. 1904.
- 4). Fornet, 15. intern. Congr. f. Hyg. u. Dem. Washington 1912.
- 5). Levy, deutsche med. Wochenschr. 1907.

(七) ちつせる Laser) 二十時間培養セルちふす桿菌ヲ五十六度ニテ殺菌シ接種トナセリ

(八) ばいふスル及こるレ Bassenge u. Rimpau) 凝菜培養ヲ六十度ニ加熱シ其極メテ少量(三十分ノ一十五分ノ一及五分ノ一白金耳又ハ五十分ノ一乃至二十分ノ一白金耳)ヲ十日毎ニ注射セリ

(九) れふれる Löffler) 二百二十乃至五百五十度ノ乾熱ヲ加ヘタルモノヲ應用シ其保管ニ便ナルヲ云ヘリ

(十) ふりーとへるける及もれしー Frickberger u. Moreschi) ねられる法ニヨリ二百二十度ノ乾熱ヲ加ヘタルモノヲ二千分ノ一乃至四千分ノ一白金耳靜脈内ニ應用セリ

(十一) ふるね Fornet) ちふす桿菌ヲ生理的食鹽水ニ浮遊シ之チ加ヘタルモノヲ養液トシ二十四時間培養セル後チ濾膜分析ヲナシ以テほとんど大部分ヲ除去シ而シテ後チ五十六度ノ濕熱ヲ五十五分間加ヘ所謂乏蛋白質ちふす接種苗 eiswasserer Impfling) ヲ製セリ又保管ノ目的ニ石炭酸チ〇五%ノ比ニテ加フ

(十二) れがーい ぶるーめんだーる及まるくすれる Levy, Blumenthal u. Marzetti) 凝菜上ニ培養セル菌ヲちふす桿菌ノ糖類液中ニ浮遊セシメ濾過ニヨリチ菌芽死滅セル後チ之ヲ真空内ニテ乾燥セシメ接種苗トナセリ

(十三) もーり及るのー Morris u. Renault) 凝菜上ニ培養セルちふす桿菌ヲ水銀英石燈ニテ殺菌シテ應用セリ

(十四) ちるるん及るしー Gourmont u. Rochaix) 五十三度ニテ殺菌セル陳腐培養チ液ヲ用セリ

(十五) がんさん Vincent) ちふす桿菌ニA及B型ばらちふすノ三菌種ヲ混合セル乳劑ニスレテチ加ヘ以テ殺菌シ後チ其スレテチ蒸發セシメ接種苗トナセリ

- 1). Vincent, Journ. of state med. Vol. 20. 1912.
- 2). Le Moignie u. Pinoy, Compt. rend. soc. Biol. T. 79. P. 701. et. 352. 1916.
- 3). Achard u. Fouz, ebenda. T. 79. P. 209.
- 4). Whitmore, Fennel u. Peterson, Journ. of Amer. med. Assoc. Vol. 70. P. 427. and 902. 1913.
- 5). 阿部, 田宮, 及久保, 軍醫會報 第二十二號 大正八年二月.
- 6). Rosenow u. Osterberg, Journ. of Amer. med. Assoc. July 1919.
- 7). Netzer u. Shiga, deutsche med. Wochenschr. 1903.

(十六) 了すれまー Benzke) ちふす桿菌ノ二十四時間凝菜培養チ免疫血清ニ浮遊セシメ三十七度ニ二十四時間放置シ以テ菌體ト免疫體ト結合セル後チ遠心器ニ裝ヒ其沈澱チ食鹽水ニテ懸チ洗滌シ次ギテ六十度ノ熱ヲ加ヘ殺菌シタルモノヲ用ヒタリ

(十七) 市川) 二十四時間凝菜上ニ培養セルちふす桿菌ニ快復期患者又ハ免疫血清ノ血清ヲ加ヘ振盪シ五六時間靜置(又ハ室温ニ二時間)ニ納メ以テ懸液セシメ之ヲ遠心器ニ裝ヒ其沈澱物チ滅菌蒸餾水ニテ二三回洗滌シ〇五%ノ石炭酸水ニテ乳劑トナシ用ヒタリ

(十八) るもめに及ぶの Le Moignie u. Pinoy) 接種苗ノ吸收チ遲延セシメ以テ 副反應チ減少セシメト企圖シ生理的食鹽水ニ代フルニ油類ヲ以テチ即チちふす桿菌ノりんニテ所謂りんがくちん(Lipocerin)ヲ製セリ(保存ノ目的ニ一%ノ比ニテ桿菌チ加フ)めしーる及ふまー Achard u. Fouz) 亦殆ド同時ニ阿列布油ヲ媒材トシテ用ヒ好真ナルヲ實驗セリ即チ培養液チ遠心器ニ裝ヒ其沈澱チ三十七度ノ濕所ニテ乾燥セシメ更ニ六十度ノ乾熱チ一時間加ヘ之チ粉末トナシ阿列布油チ添加セリ後ほとあー等(Whitmore, Fennel u. Peterson) 亦之チ試用セシニ局所及全身反應少ナク免疫ノ目的ニ充分ナル菌量チ一回ノ注射ニテ與ヘ得且ツ吸收及ニシテ免疫期間延長スルノ利アルノミナラズ混在スル一種ノ脂肪體ハ接種苗ノ毒性チ減却セシムル作用チ有シ且ツ菌ノ自家融解及滅菌チ防止シ得ルヲ云ヘリ又油類チ滅菌スルニハ十五分間十五ぼんぼんノ下ニ蒸氣滅菌チ行フカ重蒸餾上ニテ十時間九十度ニ加熱スルカ或ハ沃度加里チ加フルチ真シト論ジ之チ實用スルトキハ必ず皮下ニ注射スベキチ附加セリ阿部及田宮並ニ久保のちふす桿菌接種液トシテりんがくちんノ價値チ精査シ他ノ法ニ優ルチ論ジ且ツ凝集素及防疫力ノ出現多少(三乃至十日)遲延スルモ其効價大ナルヲ認セリ(等(Peterson u. Osterberg) 入りはがくちん製法チ簡易ニスル目的ニテ遠心器ニ裝ヒ得タル菌渣ニ微量ノ蒸餾水チ加ヘ加熱又ハくれぞーる添加ニヨリチ殺菌シ純實油(五乃至十%ノ無水ものりん)含有シ十五ぼんぼんノ蒸氣消毒チナシ次チ百五度ノ乾熱チ與ヘ滅菌且脱水セシム)チ添加シ之ニ小硝子球又ハ小鐵球チ入レ振盪シツツかるしーむ劑及排氣裝置ニテ脱水セシメ後チ所要ノ濃度ニ稀釋シテ用ニ供セリ

(十九) なしせる及志賀 Netzer u. Shiga) 一日間凝菜上ニ培養セルちふす桿菌チ食鹽水ニ浮遊セシメ一時間六十度ニ加熱シ更

ちふす預防注射液ノ用量ハ其製法ノ異ナルニ從ヒ一ナラズト雖モ一般ニ往時ハ大量ヲ用ヒシモ現今少量ヲ應用スルニ至レリ 例令バらいとハ海軍體重百ぐらむニ對スル致死量ヲ初回量トシばいふる及こるれハ一白金耳ノ菌量ヲ初回注射量トシテ第二及第三回注射時ニハ二白金耳及三白金耳ヲ用ヒタリ後ばいふる及こるれハ初回ニ三十分ノ一白金耳 第二回ニ十五分ノ一白金耳 第三回ニ五分ノ一白金耳ノ菌量ヲ用フレバ充分ナルヲ實驗的ニ證明セシ爲メ諸家モ漸次其量ヲ減シ ばいふる及こるれハ千九百五年ニハ初回十分ノ六白金耳 次回一・六白金耳 第三回二白金耳ヲ應用シ 其後更ニ少クす Sachsハ初回量ヲ六分ノ一白金耳トシ次回ニ其倍量ヲ用ヒのいふる及こる等ハ初回ニ五分ノ一白金耳ヲ用ヒ第二及三回共ニ其倍量ヲ應用セリ今其減量傾向ノ一斑ヲ表示セバ左ノ如シ

1). Kuhn, deutsche militärärztl. Zeitschr. 1907.

製法別	預防接種ニ用フルちふす桿菌數		
	第一回	第二回	第三回
らいと法	現今 五億	十億	
ばいふる法	發見當時 千九百五年 三十億	六十億	九十億
りむばう法	現今 一億	二億	六億
日本陸軍法 (ばいふる法ニ則ル)	往時 十八億	四十八億	六十億
	現今 十一億五千萬	四十五億	四十五億
市川法	現今 一億五千萬	三億	四億五千萬

注射回数多クレバ免疫度ハ勿論増強スクーン Kuhnノ統計セル所ニヨレバ預防接種セルニ拘ラズ

尙ホ感染セルモノハ一回注射ノ者ニ六三二% 二回注射ノ者ニ四八一% 三回注射ノ者ニ四六九% アリシト云フ

注射部位トシテハばいふる及こるれハ背部皮下ヲ撰ベルモ 皮下注射ニアリテハ其接種苗ノ種類ノ如何ニヨリテハ局所反應劇シク有痛性滲潤ヲ發スルノミナラズ淋巴腺腫脹シ且ツ全身症狀トシテ發熱(二十八度五分)頭痛 眩暈 關節痛等ヲ發ス又靜脈内注射ヲナセルトキハ寒戰高熱アリテ全身反應最モ劇烈ナリ但シ筋肉内ニ注射スルトキハ前兩者ノ得失相半バシ比較的満足ナル好果ヲ得ト云フ (Beretta, 市川) 勿論菱刈法及ふるね法ニヨレル接種苗ノ如キ無刺戟性ノモノハ之ヲ皮下ニ注入スルモ敢テ不可ナルヲ見ザルモノナリトス

接種苗ノ大量ヲ注射スルトキハ往々劇烈ナル副反應ヲ惹起スルモノナリ例令バばいふる及こるれガ一白金耳 二白金耳 及三白金耳ヲ注射セシ九十七人ニ於ケル實驗ニヨレバ第一回注射後一二時間ニシテ惡寒戰慄シ且ツ發熱ス體温三十八度以下ニアルハ約五分ノ一ニ過ギズシテ三分ノ一ハ三十九度以上ヲ示シ又七%ハ四十度内外ニ達シ其多クハ翌日ニ至ルモ尙解熱セザルアリ其他接種後三時間ニシテ注射局部ハ腫脹シ手掌大ノ硬結ヲ生ジ發赤疼痛アリ四十時間ニシテ消散ス又約五分ノ一ハ嘔吐シ他ノ五分ノ一ハ口圍ニ匍行疹ヲ生ジ稀ニ蛋白尿及下痢ヲ發スルコトアリト云フ

- 今第一回接種(一白金耳)後ニ於ケル體温ヲ表示セバ左ノ如シ
- 三十七度以下 七三%
- 三十七度五分乃至三十八度 二〇・九%
- 三十八度一分乃至三十八度五分 三三・〇%

三十八度六分乃至三十九度 一六五五%

三十九度一分乃至三十九度五分 一四三三%

三十九度六分乃至四十度 六六六%

四十度一分乃至四十度五分 〇九一%

近時其量ヲ減セル爲メニ本邦及獨逸國以外ノ諸國ニ於テハ反應大ニ緩和トナレリト云フ例令バベ
んけノ報告ニヨルニ

無熱(%)	三十七乃至三十八度(%)		三十八度以上(%)	
	第一回	第二回	第一回	第二回
ちいと	八三五	一三〇	四五	四五
グアンさん(菌)	八二四八	一四八	三七	三七
ちつせ	九四三	五五	〇四	〇四
グアンさん(溶液)	九四三	五七	〇〇	〇〇
ばいふる及こるれ	〇〇	二五〇	七五〇	七五〇

ナリ又我陸軍ニ於ケル豫防接種ノ結果ヲ體温ト爾餘ノ症狀トニ分チテ表示セバ左ノ如シ

最高熱度	接種後發熱セル人員	
	第一回	第二回
三十七度以下	七	五
三十七乃至三十八度	五二	四三
三十八乃至三十九度	五五	四九
三十九乃至四十度	七〇	一三
四十度以上	四	八
計	1047	1047

- 1). Kustcher, Handb. von Kollé-Wassermann, 1. Aufl. Erg.-Bd. 1.
- 2). Kollé u. Lentz, ebenda. Bd. 4, 2. P. 881.

症候別	接種後各症状ヲ發セル者ノ百分率(%)	
	第一回	第二回
惡寒	三〇・四	三〇・四
戰慄	七・五	九・九
惡寒及戰慄	一・三	一・〇
頭痛	六〇・八	七九・〇
頭重	三〇・九	三三・七
眩暈	九・七	一・七
倦怠	四三・八	三六・四
食慾不振	一〇・八	八・七
嘔氣	一六・八	二・四
嘔吐	〇・六	〇・四
下痢	一・五	一・一
腹痛	二・六	一・五
口内炎	五・八	四・〇
關節炎	一三・三	一四・九
發汗	二九・三	三〇・四
匂行疹	〇・三	〇・八
淋巴腺腫脹	三三・〇	一三・八
淋巴腺疼痛	一八・四	一六・四
局部疼痛	八・五	九・五

きゆうがへすれとカ法ニヨレル感應生菌ヲ二千六百人ノ兵士中千三百人ニ接種セシニ三十七度半以下ノ者七十四% 三十八度半以下ノ者十五% 三十八度半以上ノ者五%アリテ接種八ヶ月以内ニ發病セルモノナカリシモ非接種兵ヨリ八九名ノちふす患者ヲ出セリト云フ其他くちふす Kustcher)ノ副反應ニ關シ精査シられる及れん Kollé u. Lentz)ノまらりあ患者ニ用ヒバ熱反應特ニ劇烈ナルヲ被セリ

ちふす預防接種(皮下注射)後ニ現ハルル副反應ハ生菌ヲ用ヒタルトキヨリモ死菌ヲ應用セル場合ニ強烈ナリ是レ恐ク菌芽ハ其生
死如何ニヨリテ其滅却法ヲ異ニシ死菌ハ細胞外ニ於テ消化セラレ生菌ハ細胞内ニ於テ消化セラレ結果ナルベク且ツ細
胞外ニ於ケル消化ノ際ニハ細胞内ニ於ケルトキヨリモ蛋白ノ毒性分解産物例シメベト人Papouaベトノいみだつツリル。えち
るあみん β -Imidazolylthylamin β -イソル β -ain 及過敏毒素 Anaphylatoxin ノ如キモノ多ク貯積スル爲メナルベシ況テ殺菌法
ノ如何ニヨリテ菌性蛋白變化スルニ於テチチチ故ニ諸家ハ殺菌ノ目的ニ低温(五十三度(Steinman)) 或ハ五十五度(Fornet) 或ハ五十
六度(Russell) β -glucosylase (Leng) β -glucosylase (Vincow) 葉外線(Ranau) β 用ヒ菌性蛋白ヲ可及的不變状態ニアラシメ以テ副反
應ノ減少ヲ企圖セリ

一般ニちふすベすとこれら等ニ對スル預防接種ハ稍著ク奏スト雖モ危險条件ヲ從テ未ダ尙ホ理想的ノ域ニ達セリト謂フチ
得ズ是レ蓋シ其接種苗ノ不完全ナルニ歸因スルモノナリ故ニ吾人ハ痘瘡ニ對スル種痘ニ於ケルガ如ク有效無害ノ良法ノ發見セラ
ルルノ日ノ早カラムコトヲ切望ス

ちふす預防注射ノ禁忌トシテ市川ノ掲ケタルハ勞働及大酒(大酒家ニハ副反應強シ(Kretschmer))ヲ禁ズルノ外マシラ患者(反
應熱強ク且ツ數日間持續スルコトアリ) 結核患者並ニ月經期ニアル婦人(五十三%ハ月經障礙ヲ發ス)ナリトス其他過敏症ヲ發シ易
キ素質ヲ有スル者ニハ特ニ注意セザルベカラズ

ちふす預防接種ノ效果ハ頗ル著明ニシテばいふ及こるれハ人ノ背部皮下ニ加熱菌苗ヲ接種セ
シニ接種後六日ニシテ其血清ハ凝集反應ヲ呈シ十日ノ後ニハ著明ノ殺菌及凝集作用ヲ示セリ即チ接
種前ニ於ケル人血清ハ〇三乃至〇五立方センチメートルニテ溶菌作用ヲ呈シ且ツ十倍稀釋度ニ凝集反
應ヲ呈スルノミナリシモ接種後十日ノ後ニハ〇〇五乃至〇〇一立方センチメートルニテ溶菌現象ヲ呈
シ且ツ五百乃至千倍稀釋度ニ凝集反應ヲ呈スルヲ實驗セリ 溶菌作用ハ血清ノ一定量ト海鼠致死量ノ菌芽トヲ混
又市川ハ石炭酸加感應菌苗ヲ人體ニ注射セシニ 之ヲ海鼠ニ注射シ其生死如何ニヨリテ定メタリ

- 1). Leishman, Journ. roy. army. med. corps. Vol. 12. 1909.
- 2). Fornet, 15. intern. Kongr. f. Hyg. u. Dem. Washington 1912.
- 3). Russell, ebenda.
- 4). Levy, deutsche med. Wochenschr. 1907.
- 5). Vincent, Journ. of state med. Vol. 20. 1912.
- 6). Renaud, Presse méd. T. 19. 1911.
- 7). Kretschmer, münch. med. Wochenschr. 1916.

- 1). Wright, deutsche med. Wochenschr. 1901. Vereinsbeilage; Lancet. 1900 and 1903; Brit. med. Journ 1900; vergl. auch: Marx, die experim. Diagnostik usw. d. Infektionskr. Berlin 1902; Dieudonné, Immunität. 7. Aufl. Leipzig 1911. P. 111; Naumann, Zeitschr. f. diät. u. physik. Ther. Bd. 7. 1903; Wright, Med. rec. 1904.

大正三年一月十日(第一回注射直前)	凝集價	溶菌價
同日第一回注射	十倍	〇.二
大正三年一月廿四日(第二回注射直前)	三百二十倍	〇.〇一
同日第二回注射	六百四十倍	〇.〇〇一
大正三年二月十六日(第二回注射後二週間)	三百二十倍	〇.〇〇一
大正四年一月廿七日(第二回注射後一ヶ月)	四十倍	〇.〇〇一
大正五年一月十八日(第二回注射後二ヶ月)		

ノ如キ成績ヲ得タリ又ラシト Wright ガ千八百九十九年ヨリ千九百五年ニ互リ英軍約十一万人ニ行
ヘル成績ハ接種者ニ發病者千七百五十八名内死亡者百四十二名(八%)ヲ出シ非接種者ヨリハ發病者
一萬九百八十名内死亡者千八百名(十六.六%)ヲ出セリ其他らひとノ調査セル所ニヨレバ左表ノ示
スガ如ク發病數及死亡數共ニ半減セルヲ見ル

人員	非接種者		接種者	
	發病	死亡	發病	死亡
印度軍隊(千八百九十九年)	三、八五二	一、四七〇(三八.%)	五、〇〇一	九、〇〇一(一八.%)
第十五騎兵聯隊(千八百九十九乃至千九百零一年)	一、九〇〇	一、〇〇〇(五二.%)	三、〇〇〇	一、〇〇〇(三三.%)
れち一オオオオ要塞守備隊(千八百九十九乃至千九百零一年)	一、〇〇〇	三、〇〇〇(三〇.%)	一、〇〇〇	一、〇〇〇(一〇.%)
英國軍隊(埃及及並さいばん)	三、〇〇〇	一、〇〇〇(三三.%)	三、〇〇〇	一、〇〇〇(三三.%)
印度軍隊(千九百零一年)	三、〇〇〇	一、〇〇〇(三三.%)	三、〇〇〇	一、〇〇〇(三三.%)
れち一オオオオ病院入院ちふす患者	一	一	一	一
印度軍隊(千九百零一年)	三、〇〇〇	一、〇〇〇(三三.%)	三、〇〇〇	一、〇〇〇(三三.%)

1). Kuhn, deutsche militärärztl. Zeitschr. 1907.

人員	非接種者		接種者	
	發病	死亡	人員	死亡
1061	107	1	105	1
1061	107	1	105	1
1061	107	1	105	1
1061	107	1	105	1

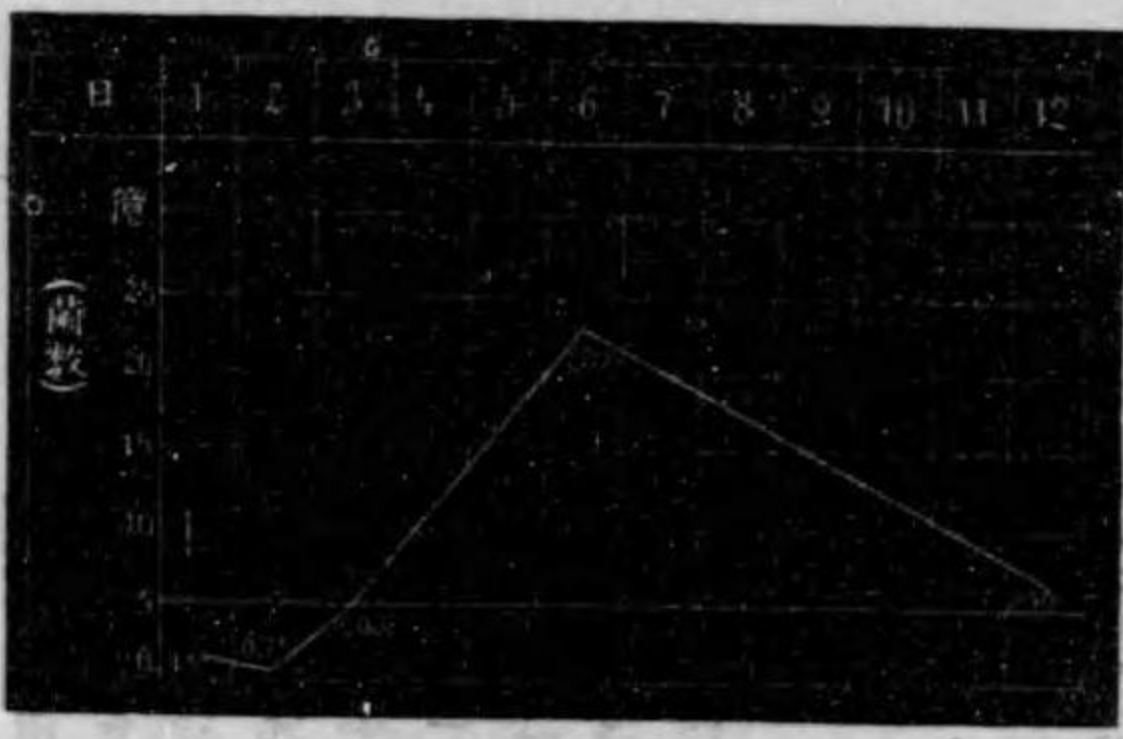
又獨逸ニ於テ南西亞弗利加派遣ノ兵士ニ對シバいふる及こるれ法ニ基キ一乃至二週間ノ間歇ノ下ニ一回又ハ數回注射 第一回(五)第二回(二)第三セシガク(一) Kuhn 其成績ヲ報告シテ曰ク

病症ノ輕重	非接種者		接種者	
	人員	發病率	人員	發病率
輕症	331 (31.5%)	16 (4.8%)	16 (2.3%)	0.14%
中等症	331 (31.5%)	96 (28.7%)	96 (13.6%)	0.89%
重症	331 (31.5%)	67 (20.2%)	67 (9.4%)	0.62%
死亡	111 (10.5%)	2 (0.6%)	2 (0.3%)	0.02%
計	1061	216	105	1.67%

ノ如ク接種者ニアリテハ發病スルモ輕クシテ其死亡スルハ非接種者ノ半バニ過ギズ又もるげんろ一モ亞弗利加出征軍(總人員三百二十四名)ニ施行セル實驗成績ニ基キ左ノ結果ヲ發表セリ

病症ノ輕重	非接種者		接種者	
	人員	發病率	人員	發病率
輕症	433%	66.0%	66.0%	0.15%
中等症	233%	100.0%	100.0%	0.43%
重症	333%	100.0%	100.0%	0.43%
死亡	22%	60.0%	60.0%	0.26%

圖九十四第



ちふす桿菌注射後ニ於ケル血清ノ殺菌價
(曲線ニ於ケル數字ハ百萬ヲ單位トス)

其他ノ諸國ニ於ケル豫防接種ノ成績モ均シク好良ナリ例令バ

施行地	報告者名	非接種者		接種者	
		人員	發病率	人員	發病率
英領地(平時)	らいと	13300人	2.1%	376人	1.0%
英領地(平時)	らいすまん及ぼりそん	6600	2.1%	775	0.8%
獨領地(戰時)	くーん	900	9.8%	72	0.8%
佛領(海軍)	ぶぶたー	6785	0.0%	3007	0.0%
佛領(陸軍)	があんさん	1	6.0%	1	0.7%
米國(戰時)	げやん	177元	2.0%	1201	0.01
米病院	すぶーな	674	2.3%	1341	0.3%

北米合衆國ニ於ケル軍隊全部ニ對シ千九百十年(明治四十三年)以降義務的ニ豫防接種ヲ奨勵セシニ其成績左表ノ示スガ如ク大ニ見ルベキモノアリ即チ

年次	兵員一萬人ニ對スル患者率		兵員一萬人ニ對スル死亡率	
	患者率	死亡率	患者率	死亡率
明治三十四年	69.9	8.8	6.9	0.8
明治四十一年	33.0	3.6	3.3	0.4
明治四十二年	33.5	3.6	3.3	0.4
明治四十三年	34.5	3.7	3.4	0.4
明治四十四年	4.3	1.7	4.3	0.5
明治四十五年	2.0	0.7	2.0	0.3
大正二年	0.5	1	0.5	0.1

又我が陸軍ニ於ケルちふす桿菌接種ノ效果モ大ニ好良ニシテ明治四十一年以降ちふす症多キ軍隊

ノ一部ニ之ヲ行ヒ明治四十三年ヨリ全軍隊ニ施行セリ爲メニ左表ノ示スガ如ク翌年ヨリ發病及死亡率共ニ減ジ發病數ハ約十分ノ一トナリ死亡數ハ約二十分ノ一ヲ算スルニ至レリ

年次	兵員一萬人ニ對スル患者率	兵員一萬人ニ對スル死亡率
明治三十年	五四九六	三〇〇
明治三十一年	五七〇四	二二五
明治三十二年	四九六九	七〇八
明治三十三年	四九三三	九七五
明治三十四年	五二五三	一〇〇〇
明治三十五年	五二八七	九三三
明治三十六年	四九七一	六二二
明治三十七年	七九八三	一四七二
明治三十八年	七九六九	二六三
明治三十九年	七〇四四	二二三
明治四十年	七〇四四	六七八
明治四十一年	三九六九	四五一
明治四十二年	三九六九	一五二
明治四十三年	三九六九	一五二
明治四十四年	八六六	一五二
明治四十五年	九三三	一五二
明治四十六年	七六一	〇八一
明治四十七年	七六一	〇八一
大正二年	平均七五	平均二五
大正三年	平均七五	平均二五

- 1). *Tooth*, deutsche med. Wochenschr. 1901. Nr. 17. Vereinsbeilage.
- 2). *Marsden*, Brit. med. Journ. 1901.
- 3). *Stevenson*, Dublin Journ. of med. scienc. Vol. 12. 1902.
- 4). *Boyd*, Scot. med. and surg. Journ. 1901.
- 5). *Osborn*, Lancet. 1900. Vol. 1.
- 6). *Cayley*, Brit. med. Journ. No. 2089.

トイフ *Tooth* ハ病院ニ勤務スル醫員及看護婦ニ豫防接種ヲナセシニ接種者二十八名中七名ちふすニ病ミシモ皆治癒セリ但シ非接種者十三名中九名之ニ罹リ内一名死亡セリ其餘十二名 *Marsden* ハ看護婦ノちふすニ罹レルモノ五ケ年ニ二十三名アリシモちふす豫防接種ヲ行ヒテヨリ一人モ發病スルモノナキニ至レルヲ彼シ他ノ學者 (*Stevenson*, *Boyd*, *Osborn*, *Cayley*) モ亦ラシト法ニヨレル接

種苗ヲ用ヒ同様ノ好果ヲ得タリ *Kretschmer* ハ歐洲戰時中ニ於ケル罹患者八百二十五人中其八十八ハ非接種者ニシテ九〇ハ唯ダ一回豫防接種ヲナセル者三〇ハ二回接種セル者ナリシヲ云ヘリ

斯クテちふす豫防接種ノ效果ハ未ダ完全無缺ノ域ニ達セザルモ爲メニ患者及死亡數ハ五分ノ一乃至二十分ノ一ニ減ズルハ事實ナリ *Metschnikoff* 及 *Besredka* ハ感應セシメタル生菌ヲ以テ黒猩猩ニ試ミ確實ナル豫防效價アルヲ證明シ次ギテ之ヲ人體ニ試ミ反應極メテ微弱ニシテ局所ノ腫脹及體温ノ昇騰共ニ頗ル輕微ナリシヲ云ヘリ 今其實驗例ヲ披セム

黒猩猩チシテ創メテ實驗的ニ人ノちふすト同一症ヲ發セシメシハ英ノ *Kretschmer* (千九百四年) ニシテ次テ千九百十年めちふす桿菌ニ因レル疾病(豫防接種)ニシテ之ヲ覆審確証セリ

- 1). *Kretschmer*, münch. med. Wochenschr. 1916.
- 2). *Metschnikoff* u. *Besredka*, Ann. Past. 1911 et 1912.
- 3). *Grünbaum*, Brit. med. Journ. Vol. 2. 1904. P. 817.

検査日	血清ノ凝集價(稀釋度)	成績
八月一日	八倍	陽性
八月八日	十六倍	陽性
八月十日	三十二倍	陽性
八月十四日	十六倍	陽性
八月十五日	三十二倍	陽性
八月二十六日	四十倍	陽性
八月二十八日	百倍	陽性

ちふす桿菌ニ因スル疾病

八月三十日ころるるむ痛解ノ下ニ斃シ剖檢セシニ腸ニハ何等ちふす桿菌ニシテハ何等も見出されず
 第二實驗 牝黒狸ヲニ試ミシ實驗 七月十五日ちふす桿菌ヲ牛乳ト共ニ與ヘシニ人ニ於ケルト同様ノちふす症ヲ發セリ即チ

検査日	血清ノ凝集價(稀釋度)	成績
七月二十一日	十倍	陽性
七月二十五日	二十倍	陽性

七月二十七日剖檢セシニ腸ニ於ケルばいえる腺ハ腫脹シ腸間膜腺及脾臓モ等シク腫脹シ脾ヨリハちふす桿菌ヲ純粹ニ培養シ得タ

第三實驗 牝黒狸ヲニ試ミシ實驗 千九百二年五月二十一日ニちふす桿菌培養ノ一立方センチメートルニ於テ當時血清ノ凝集價ハ十倍ナリキ

検査日	血清ノ凝集價(稀釋度)	成績
五月二十四日	三十倍	陽性
五月二十九日	三十倍	陽性
五月三十一日	六十倍	陽性
六月一日	八十倍	陽性

六月二日ニ剖檢セシニ其病的變化ハ前實驗ニ於ケルト同一ナリキ

上掲第二及第三實驗成績ノ示ス如ク黒狸ニシテハ經口のニちふす桿菌ヲ與フル時ハ試験ハちふすニ感染ス而シテ臨床ノ症候ハ一般ニ程度ニシテ舌苔及下痢アリテ著シク全身倦怠セルガ如キ頭痛 發熱 及 脾腫ヲ認ムルコト困難ナリキ而シテ熱型ハ一般ニ不規則ナリ最モ著シキハ腸ニ於ケル解剖學的變化ニシテ病ノ同一經過日ニ於ケル人ノちふす症ニ比シ其變化速ニ著シ

グリコーンバウガ黒狸ニ感染試験ヲ公表セシヨリ六年ヲ經シ千九百十年ニ至リてはMetschnikoffハグリコーンバウガノ實驗ヲ覆審シ之ヲ確證セリ即チ幼弱ノ黒狸ニちふす患者ノ感機又ハちふす桿菌培養ヲ嚥下セシムルトキハ試験ハ八日ノ後チ

體温三十九乃至三十九度五分ニ上昇シ血液ニ菌ヲ證明シ得ルノミナラズ強度ノ下痢ヲ發シ血中ニ凝集素(二百倍迄陽性)現出スル等全然人ノちふす症ト同一ナリキ但シ食慾不振下痢及蓄積疹等ヲ見ザルコト多ク發後モ多クハ佳良ニシテ恰モ小兒ちふす症ニ於ケルガ如シ而シテ其治癒後十五日ヲ經テ強毒性ちふす病芽ヲ口腔ヨリ與ヘタルモ發病セザリシト云フ次テ千九百十一年彼ハベレゾ「Besredka」ト共ニ更ニ同一實驗ヲ繰返サントシ多數ノ黒狸ニ手長猿等ヲ使用シ實驗的ニ此等類人猿ヲシテちふす症ニ罹ラシメタリ今彼等ノ行ヒシ一二ノ實驗例ヲ示サン

千九百十年三月二十七日ニ一平板ニ培養セルちふす桿菌ノ半個平板ノ菌ヲ採リ手長猿 Chimpanzee ニ經口のニ與ヘシニ五月六日ニ至リ下痢ヲ發シ次テ動物ハ強度ニ衰弱シ六月十日ニ斃死セリ死後剖檢セシニ肝及小腸粘膜炎著シク腸血ヲ瀰漫ニ七個ノ出血セルばいえる腺ヲ認メ多數ノ腸間膜腺ハ黒色ニ著色スルヲ觀タリ病ノ經過中凝集素及ちふす桿菌ヲ檢シ次ノ如キ成績ヲ得タリト云フ

検査日	血清ノ凝集價(稀釋度)	血中ニ於ケル細菌検査
四月六日	四百倍	陽性
四月十五日	四百倍	陽性
四月二十日	四百倍	陽性
四月二十五日	八百倍	陽性
五月四日	四百倍	
五月二十日	二百倍	

千九百十年四月十二日ニ黒狸ガ Chimpanzee ニちふす桿菌ヲ有スル患者便ヲ經口的ニ與ヘシニ四月二十二日ニ一定症狀ノ下ニ斃死セリ(死體ノ體重二千八百グラム)剖檢セシニ肺ニハ何等ノ變化ヲ認メザルモ心臓内ニ透明ナル少許ノ液ヲ藏シ腎及肝ハ腎血シ小腸モ所々腎血シ液狀ノ糞ヲ有セリ迴腸ニ七個ノばいえる腺腫大セルヲ見ル就中盲腸ニ近キ部ニ存スルモノハ著シク腎血シ血液ヲ以テ被ハレ腸間膜腺モ亦腫大シ大腸ノ上部ハ腎血シ汚穢膿液ノ液ニテ充サレタリ而シテ血液ノ凝集價ハ四月二十一日ニ八百倍ナリキ

めちにこのちふす等ハ更ニ進ミテ黒狸及手長猿ノ經口的ニちふすニ感染スルモ若シ豫メ感應菌苗ヲ注射セバ試験ハちふす症ニ罹ルコトナキヲ實驗セリ即チちふす桿菌ノ凝集培養ヲ食鹽水ニ浮遊セシメ之ニ高價ノちふす免疫血清ヲ加ヘ約五時間作用セシメタル後

ちふす桿菌ニ因スル疾病(預防接種)

1). Metschnikoff et Besredka, Ann. Past. T. 27, 1913. P. 597.

ちふす桿菌ニ因スル疾病

チ遠心器ニ裝ヒ其沈澱ヲ更ニ食鹽水ニテ洗ヒ血清ヲ除却セル後チ菌量一斜面ニ對シ食鹽水百立方センチメートルチ加ヘ乳劑トナセ
シテ乳劑一立方センチメートルチ更ニチ黒桿菌ノ皮下ニ注射シテ後チ強毒性チふす桿菌チ口腔ヨリ與フルトキハ試飲ハ全ク健全ニ
シテ毫モ發病ノ微ナシ反シ之ヲ入ルン人ノ接種苗ヲ應用セルモノニアリテハチふす桿菌ノ經口の感染ヲ防グコト能ハズシテ其病芽ハ
血中ニ現ハル其他加熱殺菌セルモノ即チばいふスルノ接種苗モ亦チ豫防ノ效ナシ ぬらにこつ ふハ更ニ進ミテ此感應生菌チ七百四
十五人ニ試ミニシニ局部ノ腫脹ハ殆ンドナク又發熱モ極メテ輕微ナリキ勿論例外トシテ稍々反應強キモノナキニシモアラズト叙セリ
今彼等ノ行ヒシ主ナル試驗的豫防接種例ノ一二ヲ示サム

第一實驗 體重六乃至七キログラムノ黒桿菌ニ其體重ニ應ジテ五千乃至一億個ノ感應生菌チ注射シ八日後ニ更ニ倍量チ注射セ
シモ感應生菌チ少クシテ豫防的効果ヲ證スルコト能ハザリキ是レ畢竟チ少クシテ注射量ノ少量ナリシガ爲メナルベシ

黒桿菌A號 千九百十二年十月七日 感應生菌五千個チ皮下ニ注射ス

同 十月廿四日 感應生菌一億個チ皮下ニ注射ス

黒桿菌B號 千九百十二年十月十四日 感應生菌一億五千個チ皮下ニ注射ス

同 十月廿四日 感應生菌三億個チ皮下ニ注射ス

同 十月三十日 ちふす桿菌及患者便チ經口的ニ與ヘシニ直ニ發熱シ九日間熱發持續セリ

同 十月三十日 ちふす桿菌及患者便チ經口的ニ與ヘシニ六日後熱發シ四日間持續シ發熱第一日ニハ

黒桿菌C號(健康對照動物) 千九百十二年十月三十日 ちふす桿菌及患者便チ經口的ニ與ヘシニ五日ノ潜伏期チ經テ發熱シ體
溫三十九度ニ上昇シ十一日間持續シ血中ニハ常ニちふす桿菌チ證明セリ

第二實驗 感應生菌ノ大量チ反覆皮下ニ注射シ一定時日後チちふす桿菌及患者便チ經口的ニ與ヘタルモ試飲ハ全ク免疫ナリキ

黒桿菌第一號 五月十日 凝集培養四分ノ一ノ感應生菌チ皮下ニ注射ス

五月廿五日 同量ノ感應生菌チ皮下ニ注射ス

六九二

1). J. J. J. Gedenkschrift f. R. v. Leuthold. 1906.
2). 粘佐, 衛生學及細菌學時報 第四卷.
3). Courmont u. Rochaix, Ann. Past. 1911 et 1912.

ちふす桿菌ニ因スル疾病(豫防接種)

六月十一日 ちふす桿菌及患者便チ經口的ニ與フ
六月十二日 ちふす桿菌及患者便チ經口的ニ與フ
六月十六日 正中靜脈ヨリ血液ヲ採取シ培養セシモ病芽陰性
六月十九日 血中ニ菌芽チ證明スルコト能ハズ

黒桿菌第二號(健康對照動物) 六月十一日 生活チちふす桿菌及患者便チ經口的ニ與フ

六月十二日 生活チちふす桿菌及患者便チ經口的ニ與フ

六月十六日 血中ニちふす桿菌ノ存在チ證明シ體溫四十度ニ達ス

六月十八日 體溫三十九度二分

六月十九日 病芽チ血中ニ證明ス又體溫ハ四十度ニ達シ爾後約一週間持續セリ

由來吾人が腸チふすニ對スル免疫ノ理想トスル所ハ局所免疫ニシテ内服ニヨリテ消化管壁ニ免疫性チ賦與スルニアリ他種菌芽例
令バばらちふす桿菌(志賀)鼠チふす桿菌(Liob.)リチあぶる桿菌(粘佐)等チ用ヒ動物試驗チ試ミ満足ナル局所免疫ノ發生チ見
シ例アリ

くーるもん及らしー Courmont u. Rochaix) ちふすニ感染セルコトナキ七人ヲ獲ビ五十三度ニ加熱殺菌セルちふす桿菌乳劑
チ初回ニ二十五乃至五十三立方センチメートル第二及三回ニ百立方センチメートルチ直腸内ニ注入シ二十四時間之ヲ腸内ニ保タシメ
シニ三週間ノ後血中ニ抗體現ハレ凝集反應ハ二十倍 溶菌率ハ五百倍ニ達セルヲ見タリ

ちふす豫防接種チ行ヘバ畜ニちふす症減少スルノミナラズばらちふす症モ亦共ニ減ズルヲ見ル是レチふす一ノ報告セル所ニ
シテ市川モ動物試驗ニ基キ兩症病芽ノ免疫上密接ナル關係アルヲ實驗シA又ハB型ばらちふす桿菌チ接種セル動物ハちふす血清
ニテ救助セラレちふす桿菌チ接種セル試飲ハ兩型ノばらちふす血清ニテ之ヲ救助シ得從チちふす接種苗ニばらちふす菌苗チ追加
スルノ要ナルベキチ云ヘリ加之ちふす豫防接種チナセル人偶然ばらちふすニ感染スルコトアルモ甚ダ輕ク經過セル一例ヲ揭ゲ
タリ

六九三

- 1). Pfeiffer u. Kolle, deutsche med. Wochenschr. 1896. 2). Wright, kurze Abhandl. u. Antityphusinkulationen. Jena. 1906. 3). Kuhn, deutsche militärärztl. Zeitschr. 1907. 4). Kretschmer, münch. med. Wochenschr. 1916. 5). Marx, die exp. Diagnostik. 2. Aufl. 1907. 6). Houston, Brit. med. ass. 77. Jahresvers. 7). Stone, deutsche med. Wochenschr. 1910. P. 2308. 8). Rosenberger, New York med. journ. Vol. 93 P. 927. 1911. 9). Sharpless, Journ. Amer. med. ass. Vol. 58. P. 1114. 1912. 10). Davis u. Fletcher, Lancet. 1910. 11). Fraenkel, deutsche med. Wochenschr. 1893. 12). Rampf, ebenda. 1893. 13). Kraus u. Buswell, wiener klin. Wochenschr. 1894. 14). Fresser, Zeitschrift f. Heilkunde. Bd. 16. 1895. 15). Krueger, deutsche med. Wochenschr. 1895. 16). Aschoff, Zeitschr. f. allg. Physiol. Bd. 1. Heft. 3. 17). Petruschky, deutsche med. Wochenschr. 1902.

ちふす桿菌ニ因スル疾病ノ效力ハ八乃至十日 (Pfeiffer u. Kolle) 或ハ三週間 (Wright) ノ後ニ現ハレ、
 効力發現スト云フ。又其持續期モ一定セズシテ實驗者ニヨリテ異ナリ。或ハ三年 (Wright) 或ハ一年 (Kurtz)
 或ハ七ヶ月 (Kretschmer) 或ハ六ヶ月 (Crombie) 或ハ三ヶ月 (Marx) ナリトセラル各人ノ個性 (市川)
 及營養状態ノ如何 (Kretschmer) ニヨリテ其持續期ニ長短ノ差アリ

ちふす桿菌者ニ接種苗ヲ用ヒ好果ヲ得タル者 (Houston, Stone, Rosenberger, Sharpless) アルモ
 是レ一時の現象ニ過ギズトテ難セル者 (Davies u. Fletcher) アリ
 腸ちふすノぐくちん療法ハ最近數年間ニ長足ノ進歩ヲ見タリ而シテ此ガ濫觴ハ千八百九十三年
 ふれんける E. Frankel ガ六十度ニ加熱セルちふす桿菌ノ少量ヲぐくちんとシテ治療ノ目的ニ患
 者ノ皮下又ハ筋肉内ニ注射シ總計五十七名ニ試ミ好果ヲ得タリトノ報告ニアリト雖モ當時之ヲ信ズ
 ル者ナク同年るむ Ramon ハ綠膿桿菌ノ死菌ニテ類似ノ成績ヲ得タルヲ以テ此作用ハちふす桿菌
 ノ特異性ト見做シ難シトナシ翌年くらうす及ぶる Kraus u. Buswell ハ綠膿桿菌苗ニテ覆審シ
 其成績好良ナラザルヲ云ヘリ千八百九十五年ふれんける Presser ハふれんける及るむノ法ヲ比較セ
 シニ少數ノ患者ニ效ヲ奏スルコトアルモ著明ノ效ヲ見ルコト能ハザリキ 同年くりーげる Krüger
 ハ電氣ニテ殺害セルちふす病芽ヲ用ヒ好成績ヲ得タルヲ彼シ其後あしとふ Aschoff ハちふす桿菌ヲ
 電流ニテ處置スルトキハ毒素ハ變ジテ變性毒素トナリ毒性ヲ失フモ遺抗原性ヲ保有シ抗體ヲ産生セ
 シメ疾病ヲ治療セシムト稱セリ 又同年べとるしとふ Petruschky ハちふす桿菌ニ血清ヲ加ヘ之ヲ
 治療上ニ應用スルトキハ四日後チ解熱シ更ニ三日ヲ經バ全ク或ハ殆んど全ク平温トナルヲ實驗シ
 タルヲ以テ菌芽乳劑ニ健常血清及石炭酸ヲ添加シ三四週間其効力ヲ有ス之ヲちはいん Typhoid 命名シ況ク醫家

- 13). Pescarolo u. Quadroni, Centralbl. f. inn. Medicin. Bd. 29. 2). Smallmann, Journ. roy. army med. corps. 1909. 3). Semple, Lancet. 1909. 4). Waters u. Eaton, Med. rec. Vol. 79. 1911.
 5). Raw, Brit. med. journ. 1910. 6). Sappington, Journ. of med. res. Vol. 22. 7). Duncan, North Amer. journ. of homoeopathy. 1911. 8). Hollis, Med. rec. 1910. 9). Callison, Amer. Journ. med. scienc. Vol. 44. 1912. 10). Meakin u. Forster, Can. med. ass. Journ. 1911. 11). Elliot, Southern med. Journ. 1911. 12). Sadler, Quart. Journ. med. 1911. 13). Pollack, Journ. roy. army med. corps. Vol. 16. 1911. 14). Renaud, Presse med. Vol. 19. 1911. 15). O'Connor, Kentucky med. Journ. Vol. 9. 1911. 16). Carr u. Macarthur, Journ. roy. Army med. corps. Vol. 19. 1912. 17). Fletscher, Journ. Amer. med. ass. 1911. 18). Besredka, Ann. Past. 1902. P. 918.

ニ分與セリ但シ本劑モ久シカラズシテ世人ニ忘ラレタリ蓋シ局所反應強ク且ツ爲メニ往々體温上
 昇スルコトアルヲ以テナリ 於茲ベスかるろ及くあせろね Pescarolo u. Quadroni (千九百八年) ハ
 局所ノ刺戟症狀及發熱ヲ避ケムガ爲メ弱毒性生菌ヲ用ヒタリ假令一時性發熱アル場合ト雖モ何等ノ
 危険ナク却テ好良ナル結果ヲ齎ラスヲ云ヘリ 爾後感應菌苗ヲ用ヒ好果ヲ得タルモノ續出スルニ至
 レリベすれどカノ感應生菌ハ假令危険ナシトスルモ多少考慮ヲ要スベク寧ろ死菌ヲ應用スルヲ穩當
 トナスト説ク者 (Vincent, Russell, Fornet) アリ 又殺害セル菌苗ヲちふす患者ニ用ヒ好果ヲ得タル者
 (Smallmann) 三十 例 Semple 九 例 Waters u. Eaton 六十 例 Raw 九 例 Sappington 二十 例 Dunham 六 例 Hollis 十一
 Callison 八 例 Meakin u. Foster 四十 例 Elliot 三 例 Sadler 五十 例 Pollack 一 例 Renaud 一 例 O'Connor 一 例
 Carr u. Macarthur 二 例 Fletscher 十四 例) アリふるねノ乏蛋白質ちふす接種苗ヲ三患者ニ毎日三回注
 射セルニ體温上昇スルコトナク最終注射ノ日ニ熱ハ分利セリト云フ

能働性免疫ニ際シ感應ぐくちんノ奏效スルハ千九百二年ベすれどカ Besredka ガ創説セル所ニシ
 テベすとこれらちふす等ノ菌芽ヲ用ヒ動物試驗ヲ行ヘリ 次ギテがるばーど及まいえる Garbat
 Mejer ハちふす感應ぐくちんヲ以テ家兎ヲ免疫シ好良ナル結果ヲ得タリ 更ニ千九百四年ぐりー
 んばうび Grubrunn ハ實驗的ニ黑猩々ヲ經口的ニ感染セシムルモノト同一ちふす症ニ罹ルヲ創見シ
 學界ノ反響遽ニ昂マリ千九百十年めちらこ Melschnikoff ハぐりーんばうびノ實驗ヲ覆審シ且ツ
 證認シ翌年ベすれどカ Melschnikoff et Besredka ト共ニ同一實驗ヲ繰返シ遂ニ千九百十三年ニ至リ
 感應ぐくちんノ類人猿ちふす症ヲ豫防シ得ルヲ發見シ感應ぐくちんノ奏效確實ナリトノ聲遽ニ喧
 傳セラルルニ至レリ 即めちらこ等ハ黑猩々ニ發スルちふす症ヲ豫防セントテ先ヅ豫防注射ヲ研

19). Garbat u. Meyer, Zeitschr. f. exper. Pathol. u. Ther. Bd. 8. P. 1. 1910. 20). Grunbaum, Britisch. medical Journ. P. 817. 1904. 21). M. tschnikoff, Comptes rendus de l'Acad. des Sciences, 21 mars 1910. T. CL. P. 755. 22). Metschnikoff et Besredka, Ann. Past. T. 25. 1911. 23). Metschnikoff et Besredka, Ann. Past. T. 27. 1913. P. 597. 24). Ardin-Delteil, Negre et Raynaud, Ann. Past. T. 27. 1913. P. 644. 25). Boinet, Compt. rend. Soc. de Biol., 15 mars 1913; Ref. Centralbl. f. Bact. Bd. 58. 26). Broughton-Alcock, Lancet. 1912. 27). Gordon, Lancet. 1913. 28). 市川, 大阪醫學會雜誌 第十三卷 第三號.

究スルニ從來ノくちんニテハ其豫防力完全ナラズ 屢々發病スルモ之ニ反シ所謂感應菌苗 Virus Vaccin Sensibilise ヲ以テセル黒狸々ニ經口のニちふすヲ感染セシムルモ決シテ發病スルナキヲ發見シ感應菌苗ノ豫防上免疫力ノ偉大ナルヲ力説セリ 先是ベすれどか Besredka (千九百十二年) ハ約八百名ノ健人ニ免疫血清ニテ感應セシメ毒性減弱セル生菌ヲ注射セシニ何等不快ノ反應ナク且ツ保菌者ニ變ズルノ危険ナク加之理化學的處置ニヨリ殺菌セルモノヲ用ヒタル場合ニ比シ抗體ノ產生迅速且ツ旺盛ナルヲ實驗セリ 次ギテあるだんであるていねい及れい Ardin-Delteil, Negre et Raynaud ハ感應くちんヲ三十七名ノちふす患者ニ對シ創メテ治療用ニ供セシニ爲ニ著シキ副反應起ルコトナク注射後急ニ殺菌性抗體増加シ營ニ病ノ全經過短縮スルノミナラズ死亡率モ極メテ少ナキヲ實驗シばわね Boinet モ二十五例ノちふす患者ニ感應くちん療法ヲ試ミ症狀ヲ輕快ナラシメ經過短縮スル效アリト做シ殊ニ病ノ早期ニ注射セバ其效著シク第二乃至第三回注射ニテ其效顯著ナリト被セリ 被上ノ如ク佛國ニ於テ感應くちんノ偉效學界ニ喧傳セラルルヤ英國ニ於テモふらうとん おーるこく Broughton-Alcock ハ馬ノ免疫血清ヲ以テ感應くちんヲ造リ之ヲ治療上ニ應用セシニ良好ナル成績ヲ收メ其他ちふす以外ノ疾病例令バ化膿菌 化膿球菌 麻球菌ニ因スルモノニモ當該感應くちんヲ用ヒ稍々見ルベキ良成績ヲ擧ゲタリとるん Gordon モ感應生活菌菌ヲ種々ノ疾病例令バ丹毒中耳炎產褥後ノ敗血症子宮內膜炎癰瘡等ニ應用シ其效ノ偉大ナルヲ唱ヘタリ此等報告ト全ク無關係ニ市川⁽²⁸⁾ハ本邦ニ於テ數年前ヨリちふす治療ニ腐心シ 大正二年末感應くちんヲ患者ノ靜脈内ニ注入セバ分利的ニ解熱スルヲ實驗シ多數ノ患者ニ試ミ良好ナル成績ヲ擧ゲタリ次デ天兒 志賀 矢部 福島 等ノ覆審ニヨリ益々學界ノ反響ヲ高メ今ヤ營ニちふすノミナラ

1). 高木, 日本微生物學會 第一回總會.
2). Hirtz et Gauchery, Paris med., 1914. No. 9. P. 201; Ref. Centralbl. f. Bact. Bd. 61.
3). Korany, wien. kl. Wochenschr. No. 4. 1915.
4). Eggenh, wien. klin. Wochenschr. P. 209. 1915.
5). Feistmantel, wien. klin. Wochenschr. P. 230. 1915.
6). 市川, 大阪醫學會雜誌 第十三卷 第三號 大正三年三月.

ズ赤痢(山下 目黒等) 瘧疾(市川 中野等) 百日咳(高木⁽¹⁾)ニ對シテモ感應くちんガ著效ヲ奏スルヲ實驗セリ 及びこし⁽²⁾ Hirtz et Gauchery⁽³⁾ ハ二十例ノ腸ちふす患者ニベすれどか法ニヨルニ感應くちんヲ三日目毎ニ三乃至四回注射シ内一例死亡(五例)セルノミナリシヲ被シこらに⁽⁴⁾ Korany⁽⁵⁾ ハちふす患者ニ市川法ニヨリテ製セルくちんヲ靜脈内ニ注射セシニ二十四例中 死者一人モナク注射後多少ノ反應即チ惡寒發熱アリシ後チ發汗シ平温トナレルヲ唱ヘ⁽⁶⁾ Eggenh⁽⁴⁾ ハベすれどか法ニヨルニ感應くちんヲ一回靜脈内ニ注射セシニ四十八例中 三十八例ハ驚嘆スベキ好結果ヲ齎ラシ八例ニハ認ムベキ影響ナク二例ハ死亡セリト云ヒ⁽⁷⁾ Feistmantel⁽⁵⁾ ハ十四例ニこるれ⁽⁸⁾ ちふす豫防接種苗ヲ使用セシモ毫モ其效ナカリシヲ以テ更ニベすれどか法ニヨリテ製セル感應くちんヲ靜脈内ニ注入セシニ偉效ヲ奏セルモ其三分ノ二ハ再發ノ不幸ヲ見タリト云ヘリ

感應くちんノ製法ハ病芽ニ血清中ニ於ケル有效成分ヲ結合セシムルニアリ 即チ凝集養基上ニ培養セル新鮮菌ヲ滅菌生理的食鹽水ニ浮游セシメ之ニ免疫血清ヲ加ヘテ三十七度ノ温所ニ一定時間放置シ時々振盪シ菌芽ト血清中ノ抗體トヲ結合セシメ次デ遠心器ニ裝ヒ其上清ヲ除去シ滅菌食鹽水ヲ以テ二乃至三回洗滌シ最後ニ得タル菌沈渣ヲ食鹽水ニテ乳劑トナシ用ニ供スルニアリ勿論學者ニヨリ其製法多少相違ス但シ大同小異ニ過ギズ

(一)市川法⁽⁶⁾ 凝集斜面ニ培養セル新鮮ちふす桿菌十白金耳ニちふす快復期患者血清十立方センチメーテルヲ加ヘ五乃至六間時三十七度ノ温所ニ放置シ次デ遠心器ニ裝ヒ生理的食鹽水ニテ三回洗滌シタル後 菌沈渣ヲ百立方センチメーテルノ食鹽水ニ浮游セシメ〇三〇ノ割ニ石炭酸ヲ加ヘ一時間強